

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第296集

大里郡大里町

下田町遺跡 I

大里地区高規格堤防整備事業関係
埋蔵文化財発掘調査報告

— I —

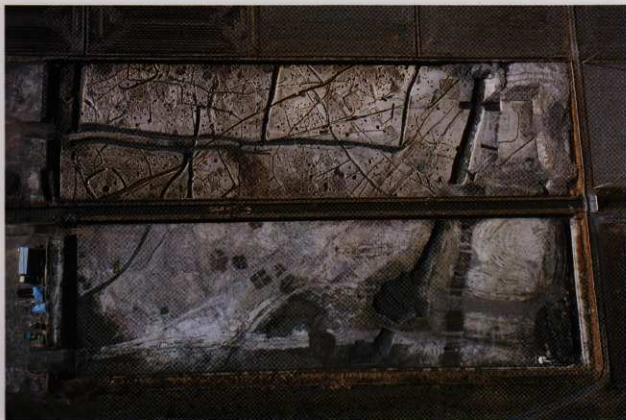
<第1分冊>

2004

国土交通省 関東地方整備局
財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



航空写真 (南東上空から)



航空写真 (右が北)



第80号溝跡



第80号溝跡出土遺物

序

荒川流域の古代の人々は、肥沃な大地の恵みの中で生活を営んできました。豊かな収穫を手にするとき、人々は自然の恵みに感謝してきました。しかし時には、自然が脅威となり人々の生活を大きく揺るがすこともありました。荒川は、しばしば洪水を引き起こし「荒くれた川」となりました。

江戸幕府は、寛永6年(1629年)、伊奈備前守忠治らに命じて荒川を利根川から分離する瀬替え工事を行いました。熊谷市久下付近で河道を締め切り、新川を開削し、和田吉野川の流路とあわせ東京湾に注ぐ現在の荒川の流れに変えました。その後、洪水時の対策として、河川敷の川幅を広げ、流速を減少させるための横堤を築くなどの工夫も行いました。

国土交通省は、荒川が豊かな郷土埼玉県をつくる川として、先人達の治水事業を受け継ぎ、現在、大里町で高規格堤防整備事業を行っています。事業用地内には、下田町遺跡が所在していました。遺跡の取扱いについては、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課が、関係諸機関と慎重に協議を重ねてきました。その結果、やむをえず記録保存の処置を講ずることとなり、国土交通省関東地方整備局の委託を受け、当事業団が発掘調査を実施することになりました。

発掘調査の結果、多くの土器、石器、陶磁器などが出土しました。弥生時代中期から、古墳時代、奈良・平安時代、中世に至る大規模な遺跡ということがわかりました。古墳時代後期の大溝跡からは、大量の土器とともに農耕具を中心とした木製品、鳥・獣・魚類の骨、蛤や牡蠣などの貝殻がまとまって発見され、当時の人々の暮らしぶりを彷彿させます。

本書は、これらの成果をまとめたものであります。埋蔵文化財の保護や学術研究の基礎資料として、また、普及・啓発の資料として広く活用していただければ幸いです。

最後に、本書の刊行にあたり、発掘調査に関する諸調整に御尽力いただきました埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課をはじめ、発掘調査から報告書刊行に至るまで御協力いただきました国土交通省関東地方整備局、大里町教育委員会並びに地元関係者各位に対し心より感謝申し上げます。

平成16年3月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

理事長 桐川卓雄

例言

- 1 本書は、大里郡大里町に所在する下田町遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の略号と代表地番及び発掘調査届に対する指示通知は、以下のとおりである。

下田町遺跡 (SMDMT)
埼玉県大里郡大里町大字津田字埋田町1775他
平成13年7月9日付け 教文第2-37号
- 3 発掘調査は大里地区高規格堤防整備事業に伴う事前調査であり、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課が調整し、国土交通省関東地方整備局の委託を受け、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
- 4 本事業は、第1章の組織により実施した。発掘調査は平成13年6月1日から平成14年3月22日まで行い、宮井英一・赤熊浩一・関義則・岡本健一が担当し、宅間清公・町田ふみの補助を得た。

整理・報告書作成事業は、平成15年4月8日から平成16年3月24日まで実施し、赤熊・岡本が担当し、兵ゆり子の補助を得た。
- 5 遺跡の基準点測量及び空中写真撮影は、㈱シン技術コンサルに委託した。木器の樹種同定と貝の種別同定は㈱バリノ・サーヴェイに委託した。
- 6 発掘調査時の写真撮影は各担当者が行い、遺物の写真撮影は、大屋道則が行った。
- 7 出土品の整理・図版作成は、赤熊・岡本が行い、兵の補助を得た。
- 8 本書の執筆は、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ-1・9・10、Ⅴについては赤熊が、1-2・3、Ⅳ-2~8、Ⅴについては岡本が行った。なお、Ⅰ-1は埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課が、弥生式土器については松岡有希子が、古墳時代前期の土器については福田聖が、Ⅳ-4の第2号井戸跡出土木製靴と鉄鎌については瀧瀬芳之が、それぞれ執筆し、緑釉・灰釉陶器の産地比定は田中広明が行った。
- 9 本書の編集は、赤熊・岡本が行った。
- 10 本書に掲載した資料は、平成16年度以降、埼玉県立埋蔵文化財センターが管理・保管する。
- 11 本書の作成にあたり、下記の方々・機関から御教示・御指導を賜った。記して感謝の意を表します。(敬称略)

出縄康行 今井 宏 加藤恭朗 黒濟和彦
恋河内昭彦 坂本 治 鈴木秀雄 鳥羽政之
楡井 尊 根本 靖 長谷川清一 渡辺 一
大里町教育委員会 埼玉県立自然史博物館

凡例

- 1 遺跡全体におけるX・Yの数値は、国土標準平面直角座標第Ⅱ系（原点：北緯36°00'00"、東経139°50'00"）に基づく座標値を示す。また、各挿図における方位はすべて座標北を示す。
- 2 遺跡におけるグリッドは、国土標準平面直角座標に基づいて設置した、10m×10m方眼を基本グリッドとしている。
- 3 グリッドの名称は、北西杭を基準として、東西方向は西から東へA、B、C……、南北方向は北から南へ1、2、3……とした。（例 E-14グリッド）
- 4 本書における本文・挿図・表に示す遺構の略号は以下のとおりである。

SR	方形周溝墓	SJ	竪穴住居跡
SB	掘立柱建物跡	SE	井戸跡
SX	竪穴状不明遺構	SK	土壌
SD	溝跡	Pit	小穴
- 5 本書における挿図の縮尺は原則として以下のとおりである。

遺構図	1：60
土器出土状況詳細図	1：30
遺物実測図	土器・木器・砥石 1：4
	土器拓影図・土鍾・紡錘車
	鉄製品 1：3
	滑石製模造品・玉類 1：2
	銭貨 1：1

その他、遺跡位置図、周辺地形図、遺跡全体図等は個別に縮尺率を設定した。
- 6 遺物のうち、須恵器は断面を黒塗りにした。また、緑釉・灰釉陶器、彩色土器については、施釉・彩色範囲を網かけて示した。

網は、緑釉20%、灰釉5%、各陶器断面40%、赤彩・赤漆10%、黒色土器・黒漆30%である。
- 7 木器の木取りについては、断面図に年輪方向を模式的に図示した。ただし、年輪の横断面が断面図にあらわれない場合や、木取りを確認していない木器の断面図は白ぬきである。
- 8 遺構断面図等に表記した水準数値は、海拔標高を示す。
- 9 遺構図中の網かけは、焼土の範囲を示す。
- 10 遺物観察表については次のとおりである。
 - ・口径・器高・底径は、cmを単位とする。
 - ・()内の数値は復元推定値、[]内の数値は残存値である。
 - ・胎土は肉眼で観察できるものを次のように示した。

雲	雲母	片	片岩	角	角閃石
長石	長石	石英	石英	砂粒	砂粒子
赤粒	赤色粒子	白粒	白色粒子		
黒粒	黒色粒子	針	白色針状物質		
 - ・焼成は、良好・普通・不良の3段階に分けた。
 - ・残存率は図示した器形の部分に対する%で表した。
- 11 本書に掲載した地形図は、国土地理院発行の1/50,000地形図を使用した。

目次

<第1分冊>

口絵

序

例言

凡例

目次

I 発掘調査の概要	1
1. 発掘調査に至る経過	1
2. 発掘調査・報告書作成の経過	2
3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織	4
II 遺跡の立地と環境	5
III 遺跡の概要	11
IV 遺構と遺物	18
1. 方形周溝墓	18
2. 住居跡	31
3. 掘立柱建物跡	91

4. 井戸跡	137
5. 竪穴状不明遺構	192
6. 土壌	197
7. ビット	241
8. 火葬墓・土壌墓	259

<第2分冊>

9. 溝跡	261
10. グリッド・表採出土遺物等	406
V まとめ	429

付編

写真図版

付図

挿 図 目 次

<第1分冊>

第1図	下田町遺跡調査区分図	3	第35図	第7号住居跡出土遺物	38
第2図	埼玉県の地形	5	第36図	第7号住居跡遺物出土状況	39
第3図	大里町の地形	6	第37図	第8号住居跡	39
第4図	周辺の遺跡	8	第38図	第8号住居跡出土遺物	39
第5図	下田町遺跡周辺の地形	9	第39図	第11号住居跡	40
第6図	グリッド配置図	10	第40図	第11号住居跡出土遺物	40
第7図	下田町遺跡基本土層	12	第41図	第12号住居跡	41
第8図	遺跡全体図1	13	第42図	第12号住居跡出土遺物	41
第9図	遺跡全体図2	14	第43図	第12号住居跡遺物出土状況	42
第10図	遺跡全体図3	15	第44図	第13号住居跡	43
第11図	遺跡全体図4	16	第45図	第13号住居跡遺物出土状況	44
第12図	遺跡全体図5	17	第46図	第13号住居跡出土遺物(1)	45
第13図	方形周溝墓全体図1	18	第47図	第13号住居跡出土遺物(2)	46
第14図	方形周溝墓全体図2	19	第48図	第14号住居跡	47
第15図	第1号方形周溝墓(1)	20	第49図	第14号住居跡出土遺物	47
第16図	第1号方形周溝墓(2)	21	第50図	第16号住居跡	48
第17図	第1号方形周溝墓出土遺物	21	第51図	第16号住居跡と周囲の溝跡	48
第18図	第2号方形周溝墓(1)	22	第52図	第16号住居跡出土遺物	49
第19図	第2号方形周溝墓(2)	23	第53図	第18号住居跡	51
第20図	第2号方形周溝墓出土遺物	24	第54図	第18号住居跡出土遺物	51
第21図	第3号方形周溝墓(1)	26	第55図	第19号住居跡	52
第22図	第3号方形周溝墓(2)	27	第56図	第19号住居跡出土遺物	52
第23図	第3号方形周溝墓出土遺物	28	第57図	第19号住居跡遺物出土状況	53
第24図	第4号方形周溝墓(1)	29	第58図	第20号住居跡	54
第25図	下田町遺跡住居跡全体図(1)	32	第59図	第21号住居跡	54
第26図	下田町遺跡住居跡全体図(2)	33	第60図	第21号住居跡出土遺物	55
第27図	第3号住居跡	34	第61図	第22号住居跡	55
第28図	第3号住居跡出土遺物	34	第62図	第22号住居跡出土遺物	55
第29図	第4号住居跡	35	第63図	第23号住居跡	56
第30図	第4号住居跡出土遺物	35	第64図	第23号住居跡出土遺物	56
第31図	第5号住居跡	36	第65図	第24号住居跡	58
第32図	第6号住居跡出土遺物	36	第66図	第24号住居跡出土遺物(1)	59
第33図	第6号住居跡	37	第67図	第24号住居跡出土遺物(2)	60
第34図	第7号住居跡	38	第68図	第24号住居跡遺物出土状況	60

第69図	第25号住居跡	61	第106図	第45・46号住居跡	85
第70図	第25号住居跡出土遺物	61	第107図	第44～48号住居跡出土遺物	85
第71図	第26号住居跡	62	第108図	第47号住居跡	86
第72図	第26号住居跡出土遺物	62	第109図	第48号住居跡	86
第73図	第27号住居跡	63	第110図	第49号住居跡	87
第74図	第27号住居跡と周囲の溝跡	63	第111図	第49号住居跡出土遺物	88
第75図	第28号住居跡	64	第112図	第50号住居跡	89
第76図	第28号住居跡出土遺物	64	第113図	第50号住居跡出土遺物	89
第77図	第28号住居跡と周囲の溝跡	65	第114図	第51号住居跡	90
第78図	第29号住居跡	66	第115図	第51号住居跡出土遺物	90
第79図	第29号住居跡出土遺物	67	第116図	掘立柱建物跡の桁行方向	91
第80図	第29号住居跡と周囲の溝跡	67	第117図	掘立柱建物跡全体図(1)	92
第81図	第30号住居跡	68	第118図	掘立柱建物跡全体図(2)	93
第82図	第30号住居跡出土遺物	68	第119図	第1号掘立柱建物跡	94
第83図	第31号住居跡	69	第120図	第1号掘立柱建物跡出土遺物	95
第84図	第31号住居跡出土遺物	69	第121図	第2号掘立柱建物跡(1)	96
第85図	第32号住居跡	70	第122図	第2号掘立柱建物跡(2)	97
第86図	第32号住居跡遺物出土状況	70	第123図	第2号掘立柱建物跡(3)	98
第87図	第32号住居跡出土遺物	71	第124図	第2号掘立柱建物跡(4)	99
第88図	第34号住居跡	72	第125図	第2号掘立柱建物跡出土状況	100
第89図	第34号住居跡出土遺物	72	第126図	第2号掘立柱建物跡出土遺物(1)	101
第90図	第35号住居跡	73	第127図	第2号掘立柱建物跡出土遺物(2)	102
第91図	第35号住居跡出土遺物	74	第128図	第2号掘立柱建物跡出土遺物(3)	103
第92図	第36号住居跡出土遺物	74	第129図	第3号掘立柱建物跡	105
第93図	第36号住居跡	75	第130図	第4号掘立柱建物跡	106
第94図	第37号住居跡(1)	76	第131図	第4号掘立柱建物跡出土遺物	106
第95図	第37号住居跡(2)	77	第132図	第5号掘立柱建物跡(1)	107
第96図	第37号住居跡出土遺物	78	第133図	第5号掘立柱建物跡(2)	108
第97図	第40号住居跡	79	第134図	第5号掘立柱建物跡出土遺物	108
第98図	第40号住居跡出土遺物	79	第135図	第6号掘立柱建物跡(1)	110
第99図	第41号住居跡	80	第136図	第6号掘立柱建物跡(2)	111
第100図	第41号住居跡出土遺物	80	第137図	第6号掘立柱建物跡(3)	112
第101図	第42号住居跡	81	第138図	第6号掘立柱建物跡(4)	113
第102図	第42号住居跡出土遺物	81	第139図	第6号掘立柱建物跡出土遺物(1)	114
第103図	第43号住居跡	82	第140図	第6号掘立柱建物跡出土遺物(2)	115
第104図	第43号住居跡出土遺物	83	第141図	第7号掘立柱建物跡(1)	116
第105図	第44号住居跡	84	第142図	第7号掘立柱建物跡(2)	117

第143図	第7号掘立柱建物跡出土遺物	118	第180図	第2号井戸跡木枠材(5)	148
第144図	第8号掘立柱建物跡出土遺物	118	第181図	第2号井戸跡木枠材(6)	149
第145図	第9号掘立柱建物跡出土遺物	118	第182図	井戸跡(2)	151
第146図	第8号掘立柱建物跡	119	第183図	井戸跡出土遺物(4)	152
第147図	第9号掘立柱建物跡(1)	120	第184図	第7号井戸跡木枠材(1)	153
第148図	第9号掘立柱建物跡(2)	121	第185図	第7号井戸跡木枠材(2)	154
第149図	第10号掘立柱建物跡(1)	122	第186図	第7号井戸跡木枠材(3)	155
第150図	第10号掘立柱建物跡(2)	123	第187図	第7号井戸跡木枠材(4)	156
第151図	第10号掘立柱建物跡出土遺物	123	第188図	第7号井戸跡木枠材(5)	157
第152図	第12号掘立柱建物跡(1)	124	第189図	第7号井戸跡木枠材(6)	158
第153図	第12号掘立柱建物跡(2)	125	第190図	第7号井戸跡木枠材(7)	159
第154図	第12号掘立柱建物跡出土遺物	124	第191図	第7号井戸跡木枠材拓影(1)	160
第155図	第11号掘立柱建物跡出土遺物	125	第192図	第7号井戸跡木枠材拓影(2)	161
第156図	第11号掘立柱建物跡	126	第193図	第7号井戸跡木枠材拓影(3)	162
第157図	第13号掘立柱建物跡	127	第194図	井戸跡(3)	164
第158図	第14号掘立柱建物跡	128	第195図	井戸跡出土遺物(5)	165
第159図	第15号掘立柱建物跡	129	第196図	井戸跡(4)	167
第160図	第16号掘立柱建物跡出土遺物	129	第197図	井戸跡出土遺物(6)	168
第161図	第16号掘立柱建物跡(1)	130	第198図	井戸跡(5)	171
第162図	第16号掘立柱建物跡(2)	131	第199図	井戸跡(6)	172
第163図	第17号掘立柱建物跡	132	第200図	井戸跡出土遺物(7)	173
第164図	第18号掘立柱建物跡出土遺物	132	第201図	井戸跡(7)	177
第165図	第18号掘立柱建物跡	133	第202図	井戸跡(8)	178
第166図	第19号掘立柱建物跡	134	第203図	井戸跡(9)	179
第167図	第20号掘立柱建物跡	135	第204図	井戸跡出土遺物(8)	180
第168図	第21号掘立柱建物跡	136	第205図	井戸跡(10)	183
第169図	第21号掘立柱建物跡出土遺物	136	第206図	井戸跡(11)	184
第170図	下田町遺跡井戸跡全体図(1)	138	第207図	井戸跡出土遺物(9)	185
第171図	下田町遺跡井戸跡全体図(2)	139	第208図	井戸跡出土遺物(10)	186
第172図	井戸跡(1)	140	第209図	第1号竪穴状不明遺構	192
第173図	井戸跡出土遺物(1)	141	第210図	第1号竪穴状不明遺構出土遺物	193
第174図	井戸跡出土遺物(2)	142	第211図	第4号竪穴状不明遺構	194
第175図	井戸跡出土遺物(3)	143	第212図	第4号竪穴状不明遺構出土遺物	195
第176図	第2号井戸跡木枠材(1)	144	第213図	土壌・ビット全体図(1)	198
第177図	第2号井戸跡木枠材(2)	145	第214図	土壌・ビット全体図(2)	199
第178図	第2号井戸跡木枠材(3)	146	第215図	土壌・ビット全体図(3)	200
第179図	第2号井戸跡木枠材(4)	147	第216図	土壌・ビット全体図(4)	201

第217図	土壌・ピット全体図 (5)	202
第218図	土壌・ピット全体図 (6)	203
第219図	土壌・ピット全体図 (7)	204
第220図	土壌・ピット全体図 (8)	205
第221図	土壌・ピット全体図 (9)	206
第222図	土壌・ピット全体図 (10)	207
第223図	土壌 (1)	209
第224図	土壌出土遺物 (1)	210
第225図	土壌 (2)	212
第226図	土壌 (3)	213
第227図	土壌出土遺物 (2)	215
第228図	土壌 (4)	222
第229図	土壌 (5)	223
第230図	土壌 (6)	224
第231図	土壌 (7)	225
第232図	土壌出土遺物 (3)	226
第233図	土壌 (8)	229
第234図	土壌出土遺物 (4)	230
第235図	土壌 (9)	233
第236図	土壌 (10)	234
第237図	土壌出土遺物 (5)	235
第238図	土壌出土遺物 (6)	236
第239図	土壌遺物出土状況	237
第240図	ピット (1)	247
第241図	ピット (2)	248
第242図	ピット (3)	249
第243図	ピット (4)	250
第244図	ピット (5)	251
第245図	ピット (6)	252
第246図	ピット (7)	253
第247図	ピット遺物出土状況	253
第248図	ピット出土遺物 (1)	254
第249図	ピット出土遺物 (2)	255
第250図	ピット出土遺物 (3)	256
第251図	第1・2号火葬墓	259
第252図	第1号土壌墓	260
第253図	第1号土壌墓出土遺物	260

<第2分冊>

第254図	下田町遺跡溝跡全体図 (1)	262
第255図	下田町遺跡溝跡全体図 (2)	263
第256図	溝跡 (1)	264
第257図	溝跡 (2)	265
第258図	溝跡 (3)	266
第259図	溝跡 (4)	266
第260図	第3号溝跡区劃図	267
第261図	第3号溝跡遺物出土状況 (1)	268
第262図	第3号溝跡遺物出土状況 (2)	269
第263図	第3号溝跡遺物出土状況 (3)	270
第264図	溝跡出土遺物 (1)	271
第265図	溝跡出土遺物 (2)	272
第266図	溝跡出土遺物 (3)	273
第267図	溝跡出土遺物 (4)	274
第268図	溝跡出土遺物 (5)	275
第269図	溝跡出土遺物 (6)	276
第270図	溝跡出土遺物 (7)	277
第271図	溝跡出土遺物 (8)	278
第272図	溝跡出土遺物 (9)	279
第273図	溝跡出土遺物 (10)	280
第274図	溝跡出土遺物 (11)	281
第275図	溝跡出土遺物 (12)	282
第276図	溝跡出土遺物 (13)	283
第277図	溝跡出土遺物 (14)	285
第278図	溝跡出土遺物 (15)	287
第279図	溝跡出土遺物 (16)	289
第280図	溝跡出土遺物 (17)	290
第281図	第18号溝跡遺物出土状況	291
第282図	第18号溝跡 (1)	292
第283図	第18号溝跡 (2)	293
第284図	溝跡 (5)	294
第285図	溝跡 (6)	295
第286図	溝跡 (7)	296
第287図	溝跡出土遺物 (18)	296
第288図	第21号溝跡遺物出土状況	297
第289図	溝跡出土遺物 (19)	298

第290図	溝跡出土遺物 (20)	299	第327図	溝跡出土遺物 (42)	344
第291図	溝跡出土遺物 (21)	301	第328図	溝跡出土遺物 (43)	345
第292図	第28号溝跡遺物出土状況	302	第329図	溝跡出土遺物 (44)	346
第293図	第30号溝跡遺物出土状況	302	第330図	溝跡出土遺物 (45)	347
第294図	溝跡出土遺物 (22)	303	第331図	溝跡出土遺物 (46)	348
第295図	溝跡出土遺物 (23)	305	第332図	溝跡出土遺物 (47)	349
第296図	溝跡 (8)	307	第333図	溝跡出土遺物 (48)	350
第297図	溝跡 (9)	308	第334図	溝跡出土遺物 (49)	351
第298図	溝跡 (10)	309	第335図	溝跡出土遺物 (50)	353
第299図	第44号溝跡遺物出土状況	310	第336図	溝跡出土遺物 (51)	354
第300図	溝跡出土遺物 (24)	311	第337図	溝跡出土遺物 (52)	355
第301図	溝跡出土遺物 (25)	312	第338図	溝跡出土遺物 (53)	356
第302図	溝跡出土遺物 (26)	313	第339図	溝跡出土遺物 (54)	357
第303図	溝跡出土遺物 (27)	314	第340図	溝跡出土遺物 (55)	358
第304図	溝跡出土遺物 (28)	315	第341図	溝跡出土遺物 (56)	359
第305図	溝跡出土遺物 (29)	317	第342図	溝跡出土遺物 (57)	360
第306図	溝跡出土遺物 (30)	318	第343図	溝跡出土遺物 (58)	361
第307図	第59号溝跡出土状況出土遺物 (31)	319	第344図	溝跡出土遺物 (59)	362
第308図	溝跡出土遺物 (32)	321	第345図	溝跡出土遺物 (60)	363
第309図	溝跡出土遺物 (33)	323	第346図	溝跡出土遺物 (61)	364
第310図	溝跡出土遺物 (34)	325	第347図	第82号溝跡遺物出土状況	365
第311図	溝跡 (11)	326	第348図	溝跡 (15)	366
第312図	溝跡 (12)	327	第349図	溝跡出土遺物 (62)	367
第313図	溝跡 (13)	328	第350図	溝跡出土遺物 (63)	368
第314図	溝跡 (14)	329	第351図	溝跡出土遺物 (64)	370
第315図	第80号溝跡遺物出土状況 (1)	331	第352図	溝跡出土遺物 (65)	372
第316図	第80号溝跡遺物出土状況 (2)	332	第353図	溝跡出土遺物 (66)	374
第317図	第80号溝跡遺物出土状況 (3)	333	第354図	溝跡出土遺物 (67)	376
第318図	第80号溝跡遺物出土状況 (4)	334	第355図	溝跡出土遺物 (68)	378
第319図	第80号溝跡遺物出土状況 (5)	335	第356図	グリッド・表採出土遺物 (1)	406
第320図	溝跡出土遺物 (35)	337	第357図	グリッド・表採出土遺物 (2)	407
第321図	溝跡出土遺物 (36)	338	第358図	グリッド・表採出土遺物 (3)	408
第322図	溝跡出土遺物 (37)	339	第359図	グリッド・表採出土遺物 (4)	409
第323図	溝跡出土遺物 (38)	340	第360図	グリッド・表採出土遺物 (5)	410
第324図	溝跡出土遺物 (39)	341	第361図	グリッド・表採出土遺物 (6)	411
第325図	溝跡出土遺物 (40)	342	第362図	グリッド・表採出土遺物 (7)	412
第326図	溝跡出土遺物 (41)	343	第363図	グリッド・表採出土遺物 (8)	413

第364図	グリッド・表採出土遺物 (9) ……………414	第371図	グリッド・表採出土遺物 (16) ……………421
第365図	グリッド・表採出土遺物 (10) ……………415	第372図	弥生時代中期後半の周辺遺跡……………429
第366図	グリッド・表採出土遺物 (11) ……………416	第373図	弥生後期後半～古墳時代前期の遺構……………431
第367図	グリッド・表採出土遺物 (12) ……………417	第374図	古墳時代後期の遺構……………433
第368図	グリッド・表採出土遺物 (13) ……………418	第375図	奈良・平安時代の遺構……………435
第369図	グリッド・表採出土遺物 (14) ……………419	第376図	中世の遺構……………435
第370図	グリッド・表採出土遺物 (15) ……………420		

図 版 目 次

<第2分冊>

図版1	調査区航空写真		第13号住居跡カマド
図版2	調査区全景 (南から) 調査区全景 (北から)	図版10	第14号住居跡 (東から) 第16号住居跡 (西から) 第16号住居跡と周囲の溝跡 (東から) 第18号住居跡 (東から) 第19号住居跡 (北西から) 第19号住居跡遺物出土状況 第20号住居跡 (東から) 第21号住居跡 (東から)
図版3	調査区全景 (北西から) 調査区南側 (西から)	図版11	第22号住居跡 (南東から) 第23号住居跡 (東から) 第24号住居跡 (西から) 第25 (奥)・26 (手前)号住居跡 (東から) 第27号住居跡と溝跡 (西から) 第28号住居跡 (南から) 第28号住居跡と周囲の溝跡 (東から) 第29・32号住居跡 (南から)
図版4	第1号方形周溝墓 第3・4号方形周溝墓	図版12	第29号住居跡貯蔵穴遺物出土状況 第30号住居跡 (西から) 第31号住居跡 (東から) 第32号住居跡 (西から) 第34号住居跡 (西から) 第35号住居跡 (南から) 第37号住居跡 (西から) 第36・41号住居跡 (西から)
図版5	第2号方形周溝墓 第2号方形周溝墓遺物出土状況		
図版6	第3号方形周溝墓 第4号方形周溝墓		
図版7	第18号溝跡 第18号溝跡遺物出土状況		
図版8	第4・5・6・7・8号住居跡 (東から) 第3号住居跡カマド 第4号住居跡 (西から) 第6号住居跡 (東から) 第7号住居跡 (東から)		
図版9	第7号住居跡カマド 第7号住居跡貯蔵穴遺物出土状況 第8号住居跡 (東から) 第8号住居跡カマド (南から) 第11号住居跡 (東から) 第12号住居跡 (西から) 第13号住居跡 (西から)		

- 図版13 調査区東中央部住居跡集中地点透景
 調査区東中央部住居跡集中地点（北から）
 第40（右）・42（左）号住居跡（西から）
 第44～48号住居跡（西から）
 第49号住居跡（北から）
- 図版14 第2号掘立柱建物跡（西から）
 第2号掘立柱建物跡P2
 第2号掘立柱建物跡P6
 第2号掘立柱建物跡P7
 第2号掘立柱建物跡P9
- 図版15 第1・3・4号掘立柱建物跡（南から）
 第5号掘立柱建物跡（北から）
 第6号掘立柱建物跡（西から）
 第7号掘立柱建物跡（南から）
 第8号掘立柱建物跡（北から）
 第9号掘立柱建物跡（西から）
 第11号掘立柱建物跡（南から）
 第12号掘立柱建物跡（南から）
- 図版16 第13号掘立柱建物跡（東から）
 第14号掘立柱建物跡（西から）
 第16号掘立柱建物跡（東から）
 第16号掘立柱建物跡（北から）
 第17号掘立柱建物跡（西から）
 第18号掘立柱建物跡（東から）
 第19号掘立柱建物跡（西から）
 第21号掘立柱建物跡（南から）
- 図版17 第2号井戸跡
 第2号井戸跡木杵
 第2号井戸跡木杵近影
 第3号井戸跡遺物出土状況
 第5号井戸跡（東から）
 第6号井戸跡（東から）
 第7号井戸跡（西から）
 第7号井戸跡木杵近影
- 図版18 第8号井戸跡（東から）
 第9号井戸跡（東から）
 第11号井戸跡（東から）
- 第15号井戸跡（東から）
 第17号井戸跡（北から）
 第19号井戸跡（東から）
 第20（右）・24（左）号井戸跡（西から）
 第21号井戸跡（南から）
- 図版19 第22号井戸跡（西から）
 第23号井戸跡（北から）
 第25号井戸跡（南から）
 第26号井戸跡（南から）
 第27号井戸跡（東から）
 第28号井戸跡（北から）
 第29号井戸跡（東から）
 第31号井戸跡馬頭骨出土状況
- 図版20 第32号井戸跡（北から）
 第33号井戸跡（東から）
 第34号井戸跡（東から）
 第35号井戸跡（南から）
 第40号井戸跡（西から）
 第43号井戸跡（西から）
 第55号井戸跡（南から）
 第58号井戸跡（西から）
- 図版21 第59号井戸跡（南から）
 第63号井戸跡（西から）
 第64号井戸跡（東から）
 第65号井戸跡（西から）
 第66号井戸跡（西から）
 第67号井戸跡（西から）
 第68号井戸跡（西から）
 第71号井戸跡（西から）
- 図版22 第1号竪穴状不明遺構（南から）
 第4号竪穴状不明遺構（北から）
 第50号土城遺物出土状況
 第129号土城遺物出土状況
 第144号土城遺物出土状況
 P481遺物出土状況
 P585耳環出土状況
 P693遺物出土状況

- | | | | |
|------|--|------|--|
| 図版23 | 第1号火葬墓
第1号土墳墓 | | 第24号住居跡出土遺物 |
| 図版24 | 第2・4号溝跡
第4・57号溝跡(北から) | 図版33 | 第24号住居跡出土遺物
第26号住居跡出土遺物
第28号住居跡出土遺物
第30号住居跡出土遺物 |
| 図版25 | 第3号溝跡遺物出土状況
第3号溝跡遺物出土状況
第3号溝跡遺物出土状況
第3号溝跡遺物出土状況
第3号溝跡 | 図版34 | 第32号住居跡出土遺物
第37号住居跡出土遺物
第40号住居跡出土遺物 |
| 図版26 | 第16号溝跡
第16号溝跡
第21号溝跡
第28・31・32号溝跡 | 図版35 | 第42号住居跡出土遺物
第44~48号住居跡出土遺物
第49号住居跡出土遺物
第1号掘立柱建物跡出土遺物
第2号掘立柱建物跡出土遺物 |
| 図版27 | 第44号溝跡
第44号溝跡遺物出土状況
第59号溝跡遺物出土状況
第57号溝跡 | 図版36 | 第2号掘立柱建物跡出土遺物
第7号掘立柱建物跡出土遺物 |
| 図版28 | 第80号溝跡調査状況
第80号溝跡遺物出土状況 | 図版37 | 第9号掘立柱建物跡出土遺物
第12号掘立柱建物跡出土遺物
第1号竪穴状不明遺構出土遺物
第4号竪穴状不明遺構出土遺物 |
| 図版29 | 第80号溝跡遺物出土状況
第80号溝跡遺物出土状況
第80号溝跡遺物出土状況
第80号溝跡遺物出土状況
第80号溝跡遺物出土状況 | 図版38 | 第2号井戸跡出土遺物
第3号井戸跡出土遺物
第5号井戸跡出土遺物
第7号井戸跡出土遺物 |
| 図版30 | 第80号溝跡遺物出土状況
第80号溝跡遺物出土状況 | | 第13号井戸跡出土遺物
第20号井戸跡出土遺物 |
| 図版31 | 第6号住居跡出土遺物
第7号住居跡出土遺物
第8号住居跡出土遺物
第12号住居跡出土遺物
第13号住居跡出土遺物 | 図版39 | 第21号井戸跡出土遺物
第52号井戸跡出土遺物
第63号井戸跡出土遺物
第66号井戸跡出土遺物
第79号井戸跡出土遺物 |
| 図版32 | 第13号住居跡出土遺物
第14号住居跡出土遺物
第16号住居跡出土遺物
第19号住居跡出土遺物
第21号住居跡出土遺物
第22号住居跡出土遺物 | 図版40 | 第20号土壌出土遺物
第43号土壌出土遺物
第50号土壌出土遺物
第51号土壌出土遺物
第71号土壌出土遺物
第80号土壌出土遺物 |

- 第106号土壌出土遺物
第117号土壌出土遺物
第127号土壌出土遺物
第129号土壌出土遺物
図版41 第155号土壌出土遺物
第363号ピット出土遺物
第445号ピット出土遺物
第465号ピット出土遺物
第530号ピット出土遺物
第693号ピット出土遺物
第855号ピット出土遺物
図版42 第3号溝跡出土遺物
図版43 第3号溝跡出土遺物
図版44 第3号溝跡出土遺物
図版45 第3号溝跡出土遺物
図版46 第3号溝跡出土遺物
図版47 第3号溝跡出土遺物
第7号溝跡出土遺物
第21号溝跡出土遺物
図版48 第21号溝跡出土遺物
第28号溝跡出土遺物
第30号溝跡出土遺物
図版49 第44号溝跡出土遺物
第57号溝跡出土遺物
第59号溝跡出土遺物
第80号溝跡出土遺物
図版50 第80号溝跡出土遺物
図版51 第80号溝跡出土遺物
図版52 第80号溝跡出土遺物
図版53 第80号溝跡出土遺物
図版54 第80号溝跡出土遺物
図版55 第80号溝跡出土遺物
図版56 第80号溝跡出土遺物
図版57 第80号溝跡出土遺物
図版58 第80号溝跡出土遺物
第134号溝跡出土遺物
グリッド出土遺物
- 図版59 グリッド出土遺物
表採遺物
第7号住居跡出土遺物
図版60 第14号住居跡出土遺物
第19号住居跡出土遺物
第24号住居跡出土遺物
第29号住居跡出土遺物
第32号住居跡出土遺物
図版61 第32号住居跡出土遺物
第42号住居跡出土遺物
第43号住居跡出土遺物
第2号掘立柱建物跡出土遺物
第82号井戸跡出土遺物
図版62 第82号井戸跡出土遺物
第127号土壌出土遺物
第129号土壌出土遺物
図版63 第129号土壌出土遺物
第3号溝跡出土遺物
第28号溝跡出土遺物
第44号溝跡出土遺物
図版64 第44号溝跡出土遺物
第45号溝跡出土遺物
第59号溝跡出土遺物
第80号溝跡出土遺物
図版65 第80号溝跡出土遺物
図版66 第80号溝跡出土遺物
図版67 第145号溝跡出土遺物
グリッド出土遺物
表採遺物
図版68 第24号住居跡出土遺物
第61号井戸跡出土遺物
第82号井戸跡出土遺物
第144号土壌出土遺物
図版69 第155号土壌出土遺物
第481号ピット出土遺物
第44号溝跡出土遺物
図版70 第44号溝跡出土遺物

- 第59号溝跡出土遺物
第80号溝跡出土遺物
- 図版71 第80号溝跡出土遺物
- 図版72 第80号溝跡出土遺物
- 図版73 第80号溝跡出土遺物
グリッド出土遺物
- 図版74 グリッド出土遺物
表採遺物
- 図版75 第1号方形周溝墓出土遺物
- 図版76 第1号方形周溝墓出土遺物
第2号方形周溝墓出土遺物
第3号方形周溝墓出土遺物
- 図版77 第18号掘立柱建物出土遺物
第7号井戸跡出土遺物
第10号井戸跡出土遺物
第59号井戸跡出土遺物
第78号井戸跡出土遺物
第7号溝跡出土遺物
第14号溝跡出土遺物
第4号竪穴状不明遺構出土遺物
- 図版78 第28号溝跡出土遺物
第51号溝跡出土遺物
第57号溝跡出土遺物
第80号溝跡出土遺物
第134号溝跡出土遺物
第1号井戸跡出土遺物
- 図版79 第83号溝跡出土遺物
第94号溝跡出土遺物
グリッド出土遺物
表採遺物
- 図版80 第2号方形周溝墓出土遺物
第3号方形周溝墓出土遺物
- 図版81 第2号方形周溝墓出土遺物
第3号方形周溝墓出土遺物
第39号井戸跡出土遺物
- 図版82 弥生土器 1
弥生土器 2
- 図版83 弥生土器 3
弥生土器 4
- 図版84 弥生土器 5
弥生土器 6
- 図版85 緑釉陶器 1
- 図版86 緑釉陶器 2
- 図版87 緑釉陶器 3
- 図版88 緑釉陶器 4
- 図版89 緑釉陶器 5
- 図版90 灰釉陶器 1
- 図版91 灰釉陶器 2
- 図版92 灰釉陶器 3
- 図版93 石製模造品
- 図版94 鉄製品 鉄滓
- 図版95 金属製品 転用紡錘車
- 図版96 土鍾
- 図版97 土鍾
- 図版98 須恵器 砥石・石製品
- 図版99 砥石 青磁
- 図版100 陶器 古銭
- 図版101 木製品 1
- 図版102 木製品 2
- 図版103 木製品 3
- 図版104 木製品 4
- 図版105 木製品 5
- 図版106 木製品 6
- 図版107 木製品 7
- 図版108 木製品 8
- 図版109 木製品 9
- 図版110 木製品10
- 図版111 木製品11
- 図版112 木製品12
- 図版113 木製品13
- 図版114 木製品14
- 図版115 木製品15
- 図版116 木製品16
- 図版117 貝殻

図版118 骨

図版119 骨

図版120 骨

図版121 骨・種子

I 発掘調査の概要

1. 発掘調査に至る経過

国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所では、洪水による被害を防ぐための治水事業として、スーパー堤防事業を行っている。

荒川右岸に面した大里町津田地先地区においても、洪水時における水防活動を支援するための、復旧活動の拠点や大里町公園整備、環境センター、プール、テニスコートなどのスポーツエリアなどを建設して、引き続きスーパー堤防と一体で整備を目指すこととなった。

県教育局生涯学習部文化財保護課では、この事業の推進に伴う埋蔵文化財の保護について、従前より荒川上流河川事務所と事前協議を重ね、調整を図ってきたところである。

当事業にかかる埋蔵文化財包蔵地の取扱いについては、建設省荒川上流工事事務所長（当時）より県教育長あて、平成12年11月13日付け荒上事計第30号で、埋蔵文化財の所在について照会があった。

これに対して文化財保護課では、確認調査を実施したうえで、平成13年1月18日付け教文第871号で、下田町遺跡の取扱いについて次のように回答した。

1 埋蔵文化財の所在

工事予定地には以下の埋蔵文化財が存在する。

名称(No.)	種別	時代	所在地
下田町遺跡 (No.64-055)	集落跡	古墳・平安	大里町大字津田字 下田1542番地他

2 取扱い

上記の埋蔵文化財は、現状保存することが望ましいが、事業計画上やむを得ず現状を変更する場合は、事前に文化財保護法第57条3の規定に基づく、埼玉県教育委員会教育長あての発掘通知を提出し、記録保存のための発掘調査を実施すること。

発掘調査については、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施機関としてあたることとし、事業

団・荒川上流河川事務所・文化財保護課の三者により、調査方法・期間・経費等についての協議が行われた。その結果、調査は平成13年6月1日から平成17年3月31日までの予定で実施されている。

荒川上流河川事務所長から文化財保護法第57条の3の規定による埋蔵文化財発掘通知が提出され、調査に先立ち、第57条1項の規定による発掘調査届が財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長から提出された。

発掘調査届に対する指示通知番号は、次のとおりである。

平成13年7月1日付け 教文第2-37号

(文化財保護課)

2. 発掘調査と報告書作成の経過

発掘調査

国土交通省による大里地区高規格堤防整備事業に伴う、下田町遺跡の発掘調査は、平成13年度から平成16年度までの予定で開始された。平成13年度調査は、平成13年6月1日から平成14年3月22日まで実施した。調査区の中央を南北に貫く水路によって、調査区は東西に分断されるが、工事との関係から西側の調査区から先行して調査に着手した。今回本書で報告を行うのは、この平成13年度の西側調査区の成果である。

調査着手前に、あらかじめ事業者によって土留めのためのシートパイル打ち込みと、調査区内の表土約1mの土取りを行ってもらった。6月上旬に事務手続きや事務所設置等の調査準備を行い、中旬より重機による表土掘削を開始した。

7月から人力による遺構確認を始め、遺構精査も順次行なった。遺構確認がある程度進んだ時点で、10m方眼の基準点測量を実施した。

遺構確認と精査の結果、方形周溝墓、住居跡、掘立柱建物跡、井戸跡、溝跡、土壇、ピット等を次々と検出した。遺構の分布が希薄と予想されていた調査区の北側の、第80号溝跡からは多量の土器や木器が出土するなど、当初の想定よりもはるかに多くの遺構や遺物を検出した。

遺構精査の後、遺物の出土状況や遺構の写真撮影や図面作成を行って、遺跡の記録保存に万全を期した。

夏季の猛暑と秋季の台風等によって、調査は困難を伴ったが、西調査区については平成13年12月25日に航空撮影を行って、年内に調査を終了し、事業者に引渡しを行った。

なお、東調査区も同様に作業を進め、平成14年3月5日に航空撮影を行い、調査期間内にすべての作業を終了した。

整理・報告書の作成

下田町遺跡の整理・報告書の作成事業は、平成15年4月8日から平成16年3月24日まで行った。

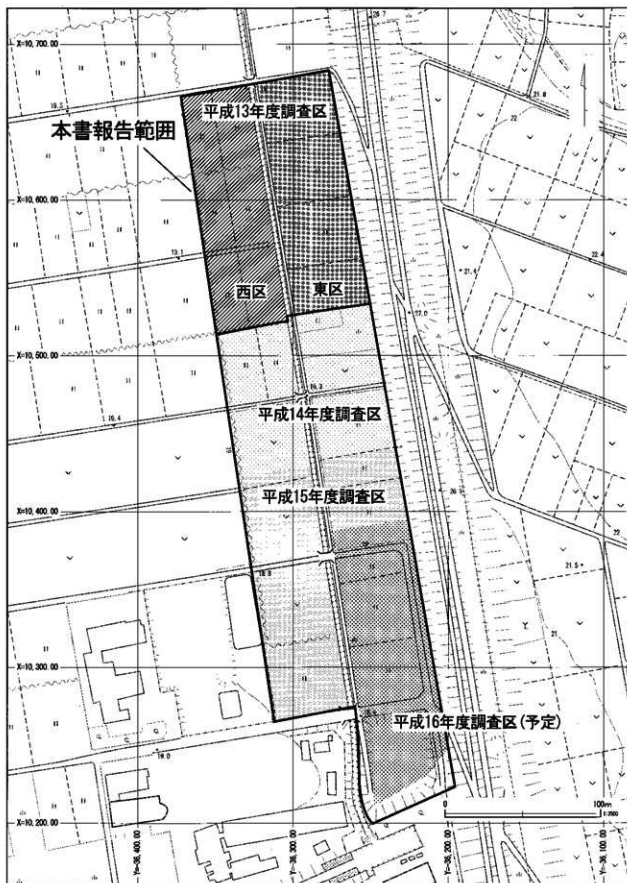
4月からは出土遺物の水洗・註記、接合・復元作業、遺構図及び写真や図面整理を開始した。

図面整理の後、遺構については第二原因の作成とパソコンによるトレース作業を行い、遺物についてもパソコンを活用しながら、順次実測を行った。7月には集中的に木器の実測を行い、9月には遺物の実測は終了した。遺物のトレースも並行して進め、10月に終了した。

10月に遺物の復元作業は終了し、写真撮影を行った。遺物版下作成も10月より進め、11月中には終了した。

11月から12月にかけて割付作業・原稿執筆を行い、1月入札。平成16年3月に報告書を刊行した。

なお、平成16年度刊行予定の東調査区についても、西調査区の作業が終り次第、出土遺物の水洗・註記、接合・復元作業、遺構図の作成、遺物の実測・版下作成、遺物の写真撮影、割付作業、原稿執筆等、一連の作業を実施した。



第1図 下田町遺跡調査区分図

3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織

主体者 財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

(1) 発掘調査 (平成13年度)

理 事 長	中 野 健 一
副 理 事 長	飯 塚 誠一郎
常務理事兼管理部長	大 舘 健

(管理部)

管 理 幹 事	持 田 紀 男
主 任	江 田 和 美
主 任	長 滝 美智子
主 任	福 田 昭 美
主 任	腰 塚 雄 二
主 任	菊 池 久

(調査部)

調 査 部 長	高 橋 一 夫
調 査 部 副 部 長	坂 野 和 信
専門調査員 (調査第一担当)	村 田 健 二
統 括 調 査 員	宮 井 英 一
統 括 調 査 員	赤 熊 浩 一
統 括 調 査 員	岡 義 則
主 任 調 査 員	岡 本 健 一

(2) 整理・報告書刊行 (平成15年度)

理 事 長	桐 川 卓 雄
副 理 事 長	飯 塚 誠一郎
常務理事兼管理部長	中 村 英 樹

(管理部)

副 部 長	村 田 健 二
主 席	田 中 由 夫
主 任	江 田 和 美
主 任	長 滝 美智子
主 任	福 田 昭 美
主 任	腰 塚 雄 二
主 任	菊 池 久

(調査部)

調 査 部 長	宮 崎 朝 雄
副 部 長	坂 野 和 信
主席調査員 (資料整理担当)	金 子 直 行
統 括 調 査 員	赤 熊 浩 一
主 任 調 査 員	岡 本 健 一

II 遺跡の立地と環境

下田町遺跡は、埼玉県大里郡大里町大字津田字埋田町1775番地ほかに所在する。遺跡は、JR高崎線吹上駅から西南西約3.2kmに位置し、荒川と和田吉野川の合流地点にあたる。和田吉野川左岸の自然堤防上に立地し、近年、和田吉野川に造られた玉造水門の北西に隣接する。遺跡の標高は17m前後である。

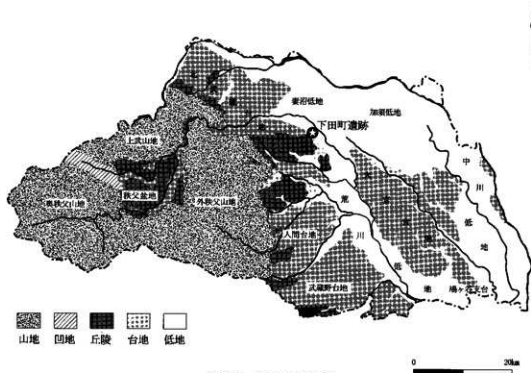
遺跡の所在する大里町は、埼玉県のほぼ中央に位置する。町内には鉄道の駅はなく、最寄りの交通は、町内の西側を南北に国道407号線が走る。この国道は、熊谷市と東松山市を結び大里町はその中間にあたる。町内は近年宅地化が進み人口の増加もあって平成13年に町制が施行された。しかし、町全体は、畑作と水田の広がる農村地帯である。

地形的に見ると、大里町は、西側に比企丘陵がせまり、東側には荒川が流れ、低地が広がる。丘陵から低地に緩やかに移行する地形を見せている。

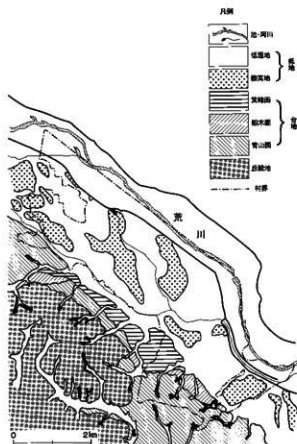
大里町の西に広がる比企丘陵は、秩父山地の中で秩父盆地より東の地域、笠伏山から登谷山・二本木峠・笠山・堂平山の尾根とその東につづく山地であ

る外秩父山地から関東平野に半島状に長く突き出した丘陵である。この比企丘陵は、関東平野の西縁部に連なる9個の丘陵の一つである。この比企丘陵先端の台地は、大里町内で三つの地形面に区分され、それぞれ町内の地名が付けられ、高い方から青山面（標高50m）、船木面（標高35～30m）、箕輪面（標高27～25m）と呼ばれている。

低地地形は、微高地と低湿地に区分される。しかし、低地を理解するために最も重要なことは、現在の荒川の流路が江戸時代に人工的に作られたということである。荒川は大里町の町界となる河川であるが、寛永六年（1629）伊奈忠治によって荒川の流路改修工事によって元荒川を久下で締め切り、流れを和田吉野川に導き、さらに人間川に合流させ荒川の本流を開いた。このため、江戸時代以降洪水による大きな被害を繰り返し受け、それ以前の生活史を残す以降面は地中深く土砂の堆積によって埋没している地帯でもある。和田吉野川は、町の西境である。この河川は寄居町に源があり古くは荒川の流れの一



第2図 埼玉県の地形



第3図 大里町の地形

部であり、比企丘陵の北側を流下する和田川と吉野川は、下恩田地区の南で合流する河川である。町の南部で横断し河口は荒川に注ぐ。通殿川は、町を縦断する小河川である。水源は町の北西部にある三恩田地区の湧水群にある。

下田町遺跡の立地する微高地は、荒川の右岸に位置し、和田吉野川の左岸にあたり、流域に点在する自然堤防の一つである。また、遺跡の所在する地名は大字が津田である。こうした地名の「津」は、海上交通の港としての機能をもつ場所につけられることがあり、この地が和田吉野川の河川交通の要所であったことをうかがわせる。

下田町遺跡周辺の旧石器時代の遺跡は、大里村南部土地区画整理事業に先立ち調査された東山遺跡から砂川期の石器集中箇所を検出した。さらに、大境南遺跡からは礫群1箇所、桜谷遺跡からはナイフ形石器が出土している。

縄文時代の遺跡は、早期では、遺構の検出はされていないが、撚糸文系土器を出土する東山遺跡、撚糸文系と条痕文系土器を出土する桜谷東遺跡が知られている。前期になると集落遺跡が調査されており、冑山遺跡からは黒浜期の住居跡が検出された。また、北郭遺跡では黒浜・諸磯期の土壌を検出した。中郭遺跡では、黒浜期、花積下層期の土器を検出した。また、阿諏訪野東遺跡、東山遺跡、楓山北遺跡、桜谷東遺跡、大境遺跡からも前期の遺構が検出されている。

縄文時代中期になると、台地縁辺部などを中心に広範囲に遺跡が分布する。東山遺跡は勝坂期から加曾利期にかけての集落遺跡である。その他、桜谷東遺跡、大林南遺跡、大境遺跡からもこの時期の住居跡が検出されている。後期になると、沖積地に遺跡が検出されるようになる。桜谷遺跡では、堀之内期の遺構を検出した。遺跡北側の谷頭部では中期末から後期にかけての遺物包含層を確認した。下田町遺跡からも後期の加曾利B期の破片を検出した。晩期になると、遺跡は減少する。中郭遺跡は後期から晩期にかけての遺跡である。

弥生時代中期の遺跡は、下田町遺跡から中期後半の方形周溝墓を1基検出した。また、大里町教育委員会での発掘調査の際には土壌から鉄剣が出土した。さらに、円山遺跡からは住居跡を検出した。その他、熊谷市の北島遺跡では、大規模な集落跡を調査した。沖積地に弥生時代中期後半段階の遺跡が分布することが明らかになってきた。沖積地への進出は、水田開発とより高い土木技術に支えられたと考えられる。後期後半から古墳時代初頭にかけては、下田町遺跡から方形周溝墓が検出され、櫛描き文様の岩鼻系土器と縄文を施文する吉ヶ谷系土器が出土する。また、桜谷遺跡、大境遺跡、舟木遺跡、円山遺跡、箕輪遺跡、北郭遺跡、東松山市玉太岡遺跡などからは住居跡や方形周溝墓が検出されている。この時期は居住域と墓域との明確な分離が行われていないようである。

古墳時代前期になると、五領式土器の標識遺跡である東松山市五領遺跡に見られるような100軒を超える大規模集落が出現する。丘陵上には船木遺跡をはじめ数十件単位の中規模の集落も存在する。中期になると船木遺跡では玉造工房跡が発見される。工房はカマドの敷設された竪穴住居跡である。船木遺跡から約500mに位置する桜谷東遺跡からは、多量の石製模造品や剥片類が出土する玉造工房が確認されている。また、下田町遺跡からは石製模造品の未製品が検出されており、和田吉野川の対岸には「玉造」の地名が残る。後期の集落は、沖積地により積極的に進出する。また集落の北側に大規模な溝を掘削し、灌漑・治水事業を積極的に進めたと考えられる。和田吉野川を挟んだ対岸の成願遺跡は住居跡58軒、掘立柱建物跡21棟を検出した自然堤防上の集落である。このほか、周辺には東山遺跡、楓山遺跡、桜谷東遺跡、大境遺跡、玉太閤遺跡、五反林遺跡などが所在する。

古墳は、4世紀から7世紀に至るまで連続と造られている。4世紀前半代に比定されている吉見町の山の根古墳は全長55mの前方後円墳である。周辺の古墳は、東松山市の曹山古墳が全長90mの円墳で、円墳としては埼玉古墳群の丸墓山古墳に次ぐ大きさで全国屈指の規模をもつ。墳丘から埴輪片が表採され6世紀前半の築造とされている。とうかん山古墳は全長74mの前方後円墳である。墳丘から表採された埴輪や土器片から6世紀中葉前後とされている。また、とうかん山古墳は、隣接する箕輪遺跡や五反林遺跡などの古墳を含め古墳群を形成している。このほか、円山古墳群、阿諏訪野古墳群、東山古墳群、楓山古墳群、賢木丘古墳群などが所在し、いずれも6世紀以降の後期古墳群である。

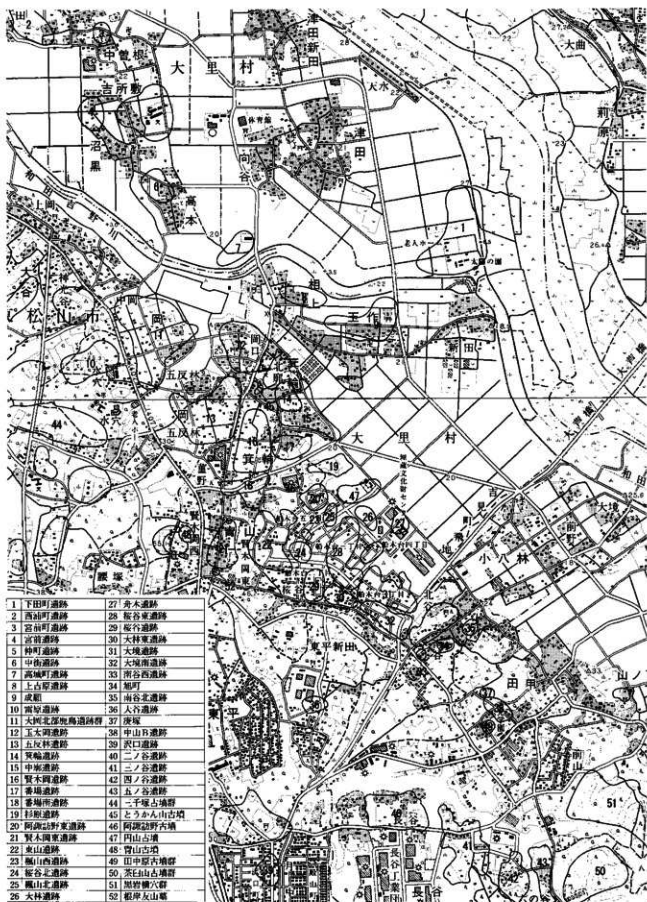
飛鳥時代の遺跡は、素弁八葉軒丸瓦を出土した滑川町寺谷廃寺と瓦陶兼業窯の平谷窯跡、須恵器窯の羽尾窯跡が存在する。下田町遺跡からは、溝跡から湖西産の須恵器が出土し、掘立柱建物跡が検出された。

吉見町の北吉見条里跡では、7世紀末段階の道路状遺構が検出された。低地面に盛土を行い、山砂利をバラス上に硬化面に敷き詰めている。また、小河川を越すための橋梁の基礎部分が検出された。直線的に伸びる時期あることが調査の結果明らかになった。初期の道路は幅12m、造り替えられた道路状遺構の道路幅は6mであった。そして道路を覆う条里水田面からは、平安時代9世紀末段階の須恵器が検出されている。

奈良・平安時代の遺跡は、飛躍的に増大する。下田町遺跡は大里郡に位置する。大里郡は、郡家郷、市田郷、楊井郷、余戸郷の4郷からなる小郡である。しかし、今のところ下田町遺跡の遺構からは奈良時代の遺構や遺物を認めることがほとんどできない。前代まで多くの遺構や遺物を出していたものの自然堤防上から台地上へと居住の基盤としての集落は移動したと考えられる。そして、沖積地は生産の場に変化したものと考えられる。しかし、再び平安時代になると、建物跡や井戸跡、溝跡など生活空間として自然堤防上を選択する。下田町遺跡では、こうした一連の空間利用の変化や律令社会の動きを捉えることができた。

円山遺跡の住居跡からは鉄製の焼印が出土した。長さ25cmほどで、鉄棒が「有」の字に加工されている。

下田町遺跡では大型の掘立柱建物跡が検出されている。また、平安時代の大里郡を記録した『武藏国大里郡坪付』とよばれる文書が残されている。この資料は九条家本『延喜式』の裏文書の中に記されていた。裏文書は966(康保三)年に始まり、1078(承暦二)年までのことが記されている。坪付もまたこの間に成立したと考えられる。しかもこの文書には大里郡印が押されている。文書の内容は、大里郡の役所の下で条里地割が施行されて、各坪単位に田畑の面積を把握し、記載したものである。さらに、田畑に「菱・公・庄・乗」の注記を施し区分している。しかし、問題は、条里・坪並の配列方向やこの条

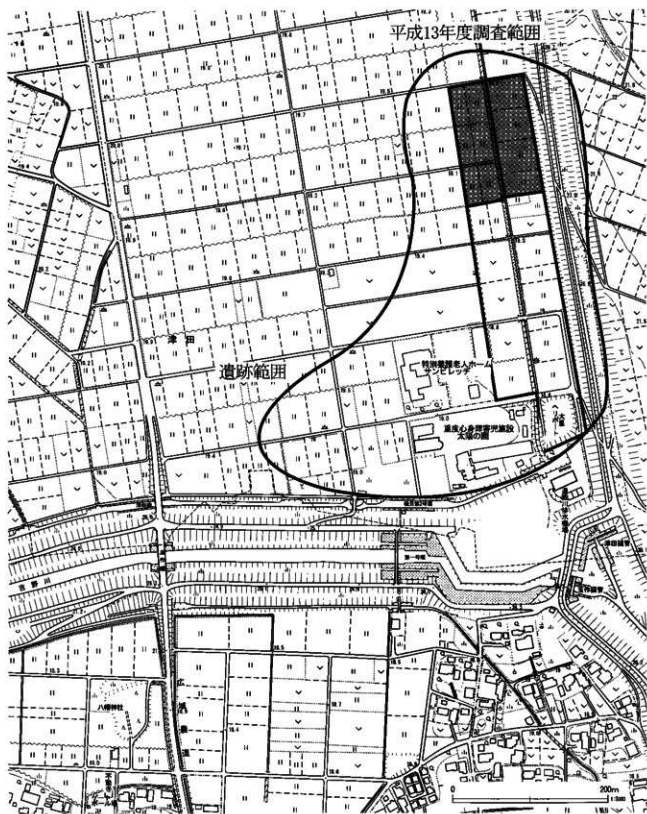


第4図 周辺の道跡

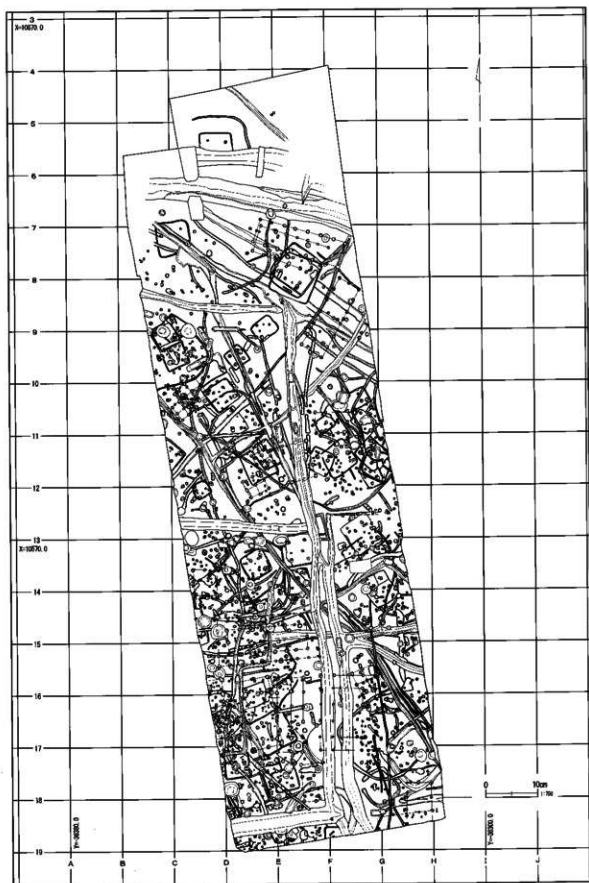
里地割の比定される地域がどこにあたるのである。

鎌倉時代は、武蔵七党と呼ばれる中小の武士団が割拠し、周辺には東松山に比企氏、吉見町に大串氏

などの活躍が知られる。下田町遺跡では幅2m前後の直線的な堀が検出されるなど、この時期の屋敷跡があったと考えられる。



第5図 下田町遺跡周辺の地形



第6図 グリッド配置図

Ⅲ 遺跡の概要

方形周溝墓は4基を検出した。弥生中期後半が第1号で四隅切れの方形周溝墓である。第2～4号周溝墓は五願期段階である。

竪穴住居跡は、42軒を検出した。いずれも古墳時代後期の住居跡である。住居跡の分布は、北側ではやや希薄であるが、全体に検出され特に中央付近では重複が激しい。遺存状態は悪く、遺構確認面からの掘り込みは浅い。住居跡の特徴の第一は、カマドを持たない住居跡が33軒ある。炉跡はなくこの時期には特殊といえる。第二は、住居跡の周囲に溝を巡らす点である。第16、26、27、28号住居跡に見られ、それぞれ集落内を南北に走る第44号溝跡に連結する。このことから、低湿地に造られる住居形態の共通した施設として捉えることができる。

掘立柱建物跡は、21棟を検出した。調査区中央付近を中心とした2間×2間の総柱建物跡（第11・13・14・17・18号掘立柱建物跡）は、建物方位がN-26°-42°-Wの範囲にあり、北から東よりに30°前後傾いた軸をとって造られている。これら建物、古墳時代後期の竪穴住居跡に付属する倉庫と捉えることができ、個々の所有施設の存在が指摘できる。次に、調査区北側付近を中心とした6～7間×2間の横長の建物跡（第9・10・12号掘立柱建物跡）は、建物方位が北から西よりに20～30°傾いた軸をとって造られている。

これらの建物は古墳時代末期の集落に帰属する建物と考えられる。調査区南側では四面庇の大型建物（第2・6号掘立柱建物跡）、2間×5間の柱掘り方の大きな建物跡（第1・3・4・5・7号掘立柱建物跡）や3間×3間の建物跡（第8・15・16号掘立柱建物跡）、そして、2間×4間の建物跡（第20・21号掘立柱建物跡）は、建物方位がほぼ真北か、もしくはやや西に傾く軸をとって造られている。これらの建物跡は、奈良・平安時代の建物跡であり、居住施設と考えられる。特に、大型建物は10世紀前半

段階と考えられる。

井戸跡は、83基を検出した。井戸の構造は、そのほとんどが素掘りであるが、第2号井戸跡は組み合わせ加工を施した板材を横組みしていた。また、第7号井戸跡は平板を各面三枚づつ組んだ方形の井戸枠が組まれていた。出土遺物では、特に、第2号井戸跡から木製黒漆塗り靴と鉄族が検出された。

溝跡は152条を検出した。規模、形態の違いがあり堆積していた覆土もそれぞれ異なっていた。このため、出土する遺物などから古墳時代から中世に至るまで時期差がある。また、これらの溝跡には、様々な性格や機能が考えられる。

古墳時代の主な溝跡は、調査区の北側に大溝第80号溝跡を検出した。東西方向に走り、集落の北限域を画する溝と考えられる。幅4.1m深さ1.5mを測り大規模な人工的に掘削された溝である。

また、この時期の集落内を走る溝跡には、まず、北から南方向に集落を縦断し、取水口が大溝に起因する第16号溝跡と第44号溝跡がある。第16号溝跡は緩やかな曲線をもち蛇行するが、ほぼ南北方向に掘り込まれている。一方、第44号溝跡はN-40°-Wの斜め方向に伸びる。掘り込みは深く集落内排水溝としての機能が低い溝である。しかも、本溝跡には、住居跡の外側周溝が接続する。この外側周溝は、雨落ち溝または竪穴住居内に流れ込む水の排水処理を行うなどの機能が考えられる。

この、外側周溝と判断した溝跡は、第4号住居跡の第13・17号溝跡、第16号住居跡の第34・55・68号溝跡、第25号住居跡の第70号溝跡、第27号住居跡の第66号溝跡、第28号住居跡の第58・71・73号溝跡、第29号住居跡の第69号溝跡、さらに、住居跡は確認できなかったが、第132号溝跡も同様の機能をもっていたと考えられる。

次に、西から東方向に集落を横断し、排水口が大溝に取り付く第21・31・59・63・105号溝跡がある。

それぞれ、規模や掘り方の形状は異なるがいずれも弓なりに弧を描きながら集落内を横断し、大溝跡へ繋がる。ここで注目すべき点は、規模や覆土共通性から第44号溝跡と直行して交わる第59号溝跡の関係、また、第16号溝跡と分岐する第105号溝跡の関係である。いずれも、集落構成を位置付ける溝跡である。前者の溝跡は、集落内の竪穴住居跡をかなり規則的に配置した構造を推測させる。一方、後者は自然的構成をうかがわせる。

奈良・平安時代の溝跡は、調査区北側に大溝第95号溝跡を検出した。出土遺物はほとんど検出されなかったため時期を断定するには根拠が少ないが、わずかに平安時代の須恵器甕の破片を検出した。

この時期の集落は、掘立柱建物跡を検出し、竪穴住居跡は確認できなかった。このため、集落内を走る溝跡の性格や機能は不明だが、第3・5・11・30・57・94・117・125・134号溝跡などが存在する。

なかでも、第3号溝跡は、大量の須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器を検出した。これらの遺物は、溝内に一括投棄されたと考えられ、須恵器は完形に近いものが多く、灰釉陶器、緑釉陶器はかなり壊れ破片が多い。溝跡はクランクしており、屋敷地の区画をしていたと考えられる。南側には井戸跡、東側には第6・7号掘立柱建物跡が軸をそろえて立ち並ぶ。また、北側には第2号掘立柱建物跡が位置し、溝跡との関係が注意される。

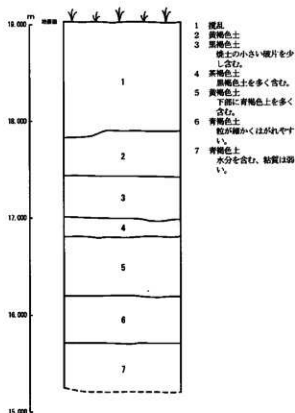
中世の溝跡は、調査区中央を北から、南方向に走る第2・4号溝跡、そして、この溝跡に直行して繋がる調査区南端の第1号溝跡、調査区中央に第148号溝跡、調査区北側に北側4号溝跡を検出した。いずれも、規模は大きい。屋敷地の区画溝として捉えられる。覆土は青緑色の粘土を主体とし、短時間に埋没したとみられる。

火葬墓2基、土壌墓1基を検出した。いずれも中世の遺構である。火葬墓は、「T」字状の形態である。土坑墓は、木棺等の埋葬施設は確認できなかった。人骨は床面直上から検出されたことから直に埋

葬されていたものと考えられる。人骨は比較的良好な残りであった。頭部は東枕で、顔面は北を向いている。合掌し、脚部は屈曲し、いわゆる「屈葬」の状態である。腰の位置には鉄製の短刀が副葬されていた。

この他、竪穴状不明遺構2基、土壌121基、ピット700基を検出した。

下田町遺跡の基本土層は第6図に示したとおりである。第1層は耕作土、第2層は堆積層である。第3層は焼土、炭化物粒子を含む中世・平安期の遺物が混入する堆積層である。中世の遺構はこの面から掘込まれている。第4層は古墳時代後期の遺物を含む堆積層である。第5～7層は粘質をもち黄～青褐色の地山層である。



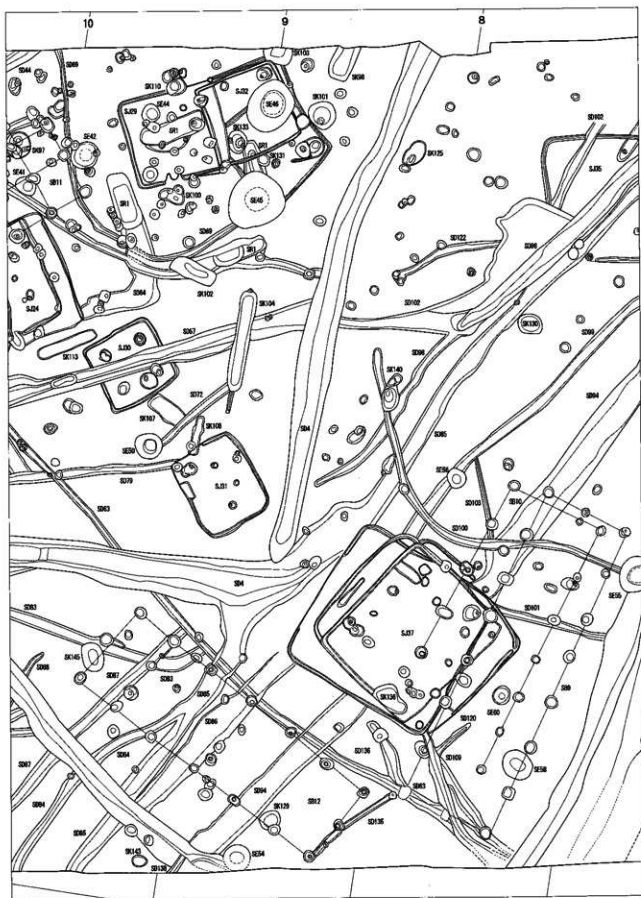
第7図 下田町遺跡基本土層



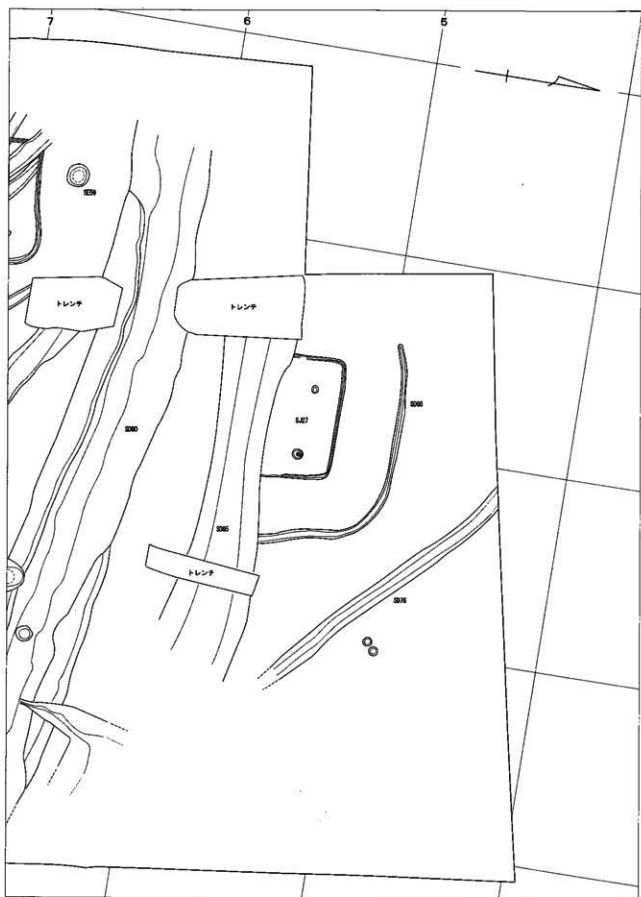
第8図 遺跡全体圖 1



第9図 遺跡全体図2



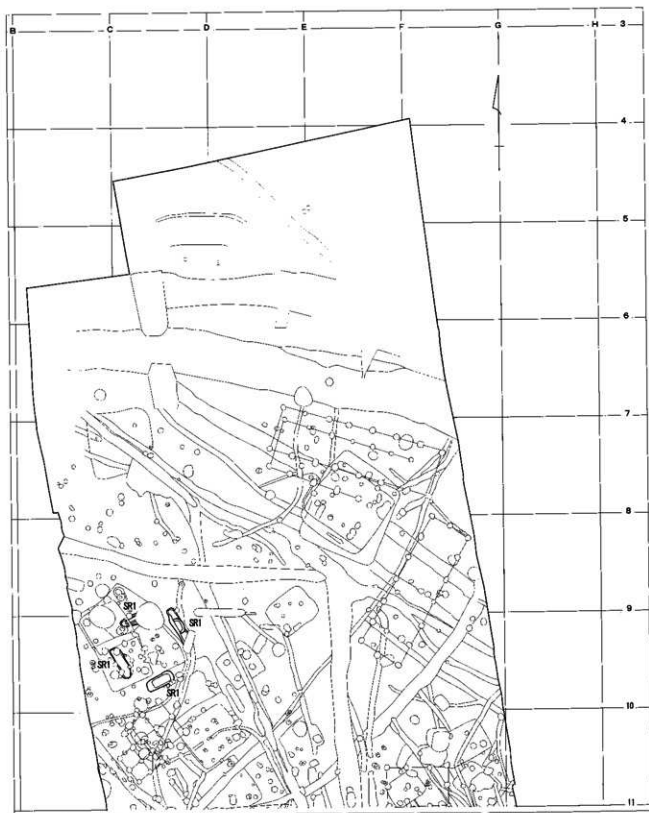
第11図 遺跡全体図 4



第12図 遺跡全体図5

IV 遺構と遺物

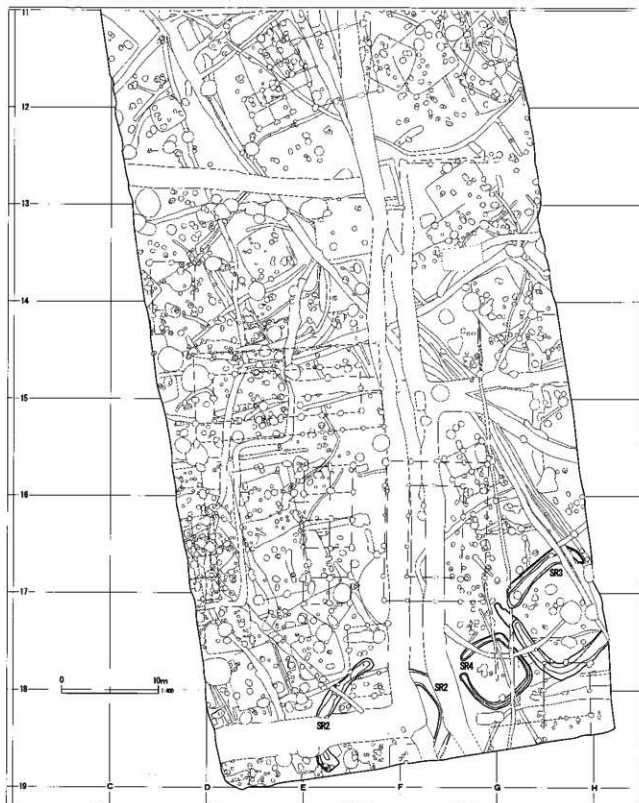
1. 方形周溝墓



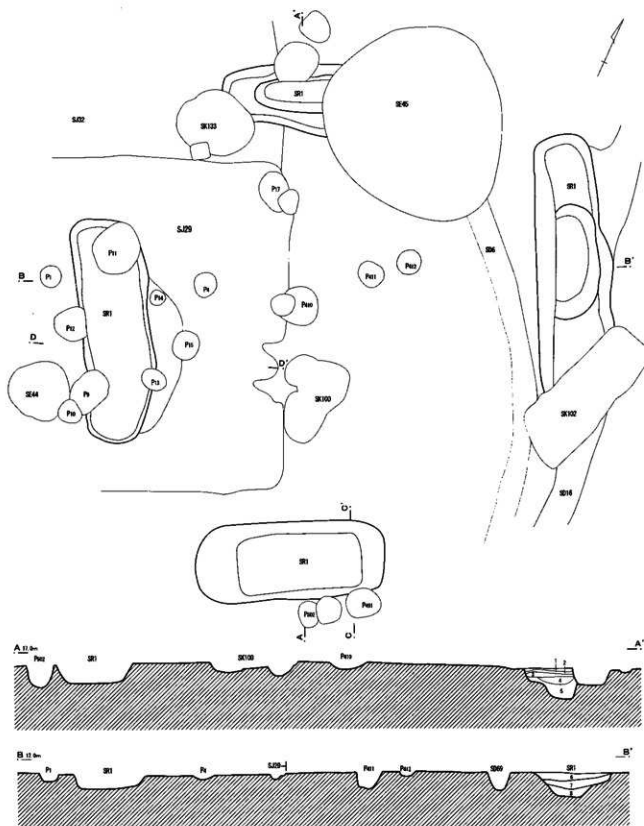
第13図 方形周溝墓跡全体図 1

今回の調査で検出した方形周溝墓は4基である。第1号方形周溝墓は四隅切れの方形周溝墓であり、出土遺物から弥生中期後半の時期である。第2～4号方形周溝墓は五領期段階である。出土遺物は、刷

毛目を伴う遺物を検出した。第2号方形周溝墓は中世の第1・2・4号溝跡によってほとんど壊されている。このため正確な規模は不明である。第3号方形周溝墓はその中でも比較的規模の大きな方形周溝



第14図 方形周溝墓跡全体図2



- 第1号方形周溝墓
- 1 暗褐色土 黒褐色土粒子・焼土粒の混入
 - 2 黄褐色土 黄褐色粘土ブロック (径2.0~3.0cm) の層
 - 3 暗褐色土 3層に同じ
 - 4 暗灰褐色土 灰色土粒子・黒色土粒の混入、粘性あり
 - 5 暗灰褐色土 黄灰褐色土粒子・ブロック混入、粘性あり

- 6 暗褐色土 褐色粒を含まず、焼土粒子・炭化物粒子少量
- 7 黒褐色土 褐色土粒を含む、やや粘性あり
- 8 黄褐色土 黄灰色・黄灰色粘土粒子含む、粘性あり
- 9 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック (径2.0~3.0cm) 少量、焼土粒子微量

第15図 第1号方形周溝墓(1)

墓である。第4号方形周溝墓は第3号方形円溝墓の西側約2mの位置にある。規模は小型化しているものの開口部などの形態や主軸方向は近似する。

第1号方形周溝墓

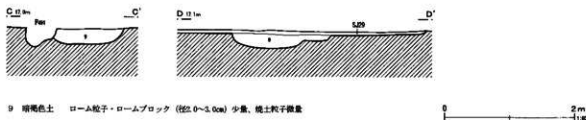
C-8・9グリッドに位置する。四隅切れの方形周溝墓である。周囲は多くの遺構が重複し、検出が難しく、調査当初は土壌、溝跡番号が付けられていた。北溝は第131号土壌と認識し、東溝は第77号溝跡、南溝は第64号溝跡、西溝は第114号土壌として調査した。重複遺構は、北溝の西側に第133号土壌、東側に第45号井戸跡が位置し切られる。東溝は第16号溝跡に切られる。南溝は第65号溝跡に切られる。西溝は第29号住居跡の床下から検出された。

検出した規模は全長で南北8.5m、東西8.2mである。各溝の規模は、南側の溝は長さ2.9m、幅120cm、

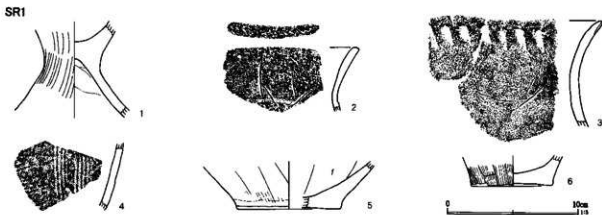
深さ27cm、北側の溝は長さ1.5+ α m、幅90cm、深さ19cm、東側の溝は長さ1.8m、幅90cm、深さ18cm、西側の溝は長さ3.5m、幅100cm、深さ20cmである。

断面観察による覆土は上層で焼土粒子を微量含む、ロームまたは、黄褐色粘土ブロックを含む。下層は暗灰褐色土で粘性をもつ。

第17図1は高環の脚部で、外面に丁寧なタテミガキを施す。2は壺形土器の口縁部で、口唇部に縄文、頸部に沈線区画の文様帯を施す。3・4は変形土器である。3の口縁部は、板状工具の先端により口縁部外面に押圧を加える。頸部から胴部は斜め方向にナデ調整される。4は胴部下半で4本1単位の櫛歯状工具による縦走羽状文を施す。5は壺、6は甕の底部である。



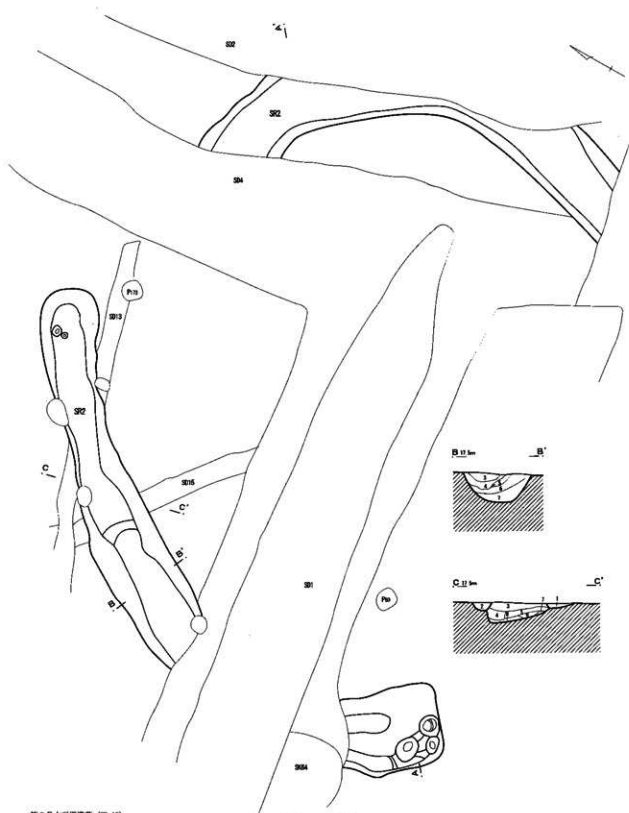
第16図 第1号方形周溝墓(2)



第17図 第1号方形周溝墓出土遺物

第1号方形周溝墓(第17図)

番号	種別	器種	成形・手法の特徴	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	弥生土器	高環	赤彩、タテミガキ	脚一部	砂粒、白粒	普通	赤		
2	弥生土器	壺	口唇縄文頸部沈線区画	破片	白粒、砂粒、雲	良好	にぶい赤褐色		80
3	弥生土器	甕	口縁部工具押圧	破片	白粒、小礫、砂粒	普通	橙		80
4	弥生土器	甕	櫛歯状工具の縦走羽状文	破片	白粒、砂粒	普通	にぶい橙		80
5	弥生土器	壺	ハケ調整	底部のみ	砂粒	普通	にぶい褐色		
6	弥生土器	甕	ハケ調整	底部のみ	砂粒、石英、雲	良好	褐色		

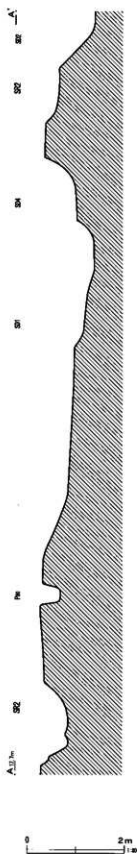


第2号方形周溝墓 (SD-12)

- 1 暗黄褐色土 ロームブロックを多く、焼土粒子少量、粘性なし、しまりあり、SD-15層土
- 2 暗茶褐色土 焼土・炭化粒子少量、粘性なし、しまりあり、SD-13層土
- 3 暗茶褐色土 ロームブロック・炭化粒子多量
- 4 暗茶褐色土 ロームブロック (径1cm以下)、炭化粒子多量
- 5 暗茶褐色土 ロームブロック (径5cm以下) 非常に多量
- 6 暗黄褐色土 ロームブロック (径5cm以下) 少量
- 7 黄褐色土 ロームブロックを中心に黒色土代わり
- 8 暗茶褐色土 ロームブロック少量、粘性あり、しまりなし

0 2m

第18図 第2号方形周溝墓 (1)



第19図 第2号方形周溝墓 (2)

第2号方形周溝墓

E-17・18、F-17・18グリッドに位置する。やや大型の方形周溝墓で、西側周溝および東側周溝の一部を検出した。周囲は多くの遺構が重複し、検出が難しく、調査当初は土壌と溝跡番号が付けられていた。北溝は第12号溝跡、南西端は立ち上がり、第1号溝跡に切られていたため北側に伸びる溝跡との認識はなく第1号土壌と認識し調査した。その後、出土した遺物や時期などから、周溝墓の可能性を考え、東側第4号溝跡の東側に溝を検出した。重複遺構は、中央部に中世の第1・4号溝跡が走り本遺構を切っている。

本遺跡から検出した周溝墓は第1号方形周溝墓が調査区の北寄りC-8・9グリッドに位置し弥生時代中期後半段階である。本遺構は調査区南端に検出され、時期は出土遺物から判断して、弥生時代後期末～古墳時代初頭段階にあたる。この他本遺構の東側2mの位置に第4号方形周溝墓、その隣80cm東側に近接して第3号方形周溝墓を検出した。いずれの周溝墓もほぼ主軸方向を同じくし、関連性が窺える。

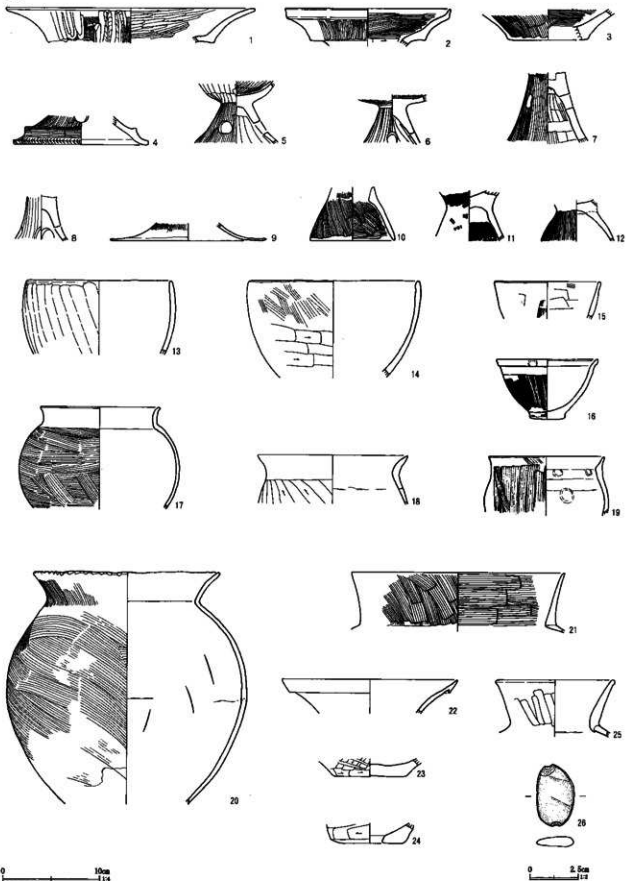
この時期の遺構は方形周溝墓の他には、土壌と溝跡が検出されている。溝跡は本遺構の北側に、第18号溝跡を検出した。この溝跡は、調査当初、方形周溝墓との認識をしたが30頁の表に示したように土師器の出土遺物量が多く、周溝墓の土器組成と比較し、変が多いことが指摘できる。この他、第19・23・24・40・52・53・56・65・74号溝跡から古墳時代前期の遺物が検出されている。いずれも周溝墓や住居跡との特定はできない。

検出した規模は全長19.7m、東側の溝は長さ9.5m、幅140cm、深さ23cm、西側の溝は長さ10.2m幅120cm、深さ41cmである。主軸方位はN-10°-Wである。

断面観察によると、第3～8層が周溝覆土とみられる。第5・6層から遺物を検出した。

第20図1～3、22～25は壺である。1は大型のもので、3本1単位の棒状浮文が貼付されている。この浮文は太い粘土帯を用いており、凹凸が著しい指

SR2



第20图 第2号方形周墓出土遗物

第2号方形周溝墓(第20区)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	壺	(25.6)	[3.5]		口縁破片	石英 砂粒	良好	橙	SD-12・No1	80
2	土師器	壺	(17.0)	[3.9]		破片	砂粒 赤粒	良好	淡黄橙		80
3	土師器	壺		[3.1]	(8.3)	破片	石英 赤粒	普通	赤褐		
4	土師器	大型器台	(13.8)	[2.9]		破片	雲 石英	良好	赤褐	透かし	
5	土師器	高坏		[6.4]		1/3	礫 針	普通	橙褐	三方透	
6	土師器	高坏		[5.1]		脚部のみ	石英 赤粒	良好	茶褐	四方透	
7	土師器	高坏		[7.3]		脚部1/2	角 赤粒 礫	普通	褐	三方透	
8	土師器	高坏		[4.6]		破片	雲 石英 赤粒	良好	橙	五方透	
9	土師器	高坏		[1.7]	(16.0)	破片	雲 角 石英 赤粒	普通	淡褐		
10	土師器	台付甕		[5.5]	(8.8)	台部1/2	砂粒 赤粒 礫	普通	茶褐		
11	土師器	台付甕		[5.2]		台部1/2	雲 角 赤粒	普通	赤褐		
12	土師器	台付甕		[4.2]		台部1/2	石英 砂粒 礫	普通	赤褐		
13	土師器	鉢	(14.8)	[7.6]		1/4	雲 片 角 石英	普通	淡褐		
14	土師器	鉢	(17.5)	[10.9]		1/3	片 石英 赤粒	普通	橙	SD-12・No1	
15	土師器	鉢	(10.6)	[3.9]		破片	雲 砂粒 赤粒	普通	茶褐		
16	土師器	鉢	(10.3)	6.1		1/3	砂粒 赤粒 針	普通	明赤褐		76
17	土師器	甕	(12.1)	[10.5]		1/3	角 砂粒 赤粒	普通	褐	SD-12・No1	
18	土師器	甕	(15.5)	[5.0]		破片	雲 角 砂粒	普通	淡褐		
19	土師器	甕	(11.8)	[6.2]		破片	雲	普通	褐		80
20	土師器	甕	19.0	[23.8]		1/2	白粒 礫	普通	橙	No1	81
21	土師器	甕	(22.0)	[6.1]		破片	砂粒 赤粒	良好	淡褐		80
22	土師器	壺	(18.0)	[3.5]		破片	雲 石英	普通	橙褐		80
23	土師器	壺		[1.8]	(7.4)	底部のみ	雲 石英 赤粒	普通	淡灰褐		
24	土師器	壺		[2.1]	8.0	底部破片	砂粒 白粒	普通	ぶい橙	底部穿孔	
25	土師器	壺	(12.0)	[5.7]		破片	雲 砂粒 礫	普通	淡褐		
26	石製品	石錘	幅3.9	長6.4	厚1.1		チャート				80

ナデにより、整えられている。浮文が貼付される箇所以外は、太い工具によるヘラミガキが施されている。焼成も良好で大型の礫を含む。2は口縁端部が受け口状になるものである。22は幅の狭い複合口縁を呈するものである。25は単純口縁で厚めのものである。3・23・24は底部である。24は底部穿孔の可能性もあるが、風化が著しく不明である。

4は大型器台の脚部である。脚部には穿孔が施される。裾部に段が作出され、横位の刷毛目が施されている。端面とその直上、段の前面上面には櫛歯状工具による刺突が施されている。胎土は在地の土器と同様である。

5-9は高坏の脚部である。8は5ヶ所の窓が開けられている。

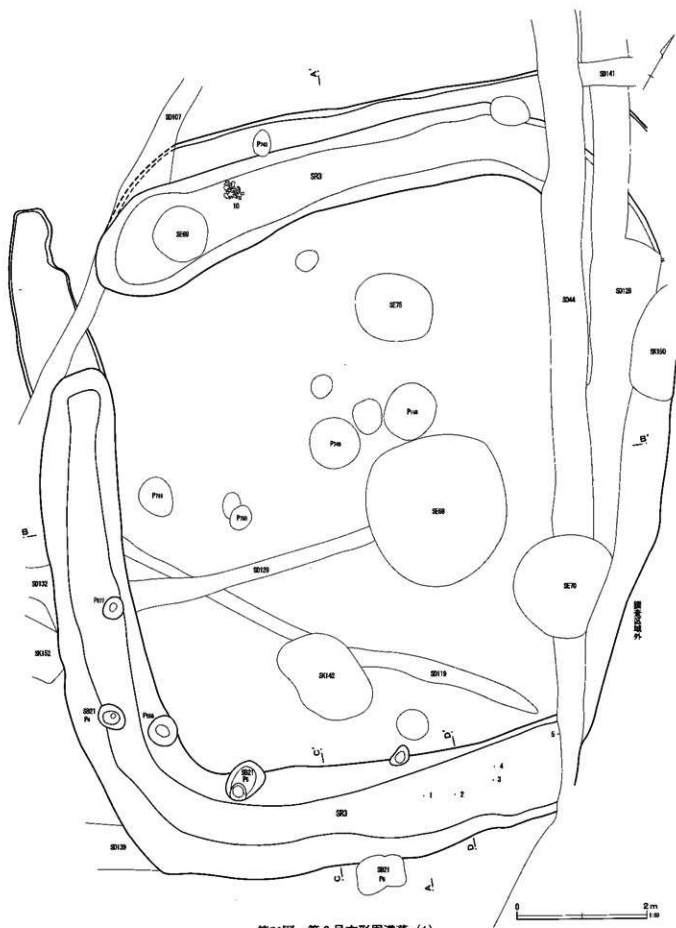
10-12は台付甕の脚台部である。10・11と12は胴

部との接合方法が異なっている。

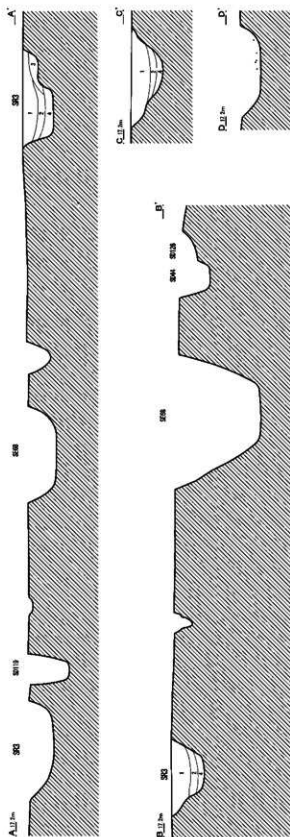
13-16は鉢である。13・14は大型のもので、体部から緩やかに内彎して立ち上がるものである。いずれも胎土に金雲母を多く含む。15・16は小型のものである。16は幅の狭い複合口縁を呈している。

17-21は甕である。20以外は単純口縁である。21は大型、19は小型である。20は、口縁端部に右斜め方向から棒状の工具によりキザミが施されるものである。口縁端部は丸く収まる。2次加熱を良く受け、外面に煤が付着する。

26は自然礫の両端に打撃による凹みを入れたものである。錘等に利用した可能性がある。



第21图 第3号方形周溝墓(1)

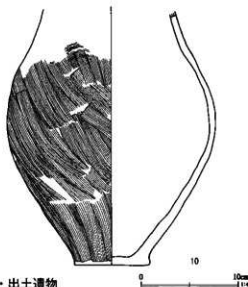
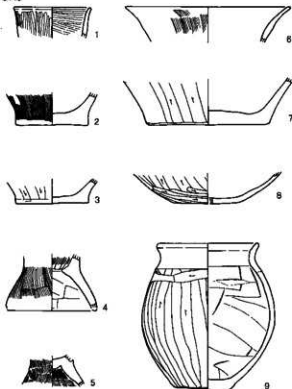


第3号方形周溝墓

- 1 暗褐色：黄褐色粘土粒多量、暗灰色粘質土が厚層に入る
- 2 暗褐色：黄褐色粘土（厚0.2cm）が均等に多く入る、暗灰色粘質土が厚層に入る
- 3 黄褐色土：黄褐色粘土、ブロック（厚2.0cm）、暗灰色粘質土が厚層に入る
- 4 暗褐色：2層の上と黄褐色粘土（厚0.2~1.0cm）多量

0 2m

SR3



第22図 第3号方形周溝墓（2）・出土遺物

第3号方形周溝墓 (第22図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎上	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	小型甕	(8.0)	[3.2]	(7.6)	破片	石英 赤粒 白粒	良好	灰褐	南西溝	80
2	土師器	壺	[3.4]	底部2/3		角 石英 砂粒 赤粒	普通	橙	砂質		
3	土師器	壺	[2.5]	底部破片	雲 角 砂粒 赤粒	普通	褐				
4	土師器	台付甕	[5.6]	白部1/3	角 石英 赤粒	普通	灰褐				
5	土師器	台付甕	[3.2]	白部のみ	角 石英 砂粒 赤粒	普通	褐				
6	土師器	壺	(17.0)	[3.6]	破片	雲 角 砂粒 赤粒	普通	明褐	80	底部内面剥落	
7	土師器	壺	[4.7]	(12.8)	底部のみ	角 砂粒 赤粒	不良	褐			
8	土師器	壺	[3.1]	(7.0)	底部1/3	砂粒 赤粒 白粒	普通	明褐	80	南側	
9	土師器	甕	10.3	15.1	3/4	砂粒 赤粒 白粒	普通	にぶい橙	No1・2・3・4		
10	弥生土器	壺	ハケ、肩部襷描波状文		2/3	砂粒 小礫 石英	不良	灰褐		81	

第3号方形周溝墓

調査区の南東端にあたるG-16・17 H-17グリッドに位置する。方形にめぐる周溝を検出。北西コーナー部分が開口し周溝が途切れる。主軸方位はN-40°-Wである。本遺構は東側の周溝が調査区域外に伸び検出できなかった。また、第44・128・130号溝跡、第150号土壌、第70号井戸跡に切られている。さらに、南側の周溝は第21号掘立柱建物跡に切られている。

検出した規模は全長23.8m、南側の周溝は長さ6.6m、幅150cm、深さ46cm、北側の周溝は長さ7.2m、幅110cm、深さ47cm、西側の周溝は長さ10m、幅120cm、深さ48cm。南北の全長は11.55mである。

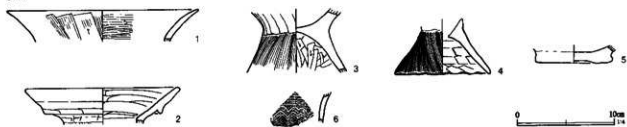
1・6は口縁部で、いずれも単純口縁である。1は所謂瓢壺の可能性ある。2・3・7・8は底部

である。いずれも器面の風化が著しく、調整は不明瞭である。7の内面は全体が剥落している。8は外面が赤彩される。

4・5は台付甕の脚台部である。4は厚手で小型である。9は古墳時代後期の小型の甕である。口縁部は、内外面とも強い横ナデが施される。胴部の外面は下→上方向のヘラケズリ、内面は木口状工具によるナデが施される。底面はヘラケズリである。外面全体に煤が付着する。

10は吉ヶ谷式土器の壺形土器とみられる。底径は7.5cm、胴部最大径21.5cm、現存器高26.1cm。胴部全面をタテハケ調整の後、肩部に櫛歯描波状文を施す。櫛の目は不揃いで、波状文の単位も不規則である。

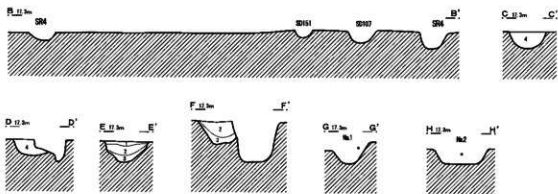
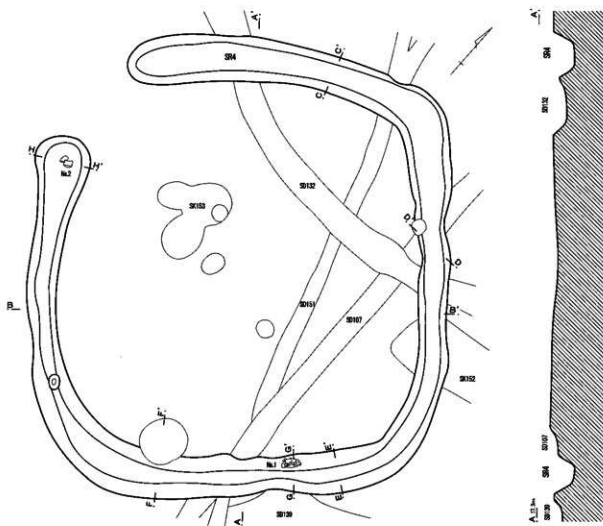
SR4



第23図 第3号方形周溝墓跡出土遺物

第4号方形周溝墓 (第23図)

番号	種別	器種	L径	器高	底径	残存	胎上	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	壺	(20.0)	[3.3]	(9.8)	破片	角 石英 赤粒	普通	赤褐	80	
2	土師器	壺	(16.0)	[3.7]		破片	雲 赤粒 白粒	良好	にぶい橙		80
3	土師器	台付甕	[6.5]	白部のみ	角 石英 砂粒 赤粒	普通	茶褐	76	にぶい黄橙		
4	土師器	台付甕	[5.7]	破片	角 石英 砂粒 礫	普通	褐				
5	土師器	壺	5.8	[1.8]	8.0	底部破片	雲 角 石英	普通	褐	80	
6	土師器	甕				頸部破片	雲 赤粒 白粒	普通	褐		



第4号方形周溝墓

- 1 暗褐色土 2層よりも黄褐色ブロック多数
 2 暗褐色土 赤褐色帯びる。黄褐色土粒子形状に混入する。
 3 暗褐色土 2層よりやや細かい。2層が粒子に押し混雑土が5cm大
 のブロック状になって混入している。粘性あり
 4 暗褐色土 黄褐色粒を含む。粘性あり



第24図 第4号方形周溝墓(1)

第4号方形周溝墓

F-17・18 G-17・18グリッドに位置する。本遺構の東側2mの位置に第3号方形周溝墓が検出された。主軸方位は、N-40°-Wで、隣接する第3号方形周溝墓とほぼ主軸方位を同じくする。形態もほとんど同じで溝がほぼ全周するが北西コーナー部分に開口部をもつ。

規模は、全長20.9m、南側の周溝は長さ5.6m、幅60cm、深さ35cm、北側の周溝は長さ5m、幅60cm、深さ31cm、東側の周溝は長さ5.4m、幅50cm、深さ21cm、西側の溝は長さ4.9m、幅50cm、深さ22cmである。規模の点では第3号方形周溝墓が大きい。

1・2・5は壺である。5は器面の風化が著しい。3・4は台付甕である。3は大型のものである。内外面に2次加熱を受け、器面の風化が著しい。6は樽式土器の甕の破片である。上部に簾状文が、下部に6本1単位の右回りの櫛描波状文が施されている。

方形周溝墓出土土器の組成について器種とその破

片数について計測を試みた。計測した遺構は、第2・3・4号方形周溝墓と第18号溝跡出土の遺物である。器種は、甕、壺、小型壺、高杯、台付甕、甌、鉢、甘、器台、樽式土器に分類した。その中で甕と壺だけは、口縁部、胴部、底部の各部位に分け破片数と各重量を計った。

出土遺物量が圧倒的に多いのは第18号溝跡である。器種組成も甕、甌を伴いほかの方形周溝墓の器種組成とは異なることがわかる。

第3号方形周溝墓は甕の破片がなく、壺および小型壺の破片をやや多く出土、また、台付甕と樽式土器を検出した。樽式は第22図10があげられる。口縁部下端に弱い押しつけによるややだれた波状文が付される。胴部は右下がりの斜め方向に撫でられた条痕をもつ。

第2号および第4号方形周溝墓は出土遺物の組成が類似する。壺、台付甕は同じように出土するが、甕を検出し、小型壺はなく、高杯を検出する。

方形周溝墓および第18号溝跡出土遺物計量表

器種	部位	SR02		SR03		SR04		SD18	
		重さ(g)	破片数	重さ(g)	破片数	重さ(g)	破片数	重さ(g)	破片数
甕	口縁部	775	2	0	0	60	5	500	22
甕	胴部	3680	0	1060	0	135	0	1070	
甕	底部	0	0	0	0	0	0		
甕	計	4455	2	1060	0	195	5	1570	22
壺	口縁部	430	6	75	5	50	2	1315	11
壺	胴部	2080	0	1520	0	310	0	1535	
壺	底部	0	0	780	7	110	2	1580	10
壺	計	2510	6	2375	12	470	4	4430	21
小型壺	口縁部	0	0	20	5	0	0	90	1
小型壺	胴部	0	0	135	0	0	0	45	
小型壺	底部	0	0	0	0	0	0	65	4
小型壺	計	0	0	155	5	0	0	200	5
高杯		570	5	40	3	0	0	1685	23
台付甕	台部	275	4	240	5	325	3	1840	16
甌		0	0	0	0	0	0	10	1
鉢		605	6	0	0	0	0	250	11
樽	口縁部	0	0	35	5	0	0	0	0
器台		0	0	0	0	0	0	10	1
		0	0	0	0	0	0	70	1

2. 住居跡

住居跡は今回の報告範囲では42軒を確認したが、出土した遺物からみて、いずれも6～7世紀に属するものである。

住居跡の分布は調査区の中央部に集中し、南西部にも多くの住居が重複してつくられている。調査区の南東側と北側は分布が希薄である。残存状況は良好とはいえ、遺構確認面から住居の床面までの深さは20cmを超えるものはほとんどなかった。

カマドをもつ住居は9軒、カマドをもたない住居は33軒と、この時期の住居にしてはカマドをもたないものが圧倒的に多いことが特徴である。炉等の痕跡もなかった。調査当初は、住居の残存状況が悪いために、カマドがすでに削平されて検出できなかったとも想定されたが、燃焼部の痕跡も検出できず、焼土や炭化物もまったく出土しないことから、築造時からカマドはなかったものと判断した。また、貯蔵穴をもつ住居も6軒と少ないが、カマドと共存する傾向が強い。

住居の周りを囲むように区画溝を巡らすものが、第16・26・27・28号住居跡の4軒みられる。それぞれ大溝と連結していることからみて、排水の役割もしていたと考えられる。自然堤防上における当時期の住居のありかたを示すものとして重要である。

なお、第1・2・9・10・15・17・33・38・39号住居跡は調査時に住居番号を付けながら、最終的に住居と確認できなかったため、欠番とした。

また平面図はカマドがある場合はカマドを上にし、カマドがない場合は北方向を上にした。

第3号住居跡 (第27図)

D-16グリッドに位置する。北側は第12号住居跡、中央付近は第3号溝跡、西側は第18号溝跡等と重複しているため、カマド付近の輪郭以外は形態が不明瞭であった。ピット等から推定した平面形は、一辺約4mの正方形である。床面の深さは遺構確認面から9～13cm、主軸方向はN-99°-Eである。土層

断面からみて、重複する溝跡はそれぞれ住居よりも新しい時期のものだと判断される。

カマドは東壁中央よりやや南寄りに設置されており、長さ約1.2mが残存していた。燃焼部は床面より5cmほど掘り込み、緩やかに煙道部に上がっている。燃焼部の壁面は硬く焼きまわっていた。

貯蔵穴はカマドの右に設置されており、平面は48×42cmの楕円形で深さは16cmである。壁溝は検出できなかった。

この住居に伴うと判断されるピット4基を検出し、P1～P4の深さはそれぞれ、36、19、24、24cmである。

出土遺物のうち、図示できたものは第28図のとおりである。土師器環はいずれも北武蔵型であった。須恵器高環は小片のため、透かしの方向や段数等は不明である。6はカマドから出土している。

なお、出土した遺物からみて、重複する第12号住居跡の方が時期が古いと考えられる。

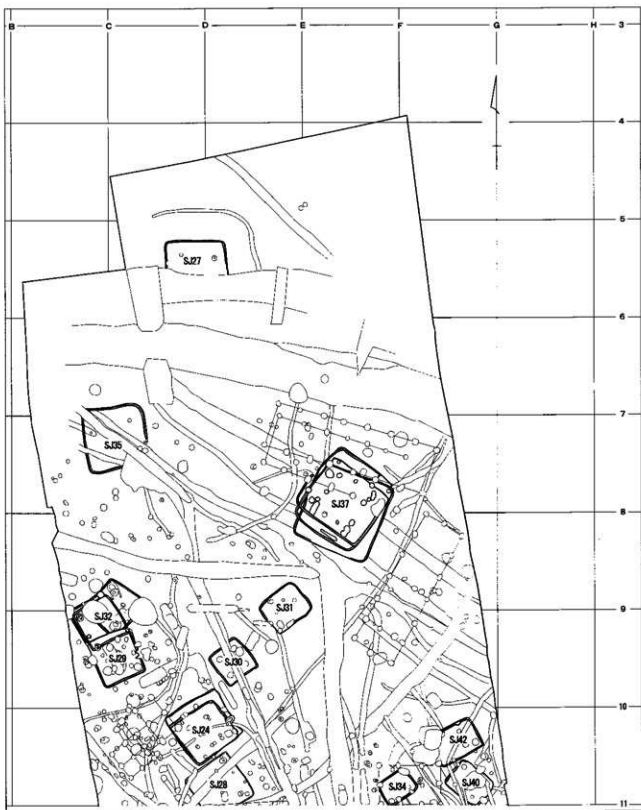
第4号住居跡 (第29図)

D-E-17グリッドに位置する。南西部は第15号溝跡によって切られており、その他第5号住居跡、第19号井戸跡、第10・58号土壌等も重複している。土層観察から第15号溝跡は住居跡よりも古く、土壌や井戸跡はいずれも住居跡よりも新しいと判断される。平面形は東西にわずかに長い長方形で、規模は南北4.1m、東西4.7mである。床面の深さは遺構確認面から4～8cm、主軸(南北)方向はN-14°-W。カマド及び貯蔵穴は検出しなかった。壁溝は南東隅をのぞいて、ほぼ全周する。幅は14～30cmで、深さは4～10cmである。

ピットを7基検出し、支柱穴はP1、P2、P4、P6であると想定される。P1～P7の深さはそれぞれ、31、10、40、40、23、68、14cmである。

出土遺物は少なく、図示できたものは土師器甕口縁1点と土鍾1点のみであった(第30図)。

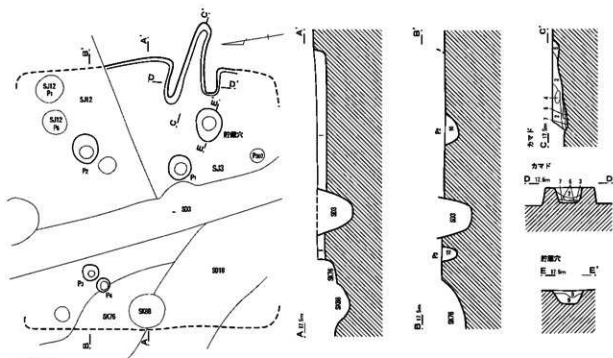
なお、第5号住居跡も遺物が少ないので、第4号



第25図 下田町遺跡住居跡全体図 (1)



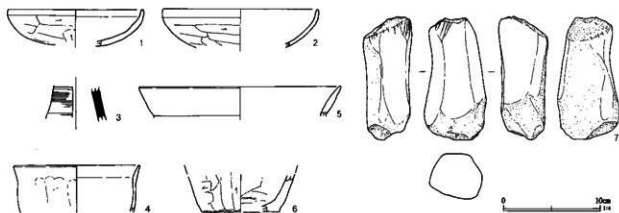
第26図 下田町遺跡住居跡全体図 (2)



- 第3号住居跡
- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック含む
カマド
- 2 暗褐色土 粘土・黄褐色土ブロック少量
3 暗褐色土 粘土・炭化物多量
4 黄褐色土 ブロック等、炭化した壁面
5 暗褐色土 粘土ブロック多量
6 暗褐色土 粘土含む
- 7 黒色土 炭層
貯蔵穴
8 暗褐色土 粘土・炭化物等
9 暗褐色土 炭土ブロック、炭多量
ピット
10 暗褐色土 焼土粒子含む

0 2m
1m

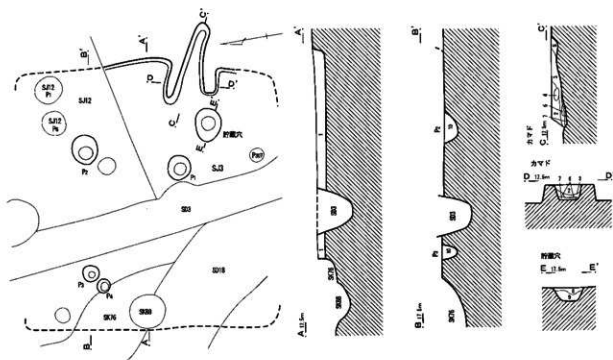
第27図 第3号住居跡



第28図 第3号住居跡出土遺物

第3号住居跡出土遺物観察表 (第28図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	坏	(14.0)	[3.6]		破片	雲 角 白粒	良好	橙		
2	土師器	坏	(16.0)	[4.0]		破片	雲 角 長石 赤粒 白粒	良好	橙		
3	須恵器	高坏		[3.5]		脚部1/3 白粒		良好	褐灰		
4	土師器	埴	(13.0)	[5.0]		口縁破片	雲 石英 砂粒 赤粒	不良	橙		
5	土師器	甕	(11.0)	[3.1]		L1縁1/4	雲 石英 砂粒 赤粒	不良	橙		
6	土師器	甕		[3.6]	(8.0)	底部破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	明赤褐 褐灰	カマド	
7	石製品	砥石	幅5.3長 [12.5]厚 (4.6)								78



第3号住居跡

1 暗褐色土 黄褐色土ブロック含む

カマド

2 暗褐色土 焼土・黄褐色土ブロック少量

3 暗褐色土 焼土・炭化物多量

4 黄褐色土 ブロック状、角礫した層面

5 暗褐色土 焼土ブロック多量

6 暗褐色土 焼土含む

7 黒色土 炭質

約6穴

8 暗褐色土 焼土・炭化物粒

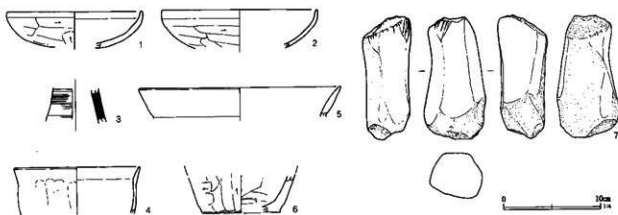
9 暗褐色土 焼土ブロック・炭多量

ピット

10 暗褐色土 焼土粘土含む

0 2m

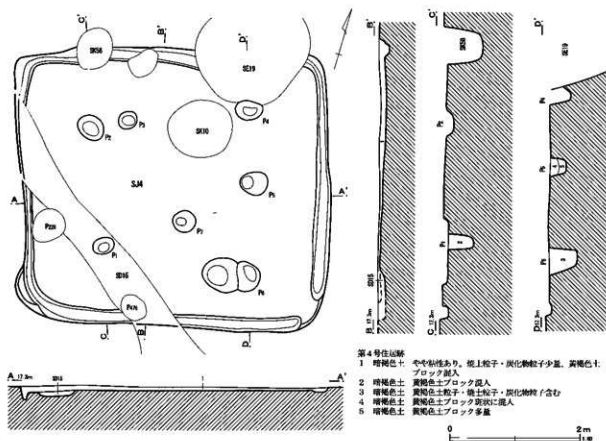
第27図 第3号住居跡



第28図 第3号住居跡出土遺物

第3号住居跡出土遺物観察表 (第28図)

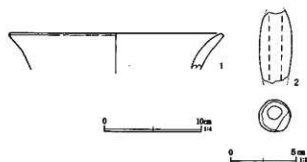
番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	環	(14.0)	[3.6]		破片	雲角 白粒	良好	橙		
2	土師器	環	(16.0)	[4.0]		破片	雲角 長形 赤粒 白粒	良好	橙		
3	須恵器	高環		[3.5]		脚部1/3	白粒	良好	褐灰		
4	土師器	埴	(13.0)	[5.0]		口縁破片	雲 石英 砂粒 赤粒	不良	橙		
5	土師器	甕	(11.0)	[3.1]		口縁1/4	雲 石英 砂粒 赤粒	不良	橙		
6	土師器	甕		[3.6]	(8.0)	底部破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	明赤褐 褐灰	カマド	
7	石製品	砺石	幅5.3長	[12.5]厚	(4.6)						78



第29図 第4号住居跡

第4号住居跡出土遺物観察表 (第30図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	甕	(22.0)	[3.8]		口縁破片	雲 石英	砂粒 赤粒	普通	にぶい粒	
2	土製品	土鉢	幅2.5	長5.6	孔径0.9	3/4	雲 赤粒	白粒	不良	椀	



第30図 第4号住居跡出土遺物

住居跡との新旧関係は判断できない。

第5号住居跡 (第31図)

D・E-17グリッドに位置する。南東側は第4号住居跡と、西側は第6号住居跡と重複し、中央部は第15号溝跡が走るなど、残存状況はきわめて不良であった。第15号溝跡は住居跡よりも古い時期である

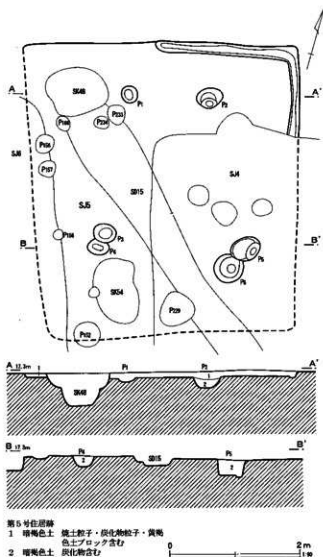
- 第4号住居跡
- 1 暗褐色土 やや粘性あり。焼上粒子・炭化物粒子少量。黄褐色土・ブロック混入
 - 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック混入
 - 3 暗褐色土 黄褐色土粒子・焼上粒子・炭化物物を含む
 - 4 暗褐色土 黄褐色土ブロック混入
 - 5 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量

が、重複する各住居跡との新旧関係は不明である。推定される平面形は、南北4.5m、東西4.1mの規模の南北に長い長方形である。遺構確認面からの床面の深さは0～8cm。主軸(南北)方向はN-18°-Wである。

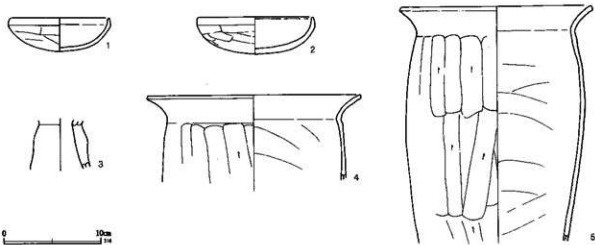
カマド及び貯蔵穴は検出しなかった。壁溝は北東隅付近で検出し、幅12～22cm、深さ2～3cmである。

ピットは6基検出した。位置的にはいずれも主柱穴となる可能性が高いが、P1は非常に浅い。P1～P6の深さはそれぞれ、2、18、16、17、37、48cmである。

出土遺物は小片が少量のみで、図示できるものはなかった。



第31図 第5号住居跡



第32図 第6号住居跡出土遺物

第6号住居跡 (第33図)

D-17・18グリッドに位置する。北東付近には第2号井戸跡が重複し、中央部付近には第16号溝跡が南北に貫通している。井戸跡は住居跡よりも新しいが、溝跡との新旧関係は不明である。全体に遺構確認面から浅いため、西側及び北側西寄り部分の輪郭が不明瞭であった。推定される規模は、南北5.8m、東西5.3mの南北にわずかに長い長方形である。遺構確認面からの床面の深さは0～8cm。主軸(南北)方向はN-18°-Wである。

カマド及び貯蔵穴は検出しなかった。壁溝は北側の東寄り部分から南壁にかけて検出した。幅は16～32cm、深さは4～19cmである。

ピットは4基検出したが、P1、P2、P3は主柱穴と推定される。P1～P4の深さはそれぞれ、79、39、61、50cmである。

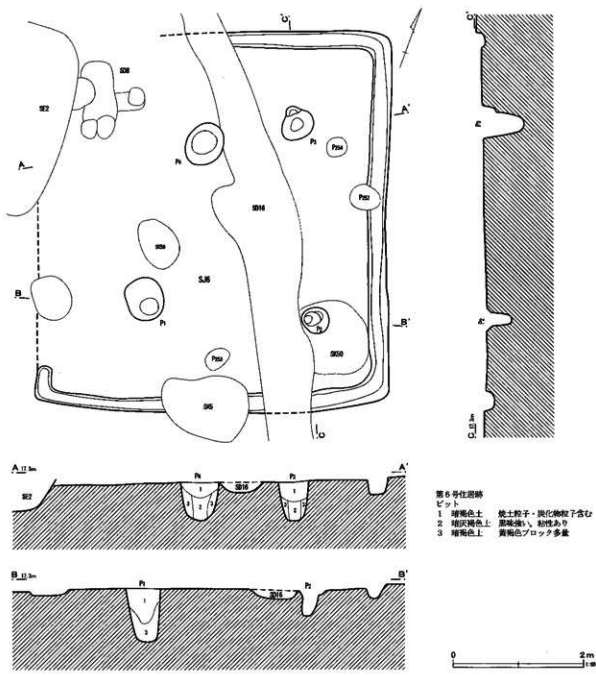
出土遺物のうち、図示できたものは第32図のとおりである。土師器坯はいずれも北武蔵型である。

第7号住居跡 (第34図)

D-17グリッドに位置する。北側には第3号溝跡、中央部には第16号溝跡が貫通し、第3号井戸跡等が重複する。いずれも住居跡よりも新

第6号住居跡出土遺物観察表 (第32図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	坏	10.4	3.5		2/3	雲 赤粒 白粒	不良	橙	P1 赤彩	31
2	土師器	坏	12.0	3.8		完形	雲 長石 石英 赤粒	不良	橙		31
3	土師器	高坏		[5.3]		脚部1/3	雲 石英 赤粒	普通	橙		
4	土師器	甕	(22.0)	[8.6]		口縁破片	雲 石英 砂粒 赤粒	不良	橙		
5	土師器	甕	(20.0)	[24.2]		破片	赤粒 白粒	普通	にぶい橙		

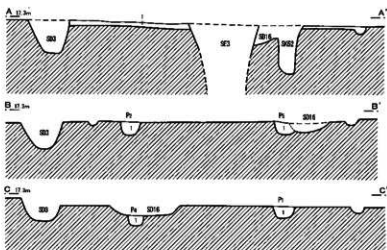
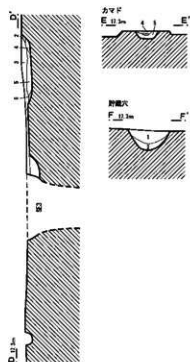
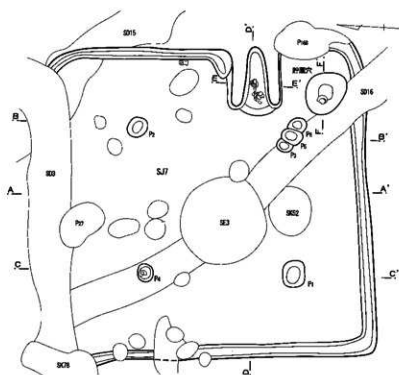


第33図 第6号住居跡

しい遺構である。平面形は北側が不明であるが、推定規模は東西（主軸）4.7m、南北5.1mの、やや南北に長い長方形である。床面の深さは2～10cm。主

軸方向はN-88°-Eである。

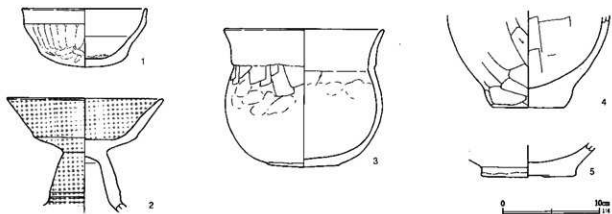
カマドは東壁やや南寄りに設置されており、長さ約0.9mが残存していた。燃焼部は床面から約10cm



- 第7号住居跡
 1 暗褐色土 黄褐色砂子含む
 カマド
 2 暗褐色土 粘性強い、黄褐色シブロック含む
 3 暗褐色土 砂・黄褐色土ブロック含む
 4 暗褐色土 砂・黄褐色土砂子含む
 5 暗褐色土 粘性強い、黄褐色土ブロック含む



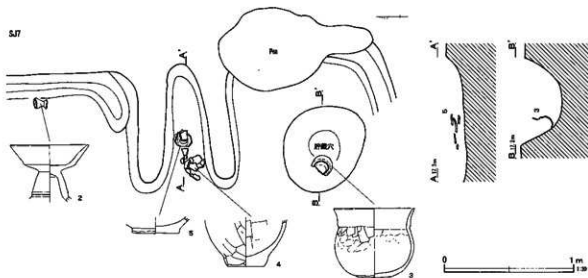
第34図 第7号住居跡



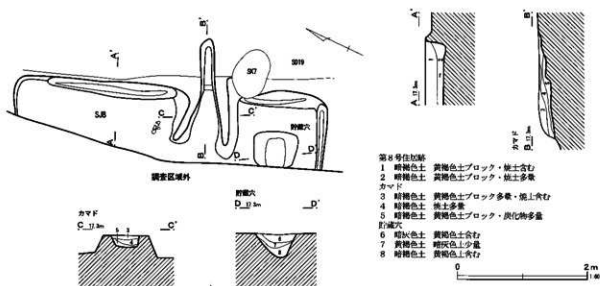
第35図 第7号住居跡出土遺物

第7号住居跡出土遺物観察表 (第35図)

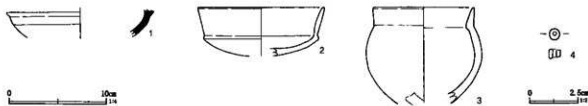
番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	埴	13.0	6.0		ほぼ完形	雲 石英 赤粒 白粒	普通	にぶい橙	P4	31
2	土師器	高坏	16.0	[11.0]		1/4	雲 角 赤粒 白粒	普通	にぶい橙	カマド 微細区 赤彩	59
3	土師器	広口壺	16.5	14.2	(7.0)	1/2	雲 角 石英 赤粒 白粒	普通	灰褐色	貯蔵穴 微細区	59
4	土師器	甕	[9.5]	7.3		底部のみ	石英 砂粒 赤粒 白粒	普通	明赤褐	カマド 微細区	
5	土師器	甕	[2.9]	9.8		底部4/5	雲 石英 砂粒 赤粒	良好	にぶい橙	カマド 微細区	



第36図 第7号住居跡遺物出土状況



第37図 第8号住居跡



第38図 第8号住居跡出土遺物

第8号住居跡出土遺物観察表 (第38図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	須恵器	坏		[2.8]		破片	雲 白粒	良好	灰色	カマド	31
2	土師器	坏	(13.0)	[5.0]		1/4	赤粒 白粒	不良	橙	カマド	
3	土師器	広口壺	(10.4)	[10.0]		1/4	雲 石英 赤粒 白粒	普通	明赤褐	カマド	93
4	石製品	白玉	径0.6	厚0.4		完形	滑石			カマド	

掘り込み、緩やかに煙道部に上がっていく。壁面は硬く焼きまっていた。

貯蔵穴はカマドの右に設置され、平面は64×62cmのややいびつな円形、深さは32cmであった。壁溝は全周すると推定され、幅12～24cm、深さ3～10cmである。

ピットは6基検出したが、P1、P2、P4、P5が主柱穴と推定される。P1～P6の深さはそれぞれ、17、21、20、30、20、20cmである。

出土遺物のうち、図示できたものは第35図のとおりである。1の塊は粗製で、体部表面は全体に指おさえ痕が残る。2の高坏は赤彩を施しており、カマ

ド北側とカマド内から出土した破片が接合した。3は貯蔵穴から出土しており、胴部上半は粗いケズリ調整、下半はナデ調整を施す。

第8号住居跡 (第37図)

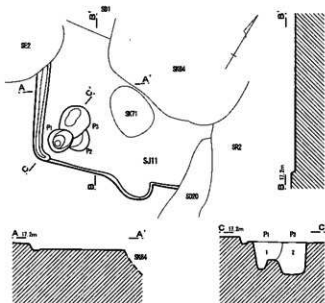
D-17・18グリッドに位置する。住居の西側半分以上は調査区域外になるため、主軸(東西)長は不明であるが、南北は4.7mである。床面の深さは、遺構確認面から16～30cmと、他の住居跡に比べると深い。主軸方向はN-66°-Eである。

カマドは東壁中央やや南寄りに設置されており、約1.8mの長さが残存していた。燃焼部から緩やかに傾斜して上がるが、途中2箇所に段を有していた。

貯蔵穴はカマドの右に設置され、平面は68×54cmの隅丸方形で、深さは36cmであった。壁溝は東壁及び南壁でみられ、幅10～26cm、深さ2～4cmであった。

調査面積が狭小であったため、主柱穴を含むピットはまったく検出できなかった。

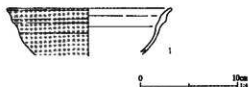
出土遺物は少ないが、図示できたものは第38図のとおりである。



第11号住居跡
ピット

- 1 黄褐色土 黄褐色土ブロック・瓦上粒子・炭化樹皮を含む
- 2 黒褐色土 黒土粒子・炭化樹皮を含む。しまりやや強い

第39図 第11号住居跡



第40図 第11号住居跡出土遺物

第11号住居跡出土遺物観察表 (第40図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	鉢	(17.0)	[4.8]		破片	雲 角 砂粒 赤粒 白粒	普通	橙	P.2, 3 赤彩	

第8号住居跡出土遺物観察表 (第38図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	須臾器	坏		[2.8]		破片	雲 白粒	良好	灰色	カマド	
2	土師器	坏	(13.0)	[5.0]		1/4	赤粒 白粒	不良	橙		31
3	土師器	広口壺	(10.4)	[10.0]		1/4	雲 石英 赤粒 白粒	普通	明赤褐	カマド	
4	石製品	白玉	径0.6	厚0.4		完形	滑石			カマド	93

掘り込み、緩やかに煙道部が上がっていく。壁面は硬く焼きまっていた。

貯蔵穴はカマドの右に設置され、平面は64×62cmのややびつな円形、深さは32cmであった。壁溝は全周すると推定され、幅12～24cm、深さ3～10cmである。

ビットは6基検出したが、P1、P2、P4、P5が主柱穴と推定される。P1～P6の深さはそれぞれ、17、21、20、30、20、20cmである。

出土遺物のうち、図示できたものは第35図のとおりである。1の塊は粗製で、体部表面は全体に指おさえ痕が残る。2の高環は赤彩を施しており、カマ

ド北側とカマド内から出土した破片が接合した。3は貯蔵穴から出土しており、胴部上半は粗いケズリ調整、下半はナデ調整を施す。

第8号住居跡 (第37図)

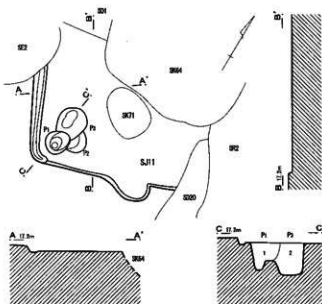
D-17・18グリッドに位置する。住居の西側半分以上は調査区域外になるため、主軸(東西)長は不明であるが、南北は4.7mである。床面の深さは、遺構確認面から16～30cmと、他の住居跡に比べると深い。主軸方向はN-66°-Eである。

カマドは東壁中央やや南寄りに設置されており、約1.8mの長さが残存していた。燃焼部から緩やかに傾斜して上がるが、途中2箇所に段を有していた。

貯蔵穴はカマドの右に設置され、平面は68×54cmの隅丸方形で、深さは36cmであった。壁溝は東壁及び南壁のみられ、幅10～26cm、深さ2～4cmであった。

調査面積が狭小であったため、主柱穴を含むビットはまったく検出できなかった。

出土遺物は少ないが、図示できたものは第38図のとおりである。



第11号住居跡

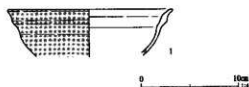
ビット

- 1 黄褐色土 黄褐色土ブロック・焼土粒
・炭化植物種子含む
- 2 黒褐色土 焼土粒子・炭化植物種子含む
しまりややわかい

第39図 第11号住居跡

第11号住居跡出土遺物観察表 (第40図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	鉢	(17.0)	[4.8]		破片	雲 角 砂粒 赤粒 白粒	普通	橙	P2、3 赤彩	



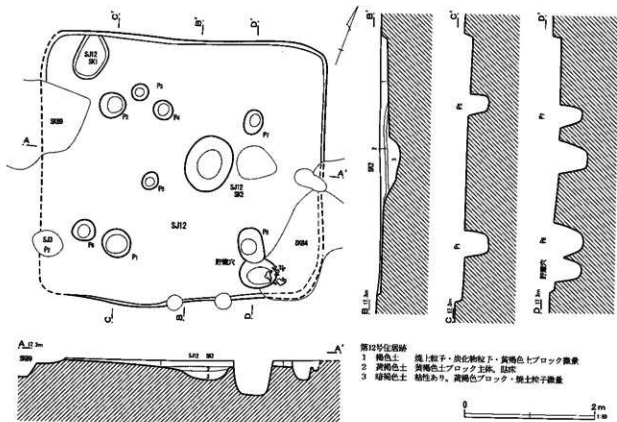
第40図 第11号住居跡出土遺物

第11号住居跡 (第39図)

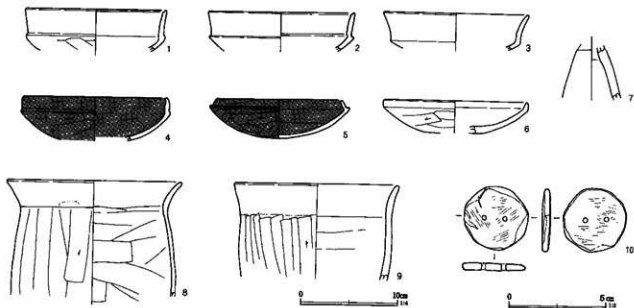
D・E-18グリッドに位置する。住居の周囲は第1号溝跡や第20号溝跡、第2号井戸跡、第64号土塚、第2号方形周溝墓等が重複しており、平面形や規模は明確ではない。現状では南北長2.4m、東西長2.7

m残存していた。遺構確認面から床面までの深さは6~9cm、主軸(南北)方向はN-27°-Wである。なお、方形周溝墓は住居跡よりも古く、第1号溝跡、第2号井戸跡、第64号土塚は住居よりも新しい。

カマド及び貯蔵穴は検出しなかった。壁溝は東壁



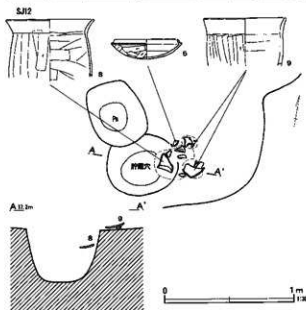
第41図 第12号住居跡



第42図 第12号住居跡出土遺物

第12号住居跡出土遺物観察表 (第42図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版	
1	土師器	坏	(12.5)	[4.3]		口縁破片	雲 赤粒 白粒	普通	橙	P2		
2	土師器	坏	(15.0)	[3.4]		1/4	雲 長石 赤粒 白粒	普通	橙			
3	土師器	坏	(15.0)	[3.6]		口縁破片	赤粒 白粒	普通	橙			
4	土師器	坏	(15.0)	[4.5]		破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	にぶい赤褐	内外面黒色処理	31	
5	土師器	坏	13.0	4.0		1/2	雲 赤粒 白粒	普通	褐灰 褐	微細面 黒色処理		
6	土師器	坏	(15.0)	[4.0]		口縁破片	雲 赤粒 白粒	普通	橙			
7	土師器	高坏		[5.5]		脚部のみ	雲 角 石英 赤粒 白粒	普通	にぶい橙			
8	土師器	甕	(18.0)	[11.7]		口縁1/4	石英 赤粒	普通	橙 明赤褐	微細面		
9	土師器	甕	(17.0)	[9.8]		1/3	雲 角 赤粒 白粒	良好	橙、内面黒	微細面		
10	石製品	有孔円板	幅3.3	長3.2	厚3.2	完形	滑石			模造品		93



第43図 第12号住居跡遺物出土状況

でみられ、幅12~19cm、深さ2~3cmと規模は小さい。

3基の重複するピットを検出した。P1~P3の深さはそれぞれ、42、24、49cmである。

出土遺物は少なく、図示できたものは土師器鉢1点のみである (第40図)。

第12号住居跡 (第41図)

D-15・16グリッドに位置する。南側は第3号住居跡と、南西隅は第84号土壌と重複し、東側は床面が浅いため輪郭が明確でなかった。平面形は南北4.0m、東西4.4mのわずかに東西に長い長方形である。床面の深さは遺構確認面から0~13cmで、主軸(南北)方向はN-21°-Wである。

カマドは検出しなかった。貯蔵穴と想定される遺構を住居の南西隅付近で確認した。54×48cmの楕円形で、深さは51cmである。なお、住居東壁中央付近

は他の遺構によって壊されているが、貯蔵穴の位置から考えると、ここにカマドがあった可能性もある。壁溝は検出できなかった。

検出したピットは8基。そのうちP1、P2、P7、P8は主柱穴と考えられる。P1~P8の深さはそれぞれ、36、33、20、31、10、9、34、49cmである。

また、床面では住居に伴う土壌も検出し、SJ12-SK1は北東隅付近にあり、72×45cmの楕円形で、深さ5cmである。SJ12-SK2は中央付近にあって、90×69cmの楕円形、深さは13cmである。

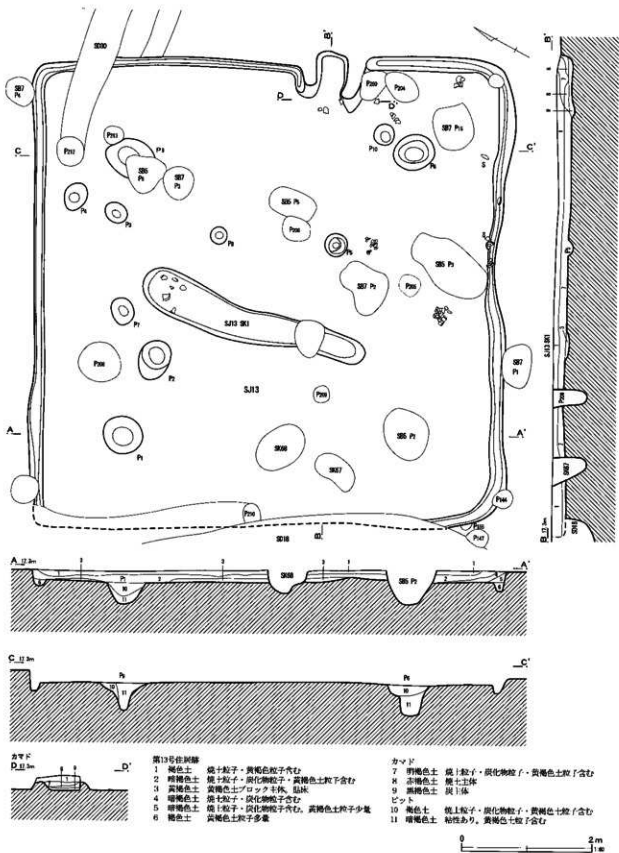
出土遺物のうち、図示できたものは第42図のとおりである。出土した土器からみて、重複する第3号住居跡よりも古い時期のものであると考えられる。

第13号住居跡 (第44図)

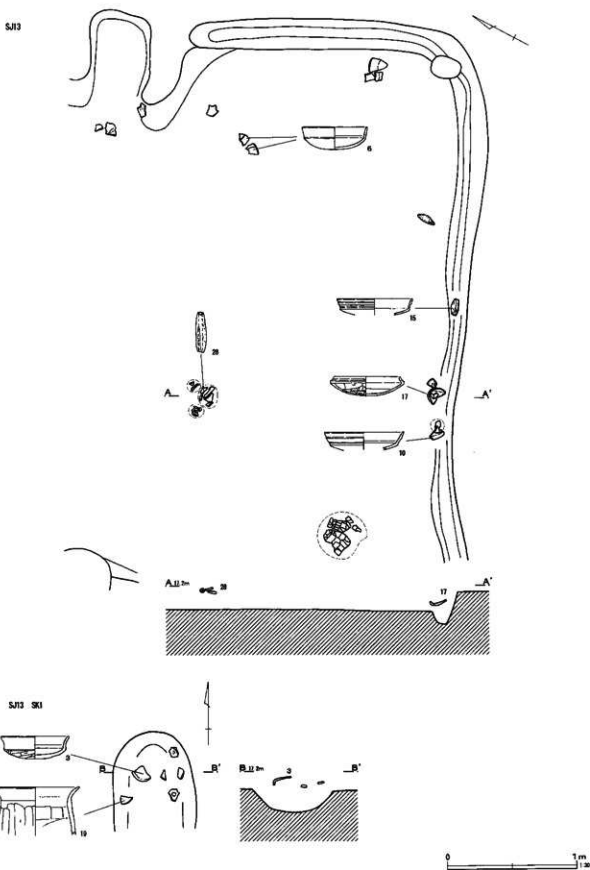
D・E-16・17グリッドに位置する。東壁付近は第18号溝跡が重複しているため、輪郭を確認できなかった。南側では第19号住居跡と重複し、また床面には、第5号掘立柱建物跡や第7号掘立柱建物跡の柱穴も重複している。平面形は主軸(東西)7.0m、南北7.1mのほぼ正方形。深さは遺構確認面から13~22cmと、他の住居跡に比べて深い。なお、重複する第18号溝跡は住居よりも古く、掘立柱建物跡やその他の溝跡は住居よりも新しい。

カマドは東壁中央やや南寄りに設置されており、燃焼部のみ長さ約0.9mが残存していた。貯蔵穴は検出されなかった。壁溝は全周すると推定され、幅10~27cm、深さ6~12cmである。

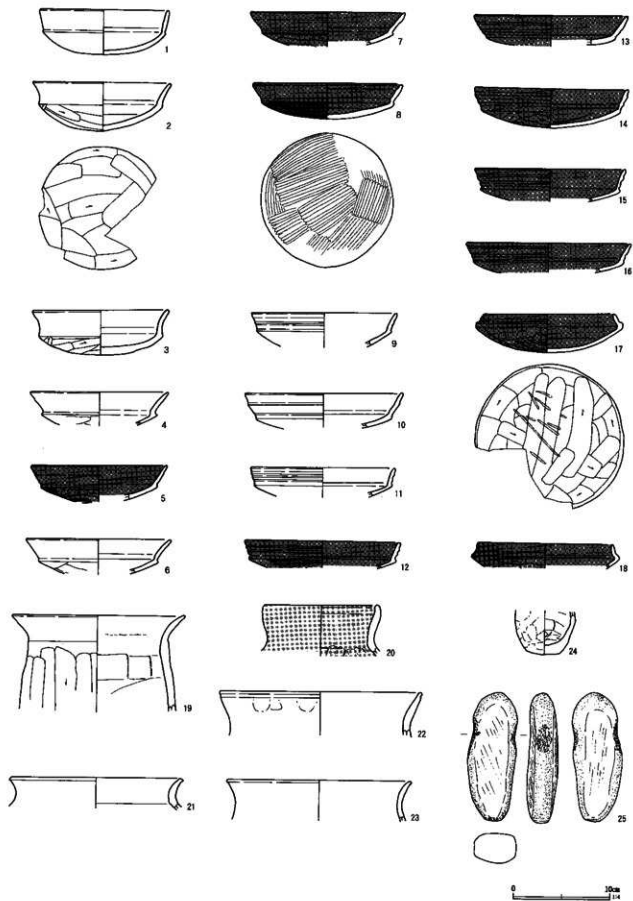
住居に伴うピットを10基検出した。そのうちP1、



第44図 第13号住居跡



第45图 第13号住居跡遺物出土状況



第46图 第13号住居跡出土遺物(1)



第47図 第13号住居跡出土遺物 (2)

第13号住居跡出土遺物観察表 (第46・47図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	坏	13.5	4.6		2/3	雲 長石 赤粒 白粒	不良	にぶい橙		31
2	土師器	坏	14.4	5.0		3/4	赤粒 白粒	普通	橙		31
3	土師器	坏	14.0	4.5		1/2	雲 石英 赤粒 白粒	良好	橙	微細図	31
4	土師器	坏	(14.5)	[2.7]		口縁1/3	雲 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		31
5	土師器	坏	(15.0)	[3.4]		破片	雲 赤粒 白粒	普通	にぶい赤褐	黒色処理	
6	土師器	坏	(15.0)	[3.5]		口縁破片	雲 角 石英 赤粒 白粒	普通	にぶい褐	微細図	
7	土師器	坏	(16.0)	[3.4]		口縁1/5	赤粒 白粒	良好	黒褐	黒色処理	
8	土師器	坏	15.4	3.7		4/5	雲 角 長石 赤粒 白粒	普通	橙 にぶい橙	ミガキ調整 黒色処理	
9	土師器	坏	(14.0)	[3.6]		1/4	雲 赤粒 白粒	普通	黒褐	一部ミガキ調整	
10	土師器	坏	(16.5)	[3.6]		口縁1/5	雲 赤粒 白粒	普通	外面褐	微細図	
11	土師器	坏	(15.0)	[3.0]		口縁破片	雲 赤粒 白粒	普通	黒褐		
12	土師器	坏	(16.0)	[2.8]		口縁破片	赤粒 白粒	普通	面黒褐	ミガキ調整 黒色処理	31
13	土師器	坏	(16.0)	[3.0]		口縁破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	暗褐	黒色処理	
14	土師器	坏	(16.0)	[4.0]		破片	赤粒 白粒	良好	暗褐	黒色処理	
15	土師器	坏	(15.5)	[3.3]		口縁1/4	雲 赤粒 白粒	普通	にぶい橙	微細図 黒色処理	
16	土師器	坏	(17.0)	[3.0]		口縁破片	雲 砂粒 赤粒 白粒	普通	褐	黒色処理	
17	土師器	坏	13.5	4.0		4/5	赤粒 白粒	普通	暗赤褐	微細図 黒色処理	32
18	土師器	坏	(14.0)	[2.5]		口縁1/3	雲 角 赤粒 白粒	普通	暗褐	黒色処理	
19	土師器	坏	(18.0)	[9.7]		口縁1/4	雲 砂粒 赤粒 白粒	普通	橙	微細図	
20	土師器	壺	(12.0)	[4.7]		口縁1/4	雲 赤粒 白粒	普通	淡黄色	赤彩	
21	土師器	広口壺	(18.0)	[3.0]		口縁破片	雲 角 白粒	良好	橙		
22	土師器	甕	(21.0)	[4.6]		口縁1/4	雲 角 赤粒 白粒	普通	明赤褐		
23	土師器	甕	(19.0)	[4.2]		口縁破片	雲 角 長石 赤粒 白粒	良好	にぶい赤褐		
24	土師器	ミニチュア		[4.5]		3/4	砂粒 赤粒 白粒	普通	橙		
25	石製品	石鎌	幅5.0	長13.3	厚3.1	完形					98
26	石製品	有孔円板	幅3.0	長13.2	厚0.5					模造品 表面風化	93
27	石製品	有孔円板	幅2.0	長1.9	厚0.2					模造品	93
28	土製品	土師	幅1.5	長6.2	孔6.0	完形	雲 赤粒 白粒	良好	にぶい褐	微細図	
29	土製品	土師	幅3.2	長4.5	孔0.8	2/3	雲 石英 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
30	土製品	土師	幅1.7	長4.3	孔0.5	2/3	雲 赤粒 白粒	良好	褐		

P6、P9は支柱穴になると推定され、南西隅の支柱穴はSB5-P2に壊されている可能性が高い。P1-P10の深さはそれぞれ、32、55、19、37、30、41、9、20、16、21cmである。

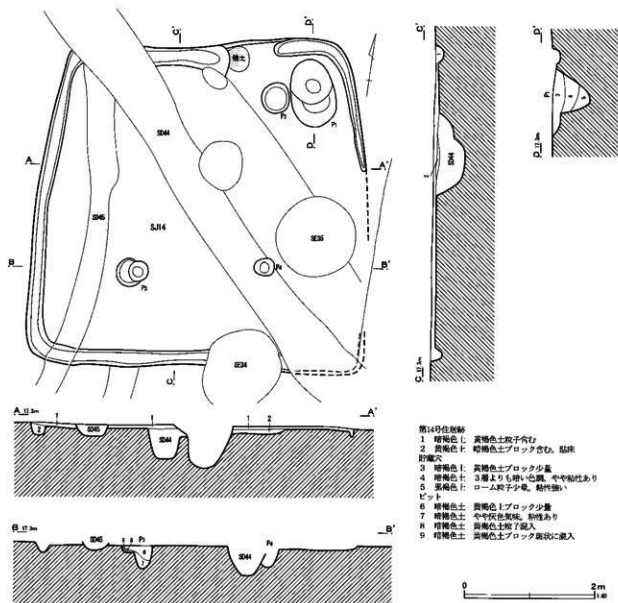
また、ピットの他に住居跡に伴う土壌SJ13-SK1が床面中央付近にあり、平面が360×66cmで深さは最大8cmである。

出土した遺物は比較的多く、そのうち図示できたものは第46・47図のとおりである。1～8は蓋模倣

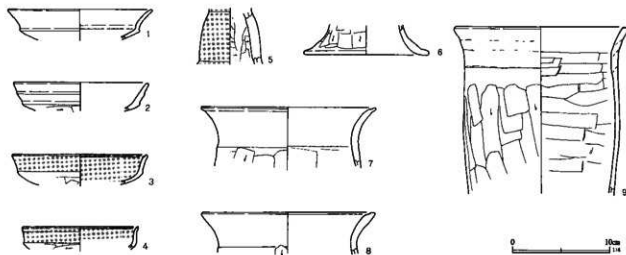
坏、9～16は有段口縁坏、17・18は身模倣坏である。5・8・12の坏は、外面に一部ミガキ調整を施している。17の外面には調整時についたと思われる線状のキズがある。24は粗製のミニチュア土器であるが、口縁部は欠けているため全体の形態は不明である。

第14号住居跡 (第48図)

E-13・14グリッドに位置する。中央付近には第44号溝跡が斜めに貫通し、第45号溝跡や第34・35号



第48図 第14号住居跡



第49図 第14号住居跡出土遺物

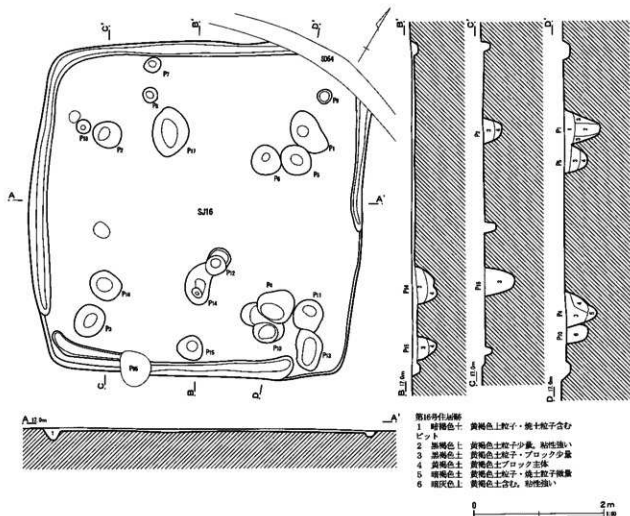
第14号住居跡出土遺物観察表 (第49図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎上	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	坏	(15.0)	[3.2]		口縁破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	橙		
2	土師器	坏	(14.0)	[2.9]		口縁破片	雲 角 長石 赤粒 白粒	普通	にぶい赤褐		
3	土師器	坏	(14.0)	[3.0]		口縁破片	赤粒 白粒	普通	明赤褐	赤彩	
4	土師器	坏	(12.0)	[2.3]		口縁破片	雲 角 赤粒 白粒	良好	にぶい橙	P1 赤彩	
5	土師器	高坏		[5.7]		脚部1/2	雲 石英 赤粒 白粒	良好	明赤褐	赤彩	
6	土師器	高坏		[3.2]	(13.0)	底部1/4	赤粒 白粒	良好	淡黄		
7	土師器	甕	(18.0)	[6.2]		口縁破片	雲 石英 赤粒	良好	浅黄橙		
8	土師器	甕	(18.0)	[4.2]		口縁破片	雲 石英 赤粒 白粒	普通	浅黄橙	P1	
9	土師器	甕	(18.0)	[17.4]		1/3	雲 長石 砂粒 赤粒	普通	淡橙 褐灰	P1	60

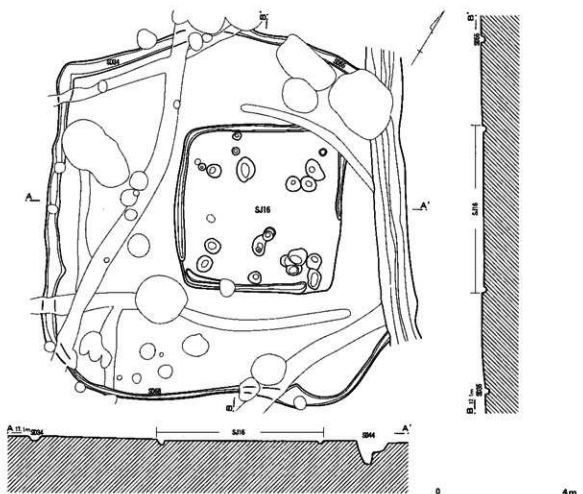
井戸跡等が重複している。また南東隅付近は中世の第2号溝跡によって切られており、輪郭は不明である。平面規模は南北4.8m、東西5.0mで、北側がやや狭くなる台形をなしている。床面の深さは遺構確認面から2～6cmと浅い。主軸(南北)方向は、N-6°-Wである。なお、土層断面からみて、第44号溝跡は住居よりも古く、第45号溝跡や第34・35号井戸跡は住居よりも新しいと判断した。

カマドは検出しなかったが、北壁中央部の東寄り、床面に赤く焼けた部分があった。貯蔵穴も検出してないが、P1は貯蔵穴になる可能性がある。壁溝は北壁の焼土部分のぞいてほぼ全周している。壁溝の幅は10～32cm、深さは6～12cmである。

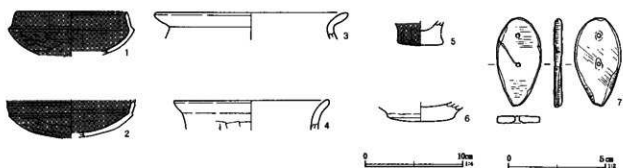
ピットは4基検出したが、支柱穴と推定されるのはP2、P3、P4である。北東隅の支柱穴は第44号溝跡と重複していて確認できなかった。P1～P4の深



第50図 第16号住居跡



第51図 第16号住居跡と周囲の溝跡



第52図 第16号住居跡出土遺物

第16号住居跡出土遺物観察表 (第52図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	坏	(11.5)	[4.5]		口縁1/5	雲 角 赤粒 白粒	普通	明赤褐		32
2	土師器	坏		[3.9]		破片	雲 赤粒 白粒	普通	黒褐	P5	
3	土師器	甕	(20.0)	[3.0]		口縁破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
4	土師器	甕	(16.0)	[3.0]		口縁破片	雲 石英 砂粒 赤粒	普通	黒褐		
5	土師器	ミニチュア	[2.3]	[2.3]	4.6	底部のみ	雲 長石 石英 砂粒	良好	にぶい橙	赤彩 底部黒化	
6	土師器	壺	[2.0]	[2.0]	7.0	底部のみ	雲 角 石英 赤粒 白粒	普通	赤褐		
7	石製品	剣形	幅2.3	長4.5	厚0.3	完形	滑石			模造品	93

さはそれぞれ、48、8、35、26cmである。

出土した遺物のうち、図示できたものは第49図のとおりである。3、4は赤彩を施す比企型環で、5の高坏脚部も赤彩がみられる。

第16号住居跡（第50図）

D-13グリッドに位置する。北東隅は第54号溝跡が重複しているため、コーナー輪郭は不明である。平面形は南北5.1m、東西5.1mの正方形であるが、東壁部がやや外側に緩やかに張り出している。床面の深さは遺構確認面から2~6cmと浅い。主軸（南北）方向はN-31°-Wである。なお、第54号溝跡との前後関係は不明である。

カマド及び貯蔵穴は検出しなかった。壁溝は南西隅、南東隅部をのぞいて巡っている。

住居跡に伴うピットを18基検出したが、主柱穴と推定されるのはP1（またはP5）、P2、P16（またはP3）、P4（またはP11）である。P1~P18の深さはそれぞれ、50、35、40、45、33、46、14、12、9、32、16、33、9、37、36、47、12、23cmである。

住居跡を取り囲むように区画溝が巡っている状況を確認した。北側は約2.5m、西側は3.6m、南側は3.0m隔てて、第55・34・68号溝跡が巡る。住居跡の東側約1.0mには南北に第44号溝跡が走るが、住居跡の周囲をめぐる溝跡は、この第44号溝跡に連結している。

出土遺物のうち、図示できたものは第52図のとおりである。1は坏身模倣坏、2は小片であるが有段口縁部である。5はミニチュア土器の底部と考えられ、胴部に赤彩がみられる。

第18号住居跡（第53図）

C-14グリッドに位置する。住居跡の東側半分以上は調査区域外となり、またカマド付近に住居跡よりも新しい時期の第28号井戸跡があるため、住居跡の輪郭は不明瞭である。現状では平面規模は主軸（東西）長が1.9m、南北長が6.2m残存している。床

面の深さは遺構確認面から13~17cmで、主軸方向はN-76°-Eである。

カマドは第28号井戸跡によって北半分が破壊されている。燃焼部は床面よりわずかに低くなっていて、煙道部に向かって緩やかに上がっていく。カマドは1.2mの長さが残存しており、残存カマドの東端には別のピットがある。

貯蔵穴はカマドの右に設置されており、平面形は86×82cmの円形、深さは28cmである。壁溝は現状では東壁でのみみられた。壁溝の幅は22~25cm、深さ10~13cmであった。

ピットは3基検出したが、P1とP2は主柱穴となると推定される。P1~P3の深さはそれぞれ、21、11、51cmである。

出土遺物は少なく、図示できたものは土師器甕の口縁部1点のみであった（第54図）。口縁部には指おさえ痕がみられる。

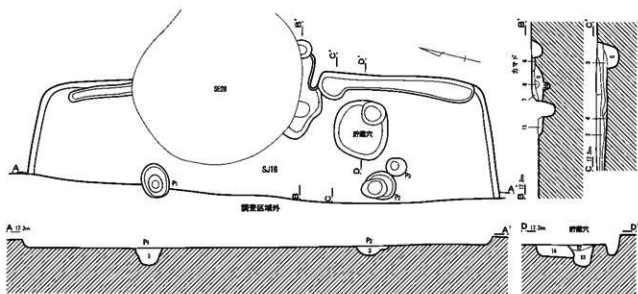
第19号住居跡（第55図）

E-16・17グリッドに位置する。北側は第13号住居跡に切られているため、輪郭が不明である。また第7号掘立柱建物跡や第23号井戸跡も重複している。平面形は東西5.6mで、南北長は推定約4.5mである。東壁が大きく外湾しており、いびつな台形をなしている。床面の深さは遺構確認面から2~10cmをはかり、主軸（南北）方向はN-55°-Wである。

なお、重複する掘立柱建物跡や井戸跡は住居よりも新しいが、第13号住居跡との新旧関係は、確認できなかった。

カマド及び貯蔵穴、壁溝は検出しなかった。ピットは9基検出した。P1~P9の深さはそれぞれ、19、34、27、32、134、29、36、30、30cmである。主柱穴と推定されるピットは明らかではない。またP5は他のピットに比べて非常に深く、柱穴等のピットではなく、井戸のようなものかもしれない。

平面形態がいびつなことや、壁溝を全く検出しな



第18号住居跡

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・焼土粒子少量
- 2 暗褐色土 暗褐色土粒子・焼土粒子含む
- 3 暗褐色土 黄褐色土粒子・2層より多量
- 4 灰褐色土 黄褐色土粒子・焼土粒子少量、粘性強い
- 5 暗褐色土 黄褐色土粒子・焼土粒子少量、粘性強い
- 6 赤褐色土 黄褐色土粒子・焼土粒子少量
- 7 暗褐色土 焼土粒子少量

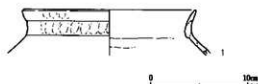
- 8 灰褐色土 黄褐色土粒子少量
- 9 暗褐色土 黄褐色土粒子多量、焼土粒子少量
- 10 暗褐色土 黄褐色土粒子多量、焼土粒子少量
- 11 赤褐色土 炭土層
- 貯蔵穴 焼土粒子・炭化物粒子含む
- 12 暗褐色土 黄褐色土ブロック含む
- 13 暗褐色土 黄褐色土ブロック含む
- 14 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量



第53図 第18号住居跡

第18号住居跡出土遺物観察表 (第54図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	壺	18.0	[4.5]		口縁1/2	雲角 石英 白粒	普通	明赤褐	貯蔵穴	



第54図 第18号住居跡出土遺物

かったこと、ピットの位置が不規則であることなどから、住居ではなく別の機能をもつ、竪穴状の遺構である可能性もある。

出土遺物のうち、図示できたものは第56図のとおりである。2、3の土師器高坏は全面に赤彩を施す。P5の深いところから出土した5の壺は口縁部が全周完形であった。8の瓶は把手が下を向く特異な形態である。

第20号住居跡 (第58図)

C-13グリッドに位置する。西側約半分は調査区域外にあり、全体の規模は不明である。現状では南

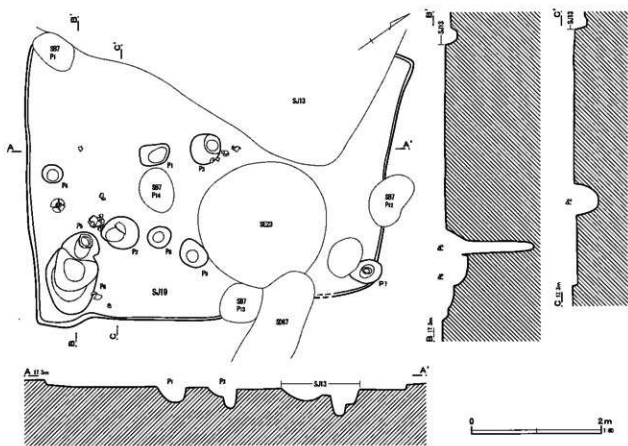
北長2.7m、東西長2.1mを確認した。遺構確認面から床面までの深さは6～11cm、主軸(南北)方向はN-40°-Wである。なお、第19号竪立柱建物跡P2と第47号土塊が重複するが、いずれも住居跡よりも新しい遺構と考えられる。

カマド、貯蔵穴、壁溝は確認できなかった。ピットは5基検出したが、全体のプランが明らかでないため、主柱穴も推定できなかった。P1～P5の深さはそれぞれ、14、17、15、10、11cmである。

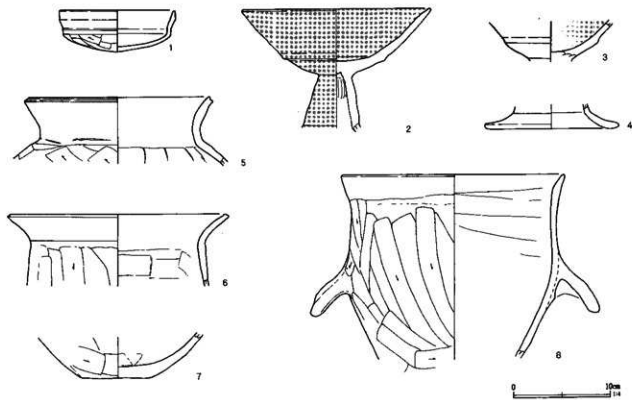
出土遺物は少なく、図示できるものはなかった。

第21号住居跡 (第59図)

C-11・12グリッドに位置する。平面規模は南北長3.1m、東西長3.2mのほぼ正方形であるが、全体に各辺は丸みを帯びて外側に張り出している。遺構確認面から床面までの深さは2～6cmと浅い。主軸(南北)方向はN-28°-Wである。



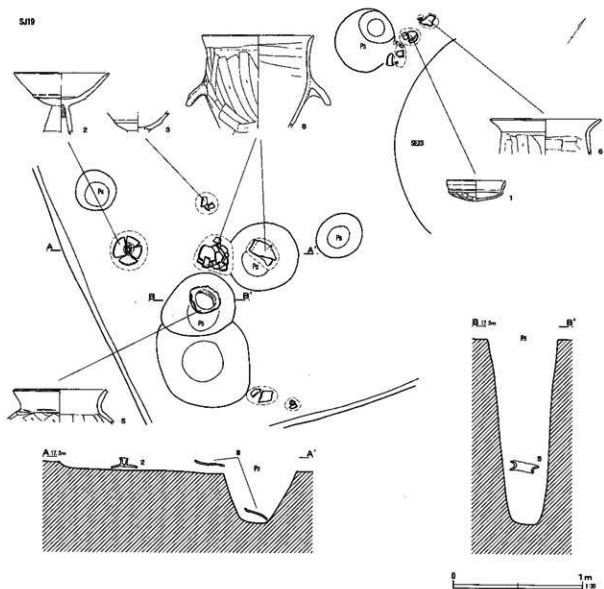
第55图 第19号住居跡



第56图 第19号住居跡出土遺物

第19号住居跡出土遺物観察表 (第56図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎上	焼域	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	坏	12.0	4.2		1/2	雲 砂粒 赤粒 白粒	普通	にぶい黄橙	微細図	32
2	土師器	高坏	19.5	[12.0]		ほぼ完形	雲 長石 赤粒 白粒	普通	にぶい黄橙	赤彩 微細図	60
3	土師器	高坏		[4.3]		1/5	雲 赤粒 白粒	普通	橙	赤彩 微細図	
4	土師器	高坏		[2.6]	14.0	底部2/3	雲 角 石英 赤粒 白粒	不良	橙	P2	
5	土師器	壺	19.5	[6.6]		口縁全周	雲 赤粒 白粒	普通	橙	微細図	32
6	土師器	壺	(23.0)	[7.2]		口縁破片	雲 白粒	良好	浅黄橙	微細図	
7	土師器	壺		[4.3]		底部1/2	雲 砂粒 白粒	普通	褐		
8	土師器	甌	18.2	[19.0]		3/4	雲 角 赤粒 白粒	普通	橙	P2, 5 微細図	60



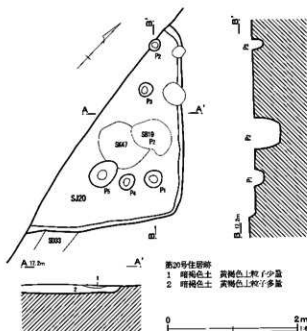
第57図 第19号住居跡遺物出土状況

カマド及び貯蔵穴は検出しなかった。壁溝は南西隅付近で途切れるが、ほぼ全周している。壁溝の幅は12~22cm、深さは2~7cmである。

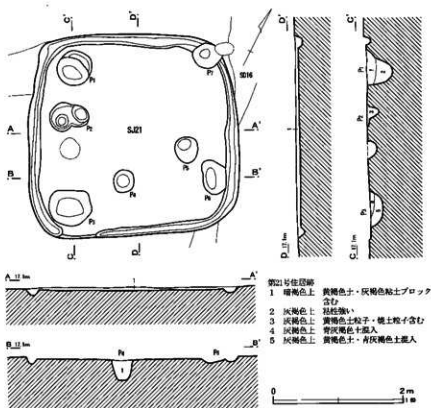
ピットは7基検出した。P1、P3は主柱穴の可能

性があるが、平面がやや大きい。P1~P7の深さはそれぞれ、39、16、17、27、18、14、21cmである。

出土遺物は少ないが、そのうち図示できたものは第60図のとおりである。



第58図 第20号住居跡



第59図 第21号住居跡

第21号住居跡出土遺物観察表 (第60図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	坏	(16.0)	4.5		1/3	安赤粒白粒	普通	橙		32
2	土師器	坏	(13.0)	[4.0]		口縁1/5	雲角白粒	普通	にがい粒		
3	土師器	甕		[10.0]	(5.0)	底部1/4	赤粒白粒	普通	暗赤橙		

第22号住居跡 (第61図)

C-11グリッドに位置する。西側半分以上が調査区域外にあり、全体の規模は不明である。現状では、南北長4.7m、東西長4.1mを確認した。遺構確認面から床面までの深さは12~22cm。主軸(南北)方向はN-48°-Wである。

カマド及び貯蔵穴は検出しなかった。壁溝は南壁で一部途切れている箇所はあるが、確認した範囲では全周している。壁溝の幅は18~36cm、深さ4~16cmであった。

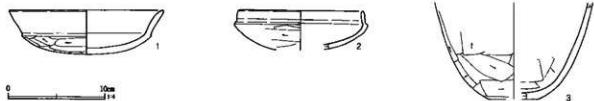
ピットは6基検出した。そのうちP5は主柱穴になると推定される。またP6は規模や位置からみて、貯蔵穴になる可能性がある。P1~P6の深さはそれぞれ、51、29、31、20、50、26cmである。

出土遺物は少なく、そのうち図示できたものは土師器環1点のみである(第62図)。

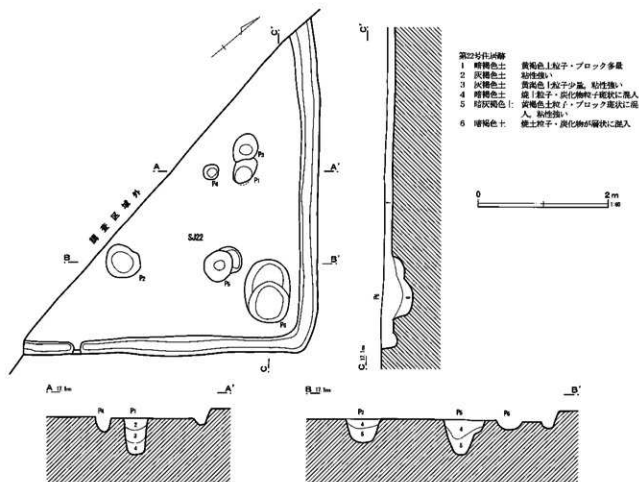
第23号住居跡 (第63図)

E-12・13グリッドに位置する。東側は第4号溝跡が重複するため輪郭が不明である。また北西隅は第13号井戸跡が、南西隅は第44号溝跡が重複している。住居跡の規模は南北長6.1m、残存する東西長6.0m。床面は住居の西側がわずかに段になって低くなっている。深さは遺構確認面から2~8cmと、全体に浅い。主軸(南北)方向はN-10°-Wである。

なお、重複する井戸跡は住居跡よりも新しいが、第44号溝跡との新旧関係は確認できなかった。



第60図 第21号住居跡出土遺物



- 深22号住居跡
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・ブロック多量
 - 2 灰褐色土 粘性強い
 - 3 灰褐色土 黄褐色土粒子少量、粘性強い
 - 4 暗褐色土 炭・粒子・炭化物粒子凝状に混入
 - 5 暗褐色土 黄褐色土粒子・ブロック凝状に混入、粘性強い
 - 6 暗褐色土 硬土粒子・炭化物が凝状に混入

第61図 第22号住居跡

第22号住居跡出土遺物観察表 (第62図)

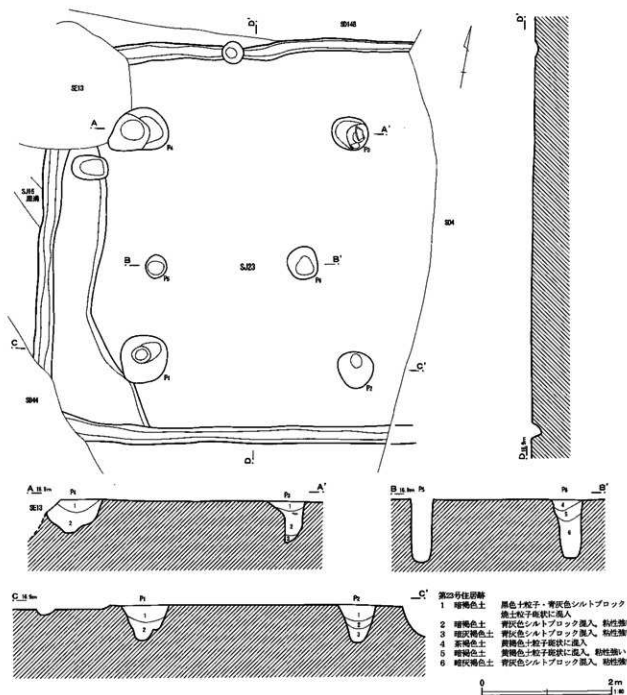
番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・番号	図版
1	土師器	坏	(13.0)	6.0		1/3	砂粒 赤粒 白粒	普通			32



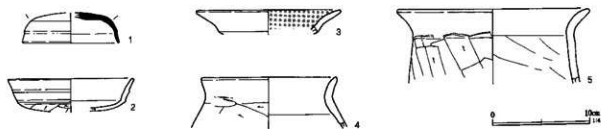
第62図 第22号住居跡出土遺物

カマド及び貯蔵穴は検出しなかった。壁溝は調査の範囲では全周していた。壁溝の幅は16~34cm、深さ4~18cmである。ピットは6基検出した。P1、P2、P3、P4が主柱穴になり、P5、P6も補助的な柱穴となるものと推定される。P1~P6の深さはそれぞれ、52、69、62、37、96、91cmである。

出土遺物のうち、図示できたものは第64図のとおり



第63図 第23号住居跡



第64図 第23号住居跡出土遺物

第23号住居跡出土遺物観察表 (第64図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	須恵器	蓋	(10.0)	[3.1]		口縁破片	長石 白粒	良好	灰	南側周溝 南側周溝 赤彩	
2	土師器	坏	(13.0)	[3.4]		底部破片	雲 角 赤粒 白粒	良好	黒褐		
3	土師器	高坏	(15.0)	[2.5]		口縁破片	雲 角 石英 赤粒 白粒	良好	橙		
4	土師器	甕	(14.0)	[5.1]		口縁破片	砂粒 赤粒 白粒	良好	橙 褐灰		
5	土師器	甕	(20.0)	[7.7]		口縁1/3	雲 角 砂粒 赤粒 白粒	良好	橙		

りである。

る。

第24号住居跡 (第65図)

C-9・10、D-10グリッドに位置する。北側と東側を拡張している。中央部付近を貫通する第71号溝跡と第73号溝跡は土層断面からみて、住居跡よりも古い時期のものである。元来の住居跡の規模は主軸長5.3m、南北長5.0m、拡張後の規模は主軸長6.0m、南北長6.0mである。遺構確認面から床面の深さは8~25cmで、拡張部の床面は元来の住居跡の床面よりも高く、ベッド状になっている。主軸(東西)方向はN-53°-Eである。

カマドは東壁中央部やや南寄りに設置される。燃焼部は床面とほぼ同じ高さで、煙道部に向かって大きく立ち上がっていく。約1mの長さが残存している。貯蔵穴として調査は行わなかったが、カマドの右側に位置するP8は貯蔵穴の可能性が高い。66×72cmの隅丸方形で深さは33cmである。元来の住居跡では、壁溝が南東隅付近では途切れているが、他の部分は巡っている。拡張部では北壁に沿って壁溝がつけられている。壁溝の幅は12~35cm、深さは3~8cmである。

住居跡に伴うビットを16基確認した。前述のようにP8は貯蔵穴の可能性が高い。P7、P10、P12、P14は主柱穴と推定される。P1~P16の深さはそれぞれ、4、21、7、27、30、28、41、33、4、32、12、39、36、11、11、40cmである。

出土遺物は比較的多く、図示できるものは第66・67図のとおりである。土師器坏には蓋模倣坏(1~11)、身模倣坏(12)、有段口縁坏(13~15)、比企型坏(16)がみられる。28のミニチュア土器は粗い手捏ね製で、29のミニチュア土器は精製のものであ

第25号住居跡 (第69図)

D・E-11グリッドに位置する。北東側は第26号住居跡と重複しており、輪郭は不明である。平面規模は、南北長6.2m、東西長6.0mのやや南北に長い長方形をなす。遺構確認面から床面までの深さは、3~9cm。主軸(南北)方向はN-28°-Wである。カマド及び貯蔵穴は検出しなかった。壁溝は南壁で3箇所途切れている他は、すべて巡っている。壁溝の幅は11~30cm、深さは2~12cmである。

ビットは4基検出したが位置は不規則で、主柱穴となるものは見出せなかった。P1~P4の深さはそれぞれ、29、26、9、11cmである。

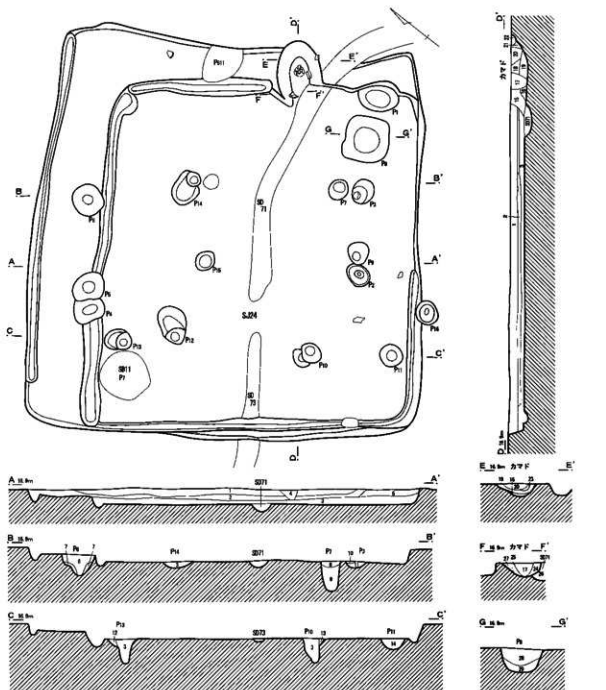
出土遺物は少ないが、そのうち図示できたものは第70図のとおりである。

第26号住居跡 (第71図)

D-11グリッドに位置する。第17号掘立柱建物跡のビット等が重複し、東南隅は第57号溝跡によって切られている。平面規模は南北長5.5m、東西長3.8mのややいびつな長方形である。遺構確認面から床面までの深さは2~8cmと浅く、主軸(南北)方向はN-34°-Wである。なお、重複する遺構はいずれも住居よりも新しい。

カマド及び貯蔵穴は検出しなかった。壁溝はところどころで途切れているものの、基本的には全周している。壁溝の幅は12~39cm、深さは4~8cmである。

ビットは8基検出した。P1、P2、P4は主柱穴になる可能性があるが明確ではない。P1~P8の深さはそれぞれ、24、46、28、10、10、8、13、4cmで



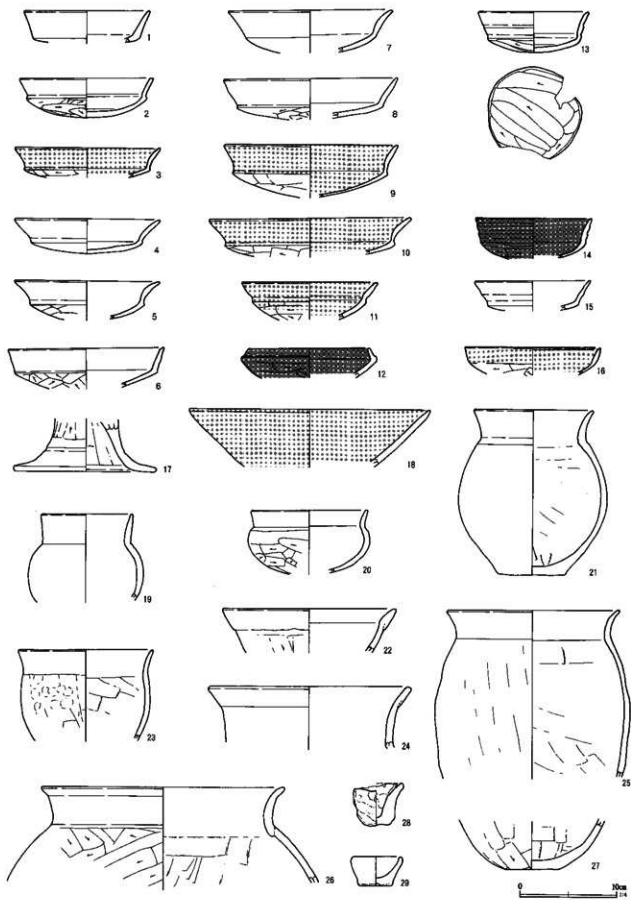
第24号住居跡

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・焼土粒子多量。炭化物粒子少量
- 2 暗褐色土 炭化物少量。黄褐色土粒子少量。1層より粘性強い
- 3 暗褐色土 黄褐色土粒子・炭化物粒子含む
- 4 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量。焼土粒子少量
- 5 暗褐色土 焼土粒子多量。黄褐色土粒子少量
- 6 暗褐色土 黄褐色土粒子・焼土粒子少量。褐色土粒子含む。粘性強い
- 7 暗褐色土 1層より黄褐色土粒子多量。粘性強い
- 8 暗褐色土 黄褐色土粒子・黒褐色粘土ブロック含む
- 9 暗褐色土 3層より黄褐色土粒子多量。炭化物多量
- 10 黒褐色土 焼土粒子・褐色土粒子・暗褐色粘性土粒子含む。粘性強い
- 11 暗褐色土 黄褐色土粒子・ブロック含む
- 12 暗褐色土 3層より黄褐色土ブロック含む
- 13 暗褐色土 黄褐色土ブロック含む
- 14 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量
- 15 カマド 暗褐色土 焼土粒子含む。黄褐色土粒子少量
- 16 暗褐色土 焼土粒子含む。炭化物粒子少量。黒褐色粘質土状況を含む

- 17 黒褐色土 炭化物・焼土粒子多量
- 18 黒褐色土 焼土粒子含む。粘質
- 19 暗褐色土 焼土粒子多量。炭化物粒子少量
- 20 暗褐色土 焼土粒子少量。やや粘性強い
- 21 暗褐色土 焼土粒子含む。炭化物粒子少量
- 22 暗褐色土 黄褐色土粒子多量
- 23 暗褐色土 焼土粒子含む
- 24 暗褐色土 焼土粒子少量。黒褐色粘質土状況を含む
- 25 暗褐色土 焼土粒子含む
- 26 暗褐色土 黄褐色土ブロック含む
- 27 暗褐色土 暗褐色土
- 28 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量
- 29 暗褐色土 2層より黄褐色土ブロック多い

0 2m

第65図 第24号住居跡



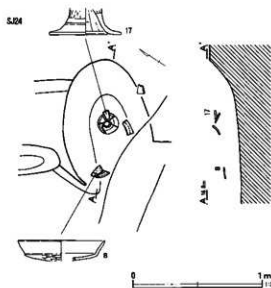
第66图 第24号住居跡出土遺物 (1)



第67図 第24号住居跡出土遺物(2)

ある。

出土遺物のうち、図示できたものは土師器杯3点である(第72図)。身模倣杯(1、2)と有段口縁杯(3)に分けられる。



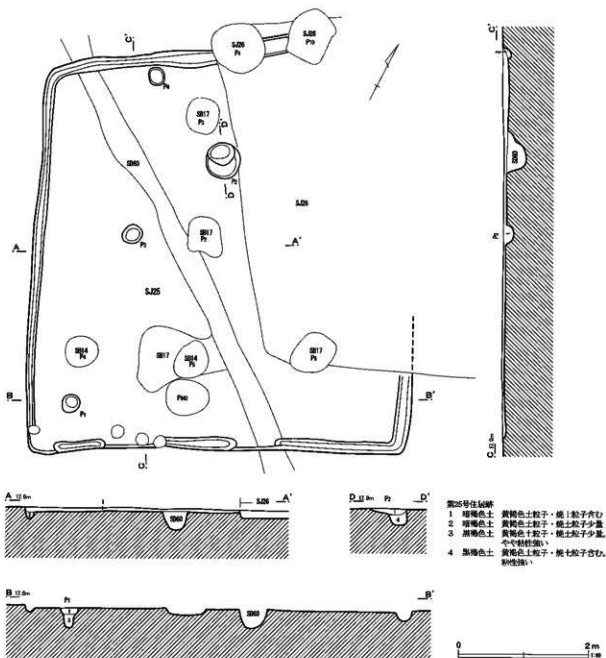
第68図 第24号住居跡遺物出土状況

第27号住居跡(第73図)

C・D-5グリッドに位置する。南半分は第95号溝跡によって削られ消滅している。平面規模は南北長3.6mが残し、東西長は6.3mである。遺構確認

第24号住居跡出土遺物観察表(第66・67図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	杯	(13.0)	[3.2]		口縁破片	雲角赤粒白粒	不良	橙		
2	土師器	杯	(13.8)	4.0		1/3	雲角赤粒白粒	普通	橙、黒褐		32
3	土師器	杯	(15.0)	[3.0]		口縁1/4	白粒針	良好	にぶい橙	赤彩	
4	土師器	杯	(15.0)	3.6		1/4	雲角赤粒白粒	不良	にぶい橙		32
5	土師器	杯	(15.0)	[3.8]		口縁破片	雲角石英赤粒白粒	普通	にぶい橙		
6	土師器	杯	(16.0)	[4.0]		口縁破片	雲角赤粒白粒	良好	明赤褐		
7	土師器	杯	(17.0)	[4.3]		1/4	角砂粒赤粒白粒	不良	橙		32
8	土師器	杯	(18.0)	[4.2]		口縁1/4	雲角赤粒白粒	普通	橙	カマド 微細図	
9	土師器	杯	(18.0)	[5.4]		1/4	雲赤粒白粒針	普通	橙	赤彩	
10	土師器	杯	21.0	[3.8]		1/2	赤粒白粒	普通	にぶい橙	赤彩	33
11	土師器	杯	(14.0)	[3.8]		口縁破片	雲角石英白粒	良好	にぶい橙	赤彩	
12	土師器	杯	(12.5)	[3.0]		口縁破片	雲角赤粒白粒	普通	黒褐	黒色処理	
13	土師器	杯	11.5	4.2		4/5	雲角赤粒白粒	普通	橙、黒褐		33
14	土師器	杯	(12.0)	[4.0]		口縁破片	雲角赤粒白粒	普通	橙	黒色処理	
15	土師器	杯	(12.0)	[3.0]		口縁破片	雲赤粒白粒	普通	橙		
16	土師器	杯	(14.0)	[2.8]		口縁破片	雲赤粒白粒	普通	明赤褐	赤彩	
17	土師器	高杯		[5.5]		脚部のみ	雲赤粒白粒	良好	明赤褐	カマド 微細図	33
18	土師器	高杯	(25.0)	[6.0]		杯部1/3	雲赤粒白粒	普通	橙	赤彩	
19	土師器	壺	(9.5)	[8.8]		口縁破片	角赤粒白粒	不良	にぶい橙		
20	土師器	壺	(12.0)	[6.5]		雲角	赤粒	普通	橙		33
21	土師器	壺	(12.5)	[17.0]	(6.8)	1/3	雲角石英赤粒白粒	不良	橙 明赤褐		68
22	土師器	鉢	(18.0)	[4.5]		口縁破片	雲角石英赤粒白粒	普通	にぶい橙		
23	土師器	甕	(14.0)	[9.3]		破片	雲角石英赤粒白粒	普通	にぶい赤褐		
24	土師器	甕	(21.0)	[6.2]		口縁1/5	雲片砂粒赤粒白粒	普通	にぶい橙		
25	土師器	甕	(18.0)	[17.3]		破片	雲石英砂粒赤粒	普通	橙		
26	土師器	壺	(25.0)	[9.7]		口縁破片	雲石英赤粒白粒	普通	明赤褐 黒褐		
27	土師器	甕		[5.0]	5.0	底部破片	雲角石英赤粒白粒	普通	明赤褐 黒褐		
28	土師器	ミニチュア		[2.5]		ほぼ完形	砂粒赤粒白粒	良好	黒褐		
29	土師器	ミニチュア		3.0	5.5	1/2	砂粒赤粒白粒	普通	にぶい橙		60
30	石製品	有孔円板	幅1.8	長2.6	厚0.5	完形	滑石			模造品	93
31	石製品	白玉	径0.7	厚0.6		完形	滑石				93
32	石製品	白玉	径0.7	厚0.6		完形	滑石				93



第69図 第25号住居跡

面から床面までの深さは1～3cmと非常に浅い。主軸(南北)方向はN-0°-Eである。

カマド及び貯蔵穴は検出しなかった。壁溝の幅は10～15cm、深さは4～6cmである。

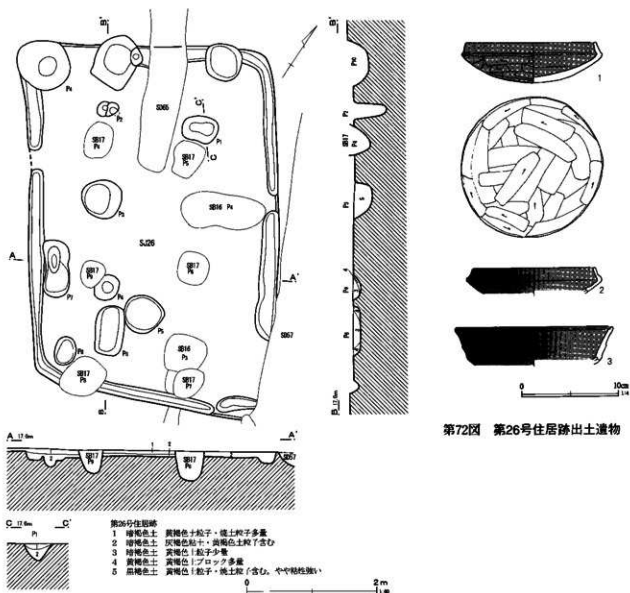
ピットは2基検出し、いずれも主柱穴になると推定される。P1、P2の深さはそれぞれ、39、10cm。



第70図 第25号住居跡出土遺物

第25号住居跡出土遺物観察表(第70図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	環	(14.0)	[2.2]		口縁破片	雲石英赤粒白粒	普通	明赤褐	P2	
2	土師器	高環	(16.0)	[4.1]		環部1/5	雲角砂粒赤粒白粒	不良	橙	赤影	



第71図 第26号住居跡

第72図 第26号住居跡出土遺物

第26号住居跡出土遺物観察表 (第72図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	環	13.4	4.2		ほぼ完形	雲角赤粒白粒	普通	にぶい橙	P6 黒色処理	33
2	土師器	環	(13.5)	[2.6]		口縁破片	雲角白粒	普通	暗赤褐	黒色処理	
3	土師器	環	(16.5)	[3.9]		口縁破片	雲角赤粒白粒	普通	にぶい赤褐	P4 黒色処理	

住居跡の北側から東側にかけて、住居跡を取り囲む溝跡(第66号溝跡)が検出された。住居跡から溝跡までの距離は、北側で約3m、東側で約2.8mである。

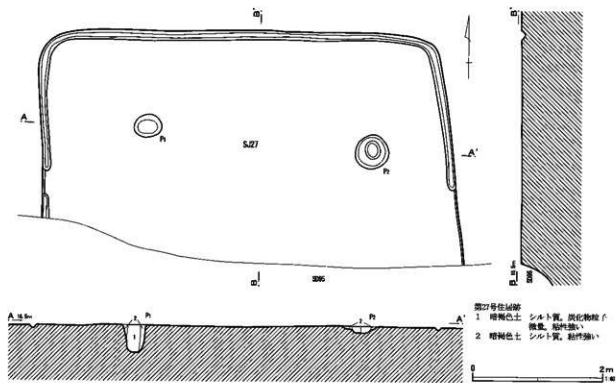
出土遺物は少なく、図示できるものはなかった。

第28号住居跡 (第75図)

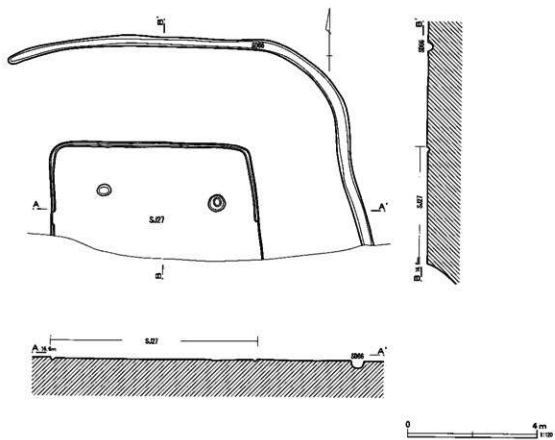
D-10グリッドに位置する。住居跡には東西方向

に第82・50・51号溝跡がそれぞれ貫通しており、とくに西壁で削られている部分が多い。平面規模は南北長5.1m、東西長5.4mの東西にわずかに長い長方形をなす。遺構確認面から床面までの深さは4~16cm。主軸(南北)方向はN-38°-Wである。

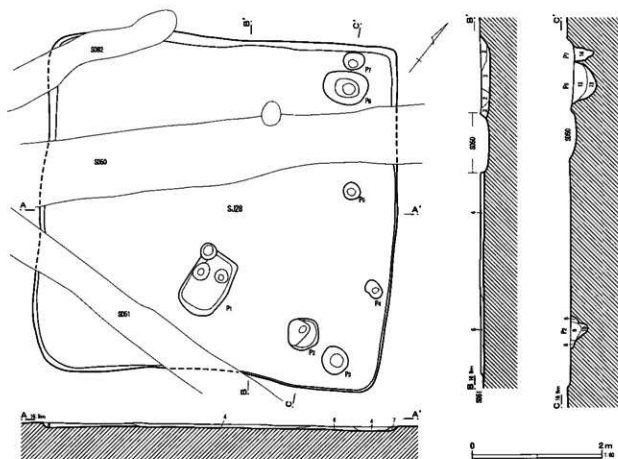
なお、第50号溝跡は土層断面からみて住居跡より新しく、第51・82号溝跡は出土遺物からみて住居跡より古いことがわかった。



第73図 第27号住居跡



第74図 第27号住居跡と周囲の溝跡



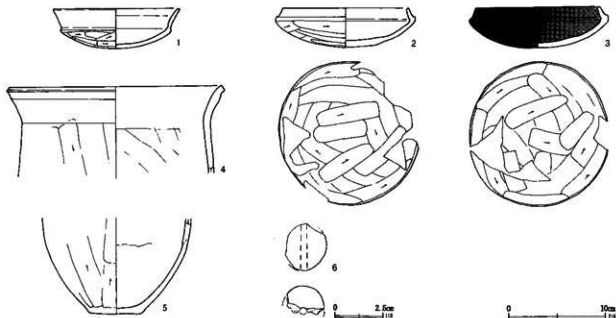
第28号住居跡

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子含む
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒子・焼土粒子含む、粘質
- 3 暗褐色土 黒褐色土ブロック含む
- 4 暗褐色土 黄褐色土ブロック含む
- 5 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量

- 6 暗褐色土 黄褐色土粒子・焼土粒子多量
- 7 暗褐色土 6層よりも増、灰色
- 8 暗褐色土 黄褐色土ブロック少量
- 9 暗褐色土 黄褐色土粒子含む
- 10 暗褐色土 黄褐色土粒子多量

- 11 暗褐色土 黒褐色土ブロック含む
- 12 暗褐色土 黄褐色土ブロック少量
- 13 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量
- 14 黒褐色土 黄褐色土粒子・焼土粒子含む

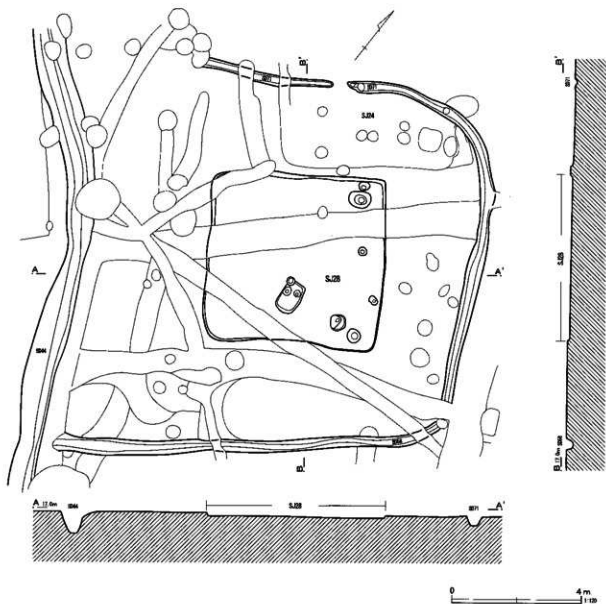
第75図 第28号住居跡



第76図 第28号住居跡出土遺物

第28号住居跡出土遺物観察表 (第76図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎上	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	坏	(13.0)	4.1		1/4	雲角赤粒白粒	普通	橙	P6 一部P6 黒色処理	33
2	土師器	坏	13.0	4.0		4/5	雲角赤粒白粒	普通	灰褐		33
3	土師器	坏	12.8	4.2		4/5	雲角赤粒白粒	普通	にぶい赤褐		33
4	土師器	甕	(22.0)	[9.0]		口縁破片	雲角黄石赤粒白粒	良好	にぶい橙		
5	土師器	甕		[9.8]	(5.0)	底部破片	砂粒赤粒	普通	明赤褐		
6	土製品	土錘	幅[2.8]	長[3.6]	孔[0.5]	1/3	雲赤粒白粒	普通	にぶい橙		



第77図 第28号住居跡と周囲の溝跡

カマド及び貯蔵穴・壁溝は確認できなかったが、位置や大きさから、P6が貯蔵穴となる可能性もある。

ピットは7基検出した。明らかに主柱穴と推定されるピットは確認できなかったが、前述のように

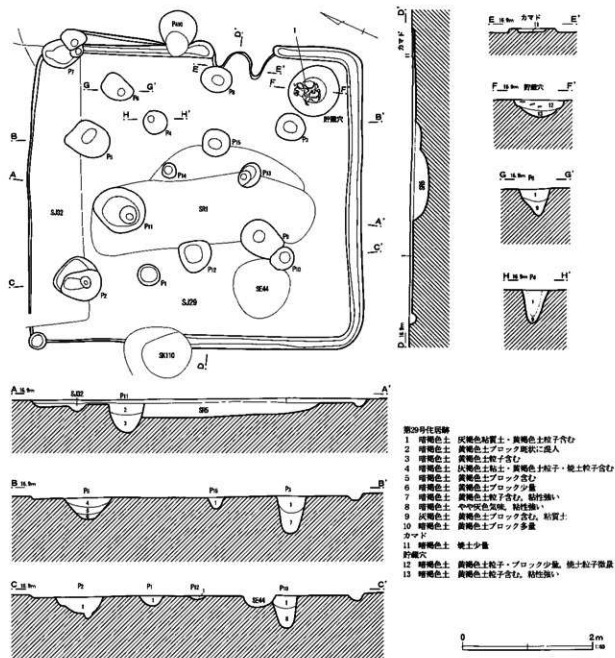
P6は貯蔵穴になる可能性がある。P1～P7の深さはそれぞれ、34、22、20、6、10、27、26cmである。

住居跡を取り囲む溝跡を検出した。第73・71・58号溝跡が住居跡の北側から東側、南側にかけて取り囲み、第58号溝跡は第44号溝跡に連結する。住居跡

から溝跡までの距離は、北側で約2.6m、東側で約2.5m、南側で約3.1mである。なお、土層の観察から第73・71号溝跡は、重複する第24号住居跡よりも古いと判断される。

出土土物のうち、図示できるものは第76図のとおりである。

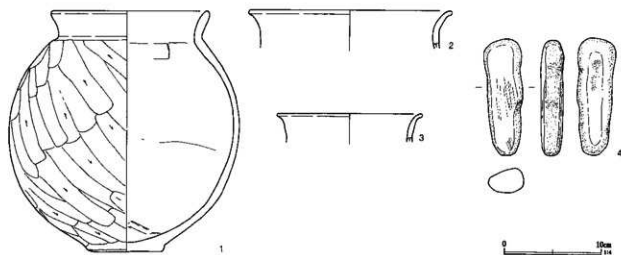
第29号住居跡 (第78図)



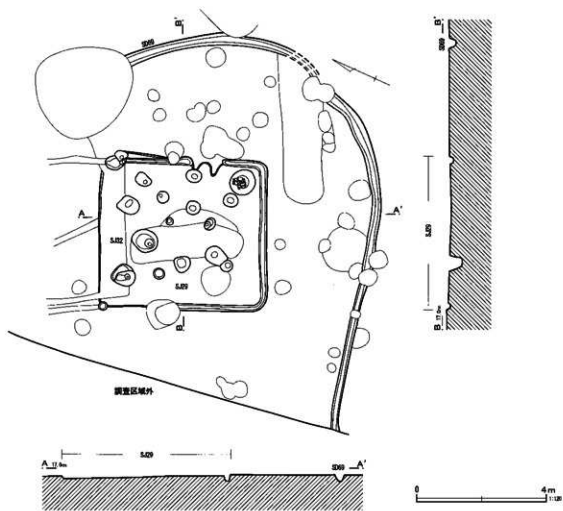
第78図 第29号住居跡

第29号住居跡出土土物観察表 (第79図)

番号	種別	器種	L径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	壺	17.0	24.7		ほぼ完形	雲 石英 長石 赤粒	普通	暗	貯蔵穴 胴部黒化	60
2	土師器	甕	(21.0)	[3.8]		L縁破片	雲 角 砂粒 赤粒 白粒	普通	暗赤褐		
3	土師器	甕	(15.0)	[3.0]		口縁破片	雲 角 石英 砂粒 赤粒	普通	にぶい赤褐		
4	石製品	石鏃	縦3.6	長12.0	厚2.2	完形					98



第79図 第29号住居跡出土遺物



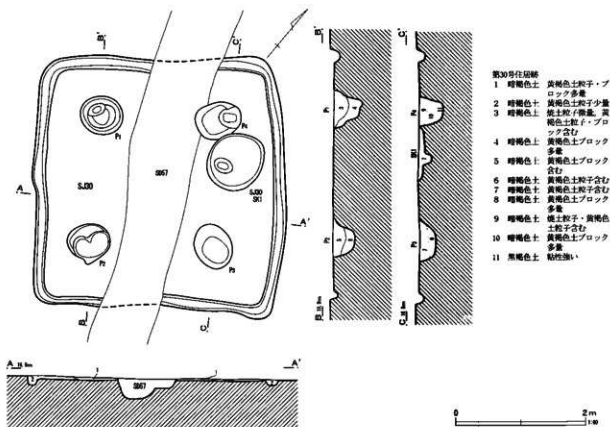
第80図 第29号住居跡と周囲の溝跡

B・C-9グリッドに位置する。住居跡の北側は第32号住居跡と重複し、床面中央部には第1号方形周溝墓が重複している。土層断面からみていずれの遺構もこの住居跡よりも古い。平面規模は主軸長4.7m、南北長5.1mで、遺構確認面から床面までの深さは4～16cmである。主軸方向はN-65°-Eである。

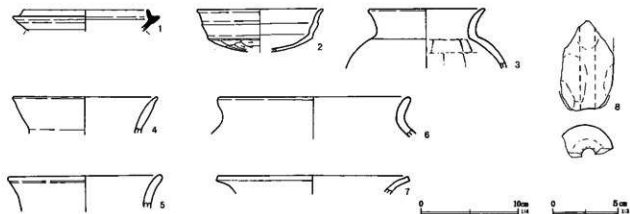
カマドは東壁中央部の南寄りに設置されている。床面が浅いため、カマドの残存状況も悪く、燃焼部

が長さ約0.4m残っていただけであった。貯蔵穴はカマドの右に設置されていた。平面は80×76cmのほぼ円形で、深さは25cmである。壁溝は北壁及び北西隅付近では検出しなかったが、他の部分では巡っていた。壁溝の幅は15～32cm、深さ3～9cmである。

ピットは15基検出した。主柱穴と推定されるのはP2、P3、P5、P10であるが、明確ではない。P1～P15の深さはそれぞれ、9、34、44、46、31、40、26、43、40、46、36、39、27、15、18cmである。



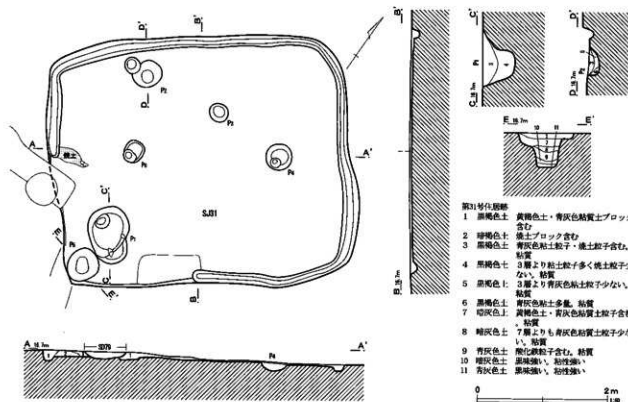
第81図 第30号住居跡



第82図 第30号住居跡出土遺物

第30号住居跡出土遺物観察表 (第82図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	須恵器	坏	(13.0)	[2.2]		口縁破片	雲 白粒	普通	褐灰	P4	33
2	土師器	坏	(13.0)	[4.4]		1/2	雲 角 石英 砂粒 赤粒	不良	橙		
3	土師器	甕	12.0	[6.0]		口縁1/2	雲 赤粒 白粒	普通	明赤褐		
4	土師器	甕	(15.0)	[3.8]		口縁破片	片 砂粒 白粒	普通	にぶい赤褐		
5	土師器	甕	(16.0)	[3.5]		口縁破片	雲 角 赤粒 白粒	良好	にぶい赤褐		
6	土師器	甕	(20.0)	[3.8]		口縁破片	雲 角 石英 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
7	土師器	甕	(20.0)	[1.8]		口縁破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	にぶい黄橙		
8	土製品	土錘	幅3.9 長6.8 孔1.0			1/3	長石 赤粒 白粒	普通	黒褐		



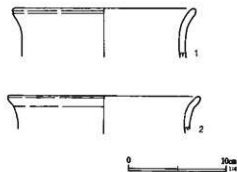
第83図 第31号住居跡

第31号住居跡出土遺物観察表 (第84図)

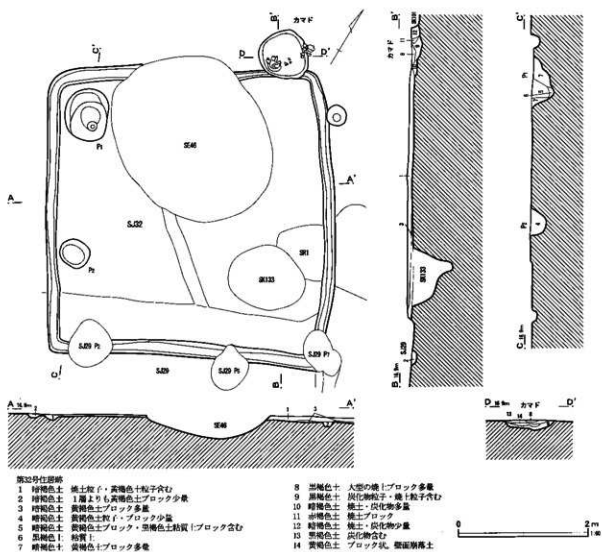
番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	甕	(19.0)	[5.1]		口縁1/4	雲 角 石英 赤粒 白粒	不良	にぶい赤褐	P1	
2	土師器	甕	(20.0)	[3.5]		口縁1/4	雲 角 石英 砂粒 赤粒	普通	橙		

住居跡を囲む溝跡(第69号溝跡)を検出した。住居跡の東側から南側にかけて丸く取り囲んでいた。溝跡は調査区域外に延びていくが、おそらくは第44号溝跡に連結するものと予想される。住居跡と溝跡の距離は、東側で約3.4m、南側で約3.0mである。

出土遺物のうち、図示できるものは第79図のとおりである。1は貯蔵穴から出土しており、ほぼ完全。4の石器は両面に擦痕がみられる。他に須恵器甕片



第84図 第31号住居跡出土遺物



第85図 第32号住居跡

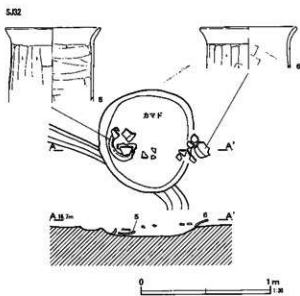
も数点あったが、図示できなかった。

第30号住居跡 (第81図)

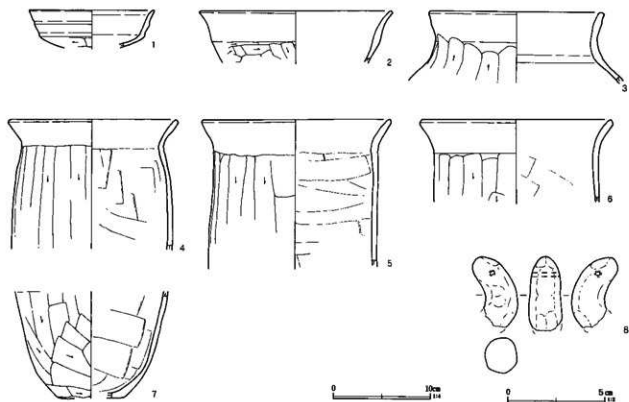
D-9グリッドに位置する。中央付近に第57号溝跡が南北に貫通している。溝跡の方が新しい時期のもの。平面規模は南北3.8m、東西3.9mのほぼ正方形で、遺構確認面から床面までの深さは2~7cmである。主軸(南北)方向はN-39°-Wである。

カマド及び貯蔵穴は検出しなかった。壁溝は全周し、幅12~26cm、深さ2~8cmである。

住居跡に伴う土壌1基、ピット4基を検出した。土壌(SJ30-SK1)は90×90cmのほぼ円形で、深さは9cmであるが、一部ピット状に深いところがある。ピットはいずれも主柱穴であったと推定される。



第86図 第30号住居跡遺物出土状況



第87図 第32号住居跡出土遺物

第32号住居跡出土遺物観察表 (第87図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	坏	(13.0)	[3.8]		口縁破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	にぶい赤褐	カマド 微細図 カマド 微細図	34 60 61 93
2	土師器	鉢	(20.0)	[5.3]		口縁破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	黒褐		
3	土師器	甕	(18.0)	[7.2]		口縁1/2	雲 赤粒 白粒	良好	にぶい橙		
4	土師器	甕	(19.0)	[13.4]		口縁1/3	雲 石英 赤粒 白粒	普通	淡橙		
5	土師器	甕	19.5	[15.0]		2/3	雲 片 角 砂粒 赤粒	普通	にぶい褐		
6	土師器	甕	(20.0)	[8.5]		口縁1/4	雲 砂粒 赤粒 白粒	普通	橙 明褐色		
7	土師器	甕		[11.0]	(7.0)	底部破片	雲 赤粒 白粒	普通	橙 明赤褐		
8	土製品	勾玉	幅1.6	長[3.8]		2/3	雲 角 赤粒 白粒	不良	淡橙		

P1～P4の深さはそれぞれ、44、29、22、37cmである。

出土遺物のうち図示できたものは第82図である。

第31号住居跡 (第83図)

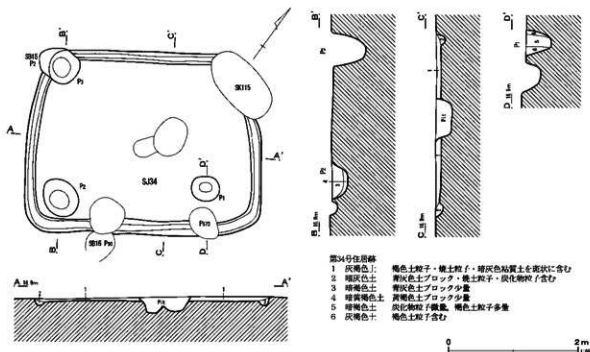
D-9、E-8・9グリッドに位置する。南西隅部には、第79号溝跡や第104号溝跡が重複し、一部住居跡のプランが不明確である。溝跡はいずれも住居跡より新しい時期のもの。平面規模は南北長3.8m、東西長4.6mの長方形をなす。遺構確認面から床面の深さは1～11cm。主軸(南北)方向はN-34°-Wである。

カマド及び貯蔵穴は検出しなかったが、西壁中央部付近で、床面が焼けている部分があった。壁溝は他の遺構が重複する南西隅では確認できなかったが、他は全周している。壁溝の幅は14～24cm、深さは2～7cmである。

ピットは6基検出した。配置は不規則で、主柱穴を推定することはできなかった。P1～P6の深さはそれぞれ、40、16、26、24、33、11cmであった。

出土遺物は少なかったが、図示できたものは第84図のとおりである。

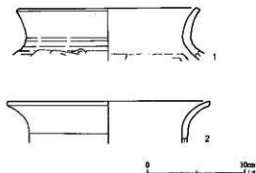
第32号住居跡 (第85図)



第88図 第34号住居跡

第34号住居跡出土遺物観察表 (第89図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	壺	(19.0)	[4.7]		口縁1/4	雲 白粒	良好	淡橙	P1	
2	土師器	甕	(21.0)	[4.3]		口縁破片	雲 砂粒 赤粒	普通	淡橙 灰褐	P1	



第89図 第34号住居跡出土遺物

B-8・9、C-8・9グリッドに位置する。南側は第29号住居跡と重複し、北半分は第46号井戸によって大きく壊されている。南東隅付近には第133号土壌や第1号方形周溝墓がある。第29号住居跡との前後関係は不明。第133号土壌は住居跡よりも古い時期のもので、井戸跡は新しい時期のものである。平面規模は南北長4.4m、東西長4.4mの正方形で、遺構確認面から床面までの深さは1~2cmと非常に浅い。主軸(南北)方向は、N-30°-Wである。

カマドは北壁東隅付近に設置されている。形態は

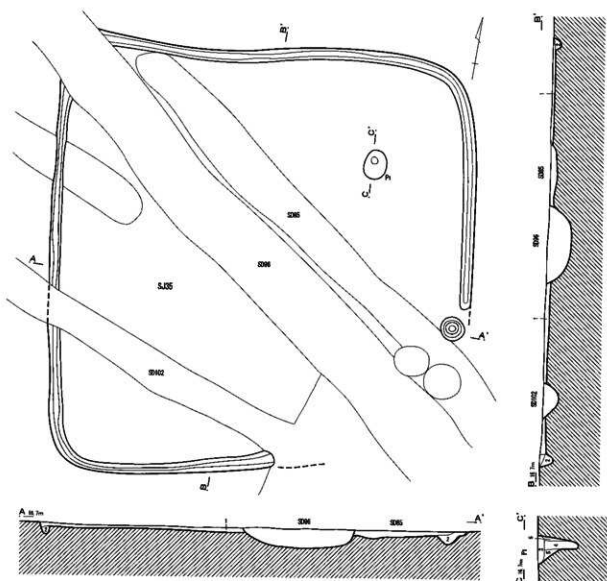
円形の土塊状をなしており、カマドとしては特異だが、壁面が焼け、覆土に多くの焼土が含まれていた。貯蔵穴は検出しなかった。壁溝は全周し、幅10~23cm、深さ7~8cmである。

ピットは2基検出した。元来はさらに多くのピットがあったのだろうが、他の遺構によって壊されている可能性が高い。P1、P2の深さはそれぞれ、32、19cmである。

出土遺物のうち図示できるものは第87図のとおりである。8は土製の勾玉で先端は欠けている。

第34号住居跡 (第88図)

E・F-10グリッドに位置する。北西隅は第15号掘立柱建物跡P2が、北東隅は第115号土壌が重複しているが、いずれも住居跡より新しい。平面規模は南北長2.8m、東西長3.6mの長方形で、他の住居跡に比べて小型である。遺構確認面から床面までの深さは4~11cm。主軸(南北)方向はN-36°-Wで



- 第35号住居跡
- 1 暗褐色土 焼土粒子・炭化物粒子・粘土粒子含む
 - 2 暗褐色土 炭化物粒子多量
 - 3 暗褐色土 黄褐色土ブロック・粒子含む
 - 4 暗褐色土 粘土粒子含む
 - 5 暗褐色土 黄褐色土粒子・ブロック含む

第90図 第35号住居跡

第35号住居跡出土遺物観察表 (第91図)

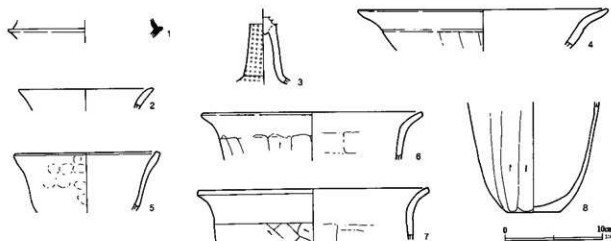
番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	須恵器	坏	(14.0)	[2.0]		破片	白粒	良好	褐灰		
2	土師器	坏	(14.0)	[2.2]		□縁破片	良石 砂粒 赤粒 白粒	不良	にぶい橙		
3	土師器	高坏		[6.5]		脚部2/3	雲 角 赤粒 白粒	普通	橙	赤彩	
4	土師器	鉢	(16.0)	[4.0]		□縁破片	雲 角 赤粒 白粒	不良	橙		
5	土師器	鉢	(15.0)	[6.0]		破片	雲 赤粒 白粒	普通	橙		
6	土師器	甕	(23.0)	[5.0]		□縁破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	橙		
7	土師器	甕	(24.0)	[5.3]		□縁破片	雲 赤粒 白粒	普通	黒褐		
8	土師器	甕		[11.2]	(5.5)	底部1/4	雲 角 砂粒 白粒	普通	明赤褐		

ある。

カマド及び貯蔵穴は検出しなかった。壁溝は全周し、幅14~24cm、深さ3~8cmである。ピットは3

基検出し、深さはそれぞれ、36、22、55cmであった。

出土遺物は少なく、図示できるものは第88図のとおりである。



第91図 第35号住居跡出土遺物

第35号住居跡 (第90図)

B-6・7、C-6・7グリッドに位置する。中央部を第85・96・102号溝跡が斜めに貫通しており、住居跡の輪郭が一部不明なところがある。溝跡はいずれも住居跡より新しい。平面規模は南北6.4m、東西6.5mのほぼ正方形で、遺構確認面から床面までの深さは2~10cm。主軸(南北)方向は、N-10°-Wである。

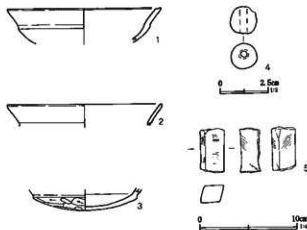
カマド及び貯蔵穴は検出しなかった。壁溝はほぼ全周し、幅12~24cm、深さ6~12cmである。ピットは1基のみ検出し、深さ56cmである。

出土遺物のうち、図示できるものは第91図のとおりである。他に須恵器破片が数点あったが、図示できなかった。

2基、土壇2基、ピット5基が重複していた。平面規模は南北長5.7m、東西長5.8mのほぼ正方形で、遺構確認面から床面までの深さは1~7cmと浅い。主軸(南北)方向はN-33°-Wである。

カマド及び貯蔵穴は検出しなかった。壁溝は北東隅及び東壁中央付近以外は全体に巡っていた。壁溝の幅は12~20cm、深さは3~7cmである。

住居跡に伴うピットは7基検出した。P1、P3、



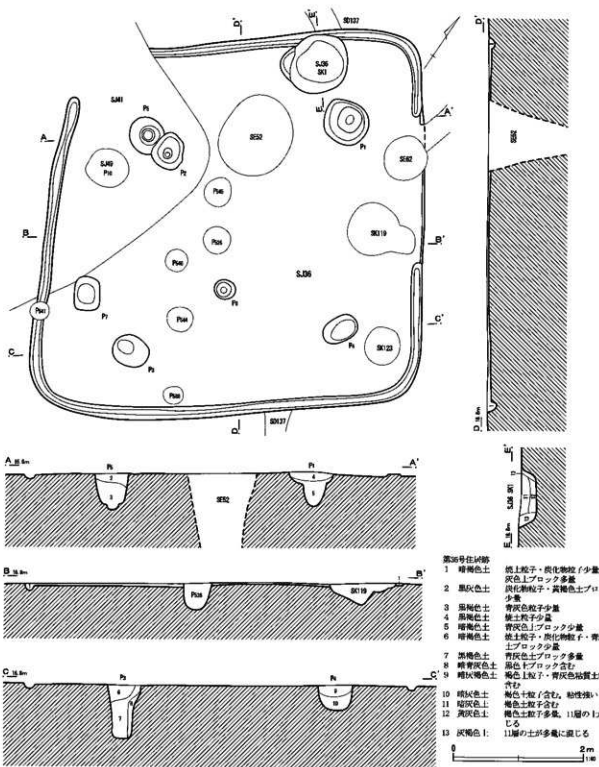
第92図 第36号住居跡出土遺物

第36号住居跡 (第93図)

E・F-11グリッドに位置する。西から北西隅にかけて、第41号住居跡が重複しているが、新旧関係は不明。その他に住居跡よりも新しい時期の井戸跡

第36号住居跡出土遺物観察表 (第92図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	坏	(16.0)	[3.5]		口縁破片	黄角 良石 赤粒 白粒	普通	橙		93
2	土師器	坏	(16.0)	[2.2]		口縁破片	黄角 赤粒 白粒	不良	橙		
3	土師器	坏		[2.2]		底部1/4	黄角 赤粒 白粒	普通	明赤褐		
4	土製品	土玉	径1.3	長1.4		一部欠	黄角 白粒	良好	黒褐		
5	石製品	砥石	幅1.9	長[4.4]	厚1.8	一部欠					

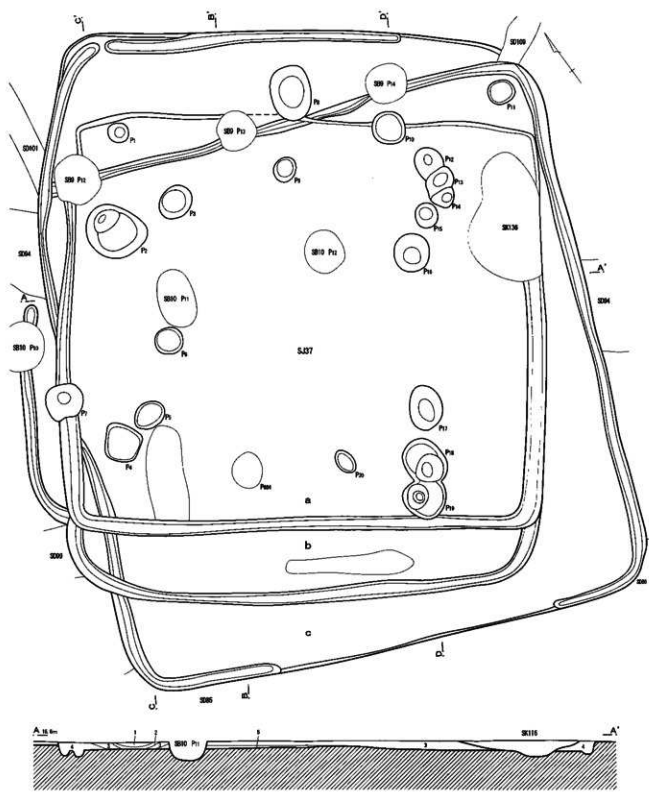


第93図 第36号住居跡

P4、P5が主柱穴になると推定される。P1～P7の深さはそれぞれ、47、57、80、36、54、31、27cmである。他に住居跡に伴うと考えられる土塊(SJ36-SK1)が検出された。北壁に接する位置にあり、平面規模は105×90cm、深さは26cmである。

出土遺物は少なかったが、そのうち図示できたものは第92図のとおりである。4は土玉、5は小型の砾石である。

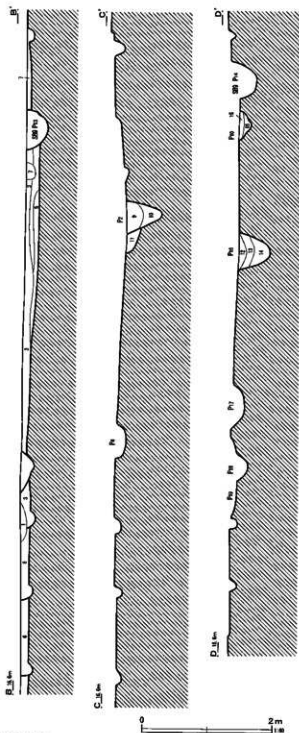
第37号住居跡 (第94・95図)



- 第37号住居跡
- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック・青灰色土ブロック破片に混入
 - 2 赤色土 炭化物層
 - 3 暗褐色土 黄褐色土ブロック・粘土ブロック含む
 - 4 暗褐色土 黄褐色土ブロック・粘土粒子混状に混入
 - 5 暗褐色土 青灰色土ブロック含む



第94図 第37号住居跡 (1)



第37号住居跡

- | | | | |
|--------|------------------------|----------|------------------------|
| 1 暗褐色土 | 黄褐色土ブロック・青灰色土ブロック層状に混入 | 9 暗褐色土 | 青灰色土ブロック・黒褐色土ブロック層状に混入 |
| 2 黒色土 | 炭化植物 | 10 暗灰褐色土 | 青灰色土塊状に混入、粘性強い |
| 3 暗褐色土 | 黄褐色土ブロック・焼土ブロック含む | 11 暗褐色土 | 10層よりも暗い色調 |
| 4 暗褐色土 | 黄褐色土ブロック・焼土粒子密状に混入 | 12 暗褐色土 | 青灰色土ブロック多量、粘性強い |
| 5 暗褐色土 | 青灰色土ブロック含む | 13 暗褐色土 | 青灰色土ブロック層状に混入 |
| 6 茶褐色土 | 黄褐色土粒子・焼土粒子含む | 14 暗褐色土 | 上層より原色化強い、青灰色土ブロック含む |
| 7 黒褐色土 | 炭化植物・黄褐色土粒子密状に混入 | 15 暗褐色土 | 黄褐色土・炭化植物粒子・青灰色土粒子多量 |
| 8 褐色土 | 黄褐色土粒子密状に混入 | 16 暗褐色土 | 10層よりも明るい色調 |

第95図 第37号住居跡 (2)

D-7・8、E-7・8グリッドに位置する。3軒の住居跡が重複していると推定される。調査時に住居跡の分類が困難であったため、1軒として扱った。それぞれSJ37a、SJ37b、SJ37cとする。規模はSJ37aが南北長6.3m、東西長7.5m、深さ0~14cm、主軸(南北)方向N-35°-E。SJ37bは南北長8.8m、東西長7.6m、深さ3~13cm、主軸(南北)方向はN-35°-E。SJ37cは南北長7.5m、東西長8.1m、深さ1~16cm、主軸(南北)方向はN-28°-E。

カマド及び貯蔵穴はいずれの住居跡からも検出しなかった。壁溝はSJ37aでは北壁が、SJ37bでは北東隅付近が、SJ37cでは南壁が一部途切れている他は、巡っている。壁溝の幅は12~32cm、深さは3~14cmである。

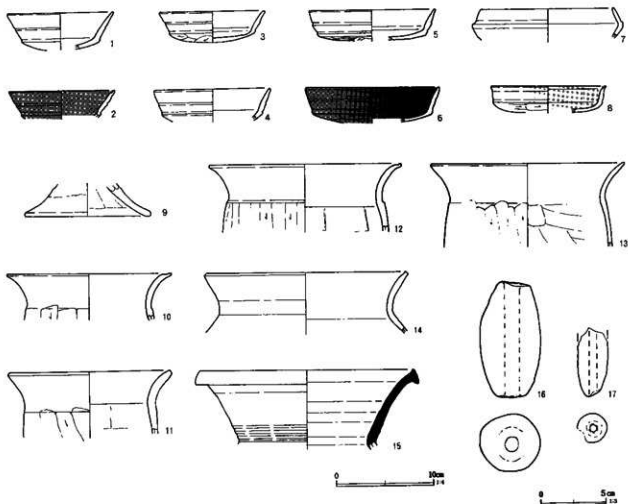
ピットは20基検出したが、それぞれの住居跡で分類することは困難であった。P1~P20の深さはそれぞれ、25、58、6、13、5、4、48、23、9、9、7、39、49、52、38、51、38、23、29、7cmである。

出土遺物は比較的多かったが、そのうち図示できたものは第96図のとおりである。土師器環は有段口縁環(1~6)、身模倣環(7)、比企型環(8)に分けられる。出土した土器からa、b、cの住居を時期的に分類することはできなかった。他に須恵器甕片も出土しているが、図示できなかった。

第40号住居跡 (第97図)

F-10グリッドに位置する。床面中央には第127号土壇があるが、土層からみて土壇の方が時期の古い遺構である。第89・104号溝跡等が住居跡を貫通しているが、溝跡はいずれも住居跡より新しい。住居跡の平面規模は南北長3.4m、東西長4.3mで、遺構確認面から床面までの深さは4~8cmである。主軸(南北)方向はN-42°-Eである。

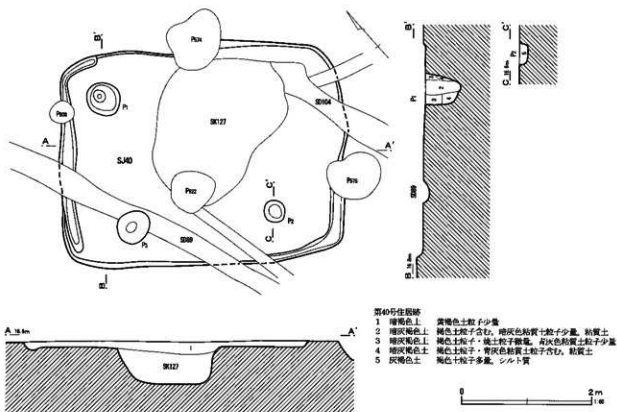
カマド及び貯蔵穴は検出しなかった。壁溝は西壁及び南東隅部付近のみでみられ、他の箇所では検出できなかった。壁溝の幅は10~27cm、深さは3~7cmである。



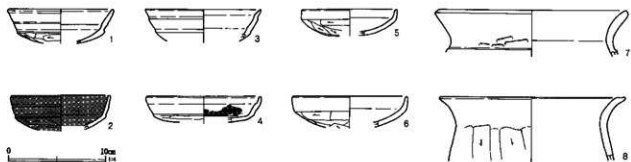
第96図 第37号住居跡出土遺物

第37号住居跡出土遺物観察表 (第96図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	坏	(11.0)	[3.8]		口縁破片	雲角白粒	普通	淡橙		34
2	土師器	坏	(11.0)	[2.7]		口縁破片	雲角白粒	普通	黒褐	黑色処理	
3	土師器	坏	13.0	3.2		4/5	雲角赤粒白粒	普通	橙		34
4	土師器	坏	(12.0)	[3.3]		口縁破片	角赤粒白粒	普通	にぶい橙		
5	土師器	坏	(13.0)	[3.2]		破片	雲角赤粒白粒	普通	黒褐	西側壁溝	34
6	土師器	坏	(14.0)	[3.6]		口縁破片	雲角白粒	普通	黒褐	黑色処理	
7	土師器	坏	(14.0)	[3.2]		破片	雲角赤粒白粒	普通	褐		
8	土師器	坏	(12.0)	[2.8]		破片	砂粒赤粒白粒	良好	にぶい橙	赤彩	
9	土師器	高坏		[3.3]	(13.0)	底部1/4	雲角白粒	普通	明赤褐		
10	土師器	甕	(17.0)	[4.7]		口縁破片	雲赤粒白粒	普通	にぶい橙		
11	土師器	甕	(17.0)	[6.5]		口縁1/4	赤粒白粒	普通	淡橙		
12	土師器	甕	(20.0)	[7.0]		口縁1/3	長石砂粒赤粒白粒	普通	にぶい橙		34
13	土師器	甕	(20.0)	[8.6]		口縁破片	雲白粒	良好	にぶい橙		
14	土師器	甕	21.0	[6.3]		口縁1/2	雲角長石赤粒	普通	にぶい黄橙		34
15	須恵器	甕	(23.0)	[7.3]		口縁破片	長石石英白粒	良好	青灰		
16	土製品	土罐	幅4.6	長9.0	孔1.0	ほぼ完形	雲石英赤粒白粒	普通	にぶい橙		
17	土製品	土罐	幅[2.2]	長[5.3]	孔4.0	1/2	砂粒	普通	明褐灰		



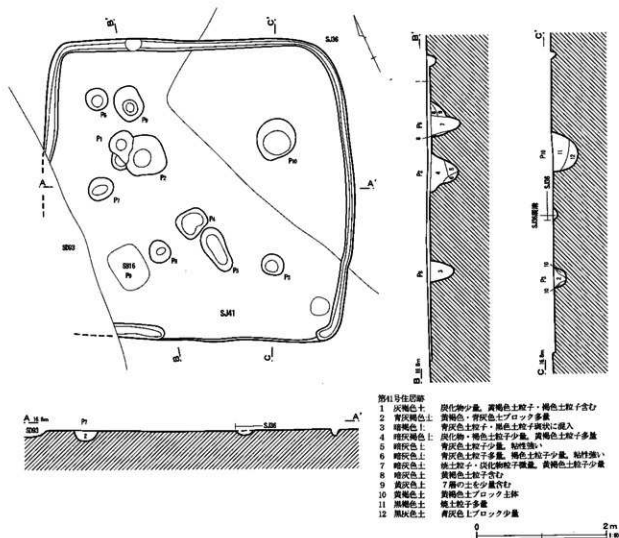
第97図 第40号住居跡



第98図 第40号住居跡出土遺物

第40号住居跡出土遺物観察表 (第98図)

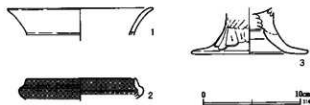
番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	坏	(11.0)	[3.5]		1/4	雲角赤粒白粒	普通	明赤褐 黒褐		34
2	土師器	坏	(10.5)	[3.5]		口縁1/4	雲角白粒	普通	黒褐	黒色処理	34
3	土師器	坏	(12.0)	[3.3]		口縁1/4	雲角石英白粒	普通	灰白		
4	土師器	坏	(12.0)	[2.6]		口縁破片	雲角石英赤粒針	普通	にぶい褐	内面うるし付着	
5	土師器	坏	(10.0)	[2.7]		1/4	雲角石英白粒	普通	靑		34
6	土師器	坏	(12.0)	[3.1]		1/4	雲角石英白粒	良好	靑		34
7	土師器	甕	(20.0)	[4.5]		口縁破片	赤粒白粒	普通	靑		
8	土師器	甕	(19.0)	[6.5]		口縁破片	雲片角赤粒白粒	良好	にぶい靑		



第99図 第41号住居跡

第41号住居跡出土遺物観察表 (第100図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎上	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	坏	(15.0)	[2.7]		口縁破片	角 白粒	良好	にぶい橙		35
2	土師器	坏	(11.0)	[2.1]		口縁破片	雲 赤粒	普通	暗褐	黒色処理	
3	土師器	高坏	[4.6]	(12.0)		脚部1/4	雲 白粒	普通	にぶい橙	P2	



第100図 第41号住居跡出土遺物

住居跡に伴うピットは3基。いずれも主柱穴であると推定され、もう1基の主柱穴は土塊と重複している可能性がある。P1～P3の深さはそれぞれ、53、10、17cmである。

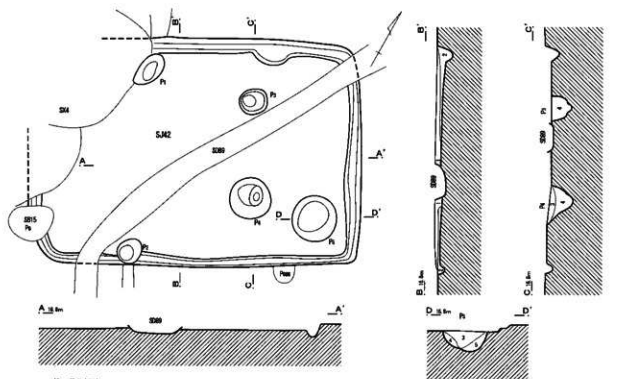
出土遺物のうち、図示できたものは第98図のとおりである。土師器坏には有段口縁坏(1～3)、蓋模倣坏(4)、北武蔵型坏(5、6)に分けられる。4の坏の内面には、漆が付着していた。

第41号住居跡 (第99図)

E・F-11グリッドに位置する。北東部分は第36号住居跡と重複しているが、土層および出土遺物から前後関係は確認できなかった。南西隅は住居より新しい時期の第93号溝跡によって切られている。平面規模は南北長4.6m、東西長4.8mで、東壁は緩やかに

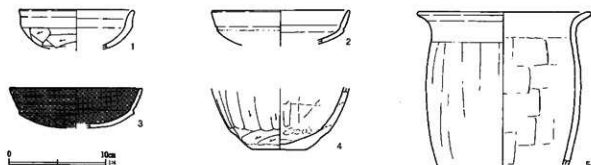
かに彎曲して外側へ張り出している。遺構確認面から床面までの深さは1~4cmと非常に浅い。主軸(南北)方向はN-25°-Eである。

カマド及び貯蔵穴は検出しなかった。壁溝は南壁部の東寄りでは途切れているが、他は巡っている。



- 第42号住居跡
- 1 暗褐色土 黄土粒子・炭化糊粒子・黄褐色土粒子含む
 - 2 暗褐色土 黄褐色土・青灰色土ブロックが塊状に混入
 - 3 暗褐色土 黄土粒子微量、褐色土粒子少量
 - 4 暗褐色土 褐色土粒子含む、青灰色粘質土粒子少量、粘質土
 - 5 青灰色土 褐色土粒子多量、暗灰色粘質土粒子含む、粘性強い

第101図 第42号住居跡



第102図 第42号住居跡出土遺物

第42号住居跡出土遺物観察表 (第102図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	坏	12.0	[4.0]		口縁1/2	雲 赤粒 白粒	普通	橙		
2	土師器	坏	(14.3)	[3.5]		口縁破片	雲 角 白粒	普通	にぶい橙		
3	土師器	坏	(13.5)	[4.2]		1/3	雲 赤粒 白粒	普通	黒褐 赤褐	P4 黒色処理	35
4	土師器	甕		[6.4]	5.2	底部1/2	赤粒 白粒	普通	明赤褐		
5	土師器	甕	(18.0)	[16.0]		破片	砂粒 赤粒 白粒	普通	褐灰		61

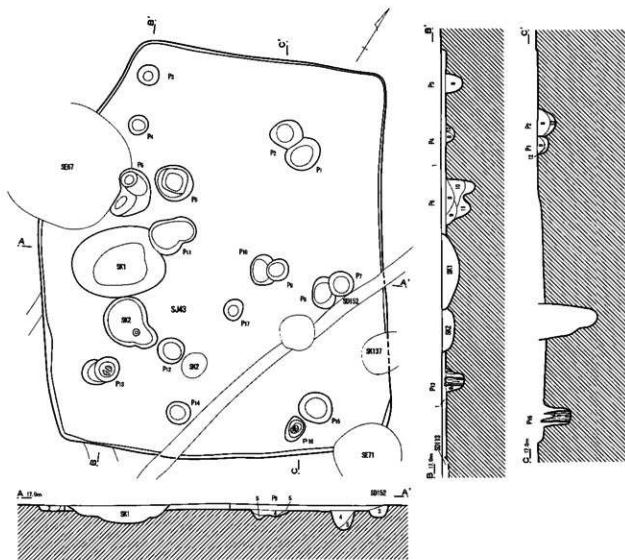
壁溝の幅は10~22cm、深さは6~10cmである。

住居跡に伴うピットは10基検出した。P1（またはP2）、P3、P10は主柱穴となる可能性があり、第16号掘立柱建物跡のP9の位置に、もう1基の主柱穴があったものと推定される。P1~P10の深さはそれぞれ、24、43、17、36、18、10、11、35、44、38cmである。

出土遺物は少なかったが、図示できたものは第100図のとおりである。

第42号住居跡（第101図）

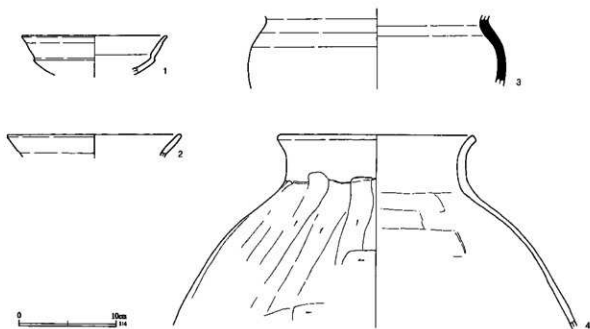
F-10グリッドに位置する。北西部分は第4号竪穴状不明遺構に削られており、その部分の形態は不明である。また中央には第89号溝跡が斜めに貫通している。住居跡の平面規模は南北長3.5m、東西長5.0mの長方形で、遺構確認面から床面までの深さは2~13cmである。主軸（南北）方向はN-27°-W。カマド及び貯蔵穴は検出しなかった。壁溝は全周する。壁溝の幅は12~26cm、深さは5~10cmである。ピットは5基検出した。P5は位置や規模から貯



第43号住居跡

- | | | | |
|--------|-----------------|---------|---------------|
| 1 緑褐色土 | 焼土粒子・黄褐色土ブロック含む | 7 黒褐色土 | 黄褐色土ブロック多量 |
| 2 黒褐色土 | 黄褐色土ブロック多量 | 8 緑褐色土 | 焼土粒子・炭化植物粒子含む |
| 3 緑褐色土 | 黄褐色土ブロック多量 | 9 緑褐色土 | 黄褐色土ブロック少量 |
| 4 緑褐色土 | 黄褐色土粒子多量 | 10 緑褐色土 | 黄褐色土ブロック含む |
| 5 緑褐色土 | 黄褐色土ブロック多量 | 11 緑褐色土 | 黄褐色土ブロック多量 |
| 6 黒褐色土 | 灰質土 | 12 緑褐色土 | 黄褐色土ブロック多量 |

第103図 第43号住居跡



第104図 第43号住居跡出土遺物

第43号住居跡出土遺物観察表 (第104図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	坏	(15.0)	[4.1]		破片	角 赤粒 白粒	普通	明赤褐	P5その他	
2	土師器	甕	(18.0)	[2.3]		口縁破片	角 白粒	普通	褐灰	P6その他	
3	須恵器	甕		[7.0]		胴部破片	角 白粒	良好	褐灰	SK-1	
4	土師器	甕	20.4	[19.5]		破片	砂粒 赤粒	普通	灰白 明褐灰		61

蔵穴になる可能性もある。P1～P5の深さはそれぞれ、7、26、32、36、30cmである。

出土遺物のうち、図示できたものは第102図のとおりである。土師器坏には蓋模倣坏（1、2）と有段口縁坏（3）がある。

第43号住居跡 (第103図)

F-13・14、G-13・14グリッドに位置する。平面規模は南北長6.3m、東西長5.3mの長方形で、北壁が狭くなるいびつな形態をなす。ただし、床面が浅く、壁溝がないため、輪郭が明確ではない。遺構確認面から床面までの深さは1～10cm。主軸（南北）方向はN-32°-Wである。

カマド、貯蔵穴、壁溝は検出しなかった。ピットは17基検出し、P13、P16では腐食した柱痕がみられた。配置は不規則なため、主柱穴を推定することは難しい。P1～P17の深さはそれぞれ、19、25、24、12、50、46、26、15、10、11、9、13、25、11、10、

40、19cmである。住居内土壌を2基検出したが、住居跡の覆土を掘り込んでおり、元来住居に伴わない可能性が高い。

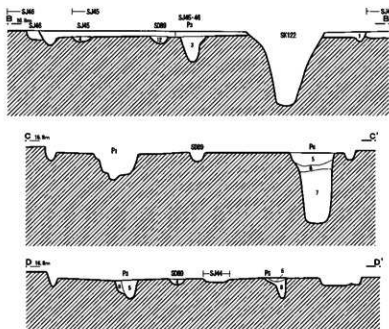
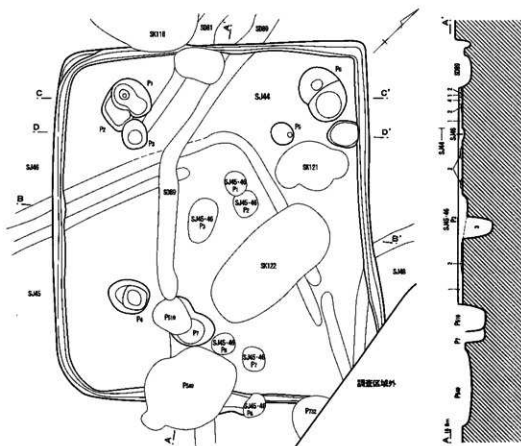
出土遺物のうち、図示できたものは第104図のとおりである。

第44号住居跡 (第105図)

F・G-11グリッドに位置する。南側の大部分が第45・46号住居跡と重複し、土層の観察では第46→45→44号住居跡の順に新しくなる。また南東隅は調査区域外に出る。平面規模は南北長5.6m、東西長4.9mの長方形で、遺構確認面から床面までの深さは1～11cmである。主軸（南北）方向はN-45°-W。

カマド及び貯蔵穴は検出しなかった。ただしP6は位置や規模から貯蔵穴になる可能性がある。壁溝は全周する。壁溝の幅は9～32cm、深さは4～12cm。

ピットは7基検出した。P3、P4、P5は主柱穴と推定され、もう1基の主柱穴は第122号土壌に壊さ



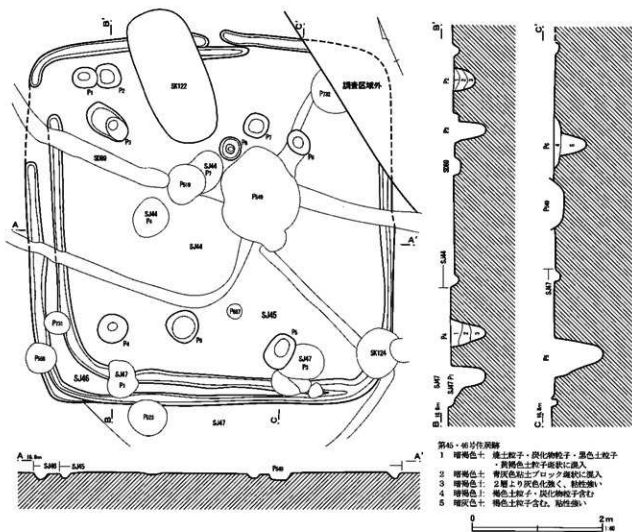
- 第44号住居跡
- 1 暗褐色土 黄土粒子・炭化物粒子・黄褐色土粒子含む、酸化鉄・褐色土粒子多量
 - 2 黄褐色土 地山黄褐色土ブロック主体、褐色土粒子多量
 - 3 暗褐色土 地山黄褐色土ブロック・褐色土粒子含む
 - 4 暗褐色土 黄褐色土ブロック・褐色土粒子を含む
 - 5 暗褐色土 黄土粒子・炭化物粒子・褐色土粒子・黄褐色土粒子塊状に混入
 - 6 暗褐色土 黄褐色土ブロックを塊状に混入
 - 7 暗褐色土 少量より灰色化強い、粘性強い
 - 8 暗褐色土 少量より色調明るい
 - 9 暗褐色土 黄褐色土粒子少量、粘性強い
 - 10 暗褐色土 黄土粒子・炭化物粒子多量
 - 11 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量
 - 12 暗褐色土 炭化物粒子・黄土粒子少量、黄褐色土粒子少量

第105図 第44号住居跡

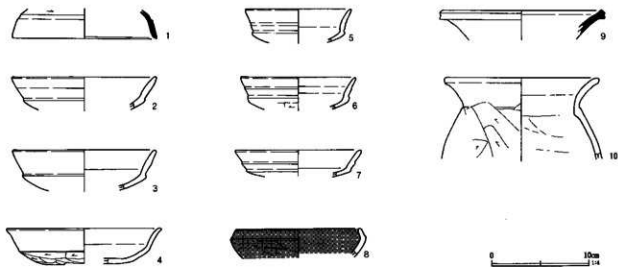
れていると考えられる。P1～P7の深さはそれぞれ、51、9、28、45、33、99、39cmである。

第45・46号住居跡 (第106図)

F・G-11グリッドに位置する。ほぼ同規模の住居跡が同方向で重なり合っているため、この2軒については同時に記述する。ただし、東壁は2軒とも共通しているため、作り直した可能性もある。北側



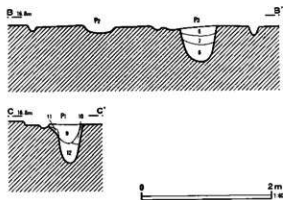
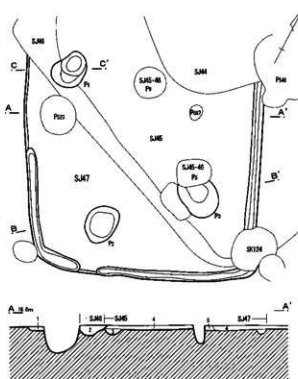
第106図 第45・46号住居跡



第107図 第44～48号住居跡出土遺物

第44～48号住居跡出土遺物観察表 (第107図)

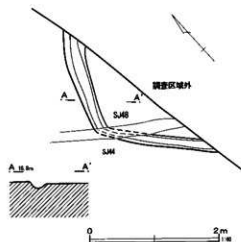
番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	須恵器	坏蓋	(15.0)	[3.0]		口縁1/4	石英 赤粒 白粒	普通	灰 内面橙		
2	土師器	坏	(15.0)	[3.4]		口縁破片	角 白粒	不良	にぶい橙		
3	土師器	坏	(15.0)	[4.2]		口縁1/4	雲 角 赤粒 白粒	不良	橙 黒褐		35
4	土師器	坏	(16.0)	[3.7]		1/4	雲 角 赤粒 白粒	普通	橙 黒褐		35
5	土師器	坏	(11.0)	[3.5]		口縁破片	雲 角 砂粒 赤粒 白粒	普通	明赤褐		
6	土師器	坏	(12.0)	[3.3]		口縁破片	赤粒 白粒	普通	灰褐		
7	土師器	坏	(13.0)	[2.7]		口縁破片	雲 白粒	普通	明褐灰		
8	土師器	坏	(13.0)	[3.0]		口縁破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	橙	黒色処理	
9	須恵器	甕	(17.0)	[3.0]		口縁破片	白粒	良好	灰		
10	土師器	甕	(16.0)	[8.4]		口縁破片	雲 砂粒 白粒	普通	にぶい橙		



第47号住居跡

- 1 暗灰褐色土 褐色土粒子・黄褐色土粒子含む
- 2 暗褐色土 褐色土粒子・炭化物粒子少量、褐色土粒子・黄褐色土粒子含む
- 3 暗褐色土 褐色土粒子少量、褐色土粒子・黄褐色土粒子少量
- 4 暗灰褐色土 褐色土粒子多量、黄褐色土粒子含む
- 5 黄灰褐色土 褐色土粒子多量、暗灰色粘質土含む
- (2～5層は厚さ、40号住居跡同)
- 6 暗灰色土 褐色土粒子含む、粘性強、
- 7 暗灰色土 炭化物含む、粘性強、
- 8 暗灰色土 粘性強い
- 9 暗褐色土 褐色土粒子・炭化物粒子・黒色土粒子・黄褐色土粒子混入
- 10 暗褐色土 褐色土粒子少量
- 11 暗褐色土 青灰色粘土ブロック混入
- 12 暗褐色土 1層より灰色化強く、粘性強、

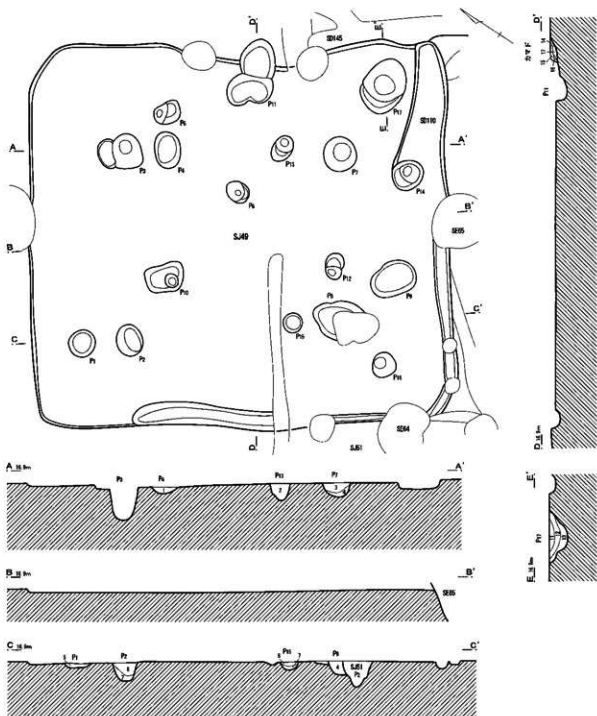
第108図 第47号住居跡



第109図 第48号住居跡

半分以上は第44号住居跡が重複している。土層の観察では第46→45→44号住居跡の順に新しくなる。また、北東隅部は調査区域外になる。平面規模は第45号住居跡が南北長5.7m、東西長5.6m、第44号住居跡が南北長5.2m、東西長5.2mで、いずれも正方形をなす。遺構確認面から床面までの深さは、1～5cmと非常に浅い。

カマド及び貯蔵穴は検出しなかった。壁溝はいずれの住居跡も、北西隅近辺でところどころ途切れているが、基本的には全周している。壁溝の幅は9～32cm、深さは4～12cmである。



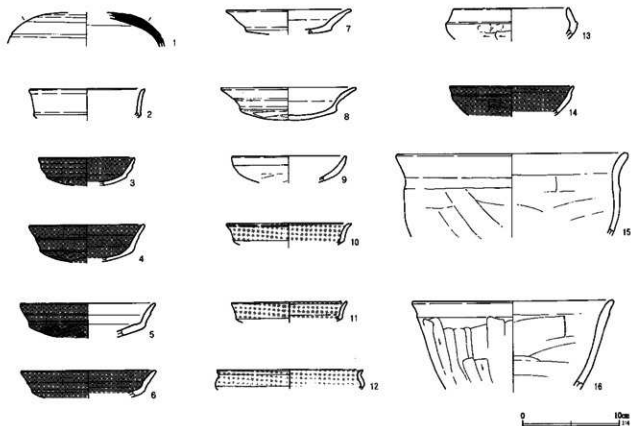
第49号住居跡

- | | |
|---------|---------------------|
| 1 暗灰褐色土 | 黄褐色土ブロック多量 |
| 2 灰褐色土 | 黄褐色土ブロック含む |
| 3 暗灰褐色土 | 黄褐色土粒子少量 |
| 4 暗灰褐色土 | 黄褐色土ブロック少量 |
| 5 暗褐色土 | 黄褐色土粒子少量 |
| 6 暗灰褐色土 | 黄褐色土ブロック状に含む |
| 7 暗灰褐色土 | 黄褐色土ブロック多量 |
| 8 暗褐色土 | 黄褐色土粒子・焼土粒子少量 |
| 9 暗褐色土 | 8層より黄褐色土粒子やや多い |
| 10 暗褐色土 | 焼土粒子・灰化物粒子・黄褐色土粒子少量 |

- | | |
|---------|---------------|
| 11 暗褐色土 | やや灰色味帯びる |
| 12 暗褐色土 | 11層より黄褐色土粒子多い |
| 13 黄褐色土 | 暗褐色土やや多い |
| カマド | |
| 14 暗褐色土 | 黄褐色土ブロック含む |
| 15 暗褐色土 | 焼土粒子・灰化物粒子多量 |
| 16 暗褐色土 | 灰味強い・焼土含む |
| 17 暗褐色土 | 黄褐色土ブロック多量 |

0 2m

第110図 第49号住居跡



第111図 第49号住居跡出土遺物

第49号住居跡出土遺物観察表 (第111図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	須恵器	坏蓋	[3.2]	[3.2]		破片	白粒	良好	灰		
2	土師器	坏	(12.0)	[3.2]		口縁破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	明赤褐		
3	土師器	坏	(10.0)	[2.8]		破片	砂粒 赤粒 白粒	普通	黒褐	黒色処理	
4	土師器	坏	(12.0)	[3.8]		1/4	雲 角 赤粒 白粒	普通	橙 灰褐	黒色処理	35
5	土師器	坏	(14.0)	[3.5]		1/4	角 赤粒 白粒	普通	明赤褐 内橙	一部ミガキ 黒色処理	35
6	土師器	坏	(14.0)	[2.7]		口縁破片	砂粒 赤粒 白粒	普通	明赤褐	黒色処理	
7	土師器	坏	(13.0)	[2.5]		口縁破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	褐灰		
8	土師器	坏	(14.0)	3.3		破片	砂粒 赤粒 白粒	不良	にぶい橙		35
9	土師器	坏	(12.0)	[2.7]		破片	角 白粒	橙			
10	土師器	坏	(13.0)	[2.2]		口縁破片	赤粒 白粒	普通	にぶい橙	赤彩	
11	土師器	坏	(12.0)	[2.0]		口縁破片	赤粒 白粒	普通	にぶい橙	赤彩	
12	土師器	坏	(15.0)	[2.0]		口縁破片	赤粒 白粒	普通	明赤褐	赤彩	
13	土師器	坏	(12.0)	[3.0]		口縁破片	角 赤粒 白粒	普通	橙		
14	土師器	坏	(13.0)	[3.0]		口縁破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	暗褐	黒色処理	
15	土師器	甕	(24.0)	[8.5]		口縁1/4	雲 石英 砂粒 赤粒	普通	明赤褐 黒褐		35
16	土師器	甕	(21.0)	[9.2]		破片	角 石英 赤粒 白粒	普通	浅黄橙 橙		

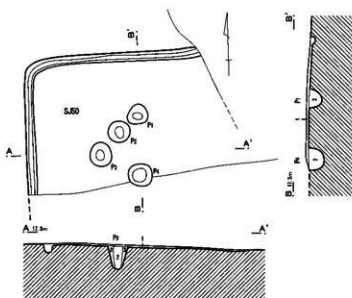
ピットはどちらの住居跡に所属するか区別するのは難しい。全部で9基のピットを検出したが、P3、P4、P6は主柱穴になる可能性がある。P1～P9の深さはそれぞれ、18、29、47、53、73、45、19、13、8 cmである。

第47号住居跡 (第108図)

F・G-11グリッドに位置する。北半分以上が第45・46号住居跡と重複しており、北壁の輪郭は確認できなかった。他の住居跡との前後関係は不明である。平面規模は南北長が3.4m以上、東西長が3.6mである。遺構確認面から床面までの深さは1～4 cm

第50号住居跡出土遺物観察表 (第113図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	坏	(10.0)	[2.5]		口縁破片	雲 砂粒	普通	にぶい黄橙		
2	土師器	甕	(16.2)	[5.0]		口縁破片	砂粒 白粒	普通	にぶい橙		



第50号住居跡

- 1 埴輪色土 黄褐色土ブロック塊状に混入、焼土粒子・炭化物粒子少量
- 2 埴輪色土 焼土粒子・炭化物粒子少量、黄褐色土粒子含む
- 3 埴輪色土 焼土粒子微量、黄褐色土粒子多量

第112図 第50号住居跡

と非常に浅い。主軸（南北）方向は $N-28^{\circ}-W$ である。

カマド及び貯蔵穴は検出しなかった。壁溝は東壁・南壁・西壁の南寄りで巡っていた。壁溝の幅は11~20cm、深さは3~8cmである。

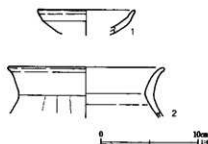
ピットは3基検出した。いずれも主柱穴になる可能性はある。深さはそれぞれ、56、8、53cmである。

第48号住居跡 (第109図)

F・G-11グリッドに位置する。ほとんどが調査区域外となり、住居跡の南西隅部がわずかに確認されただけである。コーナー部分は鈍角で各辺とも彎曲している。第44号住居跡と重複しているが、その前後関係は土層からは不明である。

カマド、貯蔵穴、ピットは検出しなかった。壁溝は幅が20~32cm、深さ5cmであった。

なお、第44~48号住居跡の遺物は、区別できずに



第113図 第50号住居跡出土遺物

取上げた。図示できたものは第107図のとおりであるが、時期的に分類するのはむずかしい。

第49号住居跡 (第110図)

F-12・13、G-12・13グリッドに位置する。南西隅付近は第51号住居跡が重複するが、その前後関係は不明である。平面規模は主軸長6.0m、南北長6.5mの

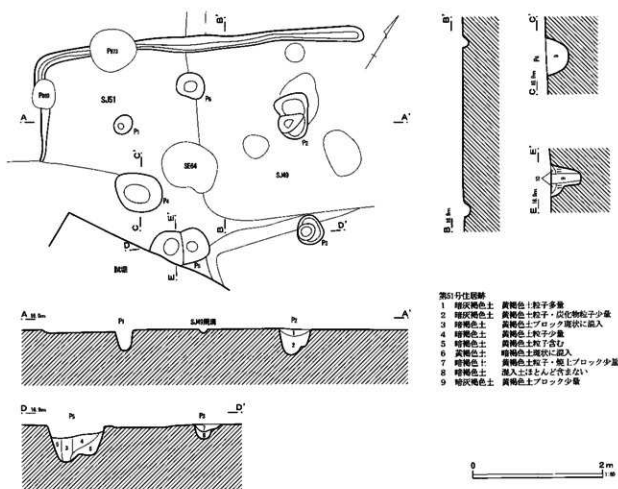
長方形である。遺構確認面から床面までの深さは1~10cm。主軸方向は $N-57^{\circ}-E$ である。

カマドは東壁の中央付近に設置されていた。袖は残存せず、燃焼部のみ確認した。カマドの前のP11はカマドの一部である可能性がある。貯蔵穴は位置や規模からみて、P17が相当すると考えられる。平面が 85×65 cmの楕円形、深さは30cmである。

壁溝は南壁と西壁で確認した。南壁の東寄りには第110号溝跡が重複しており、壁溝の有無は不明であった。壁溝の幅は11~36cm、深さ4~6cmである。

ピットは17基検出したが、前述のとおり、P17は貯蔵穴の可能性が高い。主柱穴はP2、P3、P7、P8が想定される。P1~P17の深さはそれぞれ、5、36、50、12、15、48、19、5、14、17、16、30、25、23、9、45、30cmである。

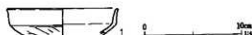
出土した遺物は比較的多く、図示できたものは第111図のとおりである。



第114図 第51号住居跡

第51号住居跡出土遺物観察表 (第115図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	坏	(11.4)	[2.8]		破片	黄角赤粒白粒	普通	橙	P5	



第115図 第51号住居跡出土遺物

出土遺物は少なく、第113図のとおりである。

第50号住居跡 (第112図)

F-18グリッドに位置する。南側は調査区域外となり、東側は中世の第4号溝跡に切られているため、住居跡全体の1/4が残存しているのみである。平面規模は南北長2.0m以上、東西長3.5m以上である。遺構確認面から床面までの深さは1~4cm、主軸(南北)方向はN-0°-Eである。

カマド、貯蔵穴は検出しなかった。壁溝は幅12~19cm、深さ2~12cmである。ピットは4基検出した。P1~P4の深さはそれぞれ、18、24、30、18cmである。

第51号住居跡 (第114図)

G-13グリッドに位置する。多くの遺構が重複するため、正確なプランを明らかにすることができなかった。平面規模は南北3.1m以上、東西長5.1m以上で、遺構確認面から床面までの深さは1~8cmであった。主軸(南北)方向はN-31°-Wである。

カマド、貯蔵穴は検出しなかった。壁溝は北壁で検出され、幅12~23cm、深さ1~7cmであった。ピットは6基検出した。深さはそれぞれ、32、39、18、30、51、27cmである。

出土遺物は少なく、土師器坏1点のみ図示できた。

3. 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は、今回の報告範囲では21軒を検出した。分布状況はA：調査区北側の第80号溝跡の隣接地、B：調査区中央部付近、C：調査区南側の3箇所に集中している。

建物の構造は大きく分けて、①2×2間の総柱建物（第11・13・14・17・18号）、②四面廂をもつ大型建物（第2・6号）、③桁行5間以上×梁行2間の縦長の建物（第1・5・7・9・10・12号）、④桁行2～4間×梁行2～3間の建物（第3・15・16・19・20号）、の4種類に分けられる。それぞれの分布箇所によって建物の特徴が異なっており、A分布範囲では主に③の建物が溝に沿ってつくられ、B分布範囲では①の建物を主とし、④の建物も混在している。C分布範囲では②、③、④の建物が混在しているが、②の建物を中心とした規格的な建物配置がみとれる。

建物の桁行方向を比較してみると（第116図）、3グループに分けられ、aグループは①の建物、cグループはA分布範囲の③の建物、bグループはそれ以外の建物に相当する。

建物の時期は柱穴から出土した土器の観察から、7世紀と10世紀に分けられる。A分布範囲の建物はいずれも7世紀代のもので、大量に土器や木器等が出土した第80号溝跡と相前後する時期の遺構であると思われる。建物の方向からも、溝との有機的な関連が想定される。①の2×2間の総柱建物では、柱穴から出土した土器は少量であるが、第11号掘立柱

建物跡から出土した耳環や、第18号掘立柱建物跡から出土した須恵器瑠等からみて、いずれも7世紀前半のものと考えられる。竪穴住居跡とは、時期的に重複するものもあり、同時並存していた可能性が高い。

その他の、とくに調査区南側に位置する建物は、いずれも10世紀代のもと考えられる。当時期の土器が大量に出土した第3号溝跡とも有機的に関連し、規格的な建物群が形成されていたと思われる。建物周辺で検出される多くの井戸跡も、同時期のものが多い。

第1号掘立柱建物跡（第119図）

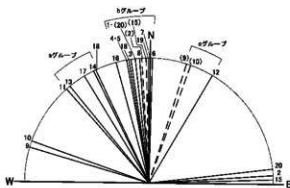
C-15・16、D-15・16グリッドに位置する。第3・4号掘立柱建物跡と重複しているが、それぞれの前後関係は確認できなかった。建物の西側は調査区域外となるため、梁行の規模は不明である。桁行は4間で11.25m、桁方向はN-7°-W。柱間は2.70～3.00m（平均2.81m）である。梁行は柱穴を検出していないので柱間が不明であるが、調査した範囲では2.70m以上となる。柱穴は全部で5基確認したが、柱材が残存しているものはなかった。

柱穴から出土した遺物のうち、図示できたのは第120図のとおりである。底部糸切痕のある坏と、高台付塚が中心で、緑釉陶器の壺もみられた。

第2号掘立柱建物跡（第121～124図）

C-14・15、D-14・15、E-14・15グリッドに位置する。それぞれのピットは第1遺構面ですべてに一部が確認できた。多くの溝跡や井戸跡と重複しているが、土層断面から、第16・21・28・31・41・78号溝跡は建物よりも古い時期のもので、第4号溝跡や第7号井戸跡は建物よりも新しい時期のものであることを確認した。

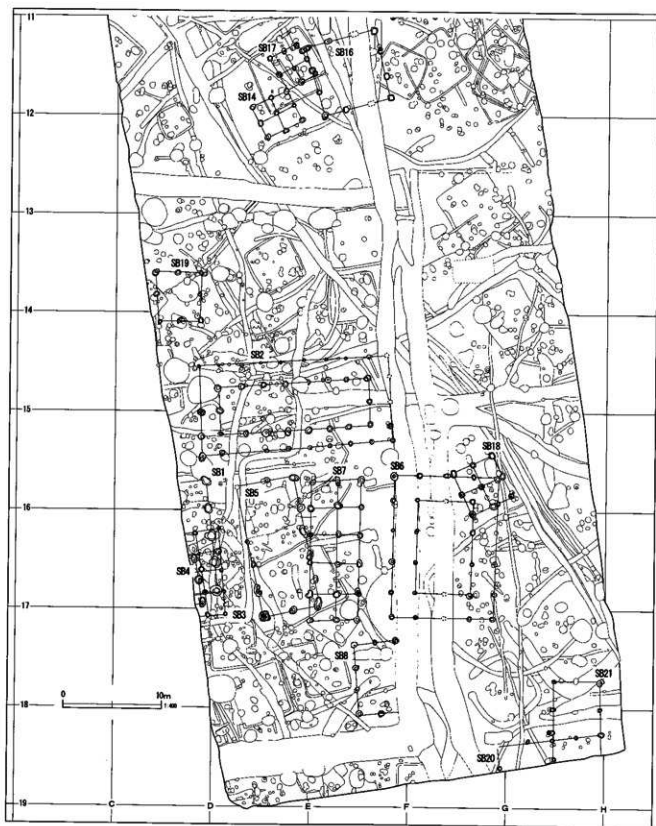
母屋は桁行7間×梁行2間で、さらに4面に廂をもつ建物に復元した。建物の規模は、廂を含めた桁行は19.20m～19.71m、梁行は8.79m～9.21m、母屋



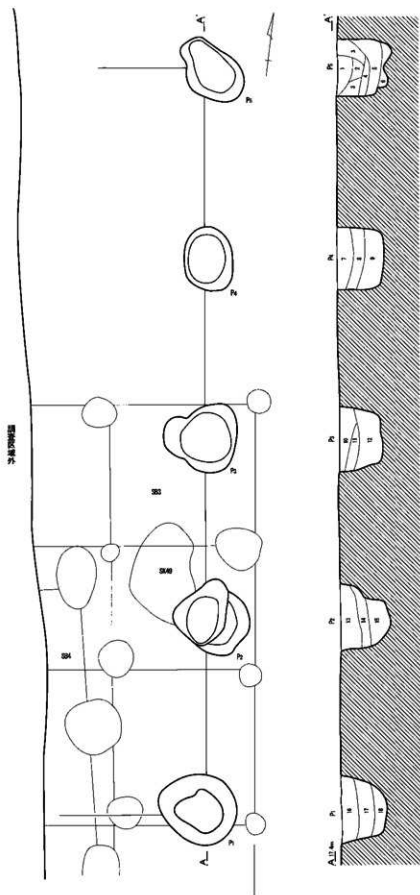
第116図 掘立柱建物跡の桁行方向



第117図 掘立柱建物跡全体図(1)



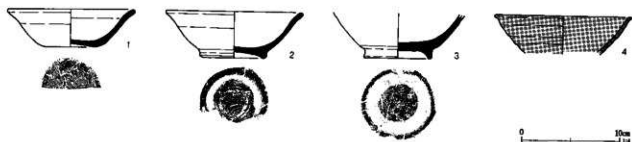
第118図 掘立柱建物跡全体図 (2)



第1号掘立柱建物跡

- | | | |
|----|-------|------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | 黄土粒が多量 |
| 2 | 黒褐色土 | 黄褐色土ブロック多量 |
| 3 | 黒褐色土 | 黄褐色土粒子少量 |
| 4 | 暗褐色土 | 炭化物粒子・黄褐色土粒子少量 |
| 5 | 暗褐色土 | 黄褐色土ブロック少量 |
| 6 | 暗黄褐色土 | 黄褐色土ブロックと黒色土の混じり |
| 7 | 暗褐色土 | 黄褐色土粒子・焼土粒子少量 |
| 8 | 暗褐色土 | 炭化物粒子含む。粘性あり |
| 9 | 灰褐色土 | 粘性あり |
| 10 | 黒褐色土 | 炭化物粒子少量 |
| 11 | 暗褐色土 | 黄褐色土粒子多量 |
| 12 | 黒褐色土 | 黄褐色土粒子少量。青味寄る |
| 13 | 暗褐色土 | 黄褐色土ブロック・焼土粒子少量 |
| 14 | 暗褐色土 | 黄褐色土ブロック多量 |
| 15 | 黒褐色土 | 黄褐色土ブロックと黒色土の混じり |
| 16 | 暗褐色土 | 黄褐色土粒子・焼土ブロック含む |
| 17 | 暗褐色土 | 黄褐色土粒子少量。焼土ブロック含む。粘性あり |
| 18 | 暗褐色土 | 黄褐色土粒子多量。粘性あり |

第119図 第1号掘立柱建物跡



第120図 第1号掘立柱建物跡出土遺物

第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第120図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	須恵器	坏	13.0	3.8	5.6	1/2	雲 赤粒 白粒	普通	灰褐	P3	
2	須恵器	高台付埴	14.0	4.7	6.8	1/2	砂粒 白粒 針	良好	黒	P2	35
3	須恵器	高台付埴	[4.5]	7.0	胴部1/5		砂粒 白粒 針	不良	灰白	P2	
4	緑釉陶器	埴	(14.0)	[3.8]		破片	白粒	良好	オリーブ灰	P3 尾北	85

のみの桁行が15.30~15.45m、梁行が4.92~4.95mで、柱間は桁行が1.89~2.49m (平均2.20m)、梁行が2.34~2.61m (平均2.48m)と、柱間にややばらつきがみられる。桁方向はN-86°-Eである。母屋と廂との間隔は1.74m~2.16mで、廂の柱穴は母屋の柱穴と対応して並ぶ。いずれの柱穴からも、柱材の残存はみられなかった。

柱穴からは多くの土器が出土しているが、なかでも須恵器製の破片が、柱穴の底部に沿って敷き詰められていた状況がみられた (第125図)。P2、P4、P6、P9で顕著である。図示した土器だけでも40、47、51などの土器は、別のピットから出土した破片が接合している。その他の土器は底部糸切痕のある土器と、高台付の埴が主流を占めており、灰釉陶器や緑釉陶器の破片も出土している。須恵器の甕は、口縁の種類からみて9個体以上確認できた (第126~128図)。

出土している土器は、第3号溝跡出土のものと同様、時期的な分類はむずかしい。溝の位置が建物の中央を横断していることからみて、同時並存していた可能性もある。

第3号掘立柱建物跡 (第129図)

C-16・17、D-16・17グリッドに位置する。第1・4号掘立柱建物跡と重複しているが、その前後

関係は不明である。ピットは第1遺構面を確認することができた。

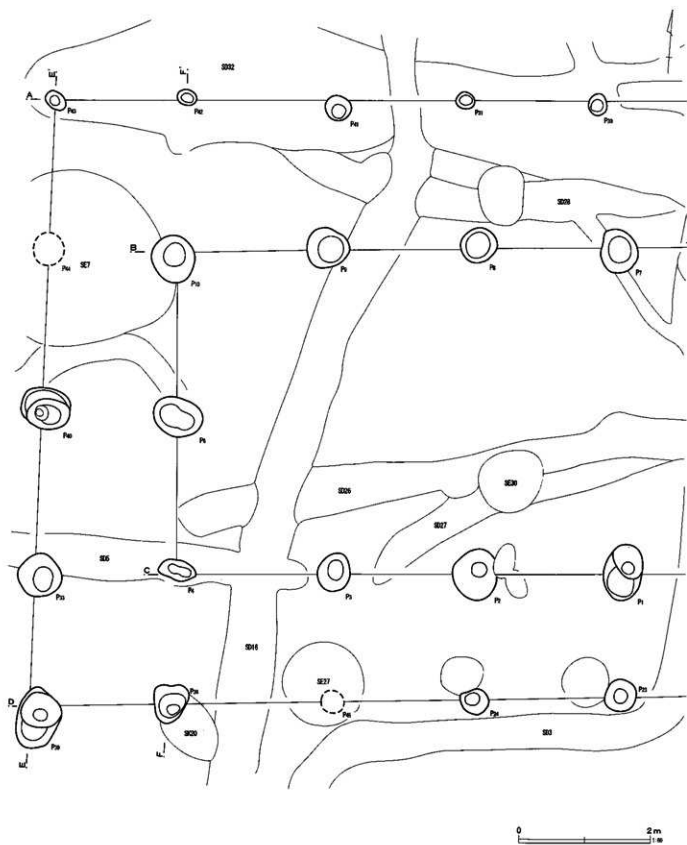
建物の西側は調査区域外となるので、梁行の規模等は不明である。桁行は4間であるが、第7号掘立柱建物跡のように、梁行は2間の総柱建物となる可能性がある。桁行の規模は8.43m~8.58m、梁行の推定規模は4.0m~4.5m前後である。桁方向はN-8°~9°-W。柱間は桁行で1.62m~2.34m (平均2.13m)、梁行で1.77m~2.37m (平均2.07m)と、柱間にはばらつきがみられる。柱穴の規模にもばらつきがみられ、均等な配置ではない。柱穴は10基検出したが、柱材が残存しているものはなかった。

柱穴から出土した土器は小片のみであり、図示できるものがなかった。

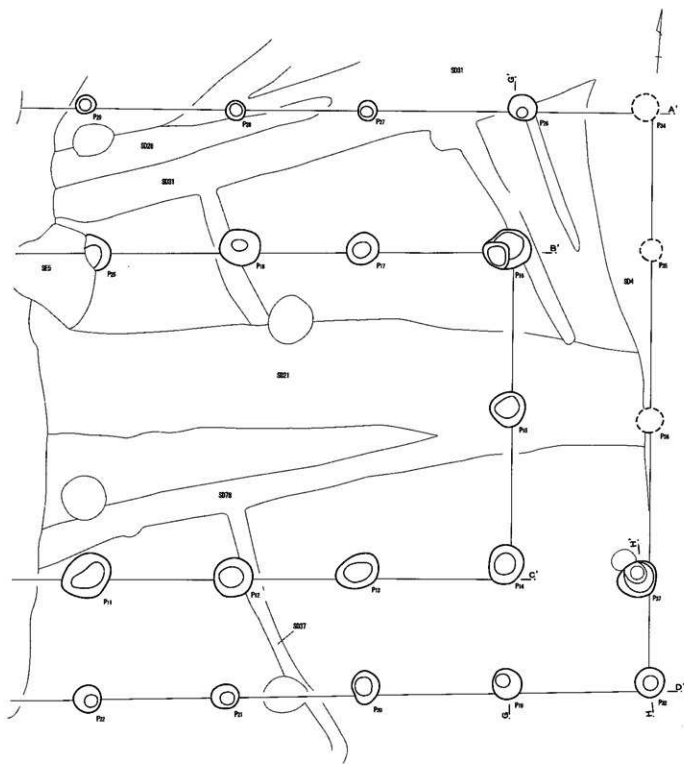
第4号掘立柱建物跡 (第130図)

C-16・17グリッドに位置する。ピットは第1遺構面ですでに検出することができた。前述のように第1・3号掘立柱建物跡と重複しているが、その前後関係は不明である。

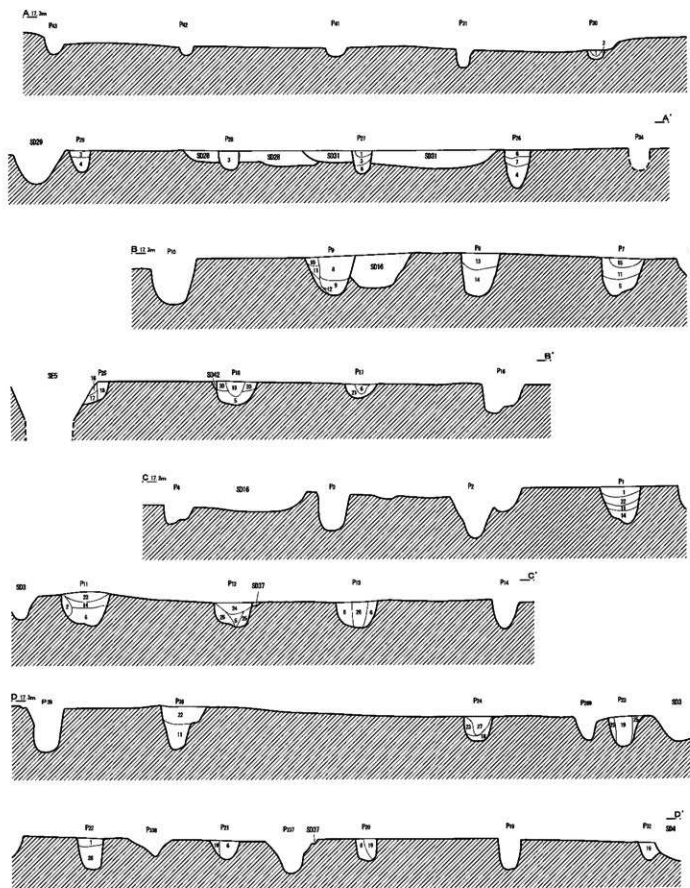
建物西側の大半が調査区域外になるため、構造や規模等については不明である。最も東側の柱列のみ確認でき、全長は4.59m、柱間は2.28m~2.31mであった。柱列の方向はN-11°-Wである。柱穴はいずれも大型のものであるが、柱材は残存していな



第121图 第2号掘立柱建物跡(1)

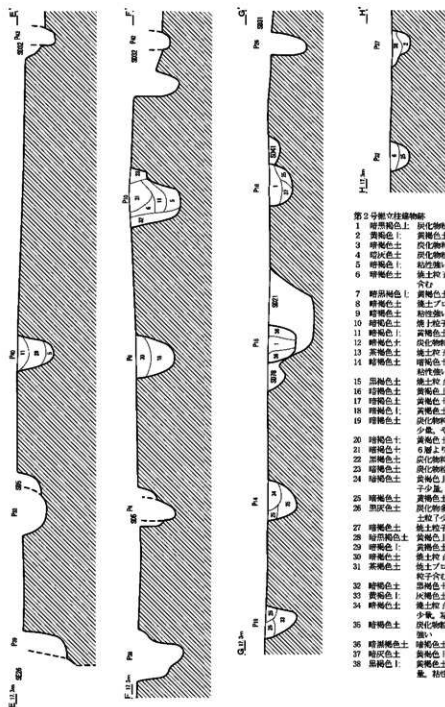


第122图 第2号掘立柱建物跡 (2)



第123图 第2号掘立柱建物跡(3)





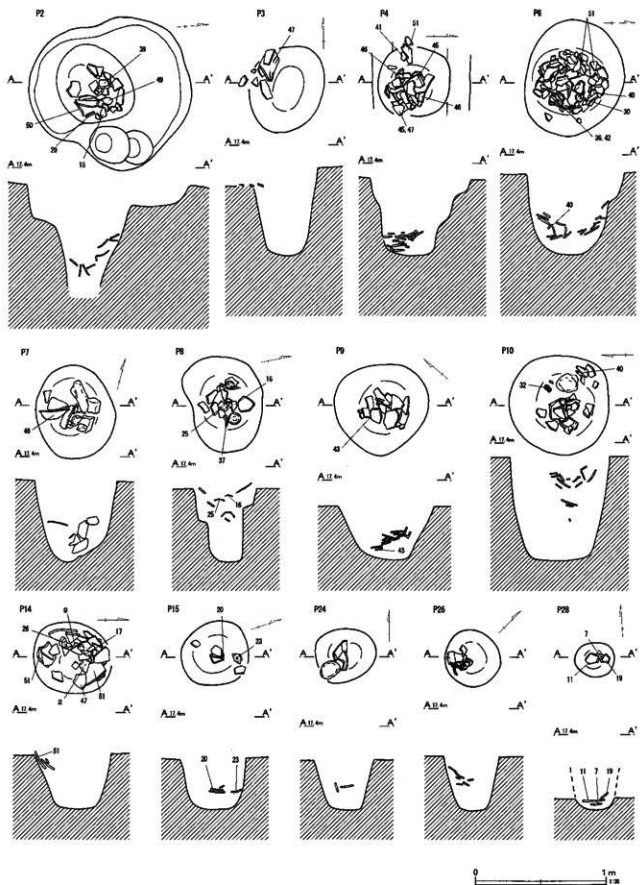
第124図 第2号掘立柱建物跡(4)

かった。

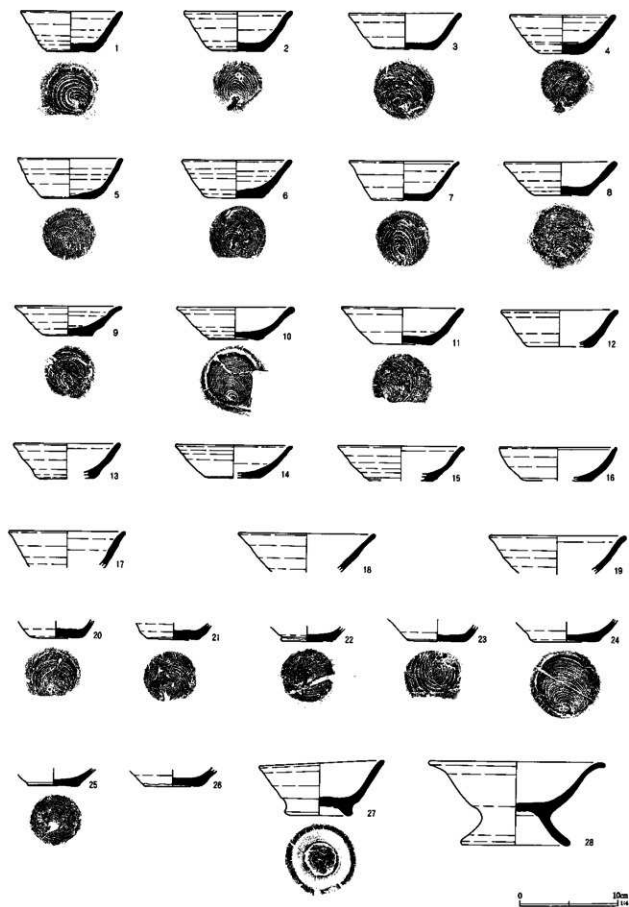
柱穴から出土している土器は小片が多く、図示できたものは第131図のとおりである。P1からは、緑釉陶器2点を含む土器片が出土している。

第5号掘立柱建物跡(第132・133図)

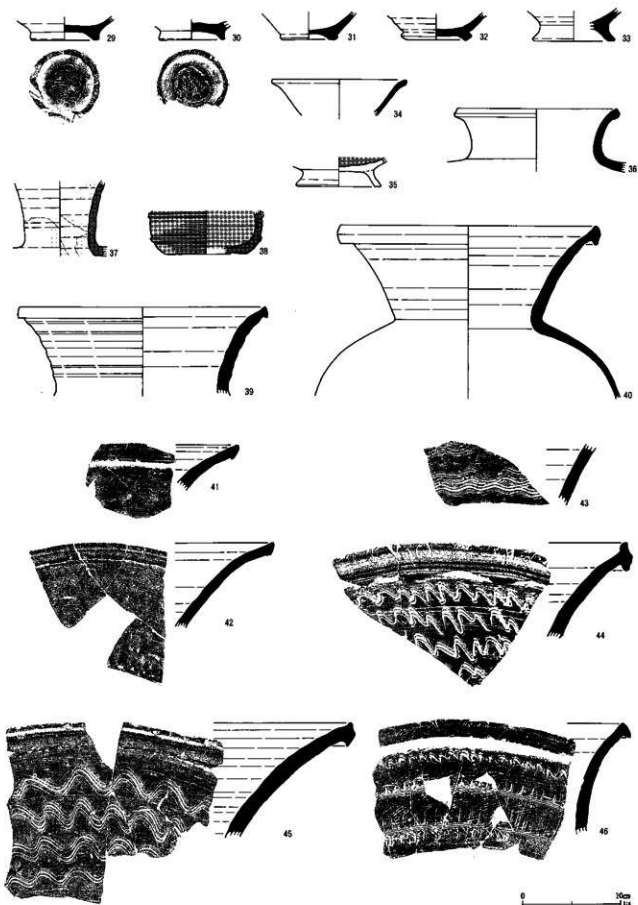
D-15~17、E-16・17グリッドに位置する。ピットは第1遺構面ですでに検出できた。第3・12・13号住居跡や、第18号溝跡と重複するが、いずれも建物跡より古い時期の遺構である。



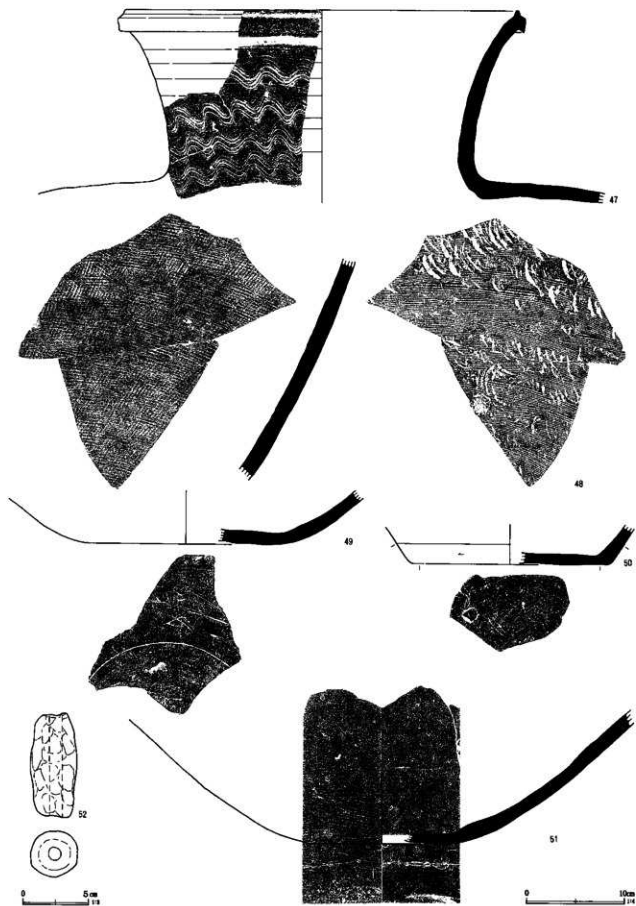
第125图 第2号掘立柱建物跡出土狀況



第126图 第2号掘立柱建物跡出土遺物(1)



第127图 第2号振立柱建物跡出土遺物(2)

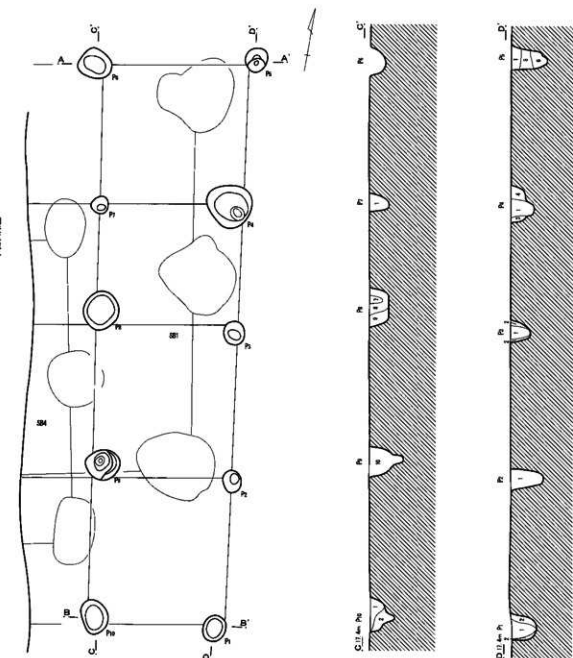


第128图 第2号掘立柱建物跡出土遺物(3)

第2号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第126・127・128図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	須恵器	坏	(10.4)	4.1	4.8	1/3	雲 石英 赤粒 白粒	普通	灰白、褐灰	P31	35
2	須恵器	坏	11.0	4.0	5.0	2/3	雲 石英 赤粒 白粒	普通	褐	P14	36
3	須恵器	坏	11.5	3.7	6.0	4/5	雲 角 長石 赤粒 白粒	普通	にぶい褐	P1	36
4	須恵器	坏	10.8	3.9	4.5	1/2	雲 長石 赤粒 白粒	普通	灰	P7	
5	須恵器	坏	10.8	4.0	4.8	4/5	雲 砂粒 赤粒 白粒	普通	橙	P22	36
6	須恵器	坏	11.2	3.8	5.8	2/3	雲 石英 砂粒 赤粒	良好	にぶい橙	P8	
7	須恵器	坏	11.2	4.0	5.4	2/3	雲 石英 赤粒	普通	にぶい橙	P28	36
8	須恵器	坏	11.5	3.4	5.5	2/3	雲 角 砂粒 赤粒	普通	灰白、褐灰	P9	
9	須恵器	坏	10.8	3.0	4.4	2/3	雲 長石 白粒	良好	褐灰	P14	初級痕 36
10	須恵器	坏	12.0	3.3	4.6	2/3	石英 白粒	良好	にぶい黄橙	P22	36
11	須恵器	坏	(12.5)	3.7	5.8	1/3	雲 角 長石 砂粒 白粒	普通	灰白、褐灰	P28	
12	須恵器	坏	(12.0)	3.7	(6.6)	1/4	雲 角 石英 赤粒 白粒	普通	橙、褐灰	P14	
13	須恵器	坏	(11.0)	[3.6]	(5.4)	破片	雲 角 砂粒 赤粒	普通	灰白、灰	P9	
14	須恵器	坏	(12.0)	3.3	(5.8)	破片	雲 角 赤粒	普通	にぶい橙	P15	
15	須恵器	坏	(13.0)	[3.5]	(6.6)	破片	雲 赤粒	普通	橙	P2	
16	須恵器	坏	(12.0)	3.4	(7.0)	1/4	角 石英 赤粒 白粒	良好	淡橙、灰褐	P8	
17	須恵器	坏	(12.0)	[3.6]		口縁破片	雲 赤粒 白粒	普通	淡黄、灰黄	P14	
18	須恵器	坏	(14.0)	[3.8]		口縁破片	雲 赤粒	不良	淡橙	P3	
19	須恵器	坏	(14.0)	[3.8]		破片	雲 片 角 長石 石英	普通	にぶい橙	P28	
20	須恵器	坏	[1.7]	4.0	底部2/3	雲 石英 赤粒 白粒	普通	灰褐	P15		
21	須恵器	坏	[1.5]	5.2	底部完形	赤粒 白粒	良好	灰白	P31		
22	須恵器	坏	[1.4]	5.2	底部	雲 長石 赤粒 白粒	普通	にぶい橙	P15		
23	須恵器	坏	[2.2]	5.8	底部4/5	雲 白粒	良好	褐灰	P15		
24	須恵器	坏	[2.1]	6.0	底部完形	雲 赤粒 針	普通	にぶい橙	P19		
25	須恵器	坏	[1.7]	5.0	底部	雲 角 砂粒 赤粒 白粒	普通	灰白	P8		
26	須恵器	坏	[1.6]	5.6	底部1/2	雲 片 角 長石 石英	不良	灰	P14		
27	須恵器	高台付埴	13.0	5.6	7.0	2/3	雲 長石 砂粒 赤粒	不良	にぶい橙	P8	36
28	須恵器	高台付埴	18.0	8.5	11.0	1/2	雲 角 長石 赤粒	普通	にぶい黄橙	P5	61
29	須恵器	高台付埴	[2.1]	7.0	底部	雲 角 赤粒 白粒	良好	暗褐	P2		
30	須恵器	高台付埴	[1.3]	6.8	底部	雲 長石 赤粒 白粒	普通	にぶい黄橙	P6		
31	須恵器	高台付埴	[2.6]	6.0	底部1/2	雲 片 長石 赤粒 白粒	不良	赤橙、赤灰	P2		
32	須恵器	高台付埴	[2.5]	7.0	1/2	雲 片 長石 石英 赤粒	普通	灰白、灰	P10		
33	須恵器	高台付埴	[2.9]	(8.5)	底部1/5	角 赤粒 針	普通	にぶい黄橙	P24		
34	須恵器	坏	(14.0)	[3.6]		破片	雲 赤粒 白粒 針	良好	暗褐	P12	瓦質
35	内黒土器	高台付埴	[2.6]	(8.8)	底部のみ	角 砂粒 赤粒 白粒	良好	淡橙、灰褐	P8		
36	須恵器	壺	(16.2)	6.4		破片	砂粒 黒粒 礫	良好	褐灰		
37	灰釉陶器	長頸瓶		[7.6]		破片	砂粒 黒粒	良好	灰	P8	東遠江
38	緑釉陶器	不明		[4.4]	(8.4)	破片	白粒 黒粒	良好	輪オリーブ黄		85
39	須恵器	甕	(45.0)	[9.0]		破片	長石 礫	良好	黄灰	豫投	
40	須恵器	甕	(26.0)	[17.5]		口1/3	雲 角 白粒	良好	灰、一部青黒	P2・6・10	61
41	須恵器	甕	(34.8)	[4.8]		口縁破片	長石 石英	良好	灰	P4	36
42	須恵器	甕	(42.0)	[8.4]		口縁一部	長石 石英	良好	灰	P6	SK23と接合
43	須恵器	甕		[6.4]		破片	長石	良好	灰	P9	
44	須恵器	甕	(58.2)	[9.6]		口縁破片	石英 礫	良好	灰	P1・22	
45	須恵器	甕	(55.8)	[11.6]		口縁一部	雲 長石	良好	暗灰	P4・14	
46	須恵器	甕	(41.4)	[11.2]		口縁破片	長石 礫	良好	黒	P4	36
47	須恵器	甕	(40.0)	[19.6]		口縁一部	白粒	普通	黒と灰白	P3・4・14SD3と接合	
48	須恵器	甕		[22.4]		破片	長石 石英	良好	暗灰	P7	
49	須恵器	甕		[5.3]	(20.0)	底部一部	石英 砂粒	普通	暗灰	P2	
50	須恵器	甕		[4.0]	(10.0)	底部一部	雲	良好	灰	P2	
51	須恵器	甕		[13.8]	(15.0)	底部破片	長石 針 礫	良好	灰	P4・6・14	
52	土製品	土鉢	幅3.5	長8.1	孔径1.0	完形	雲 赤粒	普通	褐	P23	瓦質

調査区域外



第3号独立柱建物跡

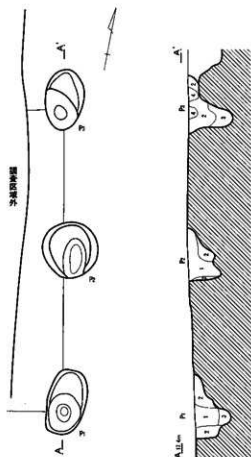
- | | | |
|----|------|--------------------------|
| 1 | 暗褐色土 | 黄褐色土粒了・粘土粒子・炭化物粒了少量 |
| 2 | 暗褐色土 | 黄褐色土ブロック・粘土・粘土粒子・炭化物粒子多量 |
| 3 | 暗褐色土 | 黄褐色土ブロック面状に混入。粘土粒子微量 |
| 4 | 暗褐色土 | 粘土粒子微量。黄褐色土粒子含む |
| 5 | 暗褐色土 | 黄褐色土粒子。粘土粒子含む。粘性あり |
| 6 | 暗褐色土 | 黄褐色土粒子微量。粘性あり |
| 7 | 灰褐色土 | 暗褐色土ブロック少量。粘性あり |
| 8 | 暗褐色土 | 黄褐色土ブロック多量 |
| 9 | 暗褐色土 | 黄褐色土粒子含む |
| 10 | 暗褐色土 | 黄褐色土ブロック多量。粘土少量 |

0 2m

第129図 第3号独立柱建物跡

桁行 5 間×梁行 2 間の建物で、規模は桁行13.35 m～13.68 m、梁行5.82 m～5.88 mである。桁方向は N-11°-W。柱間は桁行で2.25 m～3.03 m（平均2.70 m）、梁行で2.67 m～3.15 m（平均2.93 m）と、柱間の間隔が比較的に長いのが特徴的である。P5、P6で柱材が残存していた。

柱穴から出土した遺物のうち、図示できたものは、



第4号掘立柱建物跡
 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック・粒子、炭化物粒子、焼土粒子含少
 2 黄褐色土 黄褐色土ブロック・粒子多量、焼土粒子少量
 3 暗褐色土 黄褐色土粒子少量、粘性強い
 4 暗褐色土 黄褐色土粒子・焼土粒子・炭化物粒子微量

第130図 第4号掘立柱建物跡

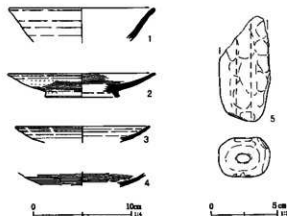
第134図のとおりである。土鍾以外は小片が多かったが、いずれも10世紀代に相当するものである。

第6号掘立柱建物跡（第135～138図）

E-15～17、F-15～17グリッドに位置する。第2・4号溝跡と重複するが、いずれも掘立柱建物跡よりも新しい。

母屋は桁行3間×梁行2間で、さらに4面に廂をもつ建物に復元した。棟持の部分が第4号溝跡と重複するため、梁行の各柱間は不明である。規模は廂を含めた桁行は14.34 m～14.61 m、梁行は10.35 m～10.47 m、母屋のみの桁行が9.48 m～9.51 m、梁行が5.55 m～5.70 mである。桁方向はN-1°-E。母屋の柱間は桁行が3.12 m～3.21 m（平均3.16 m）で、梁行の平均は2.81 mと、柱間の間隔が長い。母屋と廂の間隔は2.40 m～2.67 mで、廂の柱穴は母屋の柱穴と対応して並ぶ。柱材が残存していたピットは17基と他に比べて多い。

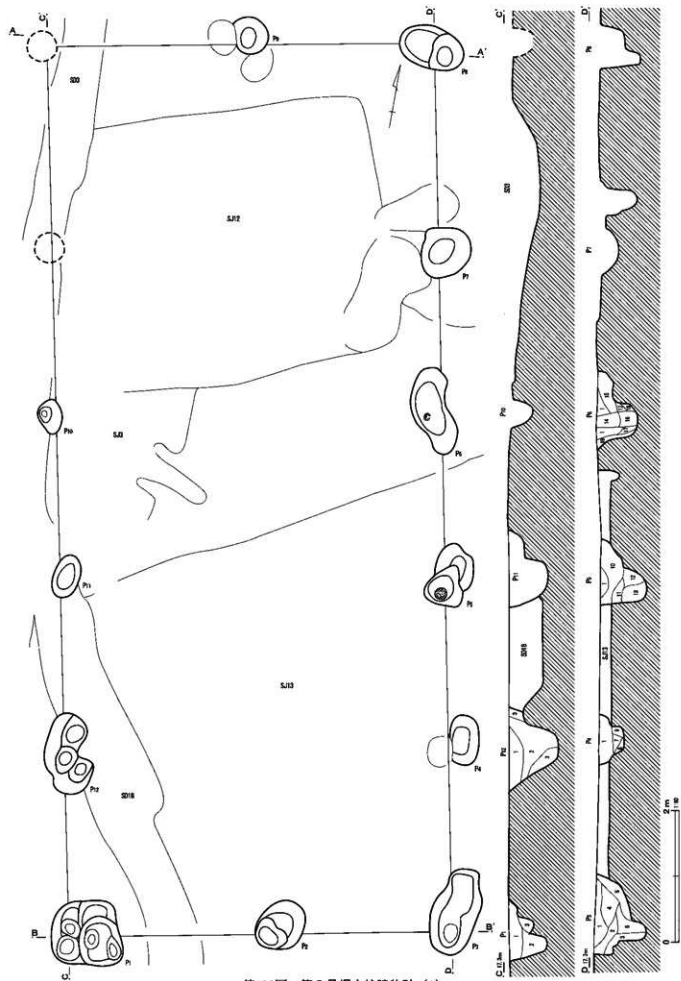
柱穴から出土した遺物のうち図示できたものは第139・140図のとおりである。5は土師器の甕または壺の底部の中央に、焼成後に穿孔を施しているもので、紡錘車として使用されたと推定する。6～8・



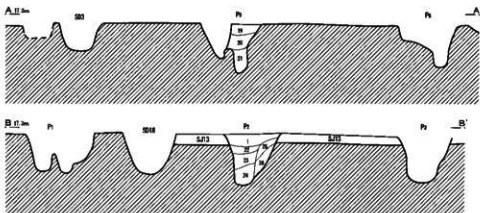
第131図 第4号掘立柱建物跡出土遺物

第4号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第131図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	須恵器	坏	(15.0)	[3.4]		破片	赤粒 白粒	良好	褐灰	P1	
2	緑輪陶器	皿	(14.8)	2.4	(7.6)	1/5	白粒 黒粒	普通	灰白	P1	猴投
3	緑輪陶器	皿	(13.7)	[1.7]		1/5	黒粒	良好	灰	P1	猴投
4	緑輪陶器	積皿		[1.4]		破片	白粒	良好	灰	P1	東濃
5	土製器	土鍾	幅3.9	長[7.9]	孔1.0	1/2	砂粒	普通	明褐色	P1	



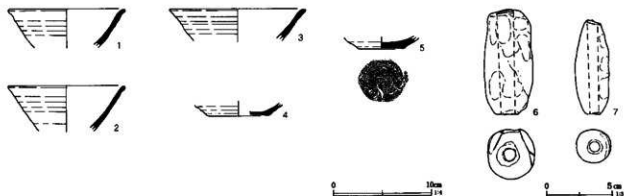
第132图 第5号掘立柱建物跡 (1)



第5号掘立柱建物跡

- | | | | |
|----------|-----------------------------|----------|---------------------------|
| 1 暗褐色土 | 炭化物粒子・粘土粒子・黄褐色土ブロック含む | 14 暗灰褐色土 | 黄褐色土粒子・粘土粒子・炭化物粒子少量 |
| 2 暗褐色土 | 黄褐色土多量。黄褐色土ブロック含む | 15 黄褐色土 | 黄褐色土粒子・ブロック多量。粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色土 | 黄褐色土ブロック多量 | 16 暗灰色土 | 黄褐色土粒子少量。粘性強い |
| 4 暗褐色土 | 黄褐色土ブロック断片に混入 | 17 暗褐色土 | 黄褐色土ブロック断片に混入。粘土粒子微量。粘性強い |
| 5 暗褐色土 | 炭化物層が断片に混入 | 18 暗褐色土 | 黄褐色土ブロック・粘土多量。粘性強い |
| 6 暗灰褐色土 | 黄褐色土ブロック少量。粘性強い | 19 黄褐色土 | 黄褐色土粒子含む |
| 7 暗灰褐色土 | 黄褐色土粒子・暗灰色粘質土含む。粘性強い | 20 黒褐色土 | 黄褐色土粒子少量 |
| 8 暗灰褐色土 | 黄褐色土粒子・ブロック・暗灰色粘質土・炭化物混入含む | 21 黒褐色土 | 粘性強い |
| 9 黄褐色土 | 暗灰色粘質土が断片に混入 | 22 暗褐色土 | 黄褐色土ブロック断片に混入。炭化物粒子含む |
| 10 黄褐色土 | 黄褐色土ブロック多量。粘土微量。暗灰色粘質土断片に混入 | 23 暗褐色土 | 黄褐色土断片に混入 |
| 11 暗灰色土 | 紫色土断片に混入。黄褐色土粒子・粘土粒子微量 | 24 灰褐色土 | 粘性強い |
| 12 暗灰色土 | 黒色粘質土少量。粘性強い | 25 暗褐色土 | 黄褐色土ブロック多量 |
| 13 黄灰褐色土 | 黄褐色土ブロック主体 | 26 暗褐色土 | 黄褐色土ブロック多量 |

第133図 第5号掘立柱建物跡 (2)



第134図 第5号掘立柱建物跡出土遺物

第5号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第134図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	須恵器	坏	(12.0)	[3.8]		破片	角 長石 白粒	普通	黄灰	P3	
2	須恵器	坏	(12.0)	[4.5]		破片	雲 片 角 白粒	普通	にぶい黄橙	P3	
3	須恵器	坏	(14.0)	[3.2]		破片	雲 片 長石	普通	明赤褐 灰褐	P3	
4	須恵器	坏		[1.1]	(6.0)	底部1/4	長石 白粒 針	良好	赤褐	P7	
5	須恵器	坏		[1.1]	4.6	底部完形	雲 角 赤粒	普通	にぶい黄橙	P4	スス付着
6	土製品	土罐	幅3.7	長7.9	孔1.0	完形	雲 赤粒	普通	淡橙・黒褐	P4	
7	土製品	土罐	幅2.7	長7.3	孔0.8	完形	雲 長石 石英 赤粒	普通	浅黄橙	P3	

10は柱材で、とくに残りの良いものを図化した。復元される柱の径は約15～20cmである。9は梯子の破片で、2段分が残っており、上下および片側面はそれぞれ欠損している。段の間隔は約40cm。

第7号掘立柱建物跡(第141・142図)

D-15-17、E-15-17グリッドに位置する。第13・19号住居跡や第5号掘立柱建物跡と重複し、住居跡は掘立柱建物跡よりも古いが、第5号掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。

桁行5間×梁行2間の縦柱建物として復元した。規模は桁行が14.13m～14.43m、梁行が4.92m～4.98mで、桁方向はN-0°。柱間は桁行で2.64m～3.27m(平均2.86m)、梁行で2.19m～2.79m(平均2.48m)である。P3で残存した柱材を検出した。

柱穴から出土した遺物は少量であるが、図示できたものは第143図のとおりである。底部糸切痕のある環と高台付塊が主体である。

第6号掘立柱建物跡と比較すると、桁行方向と柱間がほぼ同じで、柱穴の配置にも関連性がみられることから、これらの2軒の建物が同時期に並存していた可能性が高い。

第8号掘立柱建物跡(第146図)

E-17・18グリッドに位置する。

建物の東側が中世の第4号溝跡に切られているが、その溝の対岸に柱穴がみられないことから、桁行3間×梁行2間の建物であることが推定できる。規模

は桁行が7.20m、梁行が4.35mである。桁方向はN-5°-W。柱間は桁行で2.22m～2.58m(平均2.40m)、梁行で2.13m～2.37m(平均2.24m)である。

柱穴から出土した遺物は少量であるが、図示できたものは第144図のとおりである。底部糸切痕のある環と高台付塊が主体である。

建物の桁行方向や建物配置からみて、前述の第6・7号掘立柱建物跡とは違和感があるため、時期的にずれがあるものと考えられる。ただし出土物から新旧関係を推定するのは難しい。

第9号掘立柱建物跡(第147・148図)

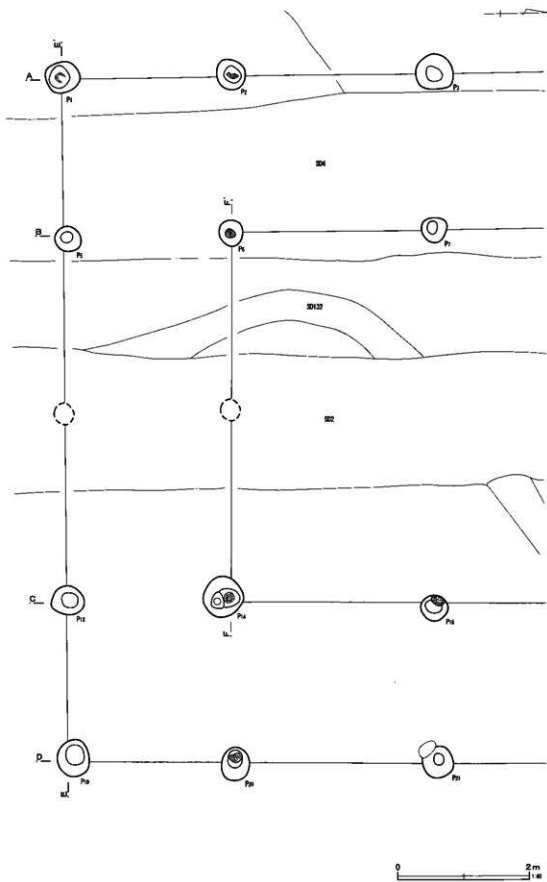
D-6・7、E-6・7、F-7グリッドに位置する。古墳時代の土器や木器が大量に出土した第80号溝跡から2mほど南にあり、溝の方向に沿って建てられているようである。第37号住居跡や第63・94号溝跡等と重複しているが、土層からみていずれも建物よりも古い時期の遺構である。

建物は桁行7間×梁行2間で、規模は桁行が17.10m～17.34m、梁行が4.56m～4.89mである。桁方向はN-73°-74°-W。柱間は桁行で2.07m～2.64m(平均2.46m)、梁行で2.28m～2.49m(平均2.36m)である。

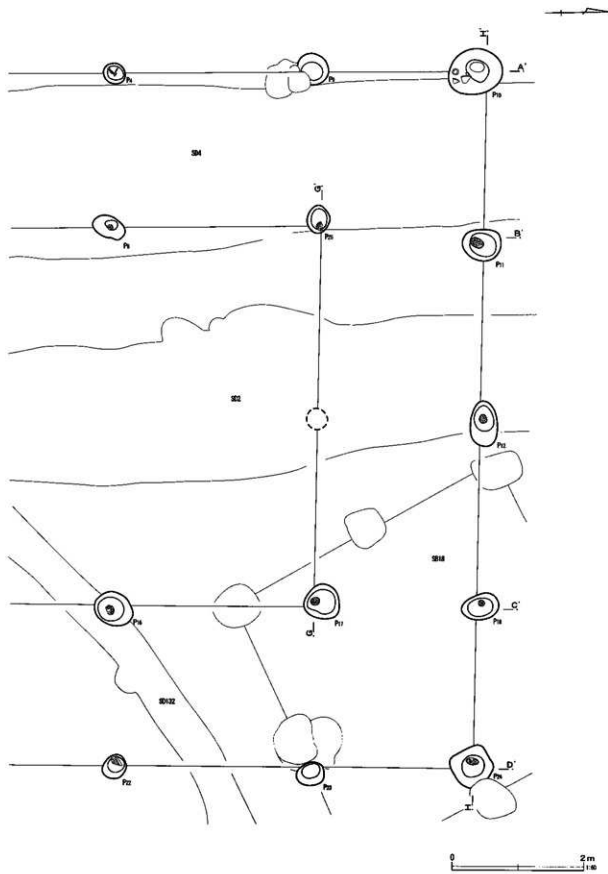
柱穴から出土した遺物は少量であるが、図示できたものは第145図のとおりである。4は滑石製の模造品で、下部は欠損しており全体の形態はわからないが、中間部でやや屈曲していることや、穿孔の位

第6号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第139・140図)

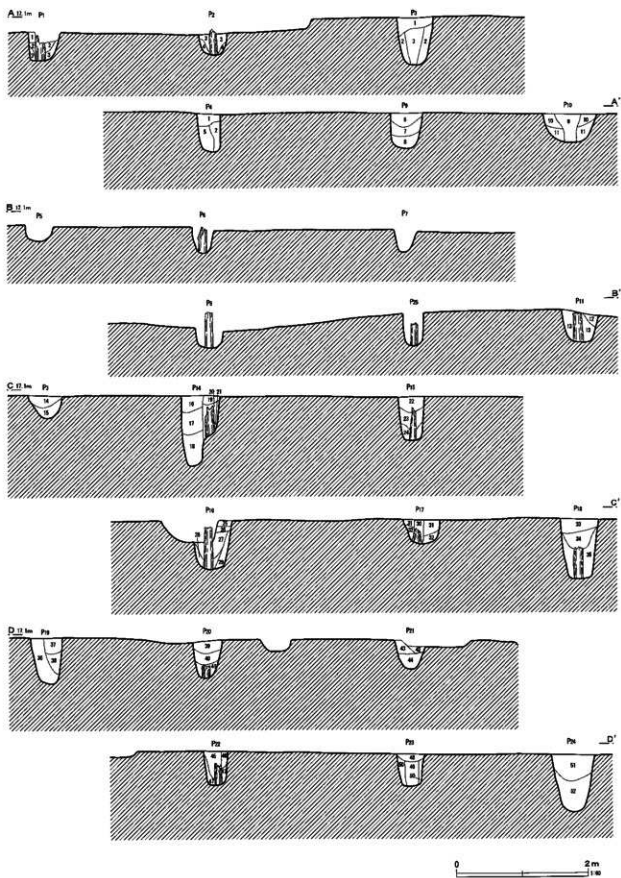
番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	須恵器	環	(14.0)	[3.0]		破片	雲 赤粒	不良	にぶい橙	P3	
2	須恵器	環	(14.0)	[3.1]		破片	雲 赤粒	不良	灰白	P3	
3	土師器	甕	(14.0)	[4.3]		口縁破片	雲 白粒	不良	にぶい橙	P3	
4	須恵器	甕	(42.5)	[6.0]		口縁破片	雲 角 白粒	良好	灰	P10	
5	土製品	紡錘車	厚(2.2)	底7.0		底部4/5	角 砂粒 赤粒 白粒	普通	にぶい橙	P10	土師器転用
6	木製品	柱	径15.7	長[50.0]						P15	101
7	木製品	柱	径16.8	長[58.0]		樹種	コナラ属コナラ 重属コナラ節			P16	101
8	木製品	柱	径20.3	長[60.8]		樹種	コナラ属コナラ 重属コナラ節			P24	101
9	木製品	梯子	幅11.7	長[96.5]	厚4.6	樹種	ヤマグワ			P12	101
10	木製品	柱	長21.2	長[70.5]	径14.0	樹種	クリ			P11	101



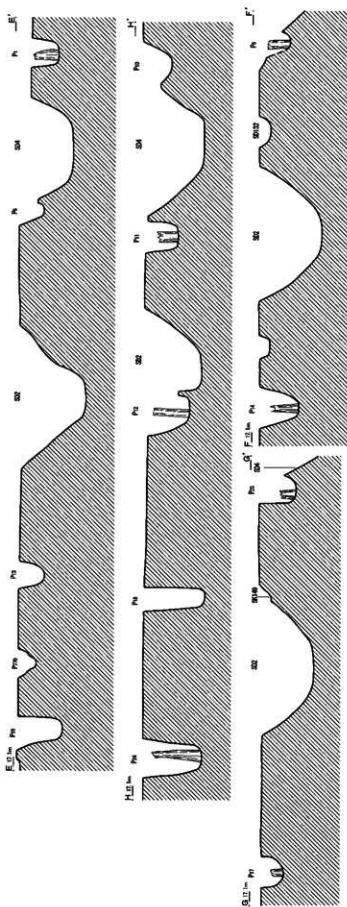
第135图 第6号独立柱建物跡(1)



第136图 第6号掘立柱建物跡(2)



第137图 第6号掘立柱建物跡 (3)

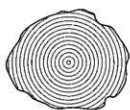
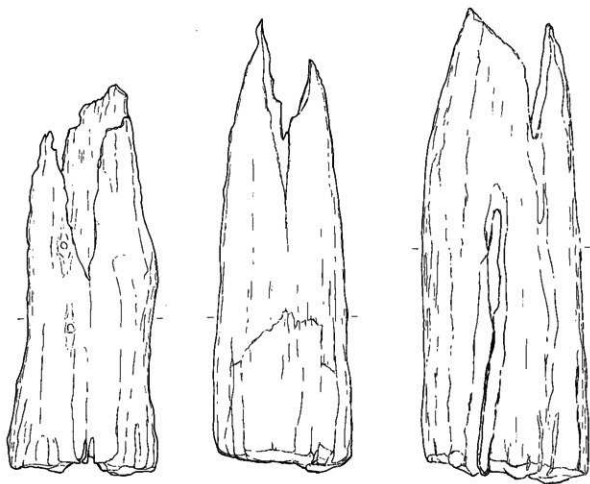
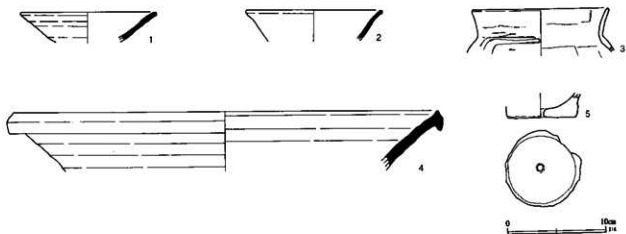


第6号竪立柱遺跡跡

- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量
- 2 暗赤褐色土 褐色土・黄褐色土ブロック多量
- 3 黒褐色土 シルト質
- 4 灰褐色土 粘土質
- 5 黒灰色土 灰化物粒子少量
- 6 暗褐色土 黄褐色土粒子・粘土粒子少量
- 7 暗褐色土 黄褐色土粒子・ブロック・青灰色土粒子含む
- 8 黄褐色土 黄褐色土粒子・ブロック・青灰色土粒子多量、粘性強い
- 9 暗灰色土 灰土粒子・灰化物粒子微量
- 10 暗褐色土 粘土粒子・灰化物粒子微量、褐色土粒子含む
- 11 暗灰色土 灰化物質少量、褐色土・青灰色土粒子少量
- 12 黄褐色土 黄褐色土ブロック多量
- 13 黒褐色土 青灰色粘質土粒子少量、粘性強い
- 14 暗褐色土 黄褐色土粒子含む
- 15 暗褐色土 やや粘性強い
- 16 黒褐色土 黄褐色土ブロック多量、粘土少量
- 17 黒褐色土 黄褐色土粒子含む、やや粘性強い
- 18 暗褐色土 黄褐色土粒子少量
- 19 暗褐色土 粘土粒子少量
- 20 暗褐色土 やや粘性強い
- 21 灰褐色土 粘性強い
- 22 暗褐色土 黄褐色土粒子少量
- 23 灰褐色土 砂粒少量、粘性強い
- 24 灰褐色土 青灰色土ブロック少量、粘性強い
- 25 黄褐色土 黒褐色土ブロック含む
- 26 暗褐色土 黄褐色土ブロック少量
- 27 暗褐色土 やや灰色所びる、粘性強い
- 28 暗赤褐色土 青灰色粘質土粒子少量、粘性強い
- 29 暗赤褐色土 黄褐色土ブロック多量
- 30 黒褐色土 粘性強い
- 31 灰褐色土 黄褐色土ブロック多量
- 32 灰褐色土 黄褐色土ブロック含む
- 33 暗赤褐色土 黄褐色土粒子少量
- 34 暗赤褐色土 粘性強い
- 35 暗褐色土 黄褐色土ブロック少量
- 36 暗褐色土 黄褐色土粒子多量、黒褐色粘質土多量
- 37 暗褐色土 黄褐色土粒子少量
- 38 暗褐色土 黄褐色土粒子少量、黒褐色粘質土多量
- 39 黒褐色土 灰褐色土ブロック少量
- 40 暗褐色土 やや粘性強い
- 41 暗褐色土 灰色粘質土少量、粘性強い
- 42 暗赤褐色土 黄褐色土粒子少量
- 43 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量
- 44 黒灰色土 黄褐色土粒子少量、粘性強い
- 45 暗褐色土 粘性強い
- 46 暗褐色土 青灰色・黄褐色土ブロック多量
- 47 暗褐色土 粘性強い
- 48 灰褐色土 黄褐色土ブロック含む、粘性強い
- 49 灰褐色土 黄褐色土ブロック少量、粘性強い
- 50 灰褐色土 黄褐色土ブロック多量、粘性強い
- 51 暗褐色土 灰化物質粒子・黄褐色土粒子微量
- 52 暗灰色土 青灰色粘質土粒子少量、粘性強い

0 2 m
1 m

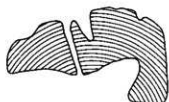
第138図 第6号竪立柱遺跡跡 (4)



6



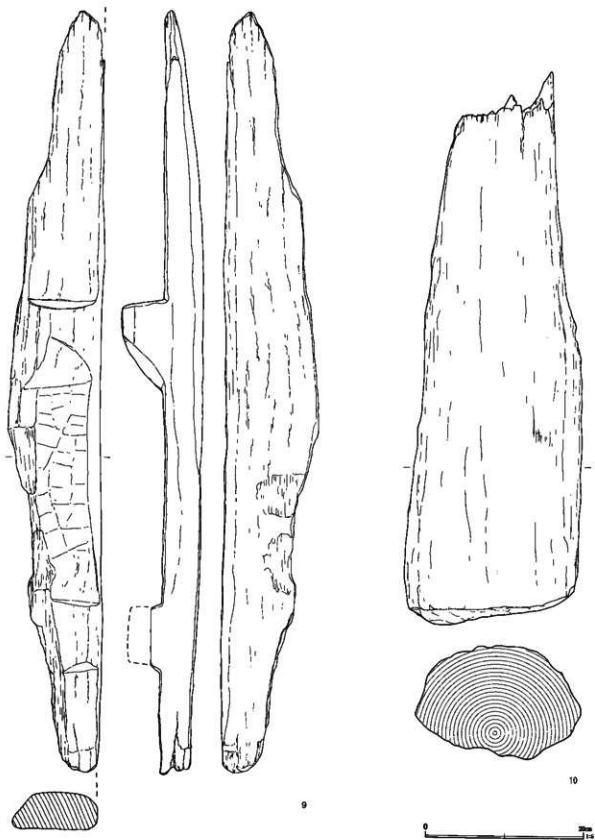
7



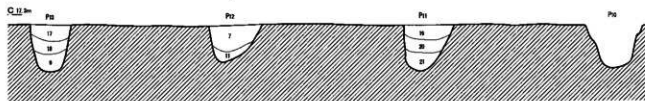
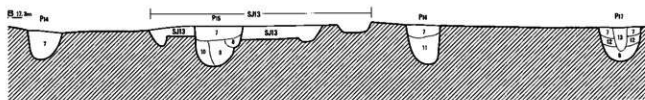
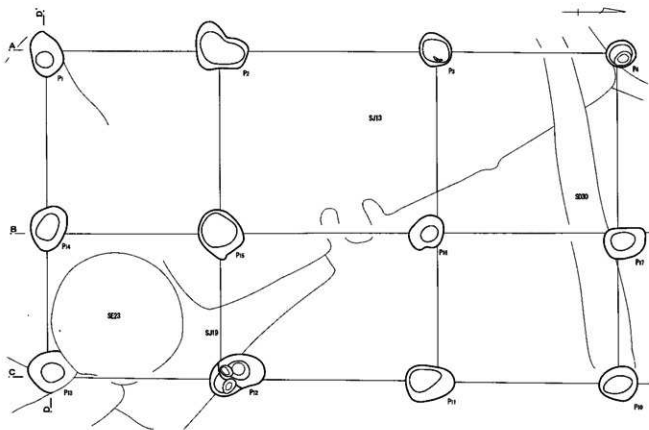
8



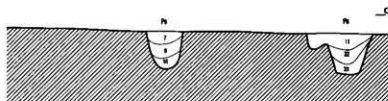
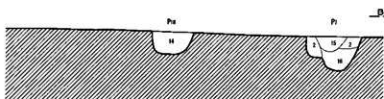
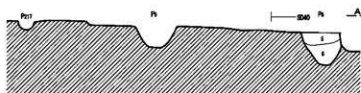
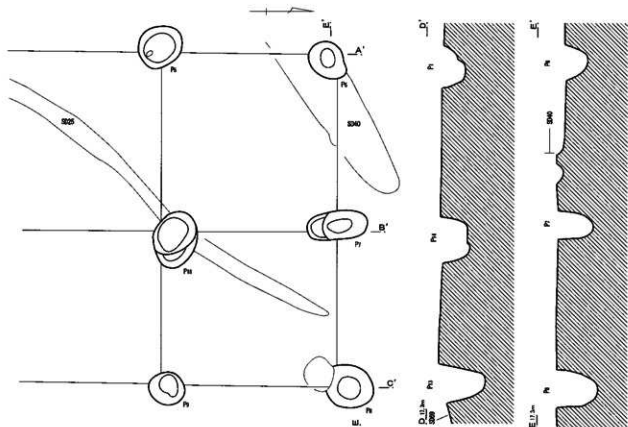
第139图 第6号掘立柱建物跡出土遺物(1)



第140图 第6号掘立柱建物跡出土遺物(2)



第141图 第7号掘立柱建物跡(1)

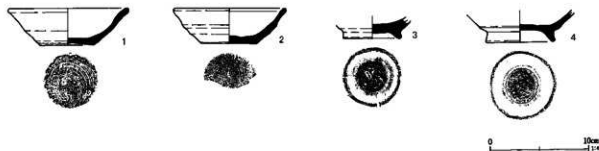


第7号掘立柱建物跡

- 1 灰色土 黄褐色土ブロック・粒子少量
- 2 灰色土 黄褐色土ブロック・粒子多量
- 3 灰色土 黄褐色土粒子少量
- 4 黄褐色土 黄褐色土粒子・焼土粒子微量、粘性強い
- 5 黄褐色土 炭化物粒子含む
- 6 黄褐色土 黄褐色土ブロック多量
- 7 黄褐色土 黄褐色土粒子・ブロック含む、炭土粒子・炭化物粒子少量
- 8 黄褐色土 黄褐色土ブロック主体
- 9 暗灰色土 黄褐色土粒子・焼土粒子微量、粘性強い
- 10 暗灰色土 黄褐色土粒子・ブロック多量、焼土粒子・炭化物粒子少量
- 11 黄褐色土 黄褐色土ブロック多量
- 12 黄褐色土 黄褐色土粒子含む、粘性強い
- 13 黄褐色土 黄褐色土粒子・ブロック多量
- 14 灰色土 黄褐色土ブロック多量
- 15 黄褐色土 炭化物粒子・黄褐色土ブロック多量
- 16 灰色土 粘性強い
- 17 黄褐色土 炭化物粒子まばらに混入、粘性強い
- 18 黄褐色土 黄褐色土・黒褐色土ブロック塊状に混入
- 19 黄褐色土 黄褐色土粒子含む
- 20 黄褐色土 黄褐色土粒子含む、粘性強い
- 21 黄褐色土 黄褐色土ブロック多量、粘性強い
- 22 黄褐色土 黄褐色土粒子含む
- 23 暗灰色土 黄褐色土粒子含む、粘性強い

0 2m
1:50

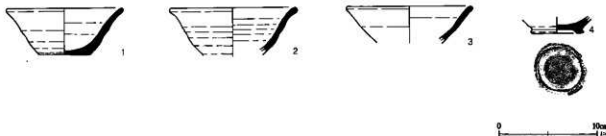
第142図 第7号掘立柱建物跡(2)



第143图 第7号掘立柱建物跡出土遺物

第7号掘立柱建物跡出土遺物觀察表 (第143图)

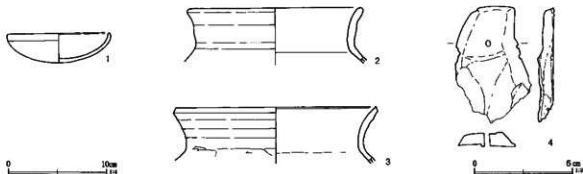
番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	須恵器	坏	12.4	3.7	5.4	完形	角 白粒 針	普通	灰白	P10	36
2	須恵器	坏	(11.5)	3.6	(5.8)	1/4	角 赤粒 白粒	普通	褐灰	P8	
3	須恵器	高台付埴		[1.8]	6.0	4/5	赤粒 白粒	普通	黒	P16	
4	須恵器	高台付埴		[2.8]	7.0	2/3	雲 角 白粒	普通	灰白	P11	



第144图 第8号掘立柱建物跡出土遺物

第8号掘立柱建物跡出土遺物觀察表 (第144图)

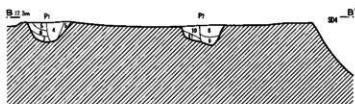
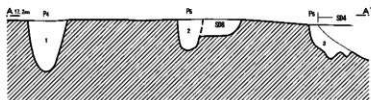
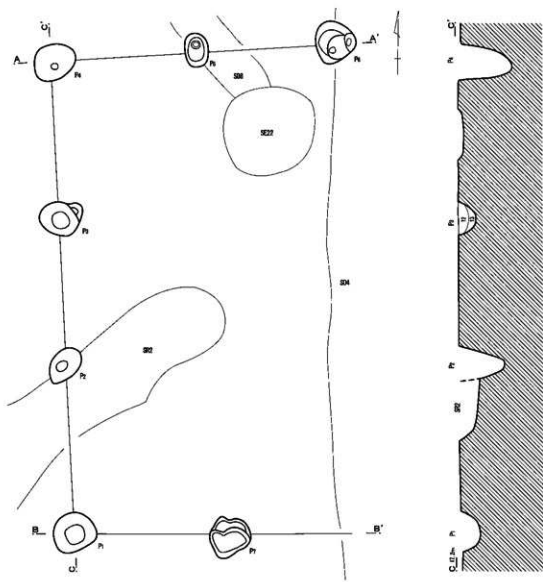
番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	須恵器	坏	(12.0)	4.7	(5.4)	1/4	赤粒 白粒	不良	浅黄橙	P4	
2	須恵器	坏	(13.0)	[4.7]		1/4	長石 砂粒 白粒	普通	灰白	P4	
3	須恵器	坏	(13.0)	[3.8]		破片	雲 白粒	普通	黒	P5	
4	須恵器	高台付埴	[1.5]	5.4		底部4/5	雲 角 白粒	普通	黒	P1	



第145图 第9号掘立柱建物跡出土遺物

第9号掘立柱建物跡出土遺物觀察表 (第145图)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	坏	10.6	3.0		1/2	雲 赤粒 白粒	不良	浅黄橙	P9 SB12P12と接合	37
2	土師器	甕	(18.0)	[5.4]		口縁1/3	角 砂粒 赤粒	普通	浅黄橙	P15	
3	土師器	甕	(21.0)	[5.5]		口縁1/4	雲 長石 赤粒 白粒	普通	浅黄橙	P12	
4	石製品	勾玉?	幅(3.8)	長[5.8]	厚(0.8)	1/3	滑石			P11 模造品	93

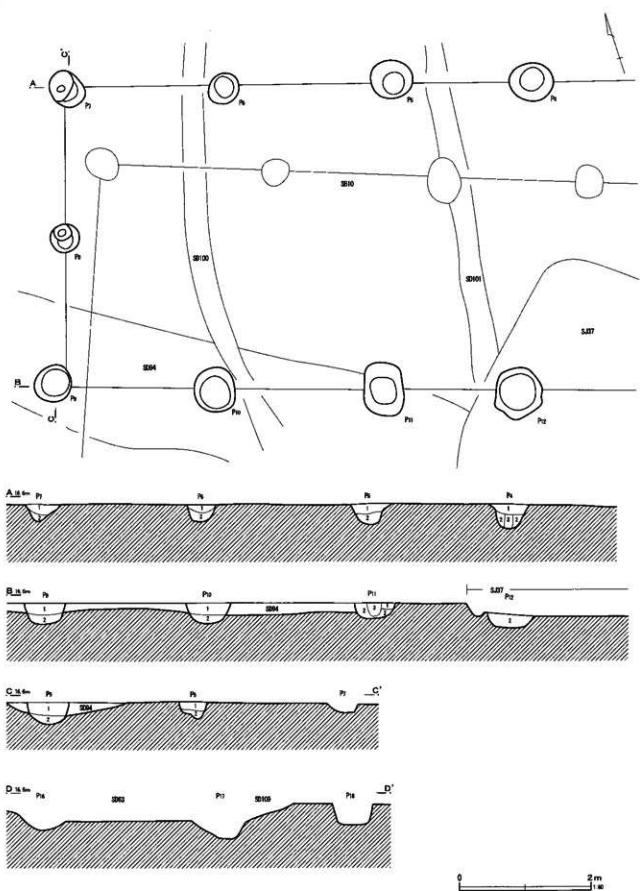


第8号掘立柱建物跡

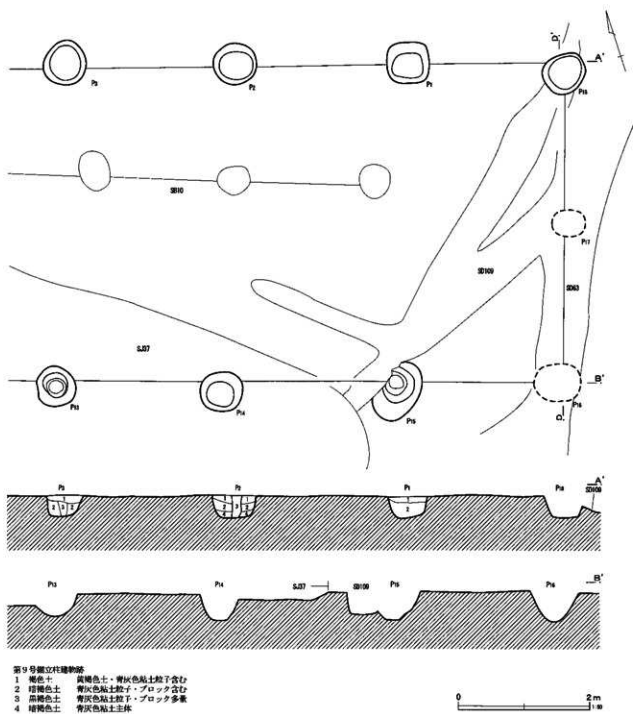
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・炭化物粒子含む
- 2 黒褐色土 黄褐色土ブロック少量、粘性強い
- 3 暗褐色土 黄褐色土粒子・ブロック含む
- 4 暗褐色土 黄褐色土粒子含む、粒土粒子・炭化物粒子多量
- 5 黄褐色土 黄褐色土粒子・ブロック多量
- 6 暗褐色土 黄褐色土粒子含む、粒土粒子・炭化物粒子少量
- 7 黄褐色土 黄褐色土土体、5層が粒状に混入
- 8 黒褐色土 黄褐色土粒子・粒土粒子・炭化物粒子含む
- 9 暗褐色土 黄褐色土粒子・炭化物粒子含む
- 10 暗褐色土 黄褐色土粒子・ブロック・炭化物粒子含む
- 11 黄褐色土 黄褐色土粒子多量
- 12 暗褐色土 黄褐色土粒子・ブロック含む
- 13 黄褐色土 黄褐色土粒子・ブロック多量

0 2m

第146図 第8号掘立柱建物跡



第147图 第9号据立柱建筑物迹 (1)



第148図 第9号獨立柱建物跡(2)

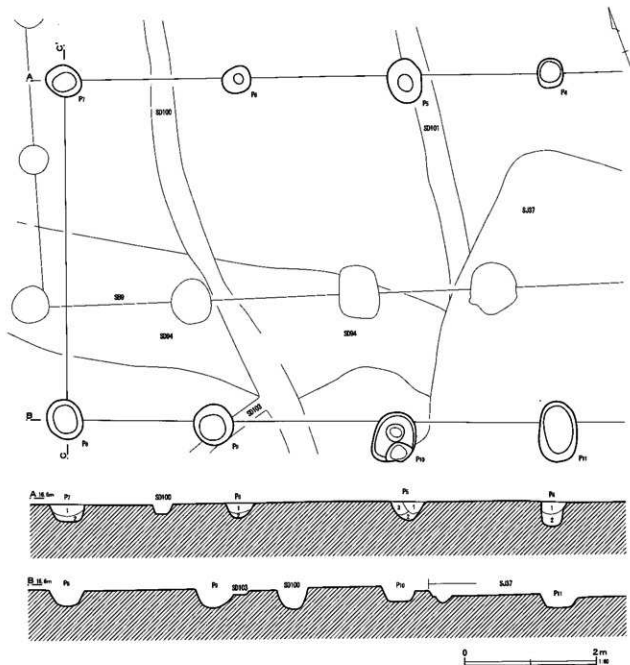
置等からみて勾玉と推定した。おそらく未製品であろう。

第10号獨立柱建物跡(第149・150図)

D-6・7、E-7、F-7グリッドに位置する。第80号溝跡とは約3mの隔たりがある。第37号住居跡と重複しているが、住居跡の方が古い時期である。

また第9号獨立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は遺構の確認状況からは不明である。

桁行は北側の柱列で6間分検出したが、南側の柱列では4間分しか検出できなかった。おそらく第9号獨立柱建物跡と同様、桁行7間×梁行2間の建物であった可能性が高い。規模は桁行推定16m前後、梁行5.19mで、桁方向はN-70°~71°-Wである。



第149図 第10号掘立柱建物跡 (1)

柱間は桁行で2.04m～2.64m (平均2.36m)、梁行で平均2.60mである。

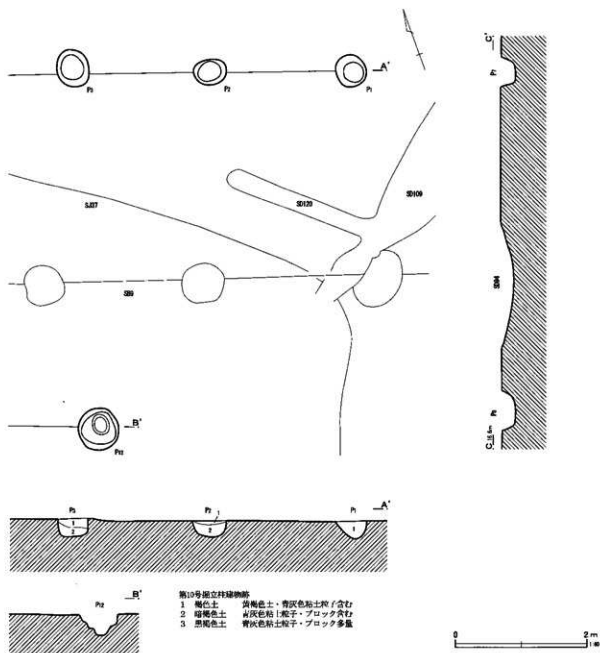
柱穴から出土した遺物は少量であるが、図示できたものは第151図のとおりである。わずかな資料なので明確ではないが、土器からみると第9号掘立柱建物跡よりも古い時期と考えられる。

第11号掘立柱建物跡 (第156図)

C-9・10グリッドに位置する。第24号住居跡と

重複するが、遺構の確認状況からみて、住居跡の方が古い時期の遺構である。その他の重複する第16号溝跡や第97号土壇、第41号井戸跡等との新旧関係は確認できなかった。

2間×2間の総柱建物で、規模は桁行4.26m～4.35m、梁行4.14mである。桁方向はN-42°-W。柱間は桁行で2.10m～2.19m (平均2.15m)、梁行で2.07mであり、柱間がほぼ均等である。柱穴の規模も均一性が高い。

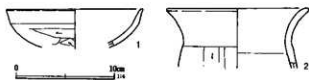


第150図 第10号掘立柱建物跡 (2)

柱穴からは遺物はほとんど出土しなかったが、耳環が2点出土している (第155図)。

第12号掘立柱建物跡 (第152・153図)

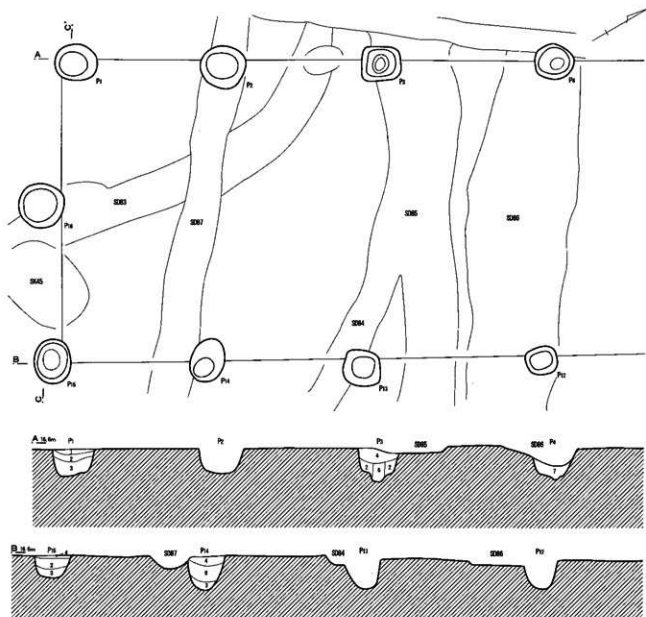
E-8・9、F-7~9グリッドに位置する。第



第151図 第10号掘立柱建物跡出土遺物

第10号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第151図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	坏	(14.0)	[3.9]		破片	赤粒 白粒	普通	橙		
2	土師器	甕	(14.5)	[6.0]		口縁破片	黄 長石 赤粒 白粒	普通	にぶい橙	P10	



第152図 第12号掘立柱建物跡 (1)

85~87・94号溝等が重複しているが、土層観察からはその前後関係は確認できなかった。

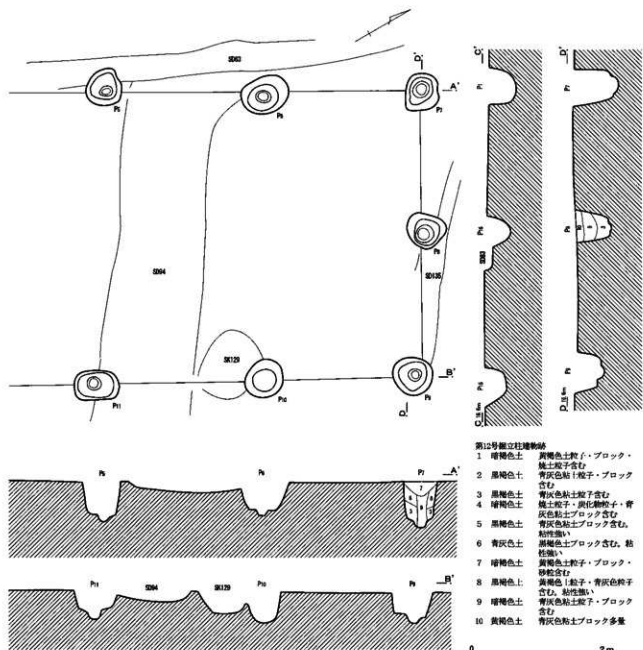
建物は桁行6間×梁行2間で、規模は桁行14.97m~15.15m、梁行4.35m~4.65mである。桁方向はN-29°~30°-E。柱間は桁行で2.22m~2.88m(平



第154図 第12号掘立柱建物跡出土遺物

第12号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第154図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎上	焼成	色調	出土位置・備考	図版	
1	土師器	坏	(10.0)	[4.0]		1/3	雲長石赤粒	白粒	普通	浅黄橙	P 11	37
2	土師器	坏	(12.0)	[1.8]		破片	雲白粒		不良	橙	P 11	



第12号独立柱建物跡

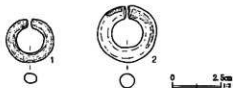
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒・ブロック・焼土粒子含む
- 2 黒褐色土 青灰色粘土粒子・ブロック含む
- 3 黒褐色土 青灰色粘土粒子含む
- 4 暗褐色土 焼土粒子・炭化植物子・青灰色粘土ブロック含む
- 5 黒褐色土 青灰色粘土ブロック含む、粘性強い
- 6 青灰色土 黒褐色土ブロック含む、粘性強い
- 7 暗褐色土 黄褐色土粒子・ブロック・砂粒含む
- 8 黒褐色土 黄褐色土粒子・青灰色粘土含む、粘性強い
- 9 暗褐色土 青灰色粘土粒子・ブロック含む
- 10 黄褐色土 青灰色粘土ブロック多量

第153図 第12号独立柱建物跡(2)

均2.51m)、梁行で2.13m~2.37m(平均2.25m)である。柱材が残存している柱穴はなかった。

柱穴から出土した土器は少なかったが、図示できたものは第154図のとおりである。

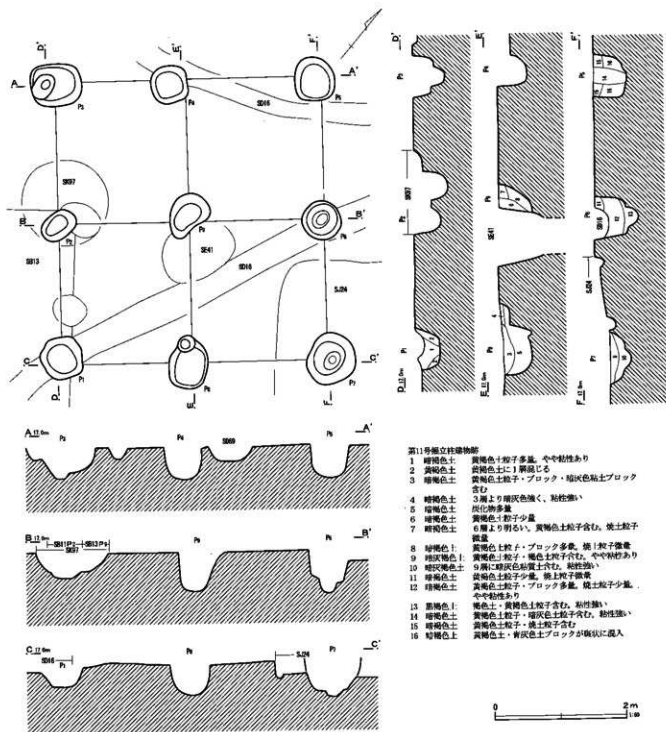
建物方向が第9・10号独立柱建物跡とは、ほぼ直



第155図 第11号独立柱建物跡出土遺物

第11号独立柱建物跡出土遺物観察表(第155図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	鉄製品	耳環	外径2.4	厚0.4			鉄地金銅張			P5	95
2	鉄製品	耳環	外径3.0	厚0.8			鉄地銀張			P6	95



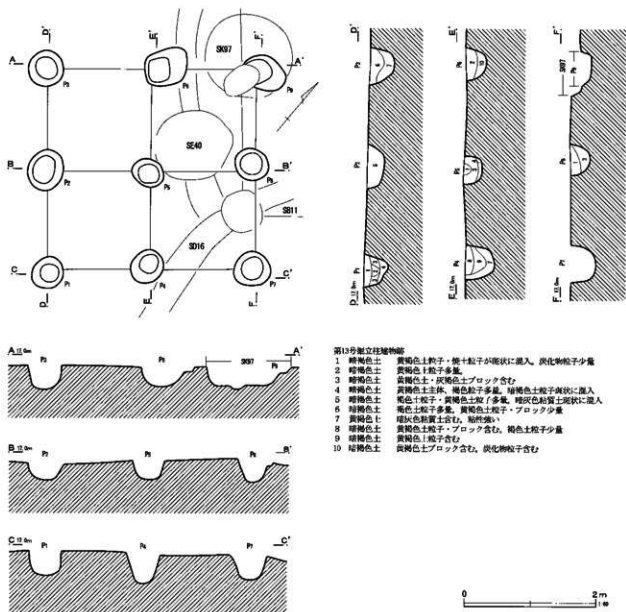
第156図 第11号掘立柱建物跡

角となっており、建物全体の規模や柱穴の大きさ、柱間の長さなどに共通点がみられる。出土した土器の時期も近接していることから、第80号溝跡とともに有機的な関連性があると推定できる。

第13号掘立柱建物跡（第157図）

C-10グリッドに位置する。第11号掘立柱建物跡とはP9が重複している。ただし土層観察を十分に行うことができなかったため、新旧関係は確認できなかった。

桁行2間×梁行2間の総柱建物で、規模は桁行3.21m、梁行3.18m～3.21mである。桁方向はN-1



第157図 第13号独立柱建物跡

40°-W。柱間は桁行で1.59m～1.62m（平均1.60m）、梁行で1.59m～1.62m（平均1.60m）である。また柱穴の規模は均一性が高い。柱材の残存はみられなかった。

建物構造や方向は第11号独立柱建物跡と同様であるが、全体の規模はやや小さい。

柱穴からは遺物はほとんど出土せず、図示できるものはなかった。

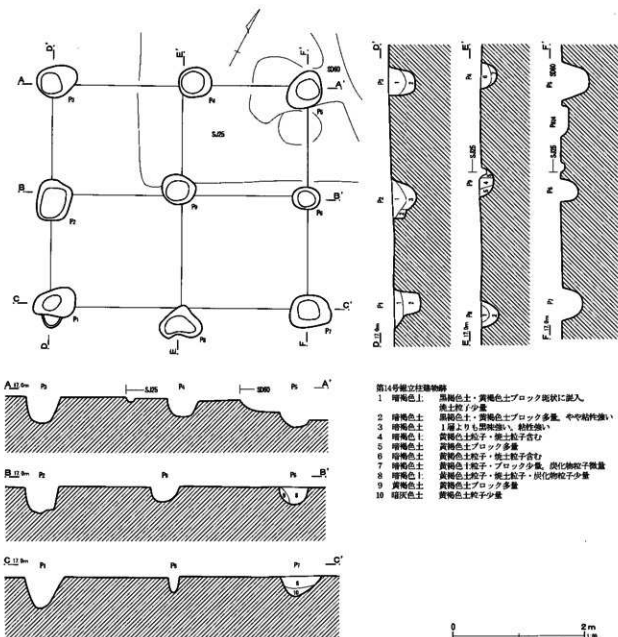
第14号独立柱建物跡（第158図）

D-11・12グリッドに位置する。第25号住居跡と

重複しているが、確認時の状況から住居跡の方が古い時期の遺構と推定した。また第17号独立柱建物跡とはP5が重複しているが、土層観察ができなかったため、新旧関係を確認することはできなかった。

桁行2間×梁行2間の総柱建物で、規模は桁行3.87m～3.93m、梁行は3.36mである。桁方向はN-63°-E。柱間は桁行で1.92m～1.98m（平均1.95m）、梁行で1.68mである。柱材の残存する柱穴はみられなかった。

柱穴から出土した遺物はほとんどなく、図示できるものはなかった。



第158図 第14号掘立柱建物跡

第15号掘立柱建物跡 (第159図)

E・F-10グリッドに位置する。第34・42号住居跡と重複しているが、遺構の確認状況からみて、住居跡の方が古い時期の遺構と推定された。

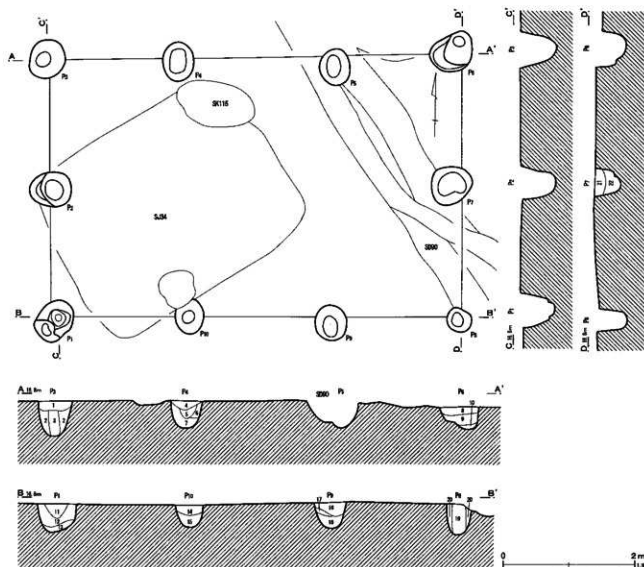
建物は桁行3間×梁行2間で、規模は桁行6.12m～6.27m、梁行3.90m～4.02mである。桁方向はN-87°-88°-E。柱間は桁行で1.95m～2.37m（平均2.07m）、梁行で1.92m～2.01m（平均1.98m）でばらつきが少ない。柱材が残存している柱穴は検出しなかった。

柱穴から出土した土器はほとんどなく、図示できるものはなかった。

第16号掘立柱建物跡 (第161・162図)

D-11・12、E-11グリッドに位置する。第26・41号住居跡や第4・57号溝跡等と重複するが、遺構の確認状況から住居跡の方が古く、第4号溝跡の方が新しいことがわかった。第57号溝跡については前後関係が不明である。

建物は桁行3間×梁行3間で、規模は桁行が7.02



- 第15号掘立柱建物跡
- 1 暗灰色土 焼土粒子・褐色土粒子・炭化物粒子・黄褐色土粒子少量
 - 2 暗灰色土 黄褐色土粒子少量
 - 3 暗灰色土 焼土粒子微量。黄褐色土・青灰色土少量。粘性強い
 - 4 暗褐色土 青灰色ブロック微量
 - 5 暗褐色土 青灰色ブロック多量
 - 6 暗褐色土 青灰色ブロック少量
 - 7 黒褐色土 粘性強い
 - 8 黒褐色土 炭化物粒子・褐色土粒子少量。粘性強い
 - 9 暗灰色土 炭化物粒子・青灰色和黄土粒少量。粘性強い
 - 10 青灰色土 青灰色和黄土粒。褐色土粒子含む。粘性強い
 - 11 暗灰色土 褐色土粒子・灰褐色土粒子少量。粘性強い

- 12 暗灰色土 青灰色土粒子含む。粘性強い
- 13 青灰色土 褐色土粒子含む。粘性強い
- 14 暗灰色土 焼土粒子微量。青灰色土粒子少量
- 15 暗灰色土 褐色土粒子少量。青灰色土粒子少量
- 16 暗褐色土 青灰色土粒子・焼土粒子含む
- 17 青灰色土 地山の崩落土
- 18 黒褐色土 青味あり。粘性強い
- 19 暗灰色土 褐色土粒子含む。炭化物粒子微量。粘性強い
- 20 暗灰色土 褐色土粒子・黄褐色土粒子含む
- 21 暗褐色土 褐色土粒子多量。焼土粒子・炭化物粒子少量
- 22 暗灰色土 褐色土粒子多量

第159図 第15号掘立柱建物跡

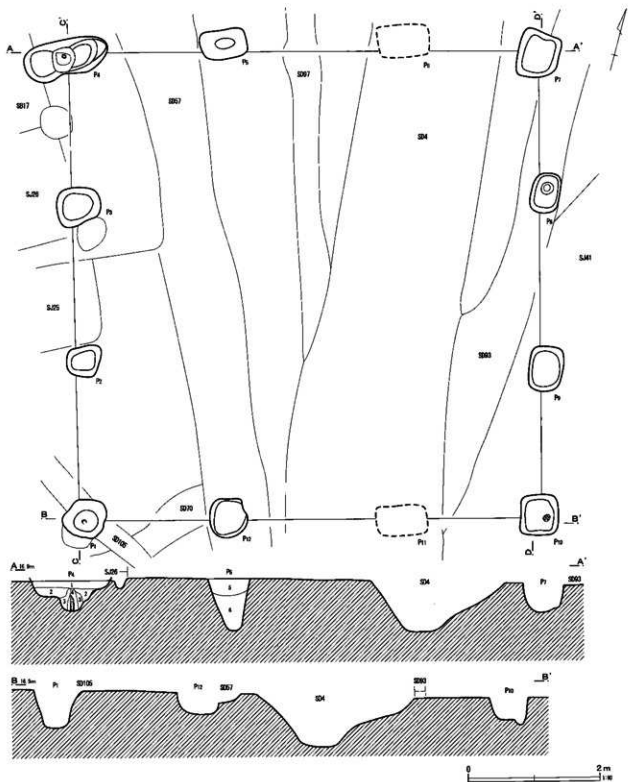
m~7.26m、梁行が7.11mである。桁方向はN-74°~75°-E。柱間についてはP6とP11が第4号溝跡で削られているので、正確な規模は把握できないが、桁行で平均2.38m、梁行で2.16m~2.67m(平均2.37m)である。P4とP10で柱材が残存していた。い



第160図 第16号掘立柱建物跡出土遺物

第16号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第160図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	坏	(12.0)	[3.9]		1/4	雲角赤粒白粒	普通	にぶい赤褐	P7 粗製	



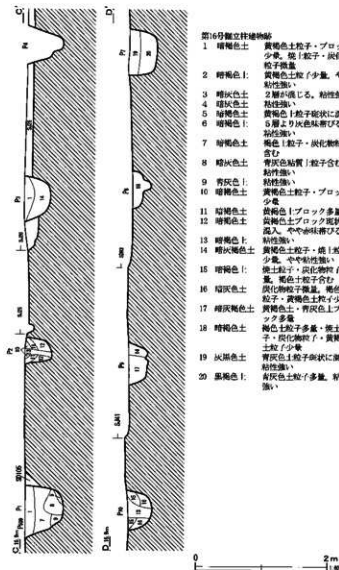
第161図 第16号掘立柱建物跡(1)

ずれも根元がわずかに残っていただけであった。

柱穴から出土した遺物は少なく、図示できたのは第160図のように、粗製の土師器杯が1点のみであった。全体につくりが粗く、器壁も厚い。

第17号掘立柱建物跡(第163図)

D・E-11グリッドに位置する。第25・26号住居跡と重複するが、遺構確認状況からみて住居の方が古い時期の遺構である。



第162図 第16号掘立柱建物跡 (2)

桁行2間×梁行2間の総柱建物で、規模は桁行で3.72m、梁行で3.15m～3.18mである。桁方向はN-32°-W。柱間は桁行で1.83～1.89m（平均1.85m）、梁行で1.50m～1.68m（平均1.58m）である。柱材が残存している柱穴はなかった。

柱穴から出土した遺物はほとんどなく、図示できるものはなかった。

第18号掘立柱建物跡 (第165図)

F-15・16、G-15グリッドに位置する。第6号掘立柱建物跡と重複しているが、遺構確認状況からは前後関係は不明である。

桁行2間×梁行2間の総柱建物で、規模は桁行で4.53m～4.56m、梁行で4.38m～4.50mである。桁方向はN-26°-W。柱間は桁行で2.13m～2.40m（平均2.27m）、梁行で2.16m～2.28m（平均2.22m）である。柱材が残存している柱穴はなかった。

柱穴から出土した遺物は少ないが、図示できたものは第164図のとおりである。2の須恵器器縁は頸部以上が欠損しているが、胴部はほぼ全体が残っていた。欄楯の列点文をめぐるし、穿孔の部分は粘土を貼りつけて盛り上げている。頸部はかなり引き締まっているので、口縁は大きく開く形態のものであろう。

第19号掘立柱建物跡 (第166図)

C-13・14グリッドに位置する。第20号住居跡と重複しているが、調査時の観察から、住居跡の方が古い時期の遺構と推定された。他に重複する第91・92号土壌等との前後関係は確認できなかった。

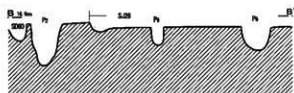
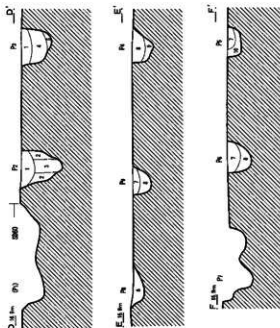
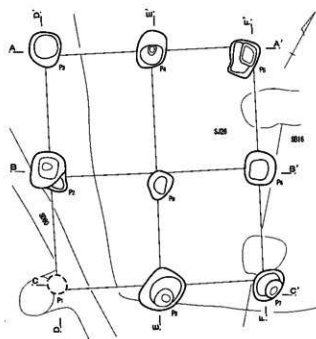
建物は桁行2間×梁行2間で、規模は桁行で4.89m～5.19m、梁行で4.29m～4.50mである。桁方向はN-1°-W。柱間は桁行で2.28m～2.85m（平均2.52m）、梁行で2.04m～2.34m（平均2.20m）である。柱材が残存している柱穴はなかった。

柱穴から出土した遺物はほとんどなく、図示できるものはなかった。

第20号掘立柱建物跡 (第167図)

F・G-18グリッドに位置する。建物の南側は平成14年度調査区になり、また東側は調査区域外となるため、建物規模については不明である。第21号掘立柱建物跡とは、桁行方向が直行して重複している。

桁行は4間以上、梁行は2間以上であることしか確認できなかった。桁方向はN-83°-E。桁行柱間は2.46m～3.18m（平均2.69m）、梁行の柱間は2.19



第17号掘立柱建物跡

- 1 暗褐色土 灰褐色土・黄褐色土ブロック製成に混入。焼土粒子少量
- 2 暗褐色土 1層より厚み薄び、ブロック大きい
- 3 暗褐色土 暗褐色土ブロック多量、粘性強い
- 4 黄褐色土 黄褐色粒子・焼土粒子含む、粘性強い
- 5 黄褐色土 黄褐色土と4層の混合、粘性強い
- 6 暗褐色土 黄褐色土粒子少量
- 7 暗褐色土 黄褐色土粒子・ブロック含む、炭化物粒子少量
- 8 暗褐色土 黄褐色土粒子・褐色土粒子含む、粘性強い
- 9 暗褐色土 黄褐色土ブロック少量、やや粘性強い
- 10 暗褐色土 黄褐色土粒子多量



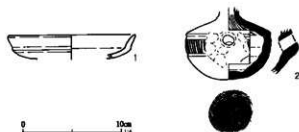
第163図 第17号掘立柱建物跡

mであった。

柱穴からは土器がほとんど出土せず、図示できるものはなかった。

第21号掘立柱建物跡 (第168図)

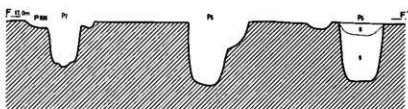
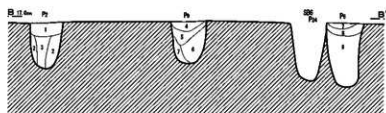
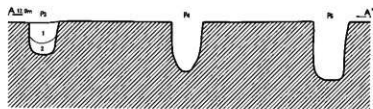
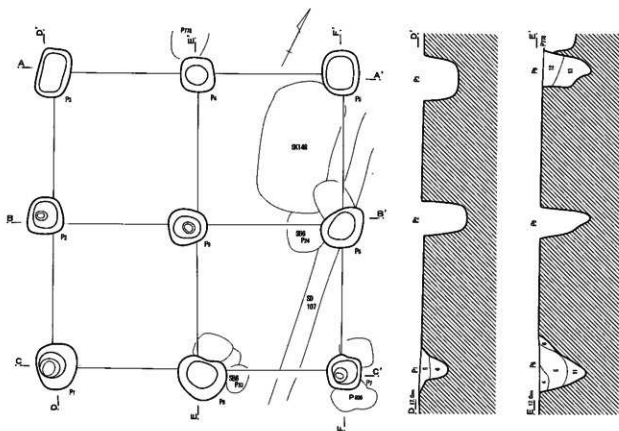
G-17・18グリッドに位置する。建物南側は平成



第164図 第18号掘立柱建物跡出土遺物

第18号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第164図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	土師器	坏	(13.0)	[2.4]		破片	雲角白粒	普通	橙	P5	
2	須恵器	球		[4.6]		1/4	白粒	良好	灰白(自然粒)	P5	77

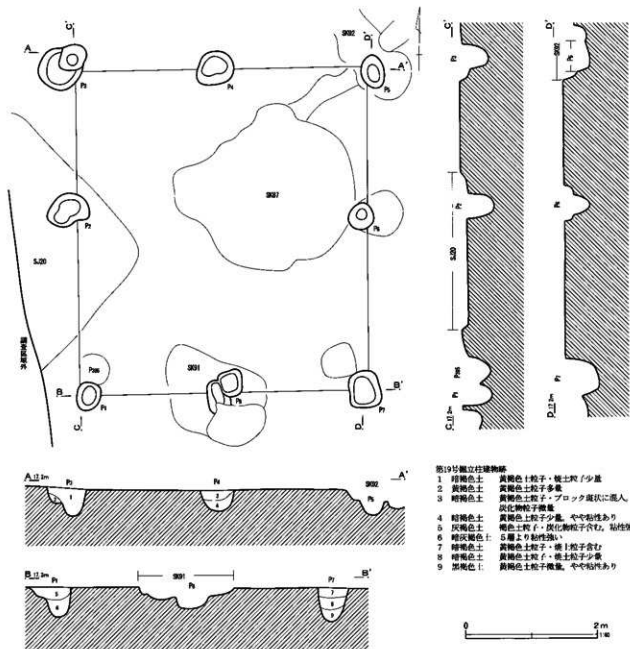


第18号独立柱建物跡

- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック痕跡に混入、
黒褐色土粒子・ブロック少量
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量、
やや粘性あり
- 3 暗褐色土 1層より灰色雜質びる、粘性強い
- 4 灰褐色土 黄褐色土粒子・塵土粒子含む
- 5 灰褐色土 黄褐色土ブロック多量
- 6 灰褐色土 粘性強い
- 7 灰褐色土 6層より黄色雜質びる、粘性強い
- 8 暗褐色土 黄褐色土粒子少量
- 9 暗褐色土 8層より黒雜質びる、
黄褐色土粒子少量
- 10 暗褐色土 黄褐色土粒子少量
- 11 灰褐色土 黄褐色土ブロック、粒子多量
- 12 暗褐色土 黄褐色土粒子多量、灰化物粒子微量
- 13 暗褐色土 黄褐色土粒子少量、粘性強い



第165図 第18号独立柱建物跡

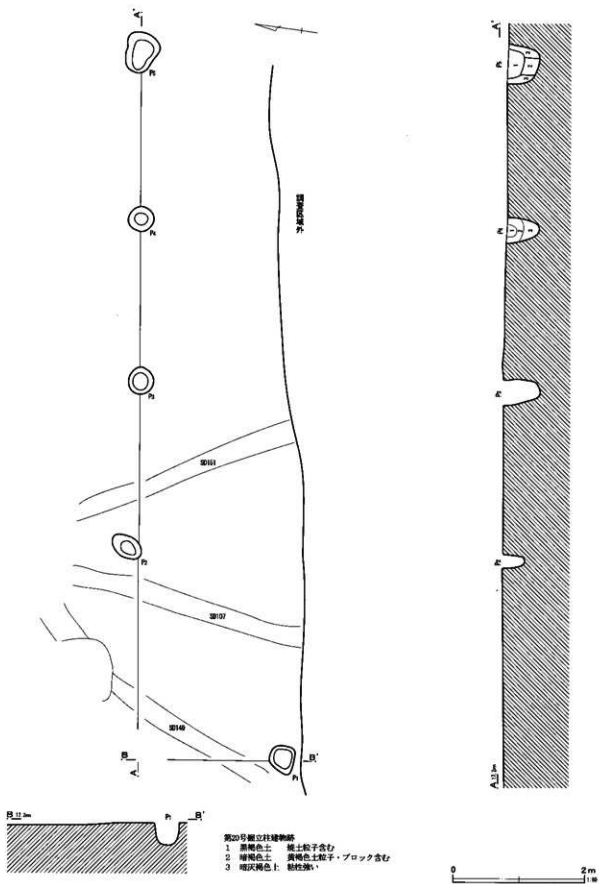


第166図 第19号掘立柱建物跡

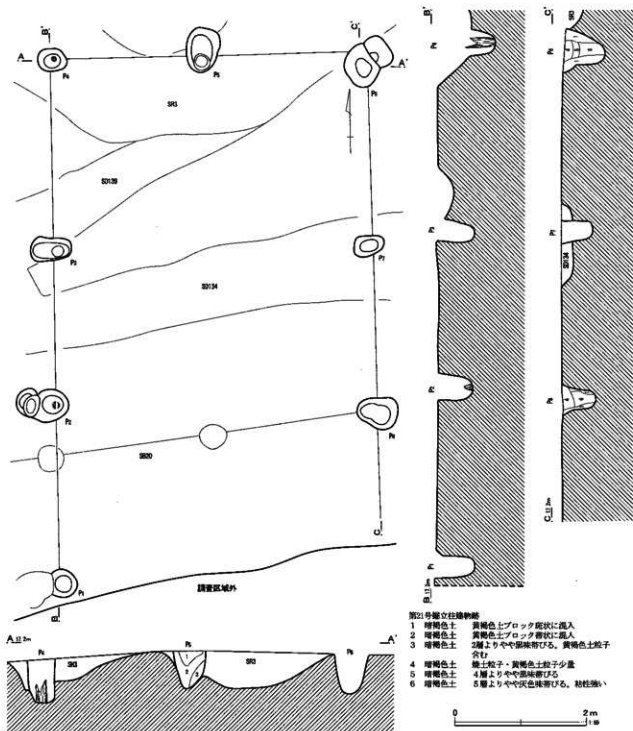
14年度調査区となるため、桁行の規模は不明である。重複する第3号方形周溝墓や第134号溝跡は、いずれも建物跡よりも古い時期の遺構である。第20号掘立柱建物跡とは桁行方向が直交して重複している。前後関係は確認できなかった。

建物は桁行が約8m以上、梁行で4.71m。桁方向はN-1°-W。柱間は桁行で2.34m~2.91m（平均2.65m）、梁行で2.25m~2.46m（平均2.36m）である。柱材がP2、P4で残存していたのを確認した。

柱穴から出土した土器は少量であったが、図示できたものは第169図のとおり、高台付塊1点のみであった。



第167図 第20号竪立柱建物跡



第168図 第21号竪立柱建物跡



第169図 第21号竪立柱建物跡出土遺物

第21号竪立柱建物跡出土遺物観察表 (第169図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	須臾器	高台付境	[2.5]	(7.0)	1/5	雲角	白粒	普通	褐	P5	

4. 井戸跡

今回の報告範囲では83基の井戸跡を検出した。調査区内のほぼ全域に分布するが、住居跡や掘立柱建物跡が少ない調査区北側は、比較的まばらである。

構造的には素掘りの井戸がほとんどであるが、第2・7号井戸跡は木枠が組まれた方形のものであった。第2号井戸跡では板材を横組みしているのに対し、第7号井戸跡では板材を縦に組み立てていた。

規模については、平面が径約40cmのものから、径約300cmのものまで多種多様である。深さは調査時において、危険防止のために底部まで掘削できなかったものが多く、正確な情報は得られなかった。ただ、遺跡の立地が自然堤防上ということもあり、従来から湧水点が高かったと考えられ、それほど深くなくても水は得られただろう。

井戸跡の時期については、遺物があまり出土しない井戸跡もあり、流れ込みの遺物も多く、正確な時期は把握しにくい。なおおよそ、6～7世紀、10世紀、中世のものに分けられ、ごく少数8世紀代のものみられる。それぞれ、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、火葬墓や大溝の時期に対応している。

時期が古いものほど、井戸の直径が小さい傾向があり、中世のものは大型化する。遺物の出土していない井戸も、その平面規模によって、ある程度、時期の推定が可能である。

第1号井戸跡 (第172図)

D-18グリッドに位置する。平面は長径138cm、短径123cmの楕円形で、長軸方向はN-30°-E。深さは62cmである。壁面は漏斗形をなす。

遺物は土器小片が多いが、図示できたものは、底部糸切痕のある須恵器片1点と、越州窯系青磁の小瓶と想定される小片1点である(第173図1・2)。

第2号井戸跡 (第172図)

D-17グリッドに位置する。方形の木枠がある井戸跡である。井戸跡の西側は調査区域外となるため、

正確な平面規模は不明である。井戸掘方の平面は南北が280cmで、東西は復元約320cmの楕円形になると想定される。深さ約30cmまでは緩傾斜でそれより下側はほぼ垂直に下降する。深さ約190cm以上は調査ができなかったが、木枠の最下端まで達しているの、200cm前後で底面に至るものと考えられる。

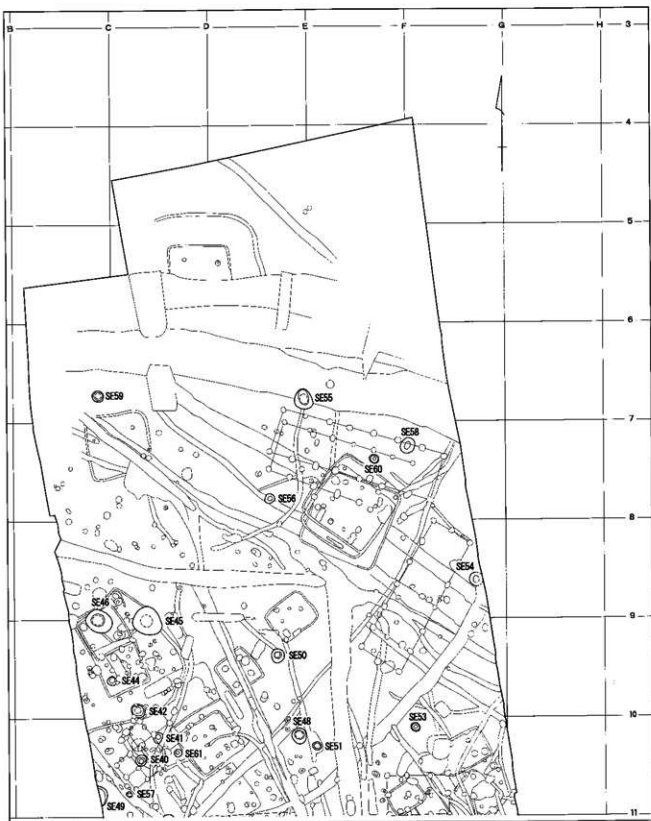
平面「井」形の木枠が残存していた。板材を横方向にし、両側に凹の溝を上下に彫りこんで、それぞれを組み合わせている。各面で8～9段分が残っており、板材は取上げ時にすべて番号を付していたが、その後の移動等により取上げ番号が不明となったものが数点ある。

木枠材は長さが145.6～161.5cm、幅が10.0～22.5cmとばらつきがある。上方に組まれていた板材ほど風化が激しく、多少萎縮してしまったものもある。凹刻みの内側の長さを比較すると、上部に配置された板材の方が、下部のものよりも長い傾向がある。つまり、井戸の木枠に囲まれた部分は上に行くにつれて狭くなる。下段で一辺約120cm、上段で一辺約105cmである。

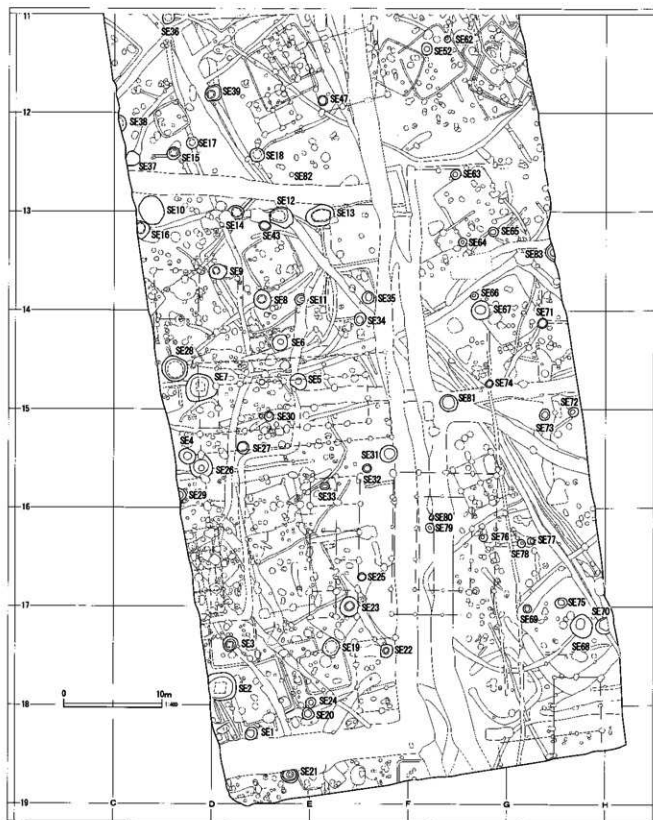
木枠材は第176～181図に、出土位置が確実なものから図示している。なお方位の後の数字は、その方位の壁面においての最上段からの段数を示す。また27の板材からは出土位置が不明となったものであるが、その大きさや風化の度合い等から、()内に出土位置を推定しておいた。

出土した遺物は多く、とくに高台付壇や底部に糸切痕のある坏が多い。図示できたものは第174・175図のとおりである。

28は木製黒漆塗の鞍轡である。材質はコナラ属コナラ亜属クヌギ節。遺存状態は比較的良好で、向かって左側の鞍爪のみ残存する。残存長は23.6cm、欠損部での幅8.5cm、厚さは山形縁で1.7cm、州浜形縁で推定3.8cmである。復元するとおよそ高さ26cm、幅38cmになると推定される。居木を差し込む切り込みの数とその角度から、前輪と考えられる。なお、内面の欠損部は調査時についてのものである。

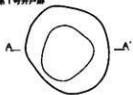


第170図 下田町遺跡井戸跡全体図(1)

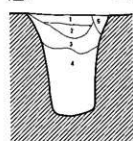


第171网 下田町遺跡井戸跡全体図(2)

第1号井戸跡



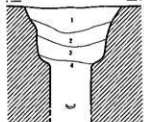
A 11.5m



第3号井戸跡



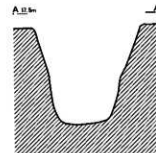
A 11.5m



第4号井戸跡



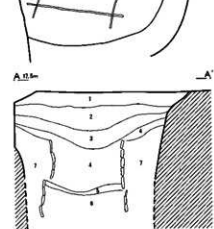
A 11.5m



第2号井戸跡



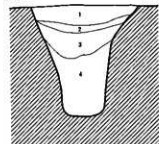
A 11.5m



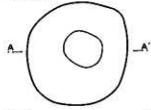
第5号井戸跡



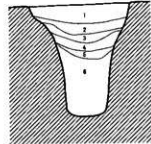
A 11.5m



第6号井戸跡



A 11.5m



第1号井戸跡

- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土
- 3 黒褐色土
- 4 黒褐色土
- 5 暗褐色土

焼土ブロック・炭化物粒子多量、やや粘性あり
 赤褐色土・青灰色粘土ブロック多量、焼土粒子・炭化物粒子含む、粘性強い
 焼土粒子・炭化物粒子少量、粘性強い
 青灰色粘土ブロック多量、粘性強い
 黒褐色土ブロック含む

第5号井戸跡

- 1 暗褐色土
- 2 黒褐色土
- 3 黒褐色土
- 4 黒褐色土

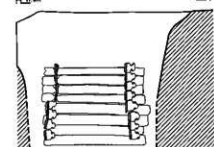
焼土粒子・炭化物粒子含む、粘性強い
 焼土粒子・炭化物粒子含む、粘性強い
 炭化物粒子多量、青灰色粘土ブロック含む、繊維組織多量、粘性強い
 粘性強い

第6号井戸跡

- 1 暗褐色土
- 2 黒褐色土
- 3 黒褐色土
- 4 灰黒褐色土
- 5 灰黒褐色土
- 6 灰黒褐色土

焼土粒子・炭化物粒子含む
 焼土粒子・炭化物粒子含む、やや粘性強い
 2層より黒褐色強い
 灰色、青灰色粘土ブロック多量
 灰色粘土と青灰色粘土が互層
 灰色粘土と青灰色粘土を含む

第2号井戸跡



第3号井戸跡

- 1 暗褐色土
- 2 黒褐色土
- 3 暗褐色土
- 4 暗褐色土

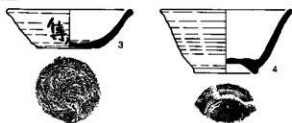
炭化物粒子・焼土粒子多量、粘性強い
 焼土粒子・炭化物粒子含む、粘性強い
 青灰色粘土ブロック・炭化物粒子多量、粘性強い
 炭化物粒子多量、粘性非常に強い
 有機物層、木炭等の腐植土を主体、粘性非常に強い
 青灰色粘土粒子含む
 青灰色粘土ブロック多量、縦方礫土

第172図 井戸跡 (1)

SE1



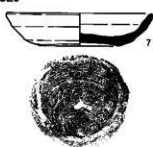
SE3



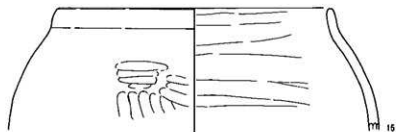
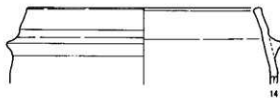
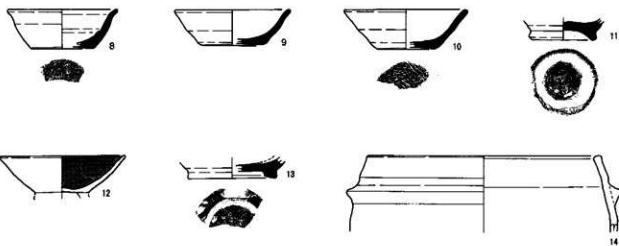
SE4



SE5

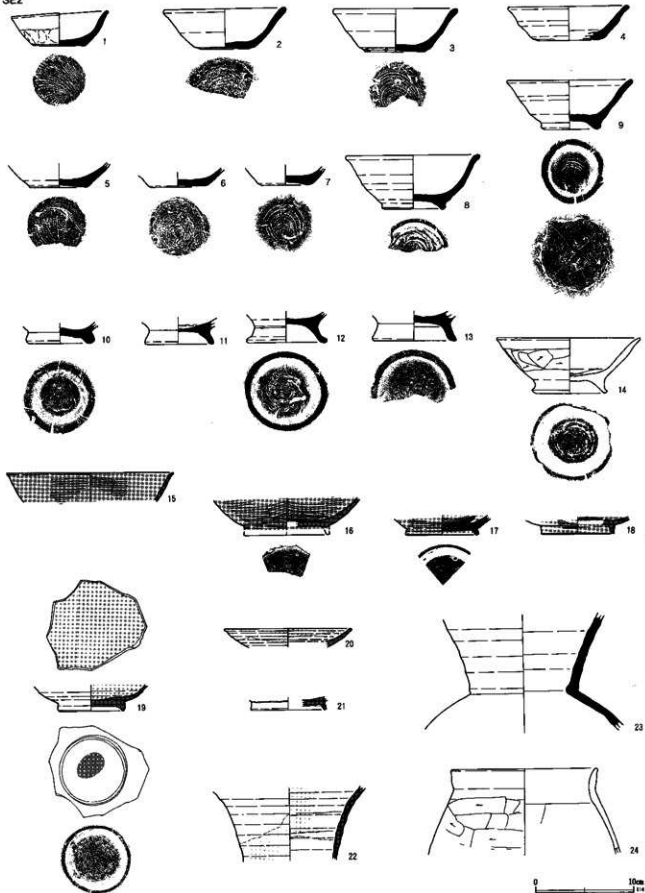


SE6



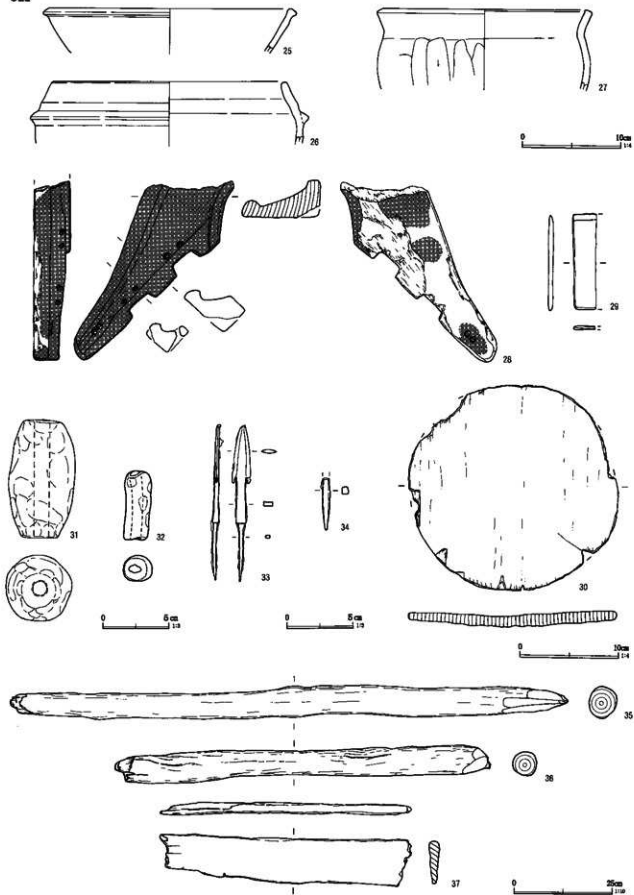
第173図 井戸跡出土遺物 (1)

SE2

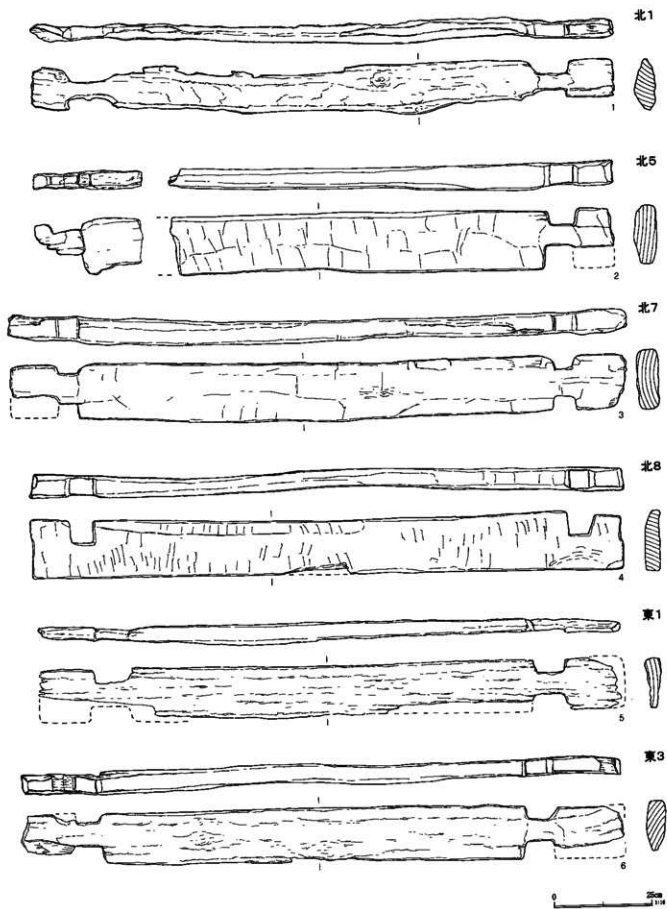


第174図 井戸跡出土遺物 (2)

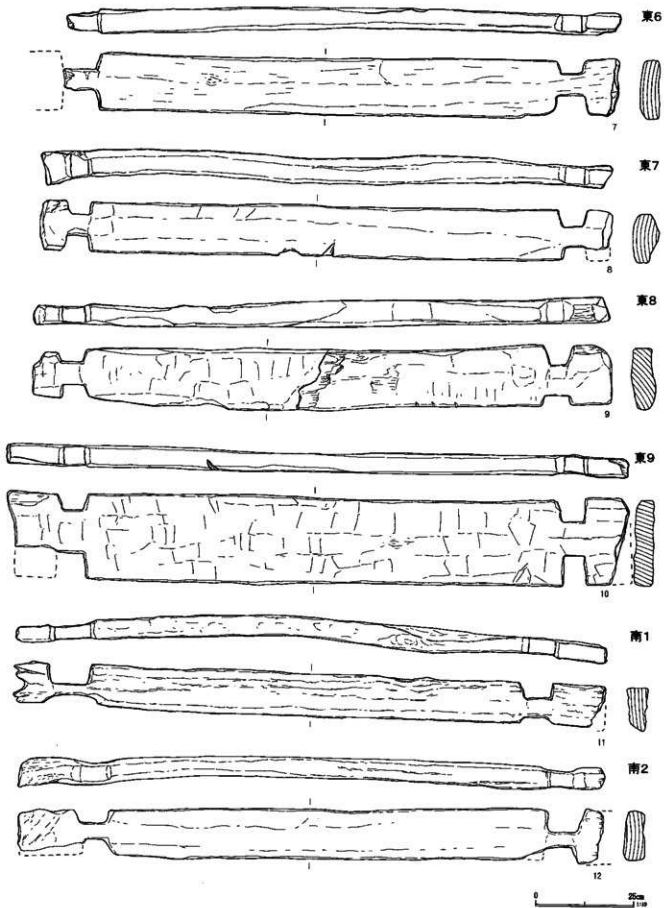
SE2



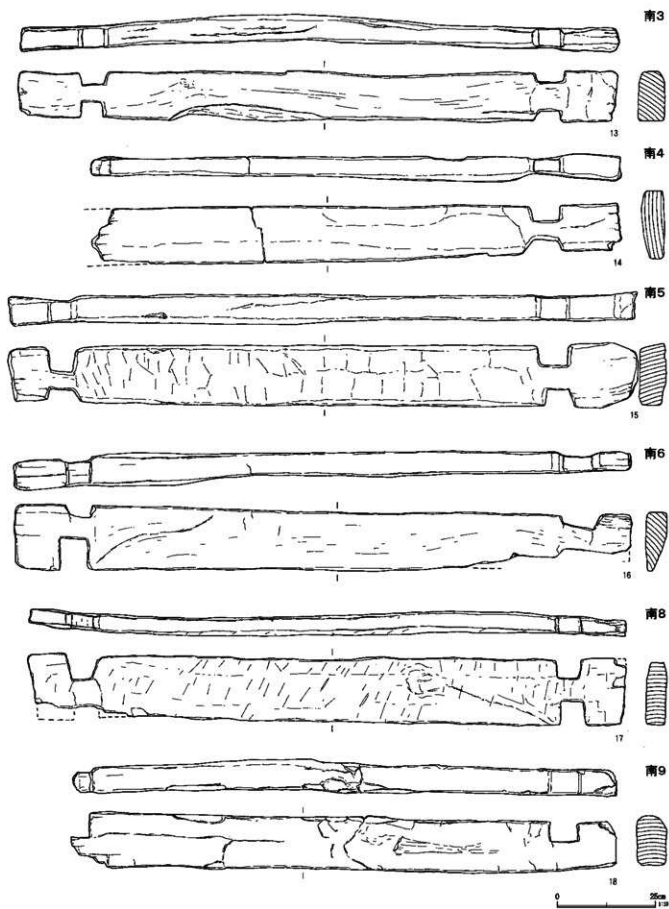
第175図 井戸跡出土遺物 (3)



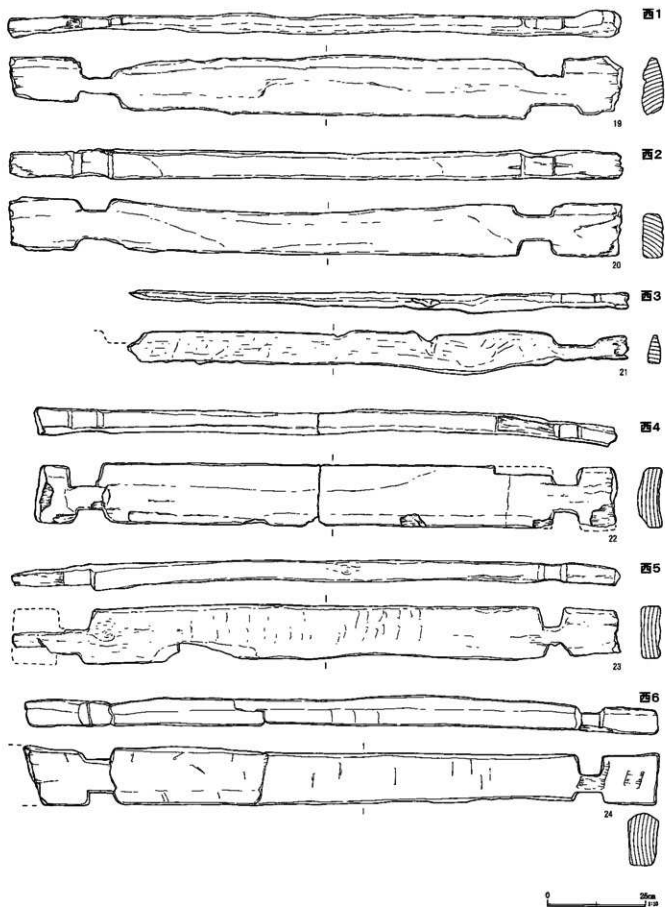
第176图 第2号戸跡木梓材(1)



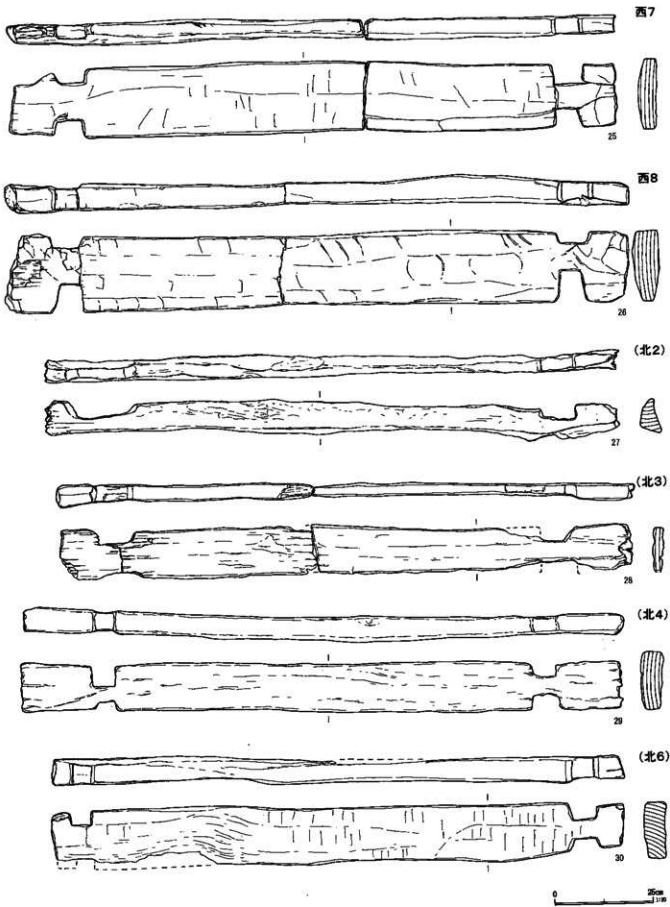
第177図 第2号井戸跡木杵材 (2)



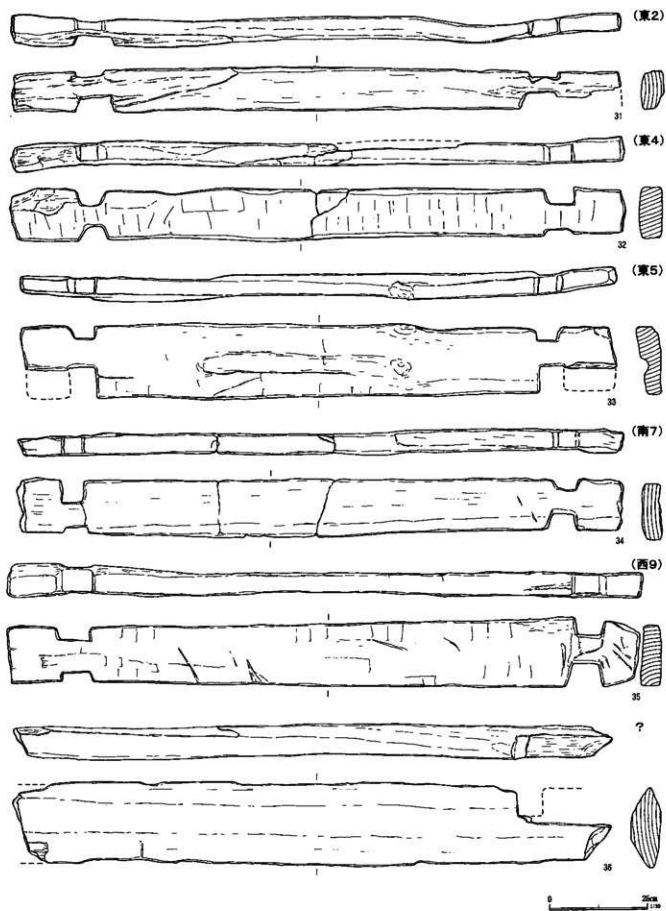
第178图 第2号井戸跡木杵材(3)



第179图 第2号井戸跡木栓材(4)



第180图 第2号井戸跡木杵材 (5)



第181图 第2号井戸跡木柱材(6)

漆は外内面全体に塗布されるが、居木があたる下面には塗られていない。山形および州浜形の縁は覆輪状に肥厚するが、「海」「磯」と呼ばれる起伏はみられない。居木を差し込む幅約3cm、厚さ約1cmの方形の切り込みが2ヶ所に設けられ、それぞれの上部に紐で居木を固定するための径約5mmの円形の穴が2つ開けられている。中心からの2穴の間隔は約1.5cmである。この穴は切り込みに向かって斜めに貫通し、内側では切り込みと平行に走る蒲鉾状の溝となる。鞍爪の先端には、径約5mmの円形の穴が接して2つ貫通している。これは胸繫を鞍に結ぶ緩を通す緩穴と考えられる。

33は鎌身部が長三角形を呈する長頸鎌である。錆はあまり進行しておらず、全体の遺存状況は良好である。鎌身部は長さ4.5cm、最大幅(1.4cm)を下辺にもつ長三角形で、やや扁平な両丸造りである。先端はわずかに折れ曲がる。逆刺は小さく、筥被から鎌身部へ直に切り込みを入れたような形状をしている。筥被部は長さ3.5cm、幅0.7cm、厚さ0.3cmで、筥被にかけてわずかに肥厚する。筥被は幅・厚さともに細くなる関筥被である。基部は先端を欠き、残存長4.1cmである。断面は方形だがやや丸みを帯びる。筥被から先端に向かって細くなり、中心では幅約0.3cm、厚さ0.2cmである。基部全体にわずかに屈曲がみられる。

第3号井戸跡(第172図)

D-17グリッドに位置する。第3号住居跡と第16号溝跡と重複するが、いずれの遺構よりも井戸跡の方が新しい。平面は長径150cm、短径144cmのややいびつな円形で、長軸方向はN-75°-Eである。危険防止のため深さは約150cm以上調査できなかった。壁面は深さ約90cmまでに2段有し、その下は垂直に下降する。

出土した遺物のうち底部糸切痕のある須恵器坏1点、須恵器高台付塊1点を図示した(第173図3・4)。3の坏の外面上には「集」の墨書がある。

第4号井戸跡(第172図)

C-15グリッドに位置する。第26号井戸跡と重複するが、当井戸跡の方が古い時期のものである。平面は長径175cm、短径148cmの楕円形で、長軸方向はN-54°-W。深さは約150cmである。壁面は漏斗形をなす。

出土遺物のうち、図示できたものは底部糸切痕のある須恵器坏2点である(第173図5・6)。

第5号井戸跡(第172図)

D-14グリッドに位置する。第29号溝跡と重複するが、土層の観察から井戸跡の方が新しいと判断された。平面は長径180cm、短径150cmのいびつな楕円形で、長軸方向はN-55°-W。深さは約165cmである。壁面は漏斗形を示す。

出土遺物のうち図示できたのは、底部糸切痕のあるやや浅い坏1点である(第173図7)。

第6号井戸跡(第172図)

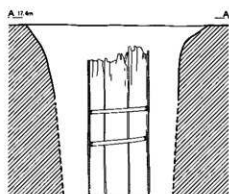
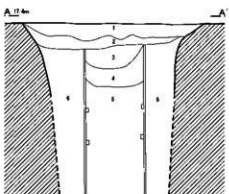
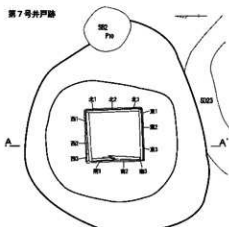
D-14グリッドに位置する。平面は長径170cm、短径160cmの楕円形で、長軸方向はN-30°-E。深さは約168cmである。壁面の断面は漏斗形を示す。

出土遺物のうち図示したものは、第173図8-16のとおりである。底部糸切痕のある須恵器坏、高台付塊、黒色土器、灰軸陶器片、羽釜、土師器甕がある。

第7号井戸跡(第182図)

C・D-14グリッドに位置する。方形の木枠がある井戸跡である。井戸の掘方は長径325cm、短径275cmのいびつな卵形で、長軸方向はN-5°-Wである。深さは約120cmまで掘削したが、危険防止のため、それ以上調査することは不可能であった。木枠の内部は深さ約250cmまで調査できたので、掘方も同程度の深さであったと推定される。壁面は深さ40cmのところでは傾斜が変わって、大きく上に開く形態である。

木枠は3枚の板材を縦方向に並べたものを一辺と

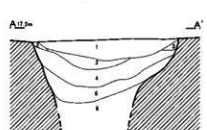
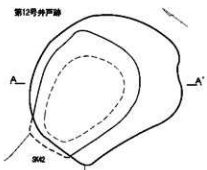
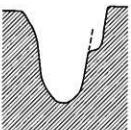
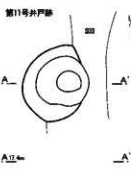
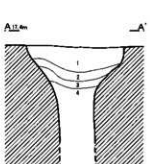
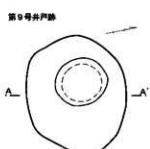
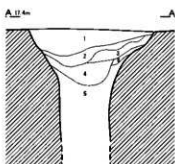
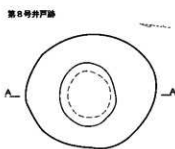


第7号井戸跡

- 1 暗褐色土 焼土ブロック・黄褐色土ブロック多量
- 2 黄褐色土 黄褐色土粒子少量
- 3 黄灰色土 黄灰色土少量
- 4 黄褐色土 焼土粒子・炭化物粒子少量、粘性強い
- 5 黒褐色土 有機物多量、粘性非常に強い
- 6 黄褐色土 黄褐色土粒子を含む

第8号井戸跡

- 1 暗赤褐色土 焼土粒子・炭化物粒子含む、黄褐色土ブロック多量
- 2 灰黒褐色土 焼土粒子・炭化物粒子含む、粘性強い
- 3 黄灰色土 有機物多量
- 4 黄褐色土 黄灰色粘土ブロック含む
- 5 暗褐色土 粘性強い
- 6 灰黒褐色土 黄灰色粘土多量

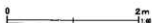


第9号井戸跡

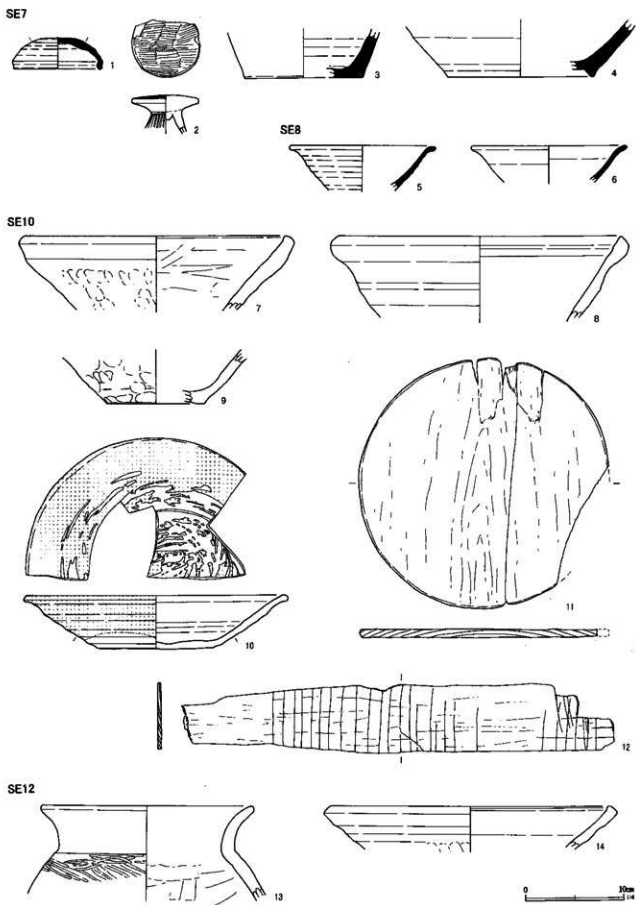
- 1 暗赤褐色土 焼土粒子・炭化物粒子・黄褐色土粒子含む
- 2 黄褐色土 焼土粒子・炭化物粒子含む、粘性強い
- 3 黄褐色土 黄褐色土粒子含む、粘性強い
- 4 灰黒褐色土 黄褐色土ブロック含む、粘性強い

第12号井戸跡

- 1 灰色土 暗灰色粘質土を含む、有機物含む、粘性強い
- 2 灰色土 暗灰色粘質土がレンズ状に散在、粘性強い
- 3 暗褐色土 黄褐色土ブロック含む
- 4 暗灰色土 有機物含む、灰色粘質土が交互に堆積、粘性強い
- 5 暗褐色土 上層に灰色粘質土、有機物含む、粘性強い
- 6 暗灰色土 青緑粘質土を含む、粘性強い



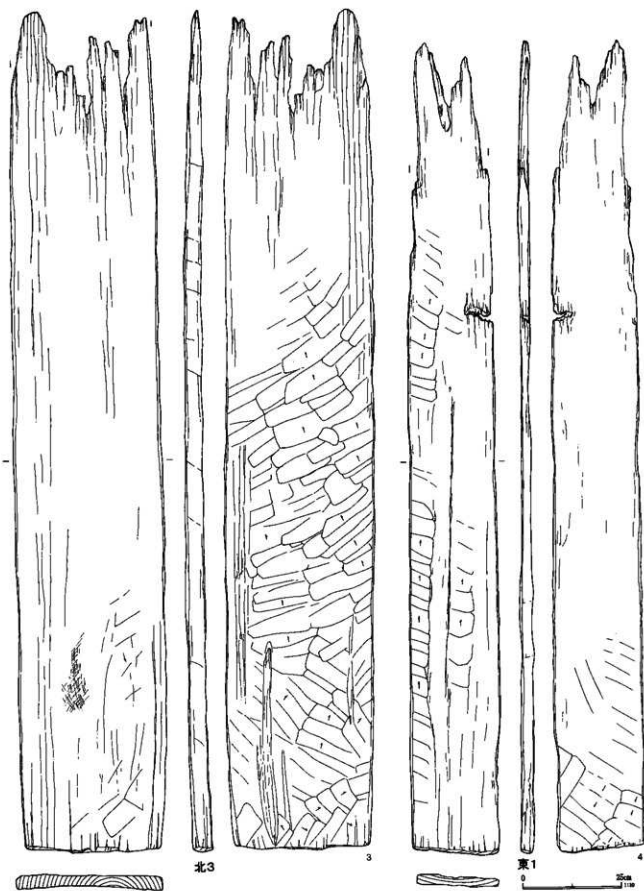
第182図 井戸跡 (2)



第183図 井戸跡出土遺物 (4)



第184图 第7号井戸跡木梓材(1)



第185图 第7号井戸跡木梓材(2)



第186图 第7号井戸跡木柱材 (3)



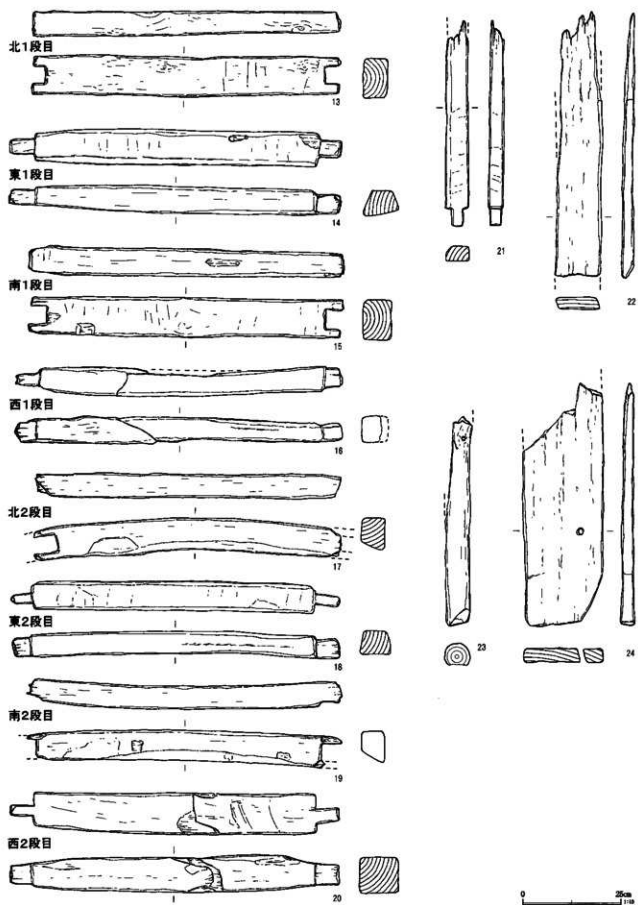
第187图 第7号井戸跡木枠材(4)



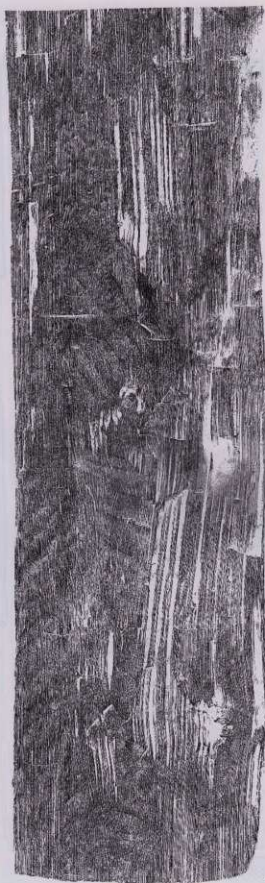
第188图 第7号井戸跡木梓材(5)



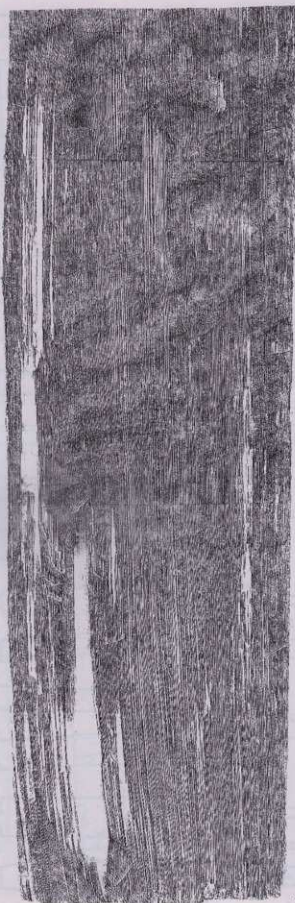
第189图 第7号并戸跡木梓材 (6)



第190図 第7号井戸跡木柱材(7)

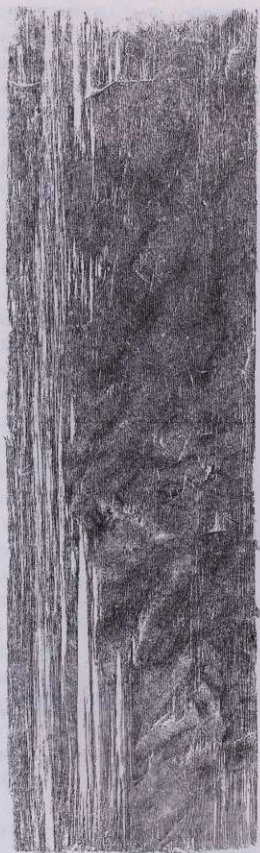


北2

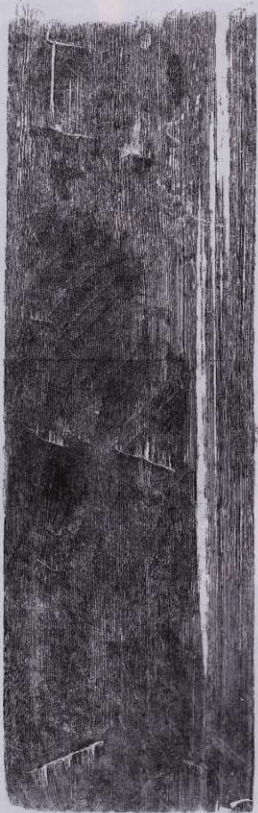


北3

第191图 第7号井戸跡木杵材拓影(1)



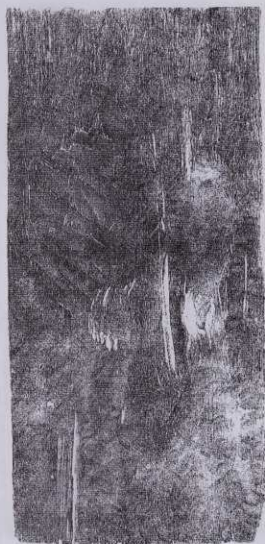
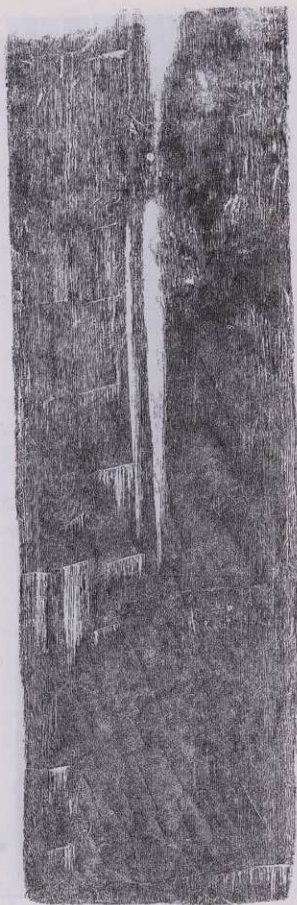
東2



南2



第192図 第7号井戸跡木杵材拓影(2)



西1

西2



第193号 第7号井戸跡木梓材拓影(3)

し、ほぼ正方形に組んでいる。一辺は約90cmである。これらの木枠の倒壊を防ぐため、板材の下から約80cmと、約125cmのところとに桙材で方形の桙を組み、まわりの板材を支えていた。なお、井戸桙の内法は約70cm四方となる。

井戸桙を構成していた木材については、第184図～第193図に図示した。板材の下に付された方位と番号は第182図の平面図における記号に相当する。

各辺の板材は、それぞれの辺の長さを調節するため、幅広のもの2枚と幅狭のもの1枚で構成されている。幅広のものは30.5cm～38.6cm、幅狭のものは20.0cm～23.0cmをはかる。板材の下端の残存状況は良好であるが、上端はいずれも風化していて、本来の長さは不明である。残存していた長さは196cm～228cmであった。

それぞれの板材とも、鉋による製材の痕跡が比較的に残っていた（拓影は第191～193図）。鉋の刃こぼれの跡もみられ、復元できる鉋の刃の幅は15cm前後である。第189図11の西2の板材には、下端から18cmのところと2箇所、下端から約90cmのところと1箇所、木釘の痕跡があった。他の板材にはみられないもので、どのような機能があったのかは不明である。

第190図13～20は、板材を支える方形桙を構成していた角材である。それぞれ凸と凹を合わせるようになっていた。

出土遺物のうち、図示できたものは第183図のとおりである。1は須恵器環蓋で井戸掘方から出土している。2はミガキ調整の施された古墳時代の高坏を転用した、叩き具状のもの、3、4は須恵器甕の底部片である。

第8号井戸跡（第182図）

D-13・14グリッドに位置する。第35号溝跡と重複するが、土層の観察から井戸跡の方が新しいと判断した。平面は長径195cm、短径175cmの楕円形で、長軸方向はN-20°-Wである。深さは約150cmまで

しか掘削できなかった。壁面は漏斗形で上部が大きく開く形態である。

出土した遺物のうち、図示できたものは須恵器環2点である（第183図5・6）。

第9号井戸跡（第182図）

D-13グリッドに位置する。第34・36号溝跡等と重複しているが、井戸跡の方が新しい。平面は長径180cm、短径155cmで、長軸方向はN-85°-Eである。深さは約130cmまでしか掘削できなかった。壁面は漏斗形で上部が大きく開く形態である。

出土した遺物は、10世紀代に相当する土器小片が中心で、図示できるものはなかった。

第10号井戸跡

C-12・13グリッドに位置する。平面は長径290cm、短径250cmで、長軸方向はN-15°-Wである。調査途中で壁面が崩落したため、土層断面や形態の観察ができなかった。

出土遺物は中世陶器や摺鉢が主体である（第183図7～12）。11は曲物の底部。12は曲物の側板であるが、上下と図左側は欠損している。

第11号井戸跡（第182図）

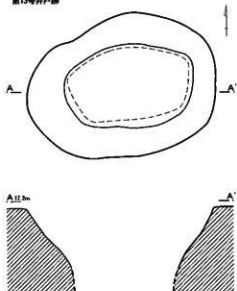
D-13グリッドに位置する。第3号溝跡と重複しているが、土層からは前後関係は不明である。平面は径約120cmのほぼ円形になると予想され、深さは112cmである。壁面は漏斗形を示す。

出土遺物は少なく、図示できるものはなかった。なお、緑泥片岩の破片が出土している。

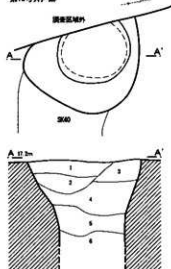
第12号井戸跡（第182図）

D-12・13グリッドに位置する。第44号溝跡や第42号土壕と重複するが、いずれの遺構よりも井戸跡の方が新しい。平面は長径240cm、短径190cmの卵形で、長軸方向はN-80°-Eである。深さは約100cm以上掘削できなかった。壁面は漏斗形であるが、西

第13号井戸跡



第16号井戸跡



第14号井戸跡

- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック・粒子含む。黄土粒子・炭化物粒子少量
2 暗灰褐色土 黄土粒子・炭化物粒子微量。粘性強い
3 暗灰褐色土 下層から異質出土。粘性強い

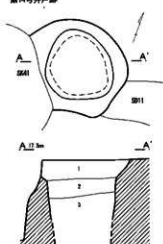
第15号井戸跡

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・黄土粒子・炭化物粒子含む
2 暗褐色土 黄褐色土粒子微量。有機物含む
3 暗灰褐色土 黄褐色粘質土含む。粘性強い

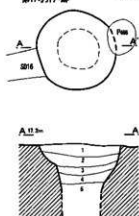
第16号井戸跡

- 1 灰黄色土 灰黄色粘土含む。有機物含む (SK40の層土)
2 灰色土 暗灰色粘質土と互層。土層に有機物含む。粘性強い。(SK40の層土)
3 暗灰褐色土 黄褐色土ブロック含む。黄土粒子・炭化物粒子微量
4 暗褐色土 青緑色粘土粒子が散在し少量混入。炭化物粒子微量
5 暗褐色土 青緑粘土との混合層。粘性強い
6 暗褐色土 粘性非常に強い

第14号井戸跡



第17号井戸跡



第17号井戸跡

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・黄土粒子・炭化物粒子含む
2 暗褐色土 黄褐色土ブロック・粒子が散在し混入。暗灰色粘質土含む
3 暗褐色土 黄褐色土ブロック含む。粘性強い
4 暗褐色土 黄褐色土ブロック微量。植物繊維含む
5 暗褐色土 粘性強い

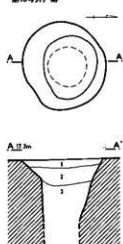
第18号井戸跡

- 1 灰褐色土 黄褐色土と暗灰色粘質土の混合層。黄土粒子・炭化物粒子少量
2 暗褐色土 黄褐色土ブロック段状に混入。暗灰色粘質土多量
3 暗褐色土 植物繊維多量。粘性強い
4 暗褐色土 粘性非常に強い

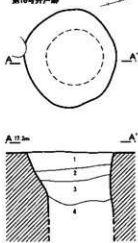
第19号井戸跡

- 1 暗褐色土 黄土粒子・黄褐色土粒子少量
2 暗褐色土 青灰色粘土ブロック含む。粘性強い
3 青灰色土 粘性非常に強い
4 暗褐色土 粘性強い
5 暗褐色土 粘性強い

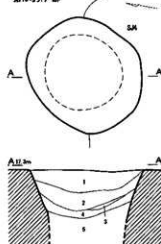
第15号井戸跡



第18号井戸跡

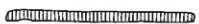
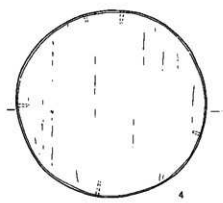
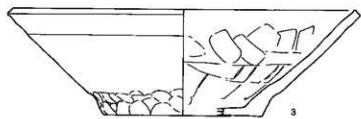
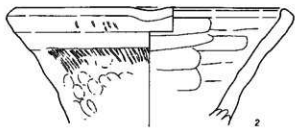
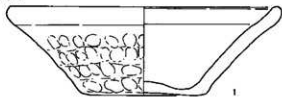


第19号井戸跡

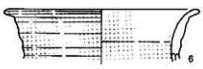


第194図 井戸跡 (3)

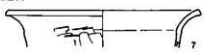
SE13



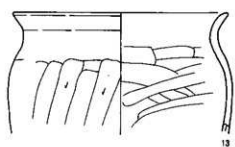
SE14



SE17



SE20



第195図 井戸跡出土遺物 (5)

壁はオーバーハングをしている。

出土遺物は中世陶器や摺鉢が主体である（第183図13、14）。

第13号井戸跡（第194図）

D・E-13グリッドに位置する。第23号住居跡と重複するが、井戸跡の方が新しい。平面は長径285cm、短径220cmの楕円形で、長軸方向はN-80°-Eである。深さ約80cm以上は掘削できなかつた。壁面は漏斗形である。

出土した遺物は中世摺鉢と曲物である（第195図1~4）。

第14号井戸跡（第194図）

D-12・13グリッドに位置する。第41号土壌や第11・39号溝跡と重複しているが、いずれの遺構よりも井戸跡の方が新しい。平面は長径推定約160cm、短径135cmで、長軸方向はN-90°-Eである。深さは約90cm以上掘削できなかつた。壁面形態は上部がラッパ状に大きく開き、深さ25cmくらいから、ほぼ垂直に下降する。

出土遺物は少量であるが、図示できたのは第195図5・6のとおり。5は底部糸切痕のある環で、6は中世陶器甕の口縁で、時期が異なる。

第15号井戸跡（第194図）

C-12グリッドに位置する。第94号土壌、第62号溝跡と重複するが、いずれも井戸跡の方が新しい。平面は長径135cm、短径120cmの楕円形で、長軸方向はN-45°-Eである。深さは約100cm以上掘削できなかつた。壁面はいびつな漏斗形である。

出土遺物はほとんどなく、図示できるものはなかつた。

第16号井戸跡（第194図）

C-13グリッドに位置する。西側約1/3が調査区域外になり、第40号土壌と重複する。土層の観察

から土壌の方が新しいことがわかつた。平面は径約180cmのいびつな円形になると推定される。深さは約120cm以上掘削できなかつた。壁面は漏斗形である。

出土遺物はほとんどなく、図示できるものはなかつた。

第17号井戸跡（第194図）

C-12グリッドに位置する。第16号溝跡やP466と重複しているが、いずれも井戸跡の方が新しい。平面は径120cmのほぼ円形である。深さは約70cm以上掘削できなかつた。壁面はいびつな漏斗形である。

出土遺物は少なかつたが、土師器甕1点を図示した（第195図7）。

第18号井戸跡（第194図）

D-12グリッドに位置する。第44号溝跡に隣接している。平面は長径150cm、短径138cmの楕円形で、長軸方向はN-70°-Wである。深さは約80cm以上掘削できなかつた。壁面断面は北壁がほぼ垂直に下降し、南壁はゆるやかに下降して、約70cmの深さから垂直となる。

出土遺物はほとんどなく、図示できるものはなかつた。

第19号井戸跡（第194図）

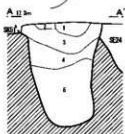
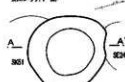
E-17グリッドに位置する。第4号住居跡と重複しているが、井戸跡の方が新しい。平面は長径175cm、短径160cmのいびつな楕円形で、長軸方向はN-50°-Eである。深さは約70cm以上掘削できなかつた。壁面は漏斗形になると推定される。

出土遺物は少なく、底部糸切痕のある環の小片を含むが、図示できるものはなかつた。

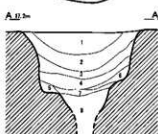
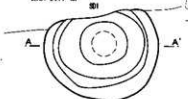
第20号井戸跡（第196図）

E-18グリッドに位置する。第51号土壌及び第24号井戸跡と重複するが、いずれの遺構よりも井戸跡

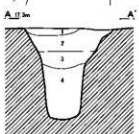
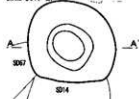
第20号井戸跡



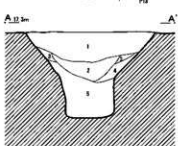
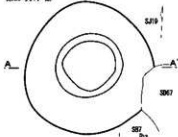
第21号井戸跡



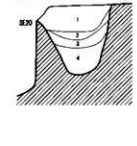
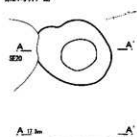
第22号井戸跡



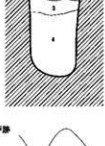
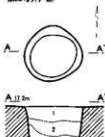
第23号井戸跡



第24号井戸跡



第25号井戸跡



第20号井戸跡

- 1 暗褐色土 茶色土少量
- 2 暗褐色土 焼土粒子少量
- 3 暗褐色土 焼土粒子少量
- 4 暗褐色土 粘性強い
- 5 暗褐色土 黄褐色土粒を含む、粘性強い

第21号井戸跡

- 1 暗褐色土 焼土粒、炭化物粒子多量
- 2 暗褐色土 焼土粒子、炭化物粒子、黄褐色土、青灰色土ブロック含む
- 3 暗褐色土 炭化物粒子多量
- 4 暗褐色土 黄褐色土、青灰色土との互層
- 5 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量、硬の暗褐色土
- 6 暗褐色土 粘性強い
- 7 黄灰色土 壁層上の流れ込み
- 8 暗褐色土 粘性強い

第22号井戸跡

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子、焼土粒子、炭化物粒子含む
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒子、焼土粒子、灰色粘質土含む
- 3 灰褐色土 黄褐色土粒子、焼土粒子、灰色粘質土含む、粘性強い
- 4 暗褐色土 黄褐色土粒子含む、粘性強い

第23号井戸跡

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子、焼土粒子含む
- 2 暗褐色土 粘物塊多量
- 3 暗褐色土 2層を含み、黄褐色土粒子、炭化物粒子含む
- 4 灰褐色土 黄褐色土粒子、灰色粘質土含む、粘性強い
- 5 暗褐色土 粘性強い

第24号井戸跡

- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロックが硬状に多量混入
- 2 暗褐色土 炭化物粒子多量、粘性強い
- 3 暗褐色土 炭化物塊
- 4 暗褐色土 黄褐色土との互層、粘性強い

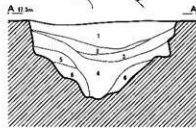
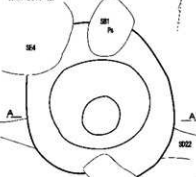
第25号井戸跡

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子が硬状に混入、焼土粒子少量、やや粘性強い
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロックが硬状に入る、粘性強い
- 3 暗褐色土 黄褐色土粒子含む
- 4 暗褐色土 シルト質、黄褐色土ブロック含む

第26号井戸跡

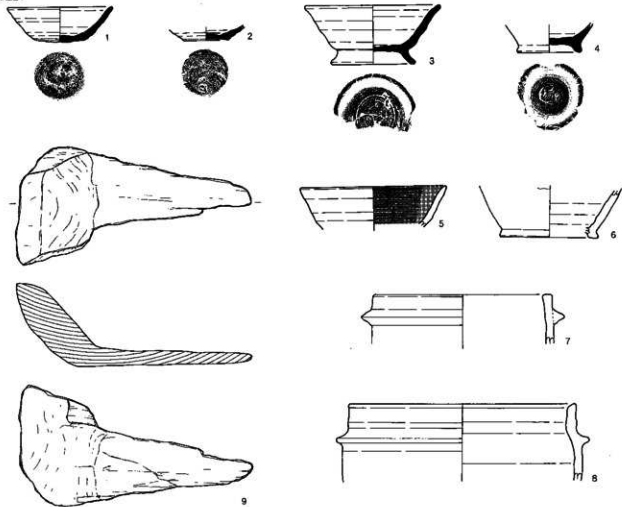
- 1 暗褐色土 焼土粒、炭化物粒子含む
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロックとの混合層
- 3 暗褐色土 黄褐色土粒子含む
- 4 暗褐色土 焼土粒を含む、粘性強い
- 5 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量、粘性強い
- 6 黄灰色土 5層がグライ化

第28号井戸跡

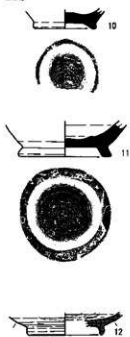


第196図 井戸跡 (4)

SE21



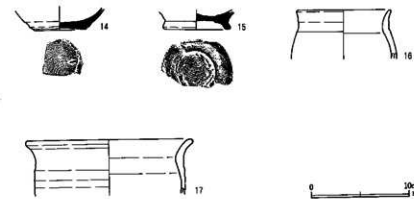
SE22



SE24



SE26



第197図 井戸跡出土遺物 (6)

の方が新しい。平面は長径125cm、短径110cmのいびつな楕円形で、長軸方向はN-25°-W。深さは160cmである。壁面は比較的垂直に下降する形態である。

出土遺物のうち、図示できたものは第195図8～14のとおりである。11の黒色土器は内面にミガキ調整を行っている。12は灰釉陶器長頸壺の口縁部である。

第21号井戸跡 (第196図)

D-18グリッドに位置する。中世の大溝第1号溝跡と重複するが、井戸跡の方が古い時期のものである。平面は径約170cmのほぼ円形と推定され、深さは約120cm以上掘削できなかつた。壁面は約90cmの深さで段を有し、狭くなってさらに下降していく。

出土遺物は比較的多く、図示できたものは第197図1～9のとおりである。底部糸切痕のある坏や高台付埴を主体とし、黒色土器や灰釉陶器壺、羽釜を含む。9の木器は「槽」の一部と想定され、底部や側面立上りの部分が残存している。

第22号井戸跡 (第196図)

E-17グリッドに位置する。第14・67号溝跡と重複しているが、井戸跡の方が新しい時期の遺構である。平面は径約135cmのほぼ円形になると推定され、深さは135cmである。壁面は漏斗形である。

出土遺物のうち図示できたものは、第197図10～12のとおりである。他に角閃石安山岩の破片もみられた。

第23号井戸跡 (第197図)

E-17グリッドに位置する。第7号掘立柱建物跡や第67号溝跡と重複するが、いずれの遺構よりも井戸跡の方が新しい。平面は径198cmの円形で、深さは125cmである。壁面は上部が大きく開く漏斗形である。

出土遺物は少なく、図示できるものはなかつた。緑泥片岩の破片が出土している。

第24号井戸跡 (第196図)

E-17・18グリッドに位置する。第20号井戸跡と重複するが、当井戸跡の方が古い時期のものである。平面は長径120cm、短径95cmのいびつな楕円形で、長軸方向はN-40°-E。深さは110cmである。壁面は比較的緩やかに下降する。

出土遺物はほとんどなく、図示できるものはなかつた。緑泥片岩の破片が出土している。

第25号井戸跡 (第196図)

E-16グリッドに位置する。平面は長径85cm、短径80cmの円に近い楕円形で、長軸方向はN-50°-E。深さは160cmである。壁面はほぼ垂直である。平面の規模に比して深いのが特徴的である。

出土遺物はほとんどなかつたが、高台付碗等の小片がみられた。

第26号井戸跡 (第196図)

C・D-15グリッドに位置する。第4号井戸跡、第1・2号掘立柱建物跡のピットと重複するが、いずれの遺構よりも、当井戸跡の方が新しい時期のものである。平面は長径240cm、短径225cmの楕円形で、長軸方向はN-30°-Wである。深さは120cm。壁面は不整形であるが、ゆるやかに下降する。

出土した遺物のうち、図示できたものは第197図14～17のとおりである。他に焼土塊が多く出土している。

第27号井戸跡 (第198図)

D-15グリッドに位置する。第2号掘立柱建物跡のピットが重複しているが、土層の観察から井戸跡の方が新しいと考えられる。平面は長径130cm、短径125cmで、長軸方向はN-25°-Wである。深さは150cm。壁面は比較的垂直に下降する。

出土遺物はほとんどなく、図示できるものはなかつた。

第28号井戸跡 (第198図)

C-14グリッドに位置する。第18号住居跡と重複するが、井戸跡の方が新しい。平面は径270cmのほぼ円形で、深さは約100cm以上掘削できなかつた。壁面は漏斗形である。

出土遺物は少なく、図示できるものはなかつたが、中世摺鉢の破片や緑泥片岩の破片を含んでいる。

第29号井戸跡 (第198図)

C-15グリッドに位置する。およそ西半分は調査区域外になる。平面は径約125cmの円形になると推定される。深さは約80cm以上掘削できなかつた。壁面は漏斗形である。

出土した遺物のうち、図示できたものは第200図1～5のとおりである。3は陶器の摺鉢、他は木器である。1・2は曲物の底部、4は漆塗りの高台付碗、5も漆塗り高台付碗であるが、底部内面には黒漆の地に、赤漆で波に浮かぶ船?の模様がかかれていた。

第30号井戸跡 (第198図)

D-15グリッドに位置する。第26・27号溝跡と重複するが、井戸跡の方が新しい時期のものである。平面は径93cmの円形で、深さは117cmである。壁面は比較的緩やかに下降する。

出土遺物はほとんどなく、図示できるものはなかつた。

第31号井戸跡 (第198図)

E-15グリッドに位置する。中世の第4号溝跡と一部重複するが、井戸跡の方が古い。平面は長径183cm、短径168cm、長軸方向はN-50°-Eである。深さは142cm。壁面は漏斗形である。底部付近から馬の頭骨が正置の状態出土した。

出土遺物のうち、図示できたものは第200図6・7のとおりである。いずれも底部糸切痕のある坏である。

第32号井戸跡 (第198図)

E-15グリッドに位置する。平面は長径90cm、短径84cmの楕円形で、長軸方向はN-80°-Eである。深さは125cmで壁面はほぼ垂直に下降している。

出土遺物は少なく、図示できるものはなかつたが、中世陶器片や緑泥片岩の破片を含んでいる。

第33号井戸跡 (第198図)

E-15グリッドに位置する。第37号溝跡と重複するが、井戸跡の方が新しい。平面は長径93cm、短径70cmの楕円形で、長軸方向はN-90°-Eである。深さは142cmで、壁面はほぼ垂直に下降する。

出土遺物は少なく、図示できたのは第200図8の漆塗りの木製高台付碗のみである。内面には黒漆の地に赤漆で草木?を描き、外面にも横方向に引かれた線が見られる。

第34号井戸跡 (第198図)

E-14グリッドに位置する。第14号住居跡と重複しているが、井戸跡の方が新しい。平面は長径135cm、短径114cmで、長軸方向はN-30°-Eである。深さは166cmで、壁面は上方が緩やかに開く形態である。

出土遺物のうち、図示できたものは第200図9～11のとおりである。10は8世紀代の須恵器坏底部を転用した紡錘車である。11は小型曲物の底部。

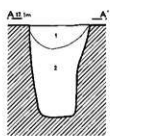
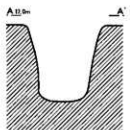
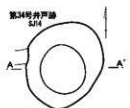
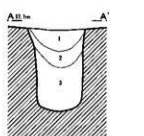
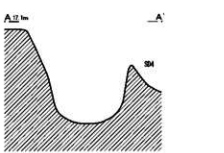
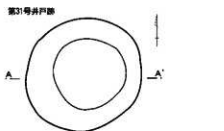
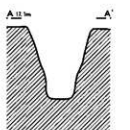
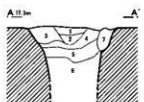
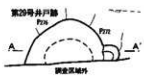
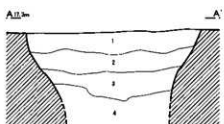
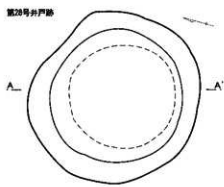
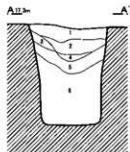
第35号井戸跡 (第199図)

E-13グリッドに位置する。第14号住居跡と重複しているが、井戸跡の方が新しい。平面は径123cmの円形で、深さは170cmである。壁面は上方が緩やかに開く形態である。

出土遺物はほとんどなく、図示できるものはなかつた。

第36号井戸跡 (第199図)

C-10・11グリッドに位置する。第44・60・82号



- 第27号井戸跡
1 暗褐色土 黄褐色土粒子・ブロック・焼土粒子・炭化物
粒子少量
2 暗灰色土 黄褐色土粒子・ブロック少量、やや粘性強い
3 暗灰色土 黄褐色土粒子少量、暗灰色粘質土多量、粘性
強い
4 暗灰色土 黄褐色土粒子含む、暗灰色粘質土多量、粘性
強い
5 暗灰色土 植物繊維少量、粘性強い
6 暗灰色土 植物繊維多量、粘性強い

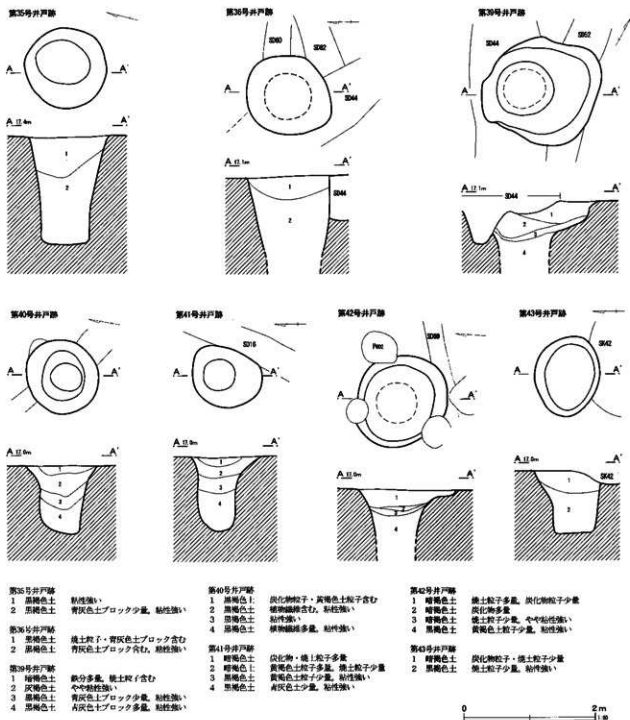
- 第28号井戸跡
1 暗褐色土 焼土粒子・黄褐色土粒子まばらに含む
2 暗灰色土 黄褐色シルト含む、粘性強い
3 黄灰色土 植物繊維土層
4 黄灰色土 黄灰色シルト含む、粘性強い

- 第29号井戸跡
1 暗灰色土 焼土ブロック少量
2 暗灰色土 黄褐色土・焼土ブロック少量
3 黄灰色土 シルト質
4 暗褐色土 黄褐色土粒子・黄灰色土粒子多量、やや粘性強い
5 暗褐色土 シルト質、粘性強い
6 暗褐色土 シルト質、粘性強い
7 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量、ビット覆土

- 第30号井戸跡
1 暗褐色土 黄灰色土ブロック含む
2 暗褐色土 黄灰色土ブロック多量
3 暗褐色土 粘性強い



第198図 井戸跡 (5)



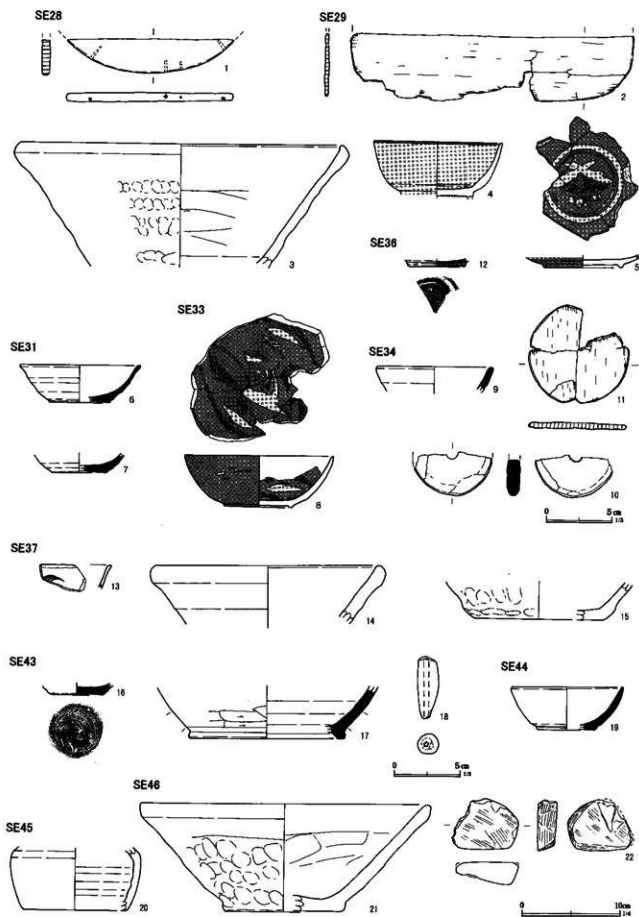
第199図 井戸跡 (6)

溝跡と重複するが、いずれの遺構よりも井戸跡の方が新しい。平面は長径138cm、短径125cmで、長軸方向はN-30°-Eである。深さは約120cm以上掘削できなかった。壁面は傾斜が強い。

出土遺物は少なかったが、第200図12には灰釉陶器片を図示した。

第37号井戸跡

C-12グリッドに位置する。西半分は調査区域外となり、第48号溝跡と重複する。溝跡よりも井戸跡の方が新しい。平面は不整形で一部しか検出していないため、規模は不明であるが、径は1mを超える大型のものであると推定される。ただし、調査中に



第200図 井戸跡出土遺物 (7)

壁面が崩落したため、十分な観察ができず、図面も作成できなかった。

出土遺物のうち、図示できたものは第200図13～15のとおりである。13は青磁碗の口縁部の破片で線刻がみられる。

第38号井戸跡

C-12グリッドに位置する。西半分は調査区域外となる。平面は推定で径約90cmの円形になると推定される。第37号井戸跡と同様、調査中に壁面が崩落したため、十分な観察ができず、図面も作成できなかった。

出土遺物は少なく、図示できるものはなかった。鉄滓や緑泥片岩の破片が含まれる。

第39号井戸跡（第199図）

C・D-11グリッドに位置する。第44・52号溝跡と重複するが、土層の観察からは第44号溝跡よりは井戸跡の方が古く、第52号溝跡よりは井戸跡の方が新しい。平面は溝跡が重複するため変形しているものの、元来は長径約190cm、短径約160cmの楕円形になると考えられる。長軸方向はN-0°-W。深さは約70cm以上掘削できなかった。壁面は底方向から垂直に立ち上がってくるが、深さ50cmほどのところで段になり、大きく開く。

出土遺物には弥生土器や、古墳時代前期の土器が多く含まれていた。平安時代まで下る遺物はなかった。

第40号井戸跡（第199図）

C-10グリッドに位置する。平面は長径114cm、短径105cmの楕円形で、長軸方向はN-70°-Eである。深さは100cm、壁面はいびつな漏斗形である。

出土遺物は小片が多く、図示できるものはなかった。

第41号井戸跡（第199図）

C-10グリッドに位置する。第16号溝跡と第11号掘立柱建物跡のビットが重複するが、いずれの遺構よりも井戸跡の方が新しい。平面は長径105cm、短径90cmの楕円形で、長軸方向はN-10°-Eである。深さは113cmで、壁面はいびつな漏斗形である。

出土遺物は小片が多く、図示できるものはなかった。緑泥片岩の破片が含まれている。

第42号井戸跡（第199図）

C-9グリッドに位置する。第69号溝跡やP602等が重複するが、いずれの遺構よりも井戸跡の方が新しい。平面は長径152cm、短径132cmの楕円形で、長軸方向はN-30°-Wである。深さは約70cm以上掘削できなかった。壁面は漏斗形になると推定される。

出土遺物は小片が多く、図示できるものはなかったが、土師器・須恵器の小片の他、中世陶器の破片が含まれていた。

第43号井戸跡（第199図）

D-13グリッドに位置する。第42号土坑と重複するが、土層から前後関係は確認できなかった。平面は長径123cm、短径100cmの卵形で、長軸方向はN-80°-Wである。深さは97cmで、比較的浅い。

出土遺物は小片が多く、図示できたものは第200図17・18の壺と土鍾の2点のみである。

第44号井戸跡（第201図）

B・C-9グリッドに位置する。第29号住居跡と重複するが、井戸跡の方が新しい。平面は長径95cm、短径90cmのいびつな楕円形で、長軸方向はN-85°-Eである。深さは30cmと非常に浅く、当初は井戸跡として調査したが、井戸跡ではない可能性がある。

出土遺物は少なく、図示できたのは第200図19の底部糸切痕のある環1点のみである。体部はわずかに内湾し、口縁部内側には低い沈線がめぐっている。他に緑泥片岩の破片が含まれる。

第45号井戸跡 (第201図)

C-8・9グリッドに位置する。第69号溝跡等と重複しているが、いずれの遺構よりも井戸跡の方が新しい。平面は長径306cm、短径276cmと大型である。長軸方向はN-45°-W。深さは約100cm以上掘削できなかつた。壁面は漏斗形になると推定される。

出土遺物のうち、図示できたものは第200図20の常滑の平底壺のみである。他に摺鉢の破片等もみられた。

第46号井戸跡 (第201図)

B-8・9グリッドに位置する。第32号住居跡と重複するが、井戸跡の方が新しい。平面は長径270cm、短径222cmの大型の楕円形で、長軸方向はN-55°-Wである。深さは約100cm以上掘削できなかつた。壁面は漏斗形になると推定される。

出土遺物のうち、図示できたものは第201図21・22である。21は陶器の摺鉢、22は角閃石安山岩製の砥石?である。

第47号井戸跡 (第201図)

E-11グリッドに位置する。平面は径102cmのほぼ円形で、深さは127cm。壁面は底部からほぼ垂直に立ち上がるが、中程でわずかに開き気味になる。

出土遺物は少量で、図示できたものは第204図1の須恵器坏のみである。

第48号井戸跡 (第201図)

D-10グリッドに位置する。平面は長径160cm、短径147cmの楕円形で、長軸方向はN-10°-Wである。深さは約80cm以上掘削できなかつた。壁面は漏斗形になると推定される。

出土遺物は小片のみで、図示できるものはなかつた。土師器・須恵器の小片の他、中世陶器片や羽釜片、緑泥片岩の破片などがみられた。

第49号井戸跡 (第201図)

B-10グリッドに位置する。西半分以上が調査区域外となる。推定される規模は、径が約230cmの円形となり、大型である。深さは約50cm以上掘削できなかつた。

出土遺物は少なく、図示できるものはなかつた。中世陶器片や緑泥片岩の破片等がみられた。

第50号井戸跡 (第202図)

D-9グリッドに位置する。第72号溝跡と重複するが、井戸跡の方が新しい。平面は長径140cm、短径128cmの楕円形で、長軸方向はN-10°-Eである。深さは137cmで、壁面は漏斗形になる。

出土遺物は少なく、図示できたのは第204図2の灰釉陶器の長頸瓶のみである。他に高台付塊の小片等がみられた。

第51号井戸跡 (第202図)

E-10グリッドに位置する。第79号溝跡と重複しているが、土層の観察からは新旧関係を確認することはできなかつた。平面は長径86cm、短径81cmのやや隅丸方形に近い楕円形で、長軸方向はN-30°-Wである。深さは79cm。

出土遺物はほとんどなく、図示できるものはなかつた。

第52号井戸跡 (第202図)

F-11グリッドに位置する。第36号住居跡と重複しているが、井戸跡の方が新しい。平面は長径125cm、短径120cmの楕円形で、長軸方向はN-10°-Wである。深さは101cm、壁面は垂直部分が短い漏斗形である。

出土遺物は少なく、図示できたものは第204図3の高台付塊のみである。

第53号井戸跡 (第202図)

F-10グリッドに位置する。平面は長径93cm、短径85cmの楕円形で、長軸方向はN-35°-Wである。

深さは110cmで、壁面は漏斗形である。

出土遺物は土師器・須恵器小片と、第204図4で図示した須恵器環蓋である。

第54号井戸跡（第202図）

F-8グリッドに位置する。東側は調査区域外になるため、約半分が調査できなかった。平面は径約135cmのほぼ円形になると推定される。深さは142cmで、壁面はいびつな漏斗形になる。

出土遺物は少なく、図示できたものは第204図5の高台付塊のみである。

第55号井戸跡（第202図）

D-E-6グリッドに位置する。第80号溝跡と重複するが、井戸跡の方が新しい遺構である。平面は溝跡と重複しているため変形しているが、元来は径約200cmの円形になると推定される。深さは約130cm以上掘削できなかった。壁面は漏斗形になる。

出土遺物はほとんどなく、図示できるものはなかった。

第56号井戸跡（第202図）

D-7グリッドに位置する。第99号溝跡と重複するが、土層の観察から井戸跡の方が新しいことを確認した。平面は径100cmのほぼ円形で、溝跡との重複によって、一部変形している。深さは130cmで、壁面は底部から緩やかに開く形態である。

出土遺物は少なく、図示できたものは第204図6の高台付塊のみである。

第57号井戸跡

C-10グリッドに位置する。第44号溝跡と重複するが、調査中に壁面が崩落したため十分な観察ができず、図面も作成できなかった。平面は長径58cm、短径45cmの楕円形で、長軸方向はN-45°-Wである。

出土遺物は少なく、図示できたものは第204図7

の須恵器環蓋のみである。

第58号井戸跡（第202図）

F-7グリッドに位置する。第9号掘立柱建物跡と重複する位置にある。平面は長径150cm、短径138cmの楕円形で、長軸方向はN-35°-Eである。深さは148cm、壁面は漏斗形である。

出土遺物は少なく、図示できたものは第204図8の平底の須恵器甕底部のみである。

第59号井戸跡（第203図）

B-6グリッドに位置する。平面は径144cmのややいびつな円形である。深さは約135cm以上掘削できなかった。壁面は湾曲しながら立ち上がる形態である。

出土遺物は少なかったが、図示できたものは第204図9～11のとおりである。11は底部及び上面に糸切痕がみられた。

第60号井戸跡（第203図）

E-7グリッドに位置する。平面は長径96cm、短径90cmの楕円形で、長軸方向はN-25°-Eである。深さは83cmで、壁面は摺鉢形になり、他の井戸跡とは形態を異にしている。調査時には井戸跡としたが、他の機能をもった遺構である可能性もある。

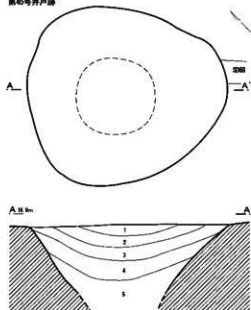
出土遺物はほとんどなく、図示できるものはなかった。

第61号井戸跡（第203図）

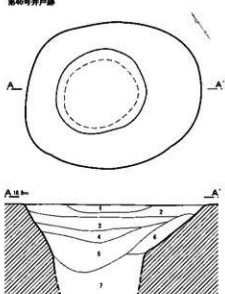
C-10グリッドに位置する。平面は径75cmの円形で、深さは101cmである。壁面は底部から垂直気味に立ち上がる形態である。

出土遺物のうち、図示できたのは比較的残存状況の良かった土師器甕1点である（第204図13）。他に土師器の環や高環の破片がみられた。

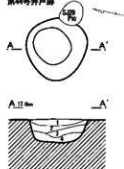
第45号井戸跡



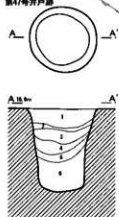
第46号井戸跡



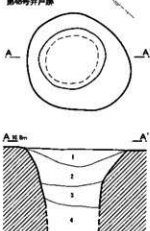
第44号井戸跡



第47号井戸跡



第48号井戸跡



第45号井戸跡

- 1 黒褐色土 黄褐色土粒子・炭化物粒子状に混入
- 2 黒褐色土 黄褐色土ブロック穴む。焼土粒少量
- 3 黒褐色土 植物繊維含む。炭化物が層状に堆積。粘性強い
- 4 黒褐色土 黄褐色土ブロック少量。粘性強い

第44号井戸跡

- 1 暗灰色土 植物繊維含む。青灰色粘質土少量。粘性強い
- 2 青灰色土 植物繊維と明灰色粘質土との混層。粘性強い
- 3 暗灰色土 中に青灰色粘質土の層入る。植物繊維少量。粘性強い
- 4 暗灰色土 青灰色粘質土が層状に混入。粘性強い
- 5 暗灰色土 植物繊維が細かく入る。粘性強い

第46号井戸跡

- 1 暗灰色土 黄褐色土粒子と青灰色粘質土との混合
- 2 暗灰色土 黄褐色土粒子穴む。炭化物粒子少量
- 3 暗灰色土 黄褐色土粒子・青灰色粘質土少量
- 4 暗灰色土 炭化物粒子少量。層状の植物繊維含む
- 5 暗灰色土 炭化物粒子・青灰色粘質土粒少量。粘性強い
- 6 暗灰色土 少量より粘性強い
- 7 暗灰色土 繊維の植物繊維含む。粘性強い

第47号井戸跡

- 1 黄褐色土 地山の穴穴込み
- 2 青灰色土 黄褐色土ブロック穴む。粘性強い
- 3 暗灰色土 植物繊維含む。粘性強い
- 4 青灰色土 植物繊維少量。粘性強い
- 5 黄褐色土 植物繊維含む。粘性強い
- 6 黒褐色土 植物繊維多量。粘性強い

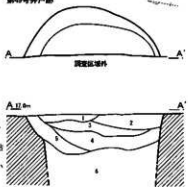
第48号井戸跡

- 1 黒褐色土 灰色土ブロック少量
- 2 黒褐色土 やや粘性強い
- 3 黒褐色土 粘性強い
- 4 黒褐色土 粘性強い。しまりやや有り

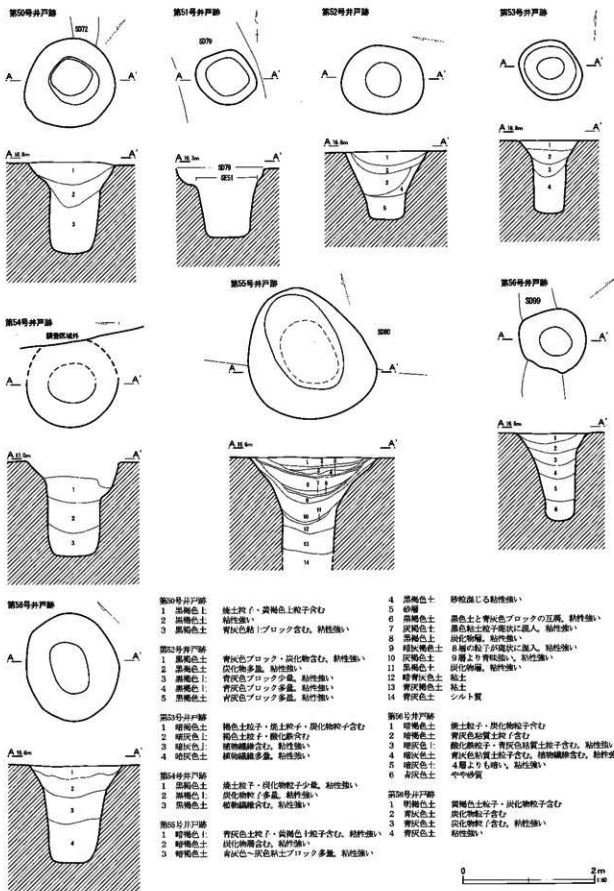
第49号井戸跡

- 1 暗褐色土 褐色土粒多量。炭化物粒子微量
- 2 黄褐色土 黄褐色土ブロック多量。暗灰色粘質土少量
- 3 灰褐色土 炭化物粒子・焼土粒子微量。黄褐色土粒子・青灰色粘質土粒少量
- 4 暗灰色土 炭化物微量。青灰色粘質土ブロック少量。粘性強い
- 5 暗灰色土 青灰色粘質土微量。植物繊維含む。粘性強い
- 6 暗灰色土 植物繊維含む。粘性強い

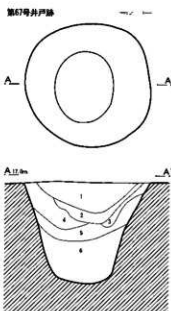
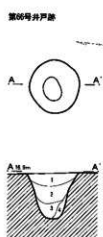
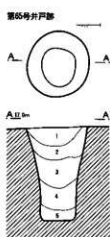
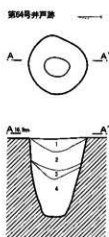
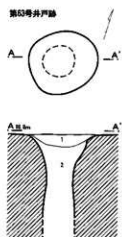
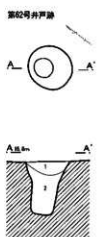
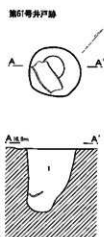
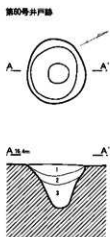
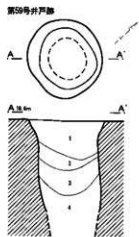
第49号井戸跡



第201図 井戸跡 (7)



第202図 井戸跡 (8)



第59号井戸跡
 1 黒褐色土 炭化物粒子含む、粘性強い
 2 灰褐色土 黄灰色粘土質物に混入
 3 黄褐色土 粘性強い
 4 黒褐色土 植物繊維多量

第60号井戸跡
 1 黄褐色土 黄褐色土粒子含む
 2 黒褐色土 黄灰色粘土含む
 3 黄灰色土 黄灰色粘土主体、黒褐色土含む

第61号井戸跡
 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック・炭化物粒子多量、粘性強い

第62号井戸跡
 1 黒灰色土 焼土粒子・植物繊維多量
 2 黒褐色土 黄灰色土ブロック少量

第63号井戸跡
 1 暗褐色土 黄褐色土粒子、焼土粒子多量
 2 黒灰色土 黄褐色土、黄灰色土ブロック少量

第64号井戸跡
 1 黒灰色土 黄褐色土粒子、黄灰色土ブロック少量、粘性強い
 2 暗褐色土 焼土粒子少量、粘性強い
 3 暗黄灰色土 黄褐色土ブロック多量、粘性強い
 4 暗黄灰色土 黄灰色土少量、粘性非常に強い

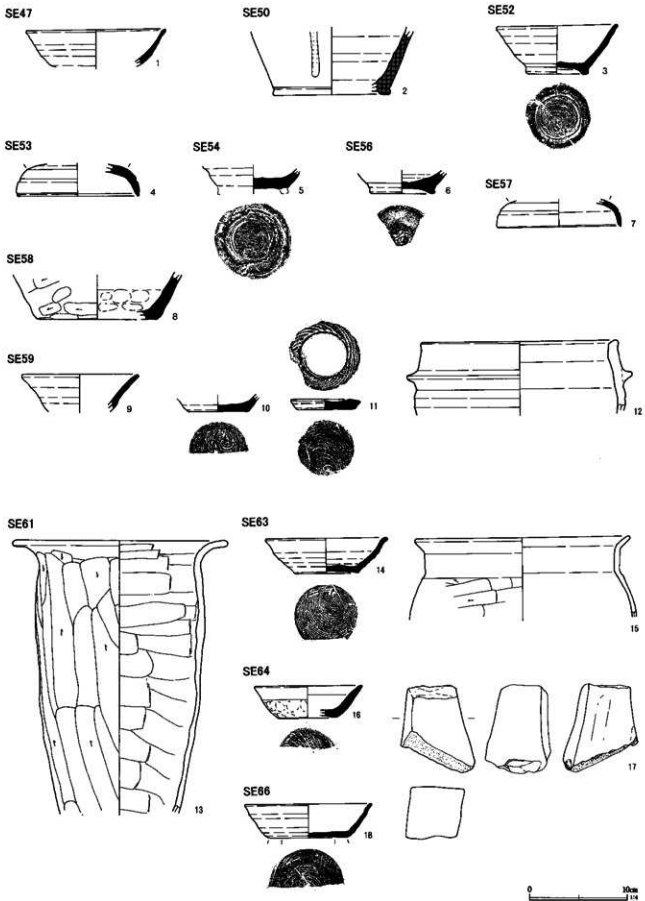
第65号井戸跡
 1 黒灰色土 焼土粒子・炭化物粒子多量
 2 黒灰色土 黄灰色土ブロック多量
 3 暗黄灰色土 黄灰色土ブロック多量、植物繊維多量、粘性強い
 4 暗黄灰色土 黄灰色土ブロック非常に多い、植物繊維多量、粘性強い
 5 暗黄灰色土 黄褐色土を主体とする

第66号井戸跡
 1 暗褐色土 焼土粒子・炭化物粒子少量、粘性強い
 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック含む、粘性強い
 3 暗褐色土 炭化物粒子多量、粘性強い
 4 暗黄褐色土 炭化物少量、黄褐色土ブロック多量、粘性強い

第67号井戸跡
 1 黒灰色土 黄灰色土・黄褐色土粒子多量、粘性強い
 2 黄褐色土 炭化物粒子・植物繊維多量、粘性強い
 3 暗黄灰色土 黄褐色土ブロック多量、粘性強い
 4 暗黄灰色土 3層より大型の黄灰色土ブロック多量、粘性強い
 5 暗黄灰色土 黄褐色土粒子・黄灰色土粒子少量、植物繊維多量、粘性強い
 6 黒黄灰色土 黄褐色土粒子・炭化物粒子多量、植物繊維多量、粘性強い



第203図 井戸跡 (9)



第204図 井戸跡出土遺物 (8)

第62号井戸跡 (第203図)

F-11グリッドに位置する。第36号住居跡と重複するが、井戸跡の方が新しい遺構である。平面は長径69cm、短径65cmの楕円形で、長軸方向はN-35°-Wである。深さは93cm、壁面は漏斗形である。調査時には井戸跡としたが、他の機能をもった遺構である可能性もある。

出土遺物はほとんどなく、図示できるものはなかった。

第63号井戸跡 (第203図)

F-12グリッドに位置する。第49号住居跡と一部重複しているが、井戸跡の方が新しい遺構である。平面は長径105cm、短径90cmの楕円形で、長軸方向はN-55°-Eである。深さは120cm以上掘削できなかった。壁面は底部から垂直に立ち上がり、上方でわずかに開く形態である。

出土遺物のうち、図示できたものは第204図14・15である。14は底部糸切痕のある環、15は典型的な「コ」の字口縁の土師器甕である。

第64号井戸跡 (第203図)

F-13グリッドに位置する。第49・51号住居跡と重複するが、井戸跡の方が新しい遺構である。平面は直径90cmのほぼ円形で、深さは119cmである。壁面は底部からわずかに開き気味に立ち上がる形態である。

出土遺物のうち、図示できたものは第204図16・17である。16は体部に指おさえ痕がみられる粗製の土器で、17は砥石である。

第65号井戸跡 (第203図)

F-13グリッドに位置する。第49号住居跡と重複しているが、井戸跡の方が新しい。平面長径102cm、短径93cmの楕円形で、長軸方向はN-90°-Eである。深さは140cmで、壁面はやや開き気味に立ち上がる形態である。

出土遺物はほとんどなく、図示できるものはなかった。

第66号井戸跡 (第203図)

F-13グリッドに位置する。第31号溝跡と重複しているが、土層観察からは新旧関係は確認できなかった。平面は径80cmのほぼ円形で、深さは70cmである。壁面は摺鉢形。調査時には井戸跡としたが、他の機能をもった遺構である可能性もある。

出土遺物のうち、図示できたものは第204図18の須恵器環1点である。底部は糸切離しの後、周囲にヘラケズリ調整を行っている。

第67号井戸跡 (第203図)

F-13・14グリッドに位置する。第43号住居跡と重複するが、井戸跡の方が新しい遺構である。平面は径185cmのややいびつな円形で、深さは155cmである。壁面は底部からやや開き気味に立ち上がる形態である。

出土遺物のうち、図示できたものは第207図1～5のとおりである。底部糸切痕のある環と高台付塊を主体とする。

第68号井戸跡 (第205図)

G-17グリッドに位置する。第129号溝跡と重複しているが、井戸跡の方が新しい遺構である。平面は長径240cm、短径220cmのいびつな楕円形で、長軸方向はN-0°である。深さは約120cm以上掘削できなかった。壁面は漏斗形と推定される。

出土遺物は少なく、図示できたものは第207図6の小型の環1点である。緑泥片岩の破片がみられた。

第69号井戸跡 (第205図)

G-17グリッドに位置する。第3号方形周溝墓の周溝と重複しているが、井戸跡の方が新しい遺構である。図面では、平面は径88cmのややいびつな円形であるが、遺構の精査を周溝の底部から行ったため

変形している。深さは遺構確認面から67cmである。

出土遺物は少なく、図示できたものは第207図7の高台付壇の破片のみである。

第70号井戸跡 (第205図)

G-17グリッドに位置する。第3号方形周溝墓や第44号溝跡と重複しているが、いずれの遺構よりも井戸跡の方が新しい。方形周溝墓によって大きく削られているので正確な平面規模は不明であるが、径約180cmのほぼ円形になると推定される。深さは122cmである。壁面は底部からほぼまっすぐに立ち上がる形態である。

出土遺物のうち、図示できたものは第207図8～10のとおりである。10は高台が付く壇形であるが、体部がS状に屈曲している。

第71号井戸跡 (第205図)

G-14グリッドに位置する。第43号住居跡と一部重複しているが、井戸跡の方が新しい遺構である。平面は長径108cm、短径98cmの楕円形で、長軸方向はN-50°-Eである。深さは110cmで、壁面は底部からほぼまっすぐに立ち上がる形態である。

出土遺物は小片が多く、図示できたのは第207図11の高台付壇1点のみである。

第72号井戸跡 (第205図)

G-15グリッドに位置する。平面は長径105cm、短径96cmの楕円形で、長軸方向はN-30°-Eである。深さは約130cm以上掘削できなかつた。

出土遺物のうち、図示できたものは第207図12～15のとおりである。糸切痕のある須恵器や高台付壇などはみられなかつた。

第73号井戸跡 (第205図)

G-15グリッドに位置する。第117号溝跡と重複するが、土層の観察からは前後関係を確認することはできなかつた。平面は長径115cm、短径102cmの楕

円形で、長軸方向はN-20°-Eである。深さは118cmで、壁面は底部からわずかに開き気味に立ち上がる形態である。

出土遺物は少なく、図示できたものは第207図16の曲物底部のみである。復元径は19cmである。

第74号井戸跡 (第205図)

F-14グリッドに位置する。第21・107号溝跡と重複するが、第107号溝跡より井戸跡の方が新しい遺構である。第21号溝跡との新旧関係は、土層観察からは不明である。平面は長径84cm、短径75cmの楕円形で、長軸方向はN-45°-Eである。深さは151cmで、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

出土遺物はほとんどなく、図示できるものはなかつた。

第75号井戸跡 (第205図)

G-16・17グリッドに位置する。平面は長径122cm、短径100cmの楕円形で、長軸方向はN-75°-Eである。深さは135cmで、壁面は底部からやや開き気味に立ち上がる形態である。

出土遺物はほとんどなく、図示できるものはなかつた。

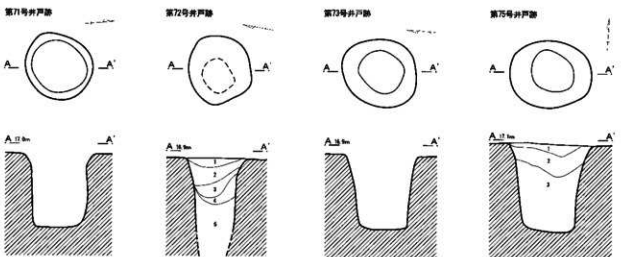
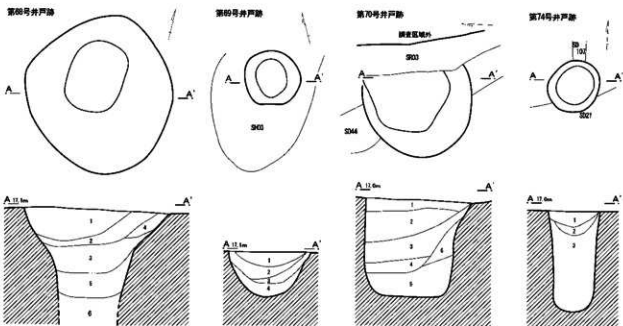
第76号井戸跡 (第205図)

F-16グリッドに位置する。P825と重複するが、土層の観察では井戸跡の方が新しい。平面長径88cm、短径78cmの楕円形で、長軸方向はN-60°-Eである。深さは154cmで、壁面は細長い漏斗形である。

出土遺物はほとんどなく、図示できるものはなかつた。

第77号井戸跡 (第206図)

G-16グリッドに位置する。溝跡と重複しているが、土層の観察では前後関係は不明である。平面は長径72cm、短径65cmの楕円形で、長軸方向はN-90°-Eである。深さは118cmで、壁面は底部からほ



第66号井戸跡
 1 灰褐色土 青灰色粘土粒了・黄褐色土粒を含む
 2 灰褐色土 青灰色粘土ブロック・鉄分多量
 3 灰褐色土 灰褐色粘土塊状に混入。粘性強い
 4 灰褐色土 1層と同じ
 5 黒灰色土 青灰色シルト土多量
 6 黒灰色土 青灰色シルト土を主体とする

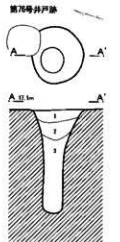
第67号井戸跡
 1 暗褐色土 青灰色土ブロック少量
 2 暗褐色土 黄褐色土粒了・青灰色土ブロック少量
 3 暗褐色土 やや粘性強い
 4 暗褐色土 青灰色粘質土少量。粘性強い
 5 暗褐色土 青灰色粘質土多量。粘性強い

第69号井戸跡
 1 黒灰色土 灰褐色土ブロック少量
 2 黒灰色土 灰褐色土ブロック多量
 3 黒灰色土 青灰色土・黄褐色土ブロック多量。植物繊維多量
 4 黒灰色土 3層より大型のブロック含む。植物繊維多量

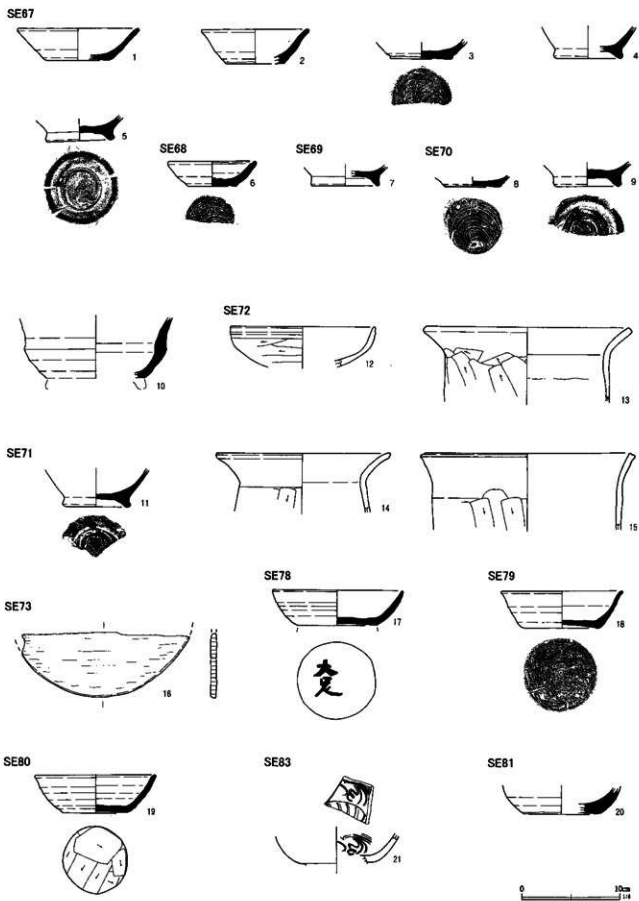
第72号井戸跡
 1 暗褐色土 青灰色土ブロック少量
 2 暗褐色土 黄褐色土粒了・粘土含む
 3 暗褐色土 灰褐色土
 第73号井戸跡
 1 灰褐色土 黄褐色土ブロック厚状に混入
 2 暗褐色土 1層より黄褐色土ブロック少ない
 3 灰褐色土 粘性強い。しまり強い

第70号井戸跡
 1 暗褐色土 粘土粒了・炭化植物残片含む
 2 暗褐色土 青灰色粘土含む。粘性強い
 3 暗褐色土 青灰色粘土・粘土含む。粘性強い
 4 暗褐色土 青灰色粘土ブロック多量
 5 暗褐色土 青灰色粘土・粘土含む
 6 暗褐色土 青灰色粘土・粘土を含む

第74号井戸跡
 1 暗褐色土 粘土粒了・黄褐色土粒了少量
 2 暗褐色土 青灰色粘質土・粘土含む
 3 暗褐色土 2層より灰褐色粘質土粒了少ない
 第75号井戸跡
 1 灰褐色土 黄褐色土ブロック厚状に混入
 2 暗褐色土 1層より黄褐色土ブロック少ない
 3 灰褐色土 粘性強い。しまり強い

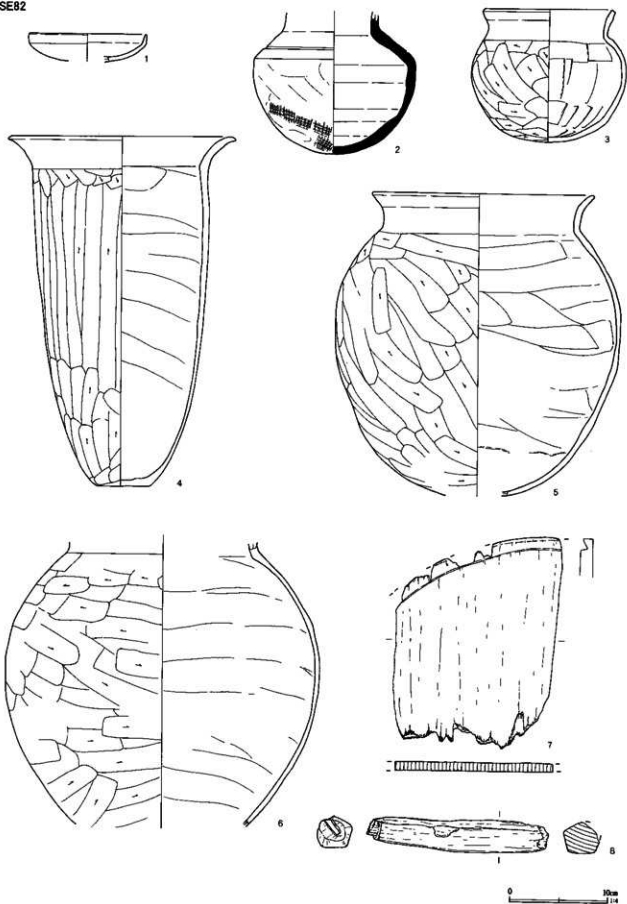


第205図 井戸跡 (10)



第207図 井戸跡出土遺物 (9)

SE82



第208図 井戸跡出土遺物 (10)

第79号井戸跡 (第206図)

F-16グリッドに位置する。第2号溝跡と隣接しているが、重複関係にはない。平面は長径102cm、短径86cmで、長軸方向はN-35°-Wである。深さは119cmで、壁面はいびつな漏斗形である。

出土遺物のうち、図示できたものは第207図18の須恵器坏1点である。

第80号井戸跡 (第206図)

F-16グリッドに位置する。第2号溝跡と重複するが、井戸跡の方が古い遺構である。平面は長径62cm、短径44cmの楕円形で、長軸方向はN-0°-Eである。深さは92cmで、壁面は底部からほぼ垂直に立ち上がる形態である。

出土遺物は少ないが、土師器坏1点を図示した(第207図19)。

第81号井戸跡 (第206図)

F-14・15グリッドに位置する。第21・127号溝跡と重複するが、土層観察では前後関係は不明である。遺構の精査を溝跡の底部から行ったため、平面形態は大きく変形している。調査時の規模は長径180cm、短径165cmの楕円形で、長軸方向はN-50°-Wである。深さは遺構確認面から計測すると

約120cmである。

出土遺物は少なく、図示できたものは底部糸切痕のある坏1点のみである。他に灰釉陶器の小片や緑泥片岩の破片がみられた。

第82号井戸跡 (第206図)

D-12グリッドに位置する。平面は径46cmのほぼ円形で、深さは127cmである。壁面は底部からほぼ垂直に立ち上がる筒状の形態である。

出土遺物は比較的多く、図示できたものは第208図のとおりである。残存状態もよく、2~5の壺や甕はいずれも、ほぼ完形に近い状態で出土した。7は曲物または桶の底部であるが、側板との接合部分は溝状に削りだしている。8は用途不明の木材で、端部を杓状に細工している。

第83号井戸跡 (第206図)

G-13グリッドに位置する。西側の半分以上は調査区域外となる。復元される平面規模は、径約200cmの円形である。深さは約110cm以上掘削できなかつた。

出土遺物はほとんどなかつたが、青磁碗片が1点みられた(第207図21)。

井戸跡出土遺物観察表 1

扉図番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
173 1	SE 1	須恵器	環		[1.0]		底部2/3	赤粒 白粒 針	普通	にぶい橙		
173 2	SE 1	青磁	手付瓶?		[3.7]		破片	石英 白粒	良好	灰黄	越前富系	78
173 3	SE 3	須恵器	環	13.0	3.9	6.4	完形	雲 砂粒 白粒	良好	灰白	「集」出土あり	38
173 4	SE 4	須恵器	高台付埴	(13.5)	6.4	(6.6)	1/4	雲 白粒	不良	灰白		
173 5	SE 4	須恵器	環	(13.5)	3.7	(7.0)	1/4	雲 赤粒	不良	浅黄橙		
173 6	SE 4	須恵器	環		[2.2]	6.2	底部完形	雲 長石 白粒	普通	灰白、黒褐		
173 7	SE 5	須恵器	環	15.0	3.3	8.0	2/3	赤粒	不良	浅黄橙		38
173 8	SE 6	須恵器	環	(11.2)	4.0	(6.0)	破片	雲 赤粒	普通	灰黄褐		
173 9	SE 6	須恵器	環	(11.8)	3.6	(6.4)	破片	雲 赤粒 白粒	普通	灰白		
173 10	SE 6	須恵器	環	(12.6)	4.0	(5.8)	破片	雲 砂粒 白粒	普通	灰白、褐灰		
173 11	SE 6	須恵器	高台付埴		[1.9]	7.0	底部完形	雲 白粒	良好	灰白	「C」へラ記号	
173 12	SE 6	内黒土器	高台付埴	(13.0)	[3.7]		破片	雲 角 赤粒 白粒	良好	にぶい橙	高台割離	
173 13	SE 6	須恵器	壺		[1.6]	(9.2)	底部1/4	角 白粒	良好	灰白	高台のみ	
173 14	SE 6	土師器	羽釜	(24.0)	[7.7]		口縁破片	雲 砂粒 赤粒 白粒	普通	灰褐		
173 15	SE 6	土師器	甕	(28.0)	[12.4]		破片	砂粒 赤粒 白粒	普通	橙		
173 16	SE 6	土師器	甕	(23.0)	[11.5]		破片	雲 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
174 1	SE 2	須恵器	環	9.8	3.5	5.4	4/5	雲 片 砂粒 白粒	普通	にぶい橙		37
174 2	SE 2	須恵器	環	(12.5)	4.0	(6.0)	1/4	赤粒 白粒	普通	明褐灰、褐灰		
174 3	SE 2	須恵器	環	(2.8)	4.3	6.0	2/3	雲 白粒 針	普通	灰褐		38
174 4	SE 2	須恵器	環	(12.5)	3.4	(6.0)	破片	角 石英 赤粒	不良	灰白		
174 5	SE 2	須恵器	環		[2.2]	6.0	2/3	雲 赤粒 白粒	普通	橙		
174 6	SE 2	須恵器	環		[1.6]	6.0	底部完形	雲 角 赤粒 白粒	普通	浅黄橙		
174 7	SE 2	須恵器	環		[1.6]	5.6	底部完形	雲 角 赤粒 白粒	不良	灰褐		
174 8	SE 2	須恵器	高台付埴	13.5	5.5	6.5	1/2	白粒	普通	灰白		38
174 9	SE 2	須恵器	高台付埴	13.0	5.0	6.2	4/5	角 白粒	普通	灰口、淡橙	内面×字線刻	38
174 10	SE 2	須恵器	高台付埴		[1.8]	7.0	底部完形	雲 長石 砂粒 赤粒	不良	灰白		
174 11	SE 2	須恵器	高台付埴		[1.7]	7.0	底部完形	雲 赤粒	普通	浅黄橙		
174 12	SE 2	須恵器	高台付埴		[2.8]	8.2	底部完形	白粒 針	良好	橙		
174 13	SE 2	須恵器	高台付埴		[2.5]	8.6	底部1/2	雲 片 長石 砂粒	不良	褐灰		
174 14	SE 2	須恵器	高台付埴	14.6	5.6	7.6	3/4	雲 片 砂粒 赤粒	普通	明赤褐		38
174 15	SE 2	緑釉陶器	埴	(17.0)	[2.9]		破片	白粒	良好	灰	二次被熱 尾北	86
174 16	SE 2	緑釉陶器	埴		[3.2]		1/5	白粒	良好	灰	猿投	86
174 17	SE 2	緑釉陶器	埴		[2.0]	(7.4)	破片	白粒	良好	灰	猿投	86
174 18	SE 2	緑釉陶器	埴		[1.7]	(7.4)	破片	黒粒	普通	灰白	SD50 猿投	86
174 19	SE 2	灰釉陶器	埴		[2.7]	6.8	底部完形	白粒 黒粒	良好	灰白	内底朱 外底黄濁	90
174 20	SE 2	灰釉陶器	皿	(13.0)	[1.9]		破片	白粒 黒粒 褐色粒	良好	灰白	漬け掛け 東濃	90
174 21	SE 2	灰釉陶器	埴		[1.3]	(7.5)	破片	白粒	良好	灰白	東濃	90
174 22	SE 2	灰釉陶器	長頸壺		[7.4]		破片	白粒 黒粒	良好	灰白	ハケ塗り 東濃	90
174 23	SE 2	須恵器	甕		[11.2]		1/3	長石 白粒	良好	灰		
174 24	SE 2	土師器	甕	(15.0)	[8.7]		口縁1/4	雲 角 赤粒 白粒	良好	淡橙		
174 25	SE 2	土師器	鉢	(26.0)	[4.5]		口縁破片	雲 角 砂粒 赤粒	普通	褐灰		
174 26	SE 2	土師器	羽釜	(24.0)	[6.3]		頸部破片	雲 白粒	普通	明赤褐 赤灰		
174 27	SE 2	土師器	甕	(22.0)	[8.1]		口縁破片	雲 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
175 28	SE 2	木製品	鞍	長[23.6]	幅[9.6]	厚3.1	樹種	コナラ 栗 コナラ 椎 楓 クヌギ 節			黒漆塗木製鞍	101
175 29	SE 2	木製品	不明板材	長[9.7]	幅[2.3]	厚0.3						101
175 30	SE 2	木製品	曲物	径20.8	厚1.2		樹種	モミ 属			底板	101
175 31	SE 2	土製品	土罐	幅5.0	長9.0 孔径1.1		完形	雲 角 赤粒 白粒	普通	灰褐		
175 32	SE 2	土製品	土罐	幅2.0	長5.1 孔径0.9		ほぼ完形	角 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
175 33	SE 2	鉄製品	鉄鍔	全長(11.6)	鍔身部長4.5			頸部長(7.6) 茎部長(4.1)				94
175 34	SE 2	鉄製品	鉄釘	長[3.9]	幅0.5							94
175 35	SE 2	木製品	枕	長[142.5]	径6.4							102
175 36	SE 2	木製品	枕	長[96.0]	径6.4		樹種	サカキ				102
175 37	SE 2	木製品	不明板材	長[64.0]	幅[12.0]	厚2.6						
183 1	SE 7	須恵器	蓋	(9.0)	3.1		1/3	雲 白粒	良好	灰	堀方	38
183 2	SE 7	土師器	高坏転用		[3.7]		4/5	雲 長石 赤粒 白粒	普通	橙	堀方 叩き具?	77
183 3	SE 7	須恵器	甕		[4.7]	(12.0)	底部1/4	長石 砂粒 白粒	良好	灰		
183 4	SE 7	須恵器	甕		[5.2]	(15.0)	底部破片	砂粒 白粒	良好	灰	外面ス付着	
183 5	SE 8	須恵器	高台付埴	(15.0)	[4.6]		破片	雲 角 赤粒 針	普通	にぶい黄橙		
183 6	SE 8	須恵器	環	(16.0)	[3.7]		破片	雲 赤粒	普通	黒褐		
183 7	SE 10	陶器	鉢	(28.0)	[7.5]		破片	砂粒 赤粒 白粒	普通	灰白	瓦質	

井戸跡出土遺物観察表 2

拝見番号	遺物種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎上	焼成	色調	出土位置・備考	図版
183	8 SE	10 陶器	鉢	(30.5)	[8.3]		雲 赤粒 白粒	普通	にぶい黄橙		
183	9 SE	10 陶器	鉢		[4.5]	(10.0)	砂粒 白粒	普通	黒	瓦質	
183	10 SE	10 陶器	鉢		5.4	(11.8)	白粒	良好	地灰白	内外面施釉	77
183	11 SE	10 木製品	曲物	径(25.4)	厚0.8		樹種 スギ			底板	107
183	12 SE	10 木製品	曲物	高[7.0]	厚0.3					側板	107
183	13 SE	12 陶器	甕		[9.0]		口縁1/4 雲 赤粒 白粒	良好	橙、明赤褐		
183	14 SE	12 陶器	すり鉢	(30.0)	[4.5]		口縁1/4 雲 角 白粒	普通	褐灰	瓦質	
195	1 SE	13 陶器	鉢	(28.2)	9.0	(12.8)	1/4 砂粒 赤粒	普通	にぶい橙、橙		38
195	2 SE	13 陶器	鉢	(29.4)	[12.0]		1/4 砂粒 白粒	普通	黒褐	瓦質	
195	3 SE	13 陶器	鉢	(36.0)	10.8	(16.0)	破片 雲 砂粒 白粒	良好	橙		
195	4 SE	13 木製品	曲物	径19.2	厚1.1					底板	
195	5 SE	14 須恵器	坏	(11.8)	3.8	(5.8)	1/4 雲 白粒	良好	灰白		
195	6 SE	14 陶器	甕	(20.0)	[5.0]		口縁1/4 雲 白粒	良好	地灰白 黒	内外面施釉	
195	7 SE	17 土師器	甕	(20.0)	[3.7]		口縁破片 砂粒 赤粒 白粒	普通	橙		
195	8 SE	20 須恵器	坏	(12.2)	4.2	(5.6)	1/4 雲 赤粒 針	普通	灰白		
195	9 SE	20 須恵器	坏	(17.0)	[4.8]		破片 角 赤粒 白粒	普通	灰褐		
195	10 SE	20 須恵器	甕	(20.0)	[4.8]		口縁1/4 雲 角 白粒	普通	灰白		
196	11 SE	20 内黒土器	高台付埴	12.5	6.0	7.0	1/2 雲 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		38
196	12 SE	20 灰輪陶器	長頸壺	(17.0)	[2.1]		破片 白粒 黒粒	普通	灰白	ハケ塗り	90
196	13 SE	20 土師器	甕	(22.0)	[12.2]		破片 雲 角 砂粒 赤粒	普通	にぶい褐		
196	14 SE	20 須恵器	甕	(43.6)	[11.3]		破片 白粒 針	良好	灰		
197	1 SE	21 須恵器	坏	(10.8)	3.5	(5.2)	1/3 雲片角 赤粒 白粒	普通	橙		39
197	2 SE	21 須恵器	坏		[1.2]	(2.5)	破片 雲 片 石英 赤粒	普通	灰褐		
197	3 SE	21 須恵器	高台付埴	14.0	6.0	8.6	2/3 雲 片 石英 赤粒	普通	にぶい橙		39
197	4 SE	21 須恵器	高台付埴		[2.7]	6.6	底部定形 赤粒 白粒	普通	褐灰		
197	5 SE	21 内黒土器	坏	(15.0)	[4.2]		破片 雲 赤粒 白粒	普通	にぶい黄橙		
197	6 SE	21 灰輪陶器	壺		[5.0]	(10.0)	底部1/6 白粒	良好		胎土緻密	90
197	7 SE	21 土師器	羽釜	(18.0)	[5.0]		口縁破片 雲 角 石英 砂粒	普通	にぶい橙		
197	8 SE	21 土師器	羽釜	(13.2)	[7.8]		口縁破片 雲 角 石英 砂粒	良好	にぶい橙		
197	9 SE	21 木製品	槽	長[25.2]	幅11.0	厚3.7	樹種 スギ				107
197	10 SE	22 須恵器	高台付埴		[1.7]	6.4	2/3 砂粒 白粒	良好	灰		
197	11 SE	22 須恵器	壺		[3.2]	9.4	底部定形 赤粒 白粒 針	良好	灰		
197	12 SE	22 灰輪陶器	埴		[2.3]	(7.7)	破片 白粒 黒粒	普通	灰白	液け掛け	90
197	13 SE	24 常滑	甕	(40.0)	[4.8]		口縁破片 石英 白粒	良好	灰白 赤褐		
197	14 SE	26 須恵器	坏		[2.0]	(5.0)	1/4 雲 角 白粒	不良	灰白		
197	15 SE	26 須恵器	高台付埴		[1.7]	(7.0)	破片 赤粒 白粒 針	普通	にぶい橙		
197	16 SE	26 土師器	小型甕	(9.5)	[5.0]		口縁1/4 雲 角 白粒	普通	にぶい橙		
197	17 SE	26 土師器	甕	(17.0)	[5.7]		口縁破片 砂粒 赤粒 白粒	普通	にぶい黄橙		
200	1 SE	28 木製品	曲物	径(25.0)	厚0.8					底板	107
200	2 SE	29 木製品	曲物	長29.0	幅[6.5]	厚0.4				底板	
200	3 SE	29 陶器	すり鉢	(33.0)	[12.8]		破片 雲 砂粒 白粒	普通	灰	瓦質	
200	4 SE	29 木製品	埴	13	[5.5]	7.5	樹種 トネリコ属		黒・赤漆		107
200	5 SE	29 木製品	埴		[1.3]	8	樹種 クリ		黒・赤漆		107
200	6 SE	31 須恵器	坏	(12.3)	3.8	(6.0)	破片 角 白粒 針	普通	灰白		
200	7 SE	31 須恵器	坏		[1.8]	(5.5)	1/3 雲 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
200	8 SE	33 木製品	埴	15.1	5.2	6.9	樹種 カツラ		黒・赤漆		107
200	9 SE	34 須恵器	坏	(12.0)	[2.5]		1/4 白粒	普通	橙		
200	10 SE	34 木製品	紡錘車	径(6.0)	厚0.9		1/2 砂粒 白粒 針	普通	褐灰	須恵坏転用	
200	11 SE	34 木製品	曲物	径10.2	厚0.5					底板	107
200	12 SE	36 灰輪陶器	埴		[1.9]	(5.7)	破片 黒粒	良好	灰白		90
200	13 SE	37 青磁	筒					良好	灰、オリーブ	胎土緻密	
200	14 SE	37 陶器	鉢	(24.0)	[6.0]		破片 砂粒 赤粒 白粒	普通	にぶい黄橙	スス付着	
200	15 SE	37 陶器	鉢		[3.6]	(13.0)	1/4 砂粒 白粒	普通	橙	瓦質	
200	16 SE	43 須恵器	鉢		[1.0]	5.0	底部定形 角 長石 赤粒 白粒	普通	灰		
200	17 SE	43 須恵器	壺		[5.2]	(16.0)	破片 砂粒 白粒	普通	灰褐		
200	18 SE	43 須恵器	土罐	幅[1.6]	長[4.8]	孔0.3	4/5 雲 赤粒	普通	にぶい橙		
200	19 SE	44 須恵器	坏	(11.5)	3.9	(6.0)	1/4 雲 角 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
200	20 SE	45 常滑?	平底壺		[6.4]	(10.5)	1/6 砂粒 白粒	良好	にぶい赤褐		
200	21 SE	46 陶器	鉢	(29.6)	11.0	(12.0)	1/4 白粒	普通	灰白	瓦質	
200	22 SE	46 石製品	磁石	幅6.2	長[4.9]	厚2.0				角四石安山岩	

井戸跡出土遺物観察表 3

標記番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
204 1	SE 47	須恵器	坏	(14.2)	[3.7]		破片	白粒 針	普通	にぶい橙		
204 2	SE 50	灰釉陶器	長頸瓶		[6.5]	(12.0)	破片	白粒	良好	灰白		
204 3	SE 52	須恵器	高台付埴	12.4	5.1	6.5	1/2	雲 砂粒 白粒	普通	にぶい褐		39
204 4	SE 53	須恵器	坏	(12.5)	[3.2]		破片	砂粒 白粒	普通	灰白		
204 5	SE 54	須恵器	高台付埴		[1.7]		2/3	雲 角 白粒	普通	灰黄褐		
204 6	SE 56	須恵器	高台付埴		[1.6]	(6.6)	雲	赤粒	不良	灰白		
204 7	SE 57	須恵器	坏蓋	(13.0)	[2.8]		破片	白粒	良好	褐灰		
204 8	SE 58	須恵器	甕		[4.5]	12.0	破片	雲 白粒	良好	灰		
204 9	SE 59	須恵器	坏	(12.0)	[3.7]		破片	雲 赤粒 白粒	不良	浅黄橙		
204 10	SE 59	須恵器	坏		[1.5]	6.0	1/2	赤粒 白粒	普通	褐灰		
204 11	SE 59	須恵器	坏		[1.0]	5.9	ほぼ完全	雲 赤粒 白粒 針	普通	にぶい黄橙	利離痕に糸切	77
204 12	SE 59	土師器	羽釜	(20.0)	[7.2]		破片	雲 赤粒 白粒	普通	灰褐		
204 13	SE 61	土師器	甕	(22.0)	[27.7]		1/4	雲 赤粒 白粒	普通	にぶい橙	No.1	68
204 14	SE 63	須恵器	坏	(12.6)	3.6	(6.6)	1/4	雲 角 白粒 針	普通	にぶい橙		68
204 15	SE 63	土師器	甕	(22.0)	[18.3]		破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	橙		
204 16	SE 64	須恵器	坏	(11.0)	3.2	(6.0)	1/3	雲 片 白粒	普通	にぶい橙		
204 17	SE 64	石製品	砥石	幅5.3	長[7.8]	厚5.0						
204 18	SE 66	須恵器	坏	(13.0)	3.5	(8.0)	1/3	白粒 針	良好	灰	No.1	39
207 1	SE 67	須恵器	坏	(12.5)	3.4	(6.5)	破片	雲 角 白粒	普通	灰白・黒		
207 2	SE 67	須恵器	坏	(11.0)	3.5	(6.0)	破片	雲 角 赤粒 白粒	不良	灰褐		
207 3	SE 67	須恵器	坏		[1.7]	(6.4)	1/3	雲 赤粒 白粒	普通	灰褐		
207 4	SE 67	須恵器	高台付埴		[3.1]	(7.0)	1/4	雲 角 赤粒 白粒	普通	褐灰		
207 5	SE 67	須恵器	高台付埴		[2.2]	7.0	4/5	雲 角 砂粒 赤粒	普通	橙		
207 6	SE 68	須恵器	坏	(9.0)	2.5	(5.0)	1/3	雲 白粒	普通	にぶい橙		
207 7	SE 69	須恵器	高台付埴		[1.9]	(7.0)	1/2	雲 赤粒 白粒	普通	灰白		
207 8	SE 70	須恵器	坏		[1.0]	5.6	底部完全	雲 角 赤粒 白粒	普通	にぶい黄橙		
207 9	SE 70	須恵器	高台付埴		[2.2]	7.0	1/2	雲 角 白粒	普通	灰白		
207 10	SE 70	須恵器	埴?		[6.2]		破片	白粒 針	良好	灰		
207 11	SE 71	須恵器	高台付埴		[3.8]	(7.0)	1/4	雲 赤粒	普通	褐灰		
207 12	SE 72	土師器	坏	(15.0)	[4.1]		破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	橙		
207 13	SE 72	土師器	甕	(21.4)	[7.6]		L1線1/3	雲 片 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
207 14	SE 72	土師器	甕	(18.0)	[6.0]		L1線破片	雲 角 石英 赤粒	普通	にぶい赤褐		
207 15	SE 72	土師器	甕	(22.0)	[7.8]		L1線破片	雲 赤粒 白粒	普通	橙		
207 16	SE 73	木製品	曲物	径 [19.0]	厚0.5						底板	108
207 17	SE 78	須恵器	坏	13.4	3.6	8.0	4/5	雲 角 白粒	普通	灰白	[大足]黒書	77
207 18	SE 79	須恵器	坏	12.5	3.8	7.8	ほぼ完全	雲 片 角 赤粒 白粒	普通	明褐灰		39
207 19	SE 80	土師器	坏	(12.0)	[2.9]		破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	橙	底部ケズリ	
207 20	SE 81	須恵器	坏		[2.8]	(8.0)	1/4	雲 赤粒	普通	灰黄褐		
207 21	SE 83	青磁	碗		[2.7]		1/4	雲	良好	オリーブ黄		
208 1	SE 82	土師器	坏	(12.0)	[2.8]		破片	雲 角 石英 白粒	普通	橙		
208 2	SE 82	須恵器	壺		[14.2]		ほぼ完全	砂粒 白粒	良好	灰		
208 3	SE 82	土師器	壺	13.5	13.6		4/5	雲 角 白粒	普通	明赤褐		61
208 4	SE 82	土師器	壺	13.0	35.5	5.5	ほぼ完全	雲 角 赤粒 白粒	良好	橙		62
208 5	SE 82	土師器	壺	22.5	[30.5]		ほぼ完全	雲 角 赤粒 白粒	普通	にぶい橙	スス付着	68
208 6	SE 82	土師器	壺		[28.7]		2/3	雲 角 白粒	普通	灰褐		62
208 7	SE 82	木製品	曲物	径(44.0)	厚0.8							108
208 8	SE 82	木製品	枕	長さ[18.5]	径3.2							108

井戸跡木枠材観察表

図版番号	遺構	種別	器種	長さ	幅	厚さ	材質	備考	図版
176 1	SE 2	木製品	井戸枠	149.0	12.4	5.4	クリ	北No1	
176 2	SE 2	木製品	井戸枠	157.5	15.0	5.4	クリ	北No7	
176 3	SE 2	木製品	井戸枠	[113.0]	15.5	5.5	クリ	北No5	
176 4	SE 2	木製品	井戸枠	151.0	14.6	3.8	クリ	北No8	102
176 5	SE 2	木製品	井戸枠	[148.5]	13.0	4.0	クリ	東No1	
176 6	SE 2	木製品	井戸枠	153.5	14.0	5.0	クリ	東No3	
177 7	SE 2	木製品	井戸枠	[141.5]	15.0	5.0	クリ	東No6	
177 8	SE 2	木製品	井戸枠	145.6	13.2	6.0	クリ	東No7	
177 9	SE 2	木製品	井戸枠	148.0	15.8	6.5	クリ	東No8	
177 10	SE 2	木製品	井戸枠	157.5	22.5	4.8	クリ	東No9	102
177 11	SE 2	木製品	井戸枠	150.5	11.0	5.5	クリ	南No1	
177 12	SE 2	木製品	井戸枠	[149.0]	13.5	5.0	クリ	南No2	
178 13	SE 2	木製品	井戸枠	153.2	13.0	6.8	クリ	南No3	
178 14	SE 2	木製品	井戸枠	[135.0]	14.5	5.5	クリ	南No4	
178 15	SE 2	木製品	井戸枠	160.5	15.6	6.8	クリ	南No5	
178 16	SE 2	木製品	井戸枠	157.5	16.5	5.4	クリ	南No6	
178 17	SE 2	木製品	井戸枠	152.5	16.4	5.0	クリ	南No8	
178 18	SE 2	木製品	井戸枠	[138.6]	14.0	7.5	クリ	南No9	
179 19	SE 2	木製品	井戸枠	156.0	15.5	5.4	クリ	西No1	
179 20	SE 2	木製品	井戸枠	156.0	14.0	5.4	クリ	西No2	
179 21	SE 2	木製品	井戸枠	[127.5]	10.0	3.2	クリ	西No3	
179 22	SE 2	木製品	井戸枠	148.4	15.5	5.5	クリ	西No4	
179 23	SE 2	木製品	井戸枠	155.0	14.0	5.0	クリ	西No5	
179 24	SE 2	木製品	井戸枠	[169.7]	15.0	7.5	クリ	西No6	
180 25	SE 2	木製品	井戸枠	154.5	17.5	5.5	クリ	西No7	
180 26	SE 2	木製品	井戸枠	[159.0]	18.0	6.6	クリ	西No8	
180 27	SE 2	木製品	井戸枠	146.5	[8.5]	4.8	クリ	北No2?	
180 28	SE 2	木製品	井戸枠	145.5	12.0	2.5	クリ	北No3?	
180 29	SE 2	木製品	井戸枠	153.5	13.0	5.6	クリ	北No4?	
180 30	SE 2	木製品	井戸枠	146.0	14.2	5.5	クリ	北No6?	
181 31	SE 2	木製品	井戸枠	155.4	11.0	5.5	クリ	東No2?	
181 32	SE 2	木製品	井戸枠	156.5	13.0	6.0	クリ	東No4?	
181 33	SE 2	木製品	井戸枠	152.0	19.2	5.2	クリ	東No5?	
181 34	SE 2	木製品	井戸枠	154.6	14.8	5.0	クリ	南No7?	
181 35	SE 2	木製品	井戸枠	161.5	17.5	5.2	クリ	西No9?	102
181 36	SE 2	木製品	井戸枠	[152.5]	21.2	7.4	クリ		
184 1	SE 7	木製品	井戸枠	[196.5]	23.0	2.6	ヒノキ	北嶽①	
184 2	SE 7	木製品	井戸枠	[223.4]	34.5	4.6	ヒノキ	北嶽②	拓影
185 3	SE 7	木製品	井戸枠	[213.2]	38.0	3.8	ヒノキ	北嶽③	拓影
185 4	SE 7	木製品	井戸枠	[206.2]	23.0	2.5	ヒノキ	東嶽①	
186 5	SE 7	木製品	井戸枠	[215.5]	33.0	3.0	ヒノキ	東嶽②	拓影
186 6	SE 7	木製品	井戸枠	[228.0]	30.5	4.0	ヒノキ	東嶽③	103
187 7	SE 7	木製品	井戸枠	[209]	38.6	3.2	ヒノキ	南嶽①	104
187 8	SE 7	木製品	井戸枠	[214.5]	33.4	3.0	ヒノキ	南嶽②	拓影
188 9	SE 7	木製品	井戸枠	[198.0]	22.0	2.4	ヒノキ	南嶽③	104
188 10	SE 7	木製品	井戸枠	[213.4]	36.5	3.0	ヒノキ	西嶽①	拓影
189 11	SE 7	木製品	井戸枠	[110.5]	34.0	3.4	ヒノキ	西嶽②	105
189 12	SE 7	木製品	井戸枠	[199.5]	20.0	3.2	ヒノキ	西嶽③	
190 13	SE 7	木製品	井戸枠横木	78.0	10.4	7.0		一段目(北)	106
190 14	SE 7	木製品	井戸枠横木	84.2	長辺9.0	短辺6.5		一段目(東)	
190 15	SE 7	木製品	井戸枠横木	80.0	長辺10.0	短辺7.0		一段目(南)	
190 16	SE 7	木製品	井戸枠横木	83.4	長辺[5.0]	短辺6.6		一段目(西)	
190 17	SE 7	木製品	井戸枠横木	[78.0]	長辺8.0	短辺6.0		二段目(北)	
190 18	SE 7	木製品	井戸枠横木	83.5	長辺7.8	短辺6.0		二段目(東)	106
190 19	SE 7	木製品	井戸枠横木	[80.4]	長辺8.0	短辺5.8		二段目(南)	
190 20	SE 7	木製品	井戸枠横木	83.8	長辺10.0	短辺9.2		二段目(西)	
190 21	SE 7	木製品	井戸枠横木	[52.2]	長辺6.0	短辺3.8		北東隅	
190 22	SE 7	木製品	井戸枠	[67.4]	11.5	3.0		南西隅	
190 23	SE 7	木製品	杭	[53.5]		107			
190 24	SE 7	木製品	井戸枠	[61.6]	20.5	3.5		北嶽①②の間	

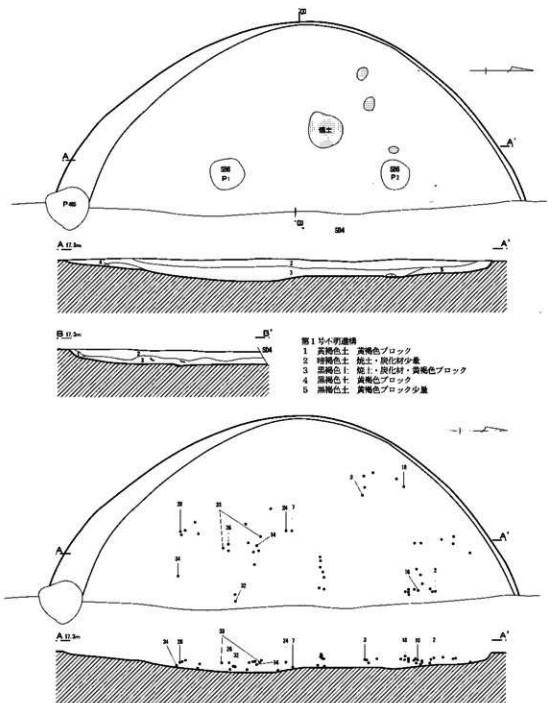
5. 竪穴状不明遺構

土城よりも規模が大きく、機能不明の竪穴状遺構を竪穴状不明遺構（SX）として調査した。調査当初は4基であったが、最終的には2基を確定したため、第2・3号竪穴状不明遺構は欠番となった。

第1号竪穴状不明遺構（第209図）

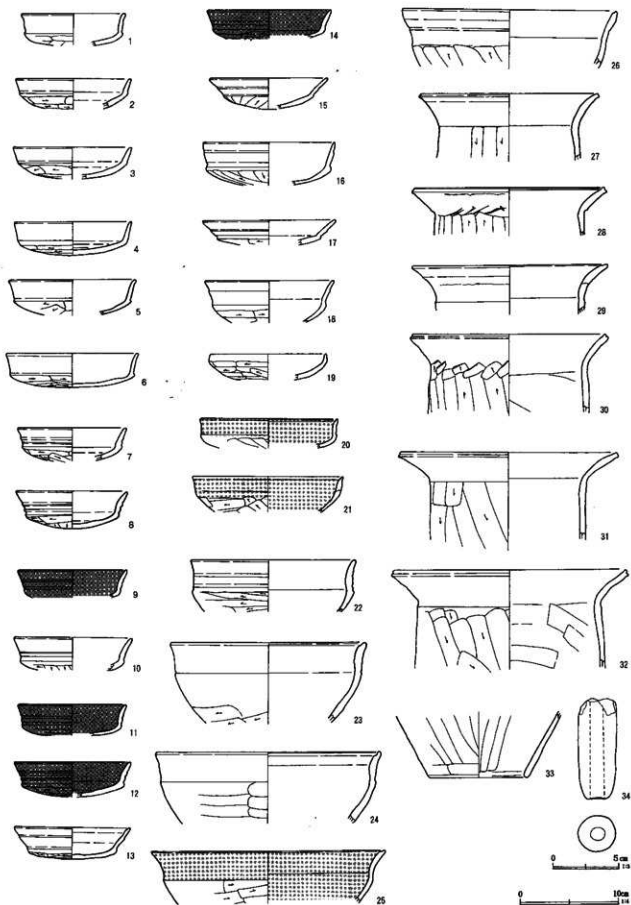
E-16・17グリッドに位置する。東側は中世の第4号溝跡と重複しているため、約半分は欠失している。ほぼ円形をなし、南北7.2m、東西2.9mが残存していた。床面は凹凸が激しく、数箇所に焼土がみられた。最大深さは遺構確認面から約35cmである。

出土遺物は比較的多く（第210図）、古墳時代後期の遺物がまとまっている。土師器等は蓋模倣坏（1

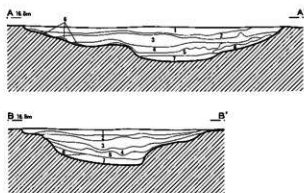
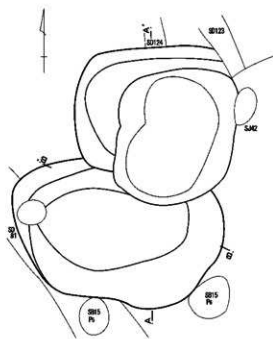


第209図 第1号竪穴状不明遺構

0 2m

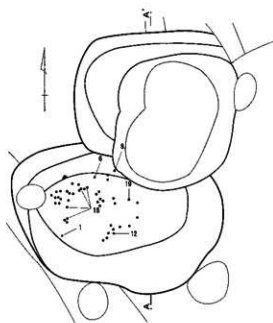


第210图 第1号竖穴状不明遺構出土遺物



第4号不明遺構

- 1 暗灰色土 黄褐色土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗黄褐色土 黄土・黄褐色土含む、全体的に炭灰がかる
- 3 暗黄灰色土 炭化材（径5mm～1cm）少量、粘性あり
- 4 暗黄灰色土 炭化材（径5mm～1cm）少量、粘性あり
- 5 黄褐色土 炭化粒子・炭化材層に黄土が若干混じる
- 6 暗黄灰色土 グライ化した層・堆山崩落
- 7 暗黄灰色土 5層と黄灰色土の混合層、粘性あり



第211図 第4号壑穴状不明遺構

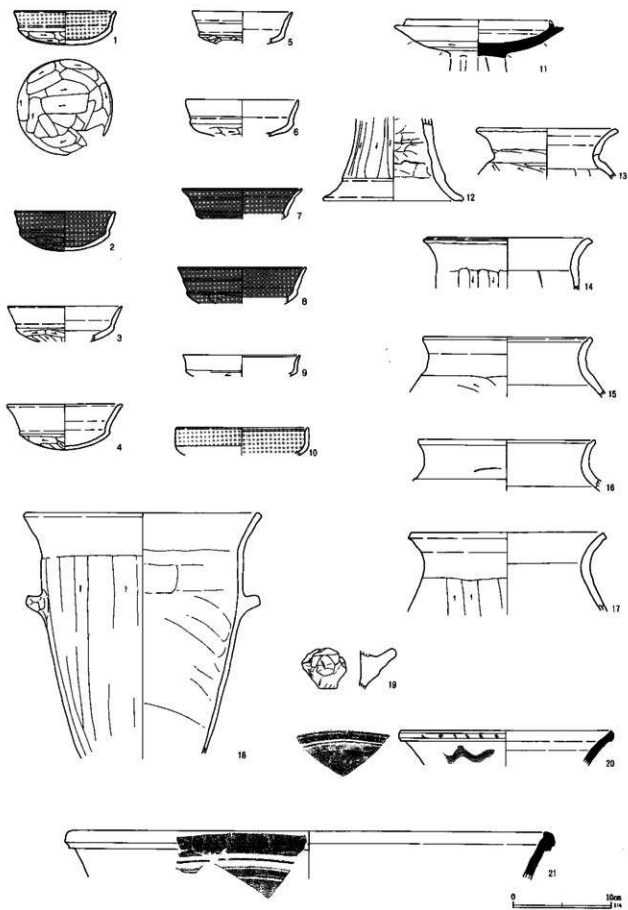
～6)、有段口縁環（7～18）、北武蔵型環（19）、比企型環（20、21）があり、他に大型の鉢（23～26）、甕（27～32）、瓶（33）、土鍾（34）等がある。

第4号壑穴状不明遺構（第211図）

F-10グリッドに位置する。平面形はいびつで、

床面も凹凸が激しい。南北は4.0m、東西は最大で3.3m、深さは最大で55cmをはかる。

出土遺物は比較的多く（第212図）、古墳時代後期の遺物がままとまっている。土器の内容は第1号壑穴状不明遺構と類似し、さらに須恵器有蓋高環片がみられた。



第212图 第4号竖穴状不明遺構出土遺物

壁穴状不明遺構出土土物観察表

調査番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
210	1	S X 1	土師器	環	(10.6)	[3.2]	破片	雲 赤粒	普通	橙		
210	2	S X 1	土師器	環	(11.8)	[3.2]	1/4	角 赤粒 白粒	不良	にぶい橙		
210	3	S X 1	土師器	環	(12.0)	[3.3]	1/3	角 白粒	良好	橙		37
210	4	S X 1	土師器	環	(12.0)	3.4	1/4	雲 角 長石 白粒	不良	にぶい黄橙		
210	5	S X 1	土師器	環	(13.2)	[2.5]	破片	雲 角 赤粒	普通	橙		
210	6	S X 1	土師器	環	(13.2)	3.5	1/2	雲 片岩 赤粒 白粒	不良	にぶい橙	胎土粗い	
210	7	S X 1	土師器	環	(11.0)	[3.4]	1/3	雲 赤粒	良好	にぶい黄橙		
210	8	S X 1	土師器	環	11.2	3.8	1/2	角 赤粒 白粒	普通	橙		37
210	9	S X 1	土師器	環	(11.0)	[2.8]	破片	雲	普通	にぶい赤褐	黒色処理	
210	10	S X 1	土師器	環	(12.0)	[3.3]	1/5	雲 石英	普通	橙		
210	11	S X 1	土師器	環	(11.0)	[3.1]	破片	雲 石英	普通	にぶい褐	黒色処理	
210	12	S X 1	土師器	環	(12.0)	[3.5]	1/3	角 赤粒 白粒	普通	橙	黒色処理	37
210	13	S X 1	土師器	環	(11.8)	3.2	1/4	雲 石英 赤粒 稜	普通	橙		
210	14	S X 1	土師器	環	(12.7)	[2.8]	破片	雲 角 石英 針 黒粒	普通	明褐	黒色処理	
210	15	S X 1	土師器	環	(11.8)	[3.3]	1/5	雲 角 白粒	普通	橙		
210	16	S X 1	土師器	環	(13.6)	3.5	1/4	雲 角 長石 黒粒	普通	明赤褐		
210	17	S X 1	土師器	環	(12.6)	[2.5]	1/4	雲 角	普通	明赤褐		
210	18	S X 1	土師器	環	(13.2)	[4.2]	1/4	雲 石英	普通	橙		
210	19	S X 1	土師器	環	(11.8)	[2.6]	破片	雲 角 黒粒	普通	にぶい橙		
210	20	S X 1	土師器	環	(14.8)	[3.0]	破片	石英 砂粒	普通	橙	赤彩	
210	21	S X 1	土師器	環	(15.4)	[3.6]	破片	雲 石英 針	普通	赤彩	赤彩	
210	22	S X 1	土師器	埴	(18.8)	[4.9]	口縁破片	雲 角 赤粒 白粒 稜	普通	にぶい赤褐		37
210	23	S X 1	土師器	鉢	(20.0)	[8.1]	1/3	雲 角 赤粒 白粒	普通	にぶい黄橙		
210	24	S X 1	土師器	鉢	(23.0)	[7.2]	破片	雲 黒粒	良好	にぶい黄橙		
210	25	S X 1	土師器	鉢	(25.5)	[5.0]	口縁破片	雲 角 赤粒 白粒 稜	普通	内外赤彩	赤彩	
210	26	S X 1	土師器	鉢	(22.0)	[5.8]	口縁1/5	雲 角 赤粒	普通	にぶい黄橙		
210	27	S X 1	土師器	甕	(18.0)	[6.8]	口縁破片	雲 長石 砂粒 黒粒	普通	赤粒		
210	28	S X 1	土師器	甕	(19.4)	[4.9]	破片	雲 石英 赤粒 黒粒	普通	にぶい橙		
210	29	S X 1	土師器	甕	(9.6)	5.0	口縁破片	雲 砂粒 赤粒 白粒	普通	浅黄橙		
210	30	S X 1	土師器	甕	(20.2)	[7.8]	口縁1/4	雲 砂粒 白粒	普通	にぶい橙		
210	31	S X 1	土師器	甕	(22.4)	[8.8]	口縁破片	雲 赤粒 白粒	普通	にぶい黄橙		
210	32	S X 1	土師器	甕	(24.2)	[9.8]	口縁1/4	雲 角 赤粒 白粒	普通	にぶい黄橙		
210	33	S X 1	土師器	甕	(6.7)	(10.0)	破片	雲 赤粒	普通	灰黄		
210	34	S X 1	土製品	土罐	幅2.8	長[7.6]	口径1.0	3/4	雲 角 赤粒 白粒 針	普通	灰褐	
212	1	S X 4	土師器	環	10.4	3.4	4/5	雲 砂粒 赤粒 白粒	良好	にぶい橙	赤彩	37
212	2	S X 4	土師器	環	(10.2)	4.0	1/3	雲 赤粒	普通	橙 外面灰褐	黒色処理	37
212	3	S X 4	土師器	環	(11.8)	[3.6]	1/5	角 針	普通	にぶい赤褐		
212	4	S X 4	土師器	環	(11.8)	4.6	1/3	雲 赤粒 白粒	普通	黒褐		37
212	5	S X 4	土師器	環	(10.2)	[3.2]	破片	雲 角	普通	黒褐		
212	6	S X 4	土師器	環	(11.4)	[3.7]	口縁破片	雲 赤粒 白粒 黒粒	普通	にぶい赤褐		
212	7	S X 4	土師器	環	(12.2)	[3.1]	破片	雲 石英	普通	褐灰	黒色処理	
212	8	S X 4	土師器	環	(13.0)	[3.7]	破片	角	普通	にぶい橙	黒色処理	
212	9	S X 4	土師器	環	(12.0)	[2.3]	破片	赤粒 白粒	普通	赤彩		
212	10	S X 4	土師器	環	(13.5)	[2.8]	口縁破片	雲 長石	普通	赤彩	赤彩	
212	11	S X 4	須恵器	高坏	[3.5]		1/5	雲 片岩 砂粒 赤粒	良好	にぶい橙	口縁部欠	
212	12	S X 4	土師器	高坏	(8.3)	(14.2)	1/3	白粒	普通	にぶい黄橙		
212	13	S X 4	土師器	甕	(14.0)	[5.1]	破片	雲 砂粒 赤粒 白粒	不良	灰黄		
212	14	S X 4	土師器	甕	(16.4)	[5.2]	口縁破片	雲 砂粒 赤粒	良好	灰白		
212	15	S X 4	土師器	甕	(17.0)	[6.1]	破片	雲	普通	褐灰		
212	16	S X 4	土師器	甕	(18.0)	[5.2]	破片	雲	普通	灰白		
212	17	S X 4	土師器	甕	(20.2)	[8.0]	口縁破片	赤粒 白粒	普通	明褐灰		
212	18	S X 4	土師器	甕	(24.2)	[24.4]	1/4	雲 角 赤粒 白粒	普通	褐灰		
212	19	S X 4	土師器	甕			把手のみ	雲 石英	普通	にぶい褐		
212	20	S X 4	須恵器	甕	(21.2)	[3.5]	破片	砂粒 白粒	普通	褐灰		
212	21	S X 4	須恵器	甕	(48.2)	[4.8]	口縁破片	白粒 黒粒	普通	灰黄褐		

6. 土壌

土壌は今回の調査範囲では、調査当初157基を検出したが、他の遺構に変更したものと、土壌と認められなかったものも含まれている。最終的には土壌とした遺構は121基である。

第1号土壌

第2号方形周溝墓に変更した。

第2号土壌 (第223図)

第1遺構面で確認。E-18グリッドに位置する。平面は長径195cm、短径148cmの小判形で、長軸方向はN-0°。深さは19cmである。

出土遺物は小片のみ少量で、図示できるものはなかった。

第3号土壌 (第223図)

第1遺構面で確認。D-17グリッドに位置する。平面は長径67cm、短径61cmの楕円形で、長軸方向はN-0°。深さは34cmである。

出土遺物は小片のみ少量で、図示できるものはなかった。

第4号土壌 欠番

第5号土壌 (第223図)

第1遺構面で確認。D-18グリッドに位置する。平面は長径132cm、短径97cmのややいびつな楕円形である。長軸方向はN-72°-E。深さは21cmである。

出土遺物は小片が少量であるが、第224図1・2のとおり、底部糸切痕のある坏と土錘を図示した。

第6号土壌

第1号掘立柱建物跡P1に変更した。

第7号土壌 (第223図)

第1遺構面で確認。D-18グリッドに位置する。

平面は長径124cm、短径72cmの不整形である。長軸方向はN-55°-E。深さは東側がとくに深くなっていて、58cmである。

出土遺物は小片が多いが、第224図3には、須恵器高台付塊を図示した。

第8号土壌 (第223図)

第1遺構面で確認。D-18グリッドに位置する。平面は長径70cm、短径66cmの円形に近い楕円形である。長軸方向はN-0°。深さは23cmである。

出土遺物は小片が少量のみで、図示できるものはなかった。

第9号土壌 (第223図)

第1遺構面で確認。D-17グリッドに位置する。平面は長径70cm、短径60cmの楕円形で、長軸方向はN-90°である。深さは11cmと浅い。

出土遺物はまったくなかった。

第10号土壌 (第223図)

第1遺構面で確認。E-17グリッドに位置する。平面は長径123cm、短径119cmで、ほぼ円形に近い楕円形である。長軸方向はN-44°-E。深さは28cmである。

出土遺物は小片が多いが、第224図4・5に高台付塊と糸切痕のある坏底部を図示した。

第11号土壌 (第223図)

第1遺構面で確認。E-17グリッドに位置する。平面は長径68cm、短径63cmで、円形に近い楕円形である。長軸方向はN-86°-E。深さは24cmである。

出土遺物は少なく、図示できるものはなかった。

第12号土壌 欠番

第13号土壌 (第223図)

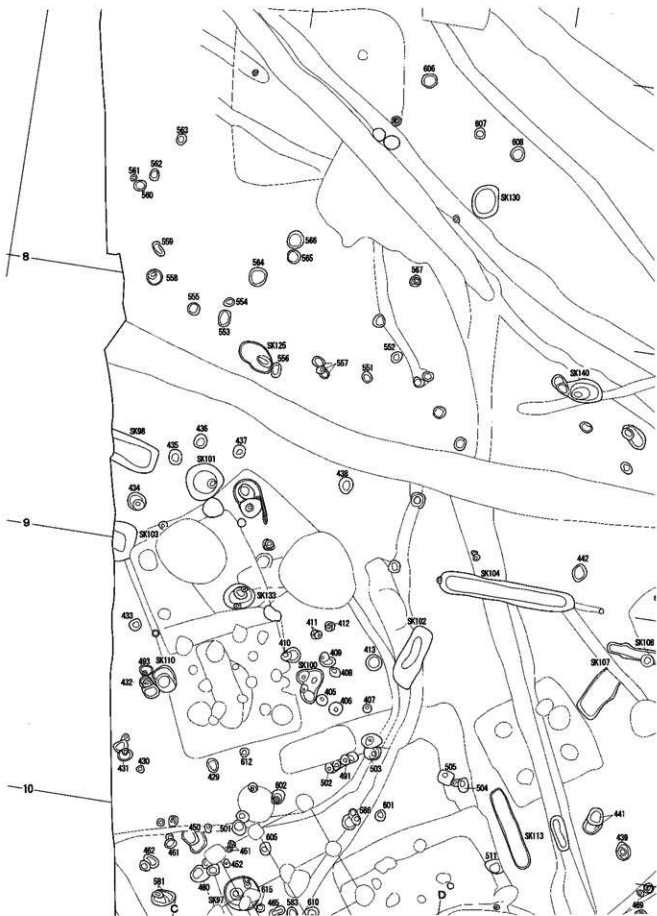
第1遺構面で確認。E-17グリッドに位置する。



第213図 土坑・ピット全体図(1)



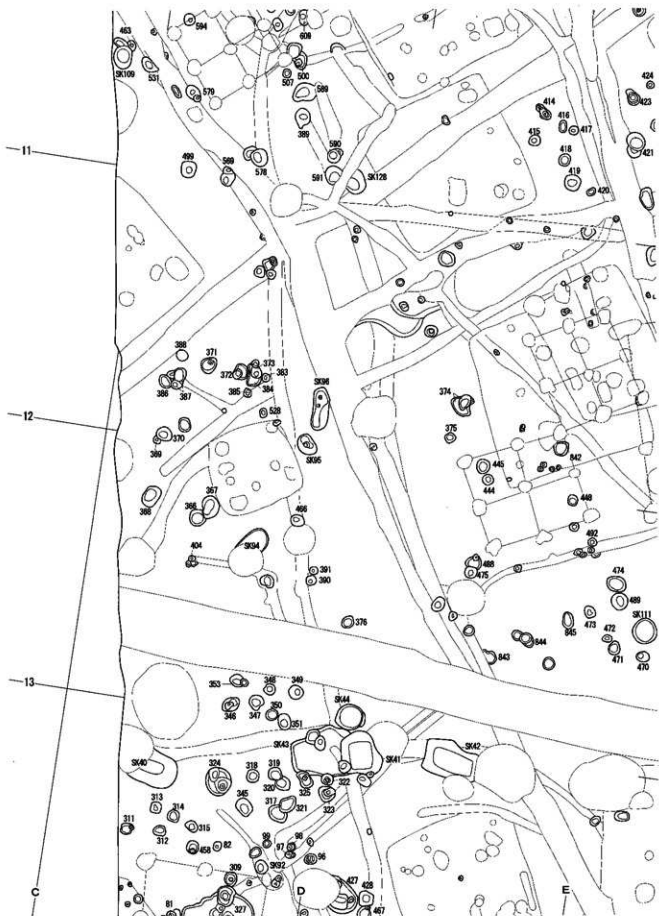
第214図 土壌・ピット全体図(2)



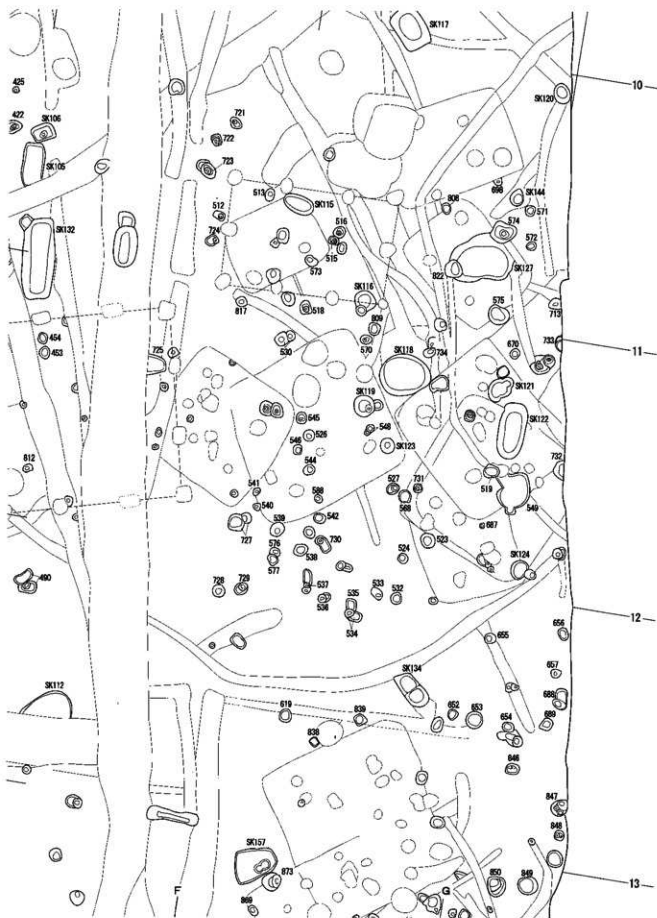
第215図 土坑・ピット全体図 (3)



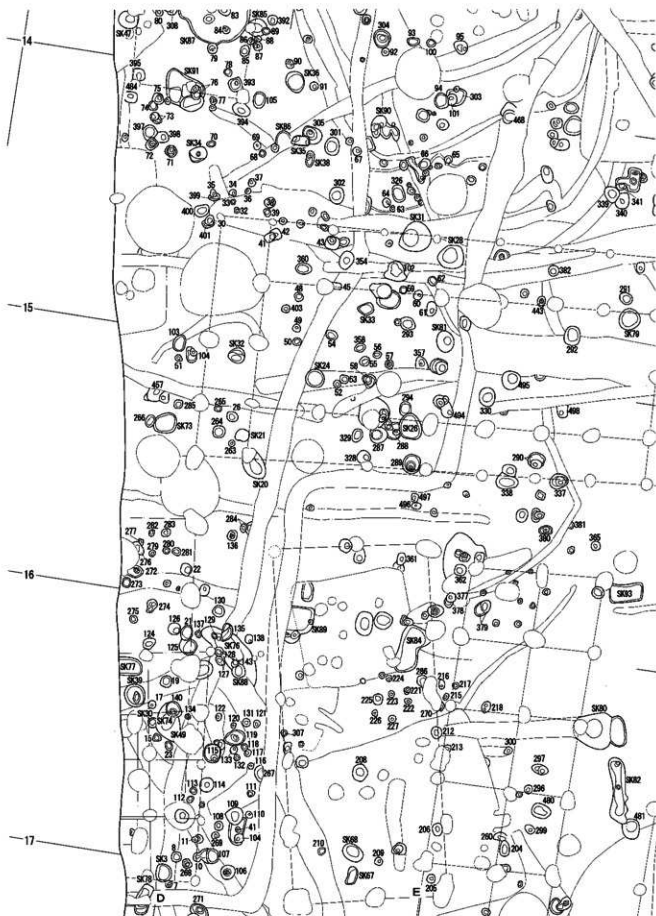
第216図 土坑・ピット全体図 (4)



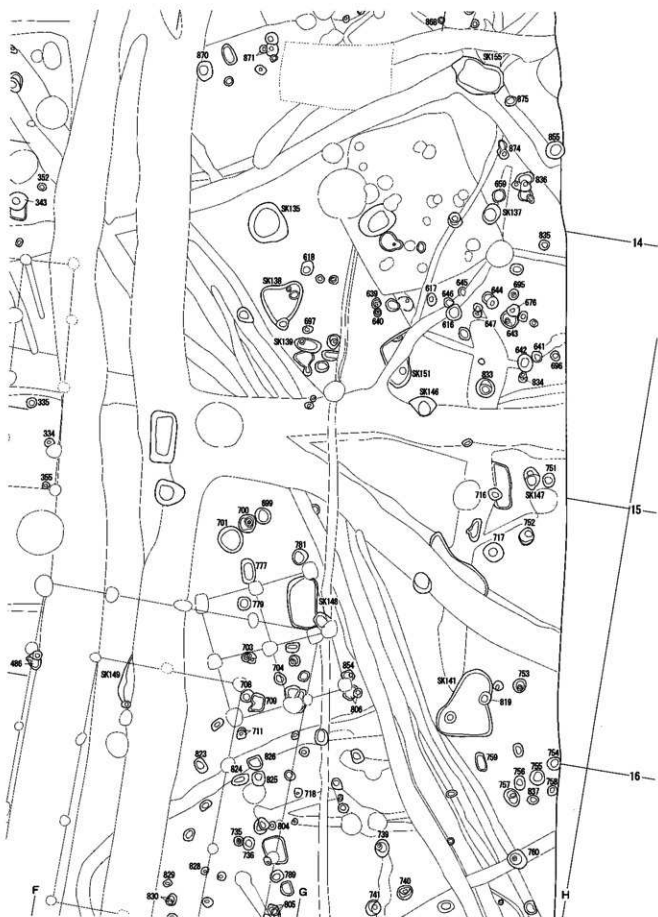
第217図 土壌・ピット全体図 (5)



第218図 土壌・ピット全体図 (6)



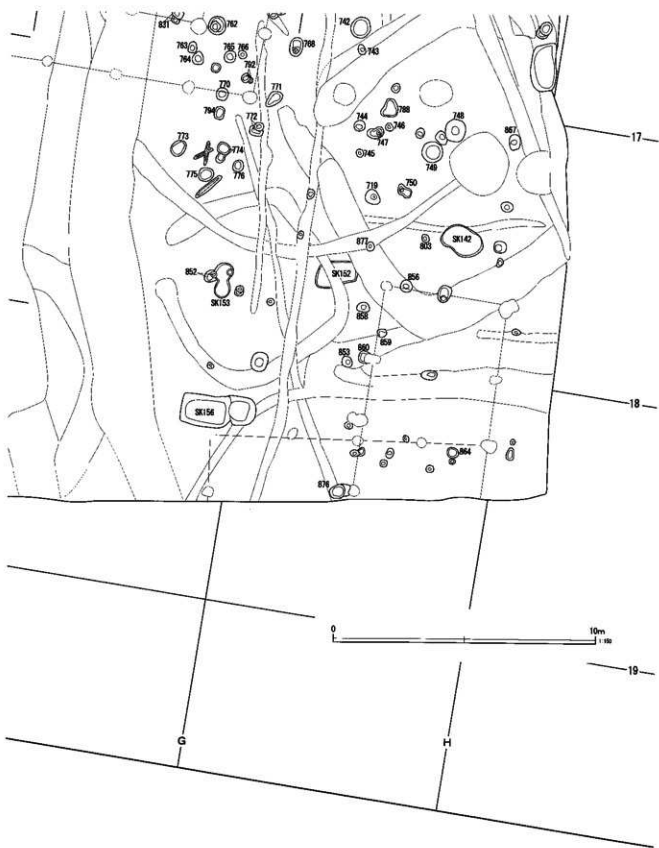
第219図 土填・ビット全体図 (7)



第220図 土坑・ピット全体図 (8)



第221図 土墳・ピット全体図 (9)



第222図 土坑・ピット全体図 (10)

図では第13号溝跡と重複しているが、土壌は第1遺構面ですでに検出していたので、土壌の方が新しい遺構である。平面は長径52cm以上、短径52cmで、長軸方向はN-55°-W。深さは23cmである。

出土遺物は少量で、図示できるものはなかった。

第14号土壌 (第223図)

第1遺構面で確認。E-17グリッドに位置する。平面は長径86cm、短径77cmのいびつな楕円形で、長軸方向はN-65°-W。深さは56cmである。

出土遺物のうち、高台付塊1点を図示した(第224図6)。

第15号土壌

第1号掘立柱建物跡P4に変更した。

第16号土壌 (第223図)

第1遺構面で確認。D-17グリッドに位置する。平面は長径51cm、短径44cmの楕円形で、長軸方向はN-90°。深さは18cmである。

出土遺物はほとんどなく、図示できなかった。

第17号土壌 (第223図)

第1遺構面で確認。D-17グリッドに位置する。平面は長径68cm、短径57cmの楕円形で、長軸方向はN-7°-E。深さは28cmである。

出土遺物はほとんどなく、図示できなかった。

第18号土壌 欠番

なお、調査時に灰軸陶器長頸壺頸部が2点出土しており図示した(第224図7・8)。D-12グリッド。

第19号土壌

第3号掘立柱建物跡P8に変更した。

第20号土壌 (第223図)

第1遺構面で確認。D-15グリッドに位置する。

平面は長径131cm、短径76cmの細長い楕円形で、長軸方向はN-40°-W。深さは71cmである。

出土遺物のうち、高台付塊と土鍾を図示した(第224図9・10)。高台付塊は底部内面に×印のヘラ記号が線刻されている。

第21号土壌 (第223図)

第1遺構面で確認。D-15グリッドに位置する。平面は長径54cm、短径42cmの不整形で、長軸方向はN-90°。深さは東側でとくに深くなっており、38cmである。

出土遺物はほとんどなく、図示できなかった。

第22号土壌

第2号掘立柱建物跡P40に変更した。

第23号土壌

第2号掘立柱建物跡P6に変更した。

第24号土壌 (第223図)

第1遺構面で確認。D-15グリッドに位置する。平面は長径72cm、短径70cmの円形に近い楕円形で、長軸方向はN-30°-W。深さは32cmである。

出土遺物は小片が多く、図示できるものはなかった。

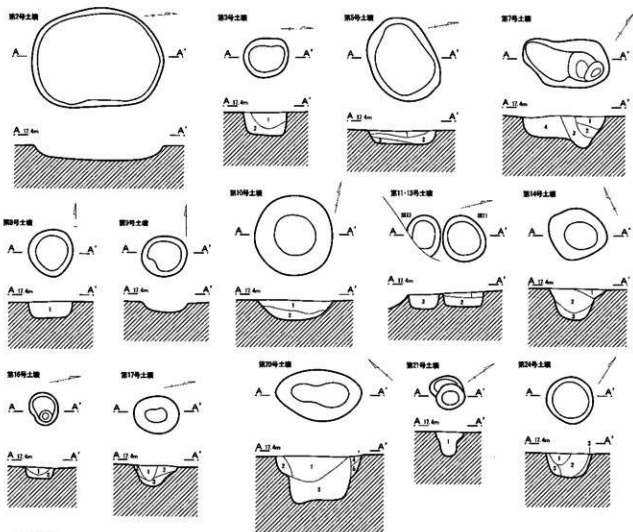
第25号土壌

第2号掘立柱建物跡P2に変更した。

第26号土壌 (第223図)

第1遺構面で確認。D-15グリッドに位置する。平面は長径95cm、短径87cmのいびつな楕円形で、長軸方向はN-0°。深さは31cmである。

出土遺物のうち、羽釜1点を図示した(第224図11)。他に緑釉・灰軸陶器、高台付塊の小片も出土している。



第3号土壤
1 暗褐色土 黄褐色土粒子少量
2 暗褐色土 黄褐色土粒子・ブロック少量、粘性あり

第5号土壤
1 灰青色土 赤褐色粒子少量
2 黒褐色土 粘土粒子少量
3 黒褐色土 茶褐色粘土ブロック多量

第7号土壤
1 黒褐色土 粘土ブロック多量
2 黒褐色土 炭化物粒子少量
3 暗褐色土 茶褐色粘土ブロック多量
4 暗褐色土 黄褐色土ブロック含む

第8号土壤
1 暗褐色土 炭化物粒子・粘土粒子少量

第10号土壤
1 暗褐色土 粘土ブロック多量、粘性強い
2 黒褐色土 炭化物ブロック多量、粘性強い

第11・13号土壤
1 暗褐色土 黄褐色土粒子少量
2 暗褐色土 黄褐色土粒子少量
3 灰暗褐色土 粘土粒子・炭化物粒子少量、黄褐色土粒子混在に含む

第14号土壤
1 暗褐色土 粘土粒子少量
2 黒褐色土 茶褐色粘土ブロック多量
3 黒褐色土 茶褐色土粒子多量、粘性強い

第16号土壤
1 暗褐色土 黄褐色土ブロック少量
2 暗褐色土 黄褐色土ブロック、黒褐色土ブロック少量

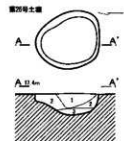
第17号土壤
1 黒褐色土 粘土粒子少量
2 暗褐色土 粘土粒子多量
3 暗褐色土 茶褐色粘土ブロック多量

第20号土壤
1 黒褐色土 黄褐色土粒子少量、粘性強い
2 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量
3 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量、粘性強い
4 黒褐色土 黄褐色土ブロック多量
5 黒褐色土 黄褐色土粒子多量

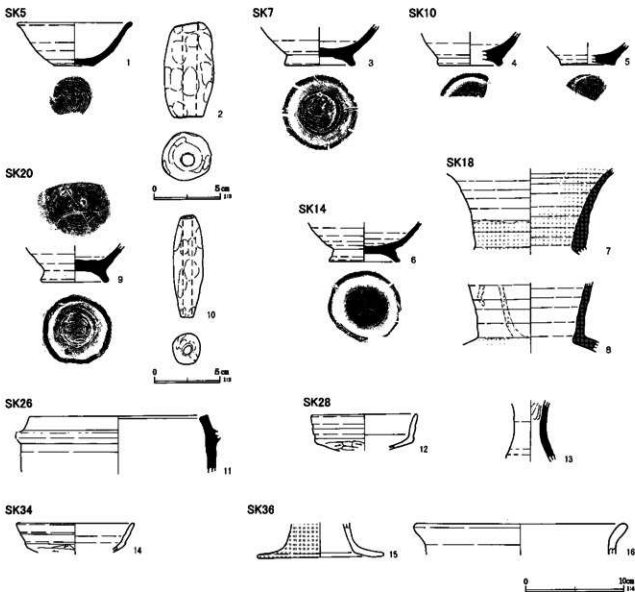
第21号土壤
1 暗褐色土 粘土粒子含む

第24号土壤
1 暗褐色土 黄褐色土粒子・ブロック含む
2 暗褐色土 粘土粒子・黄褐色土粒子含む
3 暗褐色土 2層より粘り、黄褐色土ブロック含む、粘性強い

第26号土壤
1 暗褐色土 粘土粒子微量、黄褐色土粒子含む
2 暗褐色土 1層より粘り、粘土粒子・炭化物粒子・黄褐色土粒子含む
3 黄褐色土 黄褐色土ブロック主体



第23号 土壤 (1)



第224図 土壌出土遺物 (1)

第27号土壌

第2号掘立柱建物跡P10に変更した。

第29号土壌

第2号掘立柱建物跡P7に変更した。

第28号土壌 (第225図)

第1遺構面で確認。D-14グリッドに位置する。平面は長径99cm、短径95cmの不整形で、長軸方向はN-89°-W。深さは67cmである。

出土遺物のうち、土師器坏と須恵器長頸壺頸部片を図示した(第224図12・13)。ただし、第1遺構面で検出していることから、土器は後世に混入した可能性もある。

第30号土壌 (第225図)

第1遺構面で確認。C-16グリッドに位置する。第49号土壌と重複しているが、土層の観察では前後関係は不明である。平面は長径39cm、短径33cm以上の楕円形で、長軸方向はN-90°。深さは21cmである。

出土遺物は小片が多く、図示できなかった。

第31号土壌 (第225図)

第1遺構面で確認。D-14グリッドに位置する。平面は長径129cm、短径114cmの不整形で、長軸方向はN-55°-E。深さは105cmである。

出土遺物はまったくなかった。

第32号土壌 (第225図)

第1遺構面で確認。D-15グリッドに位置する。平面は長径66cm、短径54cmの不整形で、長軸方向はN-80°-W。深さは南側が深くなっていて40cmである。

出土遺物は小片のみで、図示できなかった。

第33号土壌 (第225図)

第1遺構面で確認。D-14グリッドに位置する。平面は長径60cm、短径50cmの隅丸方形で、長軸方向はN-90°。深さは21cmである。

出土遺物は小片が多く、図示できなかった。

第34号土壌 (第225図)

第1遺構面で確認。C-14グリッドに位置する。平面は長径69cm、短径57cmの隅丸方形で、長軸方向はN-90°。深さは47cmである。

出土遺物のうち、土師器環1点を図示した(第224図14)。ただし、第1遺構面で検出していることから、土器は後世に混入した可能性もある。

第35号土壌 (第225図)

第1遺構面で確認。D-14グリッドに位置する。平面は長径70cm、短径38cmの不整形で、長軸方向はN-85°-W。深さは東西両端部分が深くなっており、24cmである。

出土遺物は小片が多く、図示できなかった。

第36号土壌 (第225図)

第1遺構面で確認。D-14グリッドに位置する。平面は長径78cm、短径72cmの楕円形で、長軸方向は

N-18°-W。深さは24cmである。

出土遺物のうち、土師器高坏と甕口縁部を図示した(第224図15・16)。ただし、第1遺構面で検出していることから、後世に混入した可能性もある。

第37号土壌 欠番

第38号土壌 (第225図)

第1遺構面で確認。D-14グリッドに位置する。平面は長径68cm、短径32cmの楕円形で、長軸方向はN-5°-W。深さは北側がとくに深くなっており、25cmである。

出土遺物はほとんどなく、図示できなかった。

第39号土壌 (第225図)

第1遺構面で確認。C-16グリッドに位置する。平面は長径87cm、短径77cmの楕円形で、長軸方向はN-12°-W。深さは中央付近でとくに深くなっており、52cmである。

出土遺物は小片が多く、図示できなかった。

第40号土壌 (第225図)

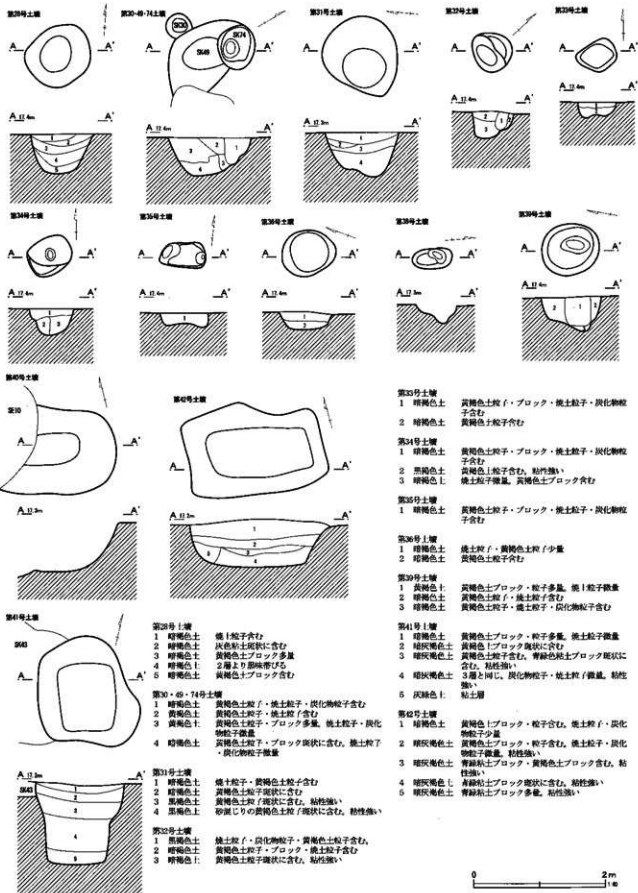
第1遺構面で確認。C-13グリッドに位置する。第10号井戸跡と重複しているが、遺構確認状況では新旧関係は不明である。平面は長径180cm以上、短径131cmの隅丸方形、長軸方向はN-73°-W。深さは74cmである。

出土遺物はまったくなかった。

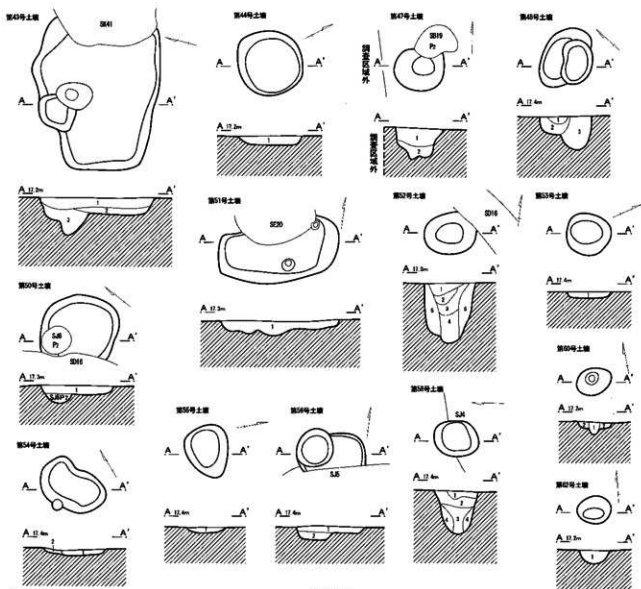
第41号土壌 (第225図)

第1遺構面で確認。D-13グリッドに位置する。第43号土壌と一部重複しているが、新旧関係は不明である。平面は長径159cm、短径156cmの不整形であるが、底部付近では長方形をなしている。長軸方向はN-10°-E。深さは130cmである。

出土遺物のうち、底部糸切痕のある須恵器坏を図示した(第227図1)。



第225図 土層 (2)



第43号土壤

- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック・粒多量、粘土粒子微量
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒子含む
- 3 灰褐色土 黄褐色土ブロック・粘土粒子・灰色粘土含む

第44号土壤

- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量、塊状粒子微量

第47号土壤

- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック・粒多量、塊上粒子・炭化物粒子含む
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒子・塊土粒子含む、粘性強い

第48号土壤

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子含む、炭化物粒子少量
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック形状に含む、炭化物粒子少量
- 3 黄褐色土 黄褐色土ブロック・粒少量、炭化物粒子・塊土粒子少量

第50号土壤

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・ブロック・塊土粒子少量

第51号土壤

- 1 黄褐色土 黄褐色土粒子・ブロック・塊土粒子・炭化物粒を含む

第52号土壤

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・塊上粒子・炭化物粒子含む
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒子層状に含む
- 3 暗褐色土 黄褐色土粒子・塊土粒子・炭化物粒子含む、やや粘性強い
- 4 暗褐色土 黄褐色土粒子少量、粘性強い
- 5 黄褐色土 黄褐色土ブロック・粒多量、塊上粒子・炭化物粒子微量、粘性強い

第53号土壤

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・暗灰色粘土含む、塊上粒子微量

第54号土壤

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・塊上粒子微量
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒子・暗灰色粘土含む、塊上粒子微量

第55号土壤

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・ブロック・塊土粒子少量

第56号土壤

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・ブロック・塊土粒子少量
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒子少量、下に黄褐色土ブロック含む

第58号土壤

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・炭化物粒子少量
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量
- 3 暗褐色土 炭化物粒子少量
- 4 暗褐色土 炭化物粒子少量、黄褐色土ブロック多量、やや粘性強い

第60号土壤

- 1 黄褐色土 黄褐色土粒子・塊上粒子・炭化物粒子多量
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒子多量、塊土粒子・炭化物粒子含む

第62号土壤

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・ブロック含む、塊土粒子・炭化物粒子微量



第42号土壌 (第225図)

第1遺構面で確認。D-13グリッドに位置する。平面は長辺195cm、短辺141cmの長方形で、長軸方向はN-90°である。深さは74cm。

出土遺物のうち、砥石1点を図示した(第227図2)。他に中世陶磁器片も出土している。

第43号土壌 (第226図)

第1遺構面で確認。C・D-13グリッドに位置する。第41号土壌と一部重複しているが、新旧関係は不明。平面は長径240cm以上、短径189cmの不整形で、長軸方向はN-70°-Eである。北側でピット状に深くなる部分があり、深さは57cmである。

出土遺物のうち土師器環1点を図示した(第227図3)。ただし、第1遺構面で検出していることから、後世に混入した可能性もある。

第44号土壌 (第226図)

第1遺構面で確認。D-12・13グリッドに位置する。平面は長径110cm、短径99cmのいびつな楕円形で、長軸方向はN-62°-Eである。深さは13cmと浅い。

出土遺物のうち、須恵器坏片を図示した(第227図4)。

第45号土壌 欠番

第46号土壌 欠番

第47号土壌 (第226図)

第1遺構面で確認。C-13グリッドに位置する。第19号掘立柱建物跡P2と一部重複するが、新旧関係は不明。平面は長径75cm、短径65cmの楕円形で、長軸方向はN-90°である。深さは28cm。

出土遺物は小片が多く、図示できなかった。

第48号土壌 (第226図)

D-17グリッドに位置する。2基の土壌が重なったものを1基の土壌として調査。平面は長径99cm、短径81cmの不整形で、長軸方向はN-90°。深さは44cmである。

出土遺物は小片が多いが、高台付塊の底部1点を図示した(第227図5)。

第49号土壌 (第225図)

C・D-16グリッドに位置する。第30・74号土壌と重複し、土層からみて第49号土壌は第74号土壌よりは古い時期のものである。長径120cm以上、短径94cmで、長軸方向はN-35°-E。深さは57cmである。出土遺物はまったくなかった。

第50号土壌 (第226図)

D-17・18グリッドに位置する。第16号溝跡、第6号掘立柱建物跡P2と重複する。土層の観察から、掘立柱建物跡よりも土壌の方が新しい時期の遺構である。平面は長径111cm、短径90cm以上で、長軸方向はN-35°-W。深さは41cmである。

出土遺物のうち、高台付塊および底部糸切痕のある坏を図示した(第227図6-9)。なお土器の出土状況については、第239図に微細図を掲載している。

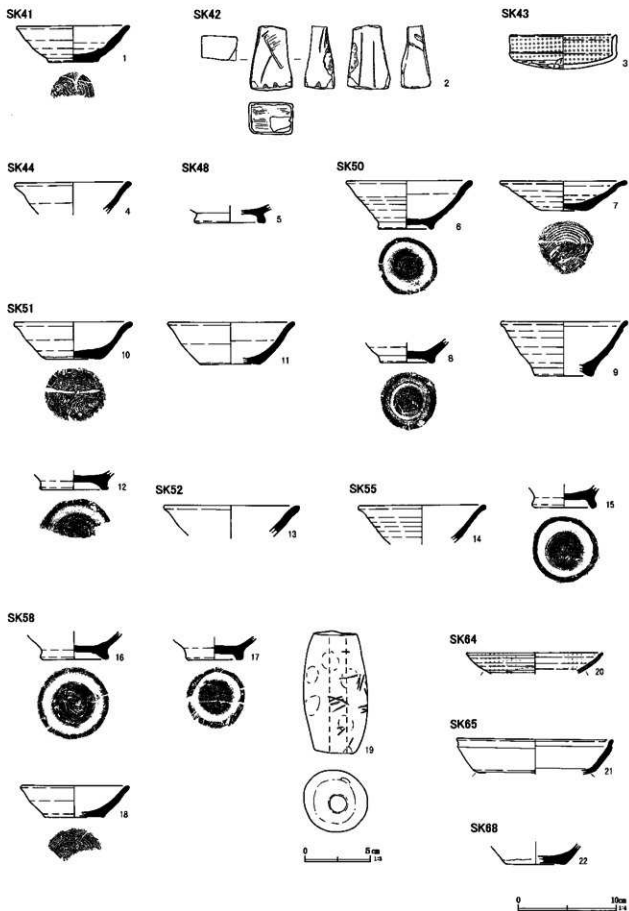
第51号土壌 (第226図)

D・E-18グリッドに位置する。第20号井戸跡と重複するが、前後関係は不明。平面は長径180cm、短径約95cmの、やや長方形気味の楕円形で、長軸方向はN-80°-Eである。深さは29cm。

出土遺物のうち、高台付塊および底部糸切痕のある坏を図示した(第227図10-12)。

第52号土壌 (第226図)

D-17グリッドに位置する。第16号溝跡と重複するが、その新旧関係は不明である。平面は長径80cm、短径63cmの楕円形で、長軸方向はN-90°。深さは86cmである。



第227図 土壙出土遺物 (2)

出土遺物のうち、須恵器環1点を図示した(第227図13)。

第53号土壌(第226図)

E-17グリッドに位置する。平面は長径68cm、短径63cmの楕円形で、長軸方向はN-25°-E。深さは6cmと浅い。

出土遺物はほとんどなく、図示できなかった。

第54号土壌(第226図)

D-17グリッドに位置する。平面は長径98cm、短径63cmの不整形で、長軸方向はN-15°-W。深さは8cmと浅い。

出土遺物はほとんどなく、図示できなかった。

第55号土壌(第226図)

D・E-17グリッドに位置する。平面は長径81cm、短径65cmの卵形で、長軸方向はN-90°。深さは6cmと浅い。

出土遺物は少量であるが、須恵器高台付埴等を図示した(第227図14・15)。

第56号土壌(第226図)

D-17グリッドに位置する。第5号住居跡と重複するが、新旧関係は不明。平面は長径105cm、短径53cm以上で、長軸方向はN-80°-Eである。深さは20cm。

出土遺物はほとんどなく、図示できなかった。

第57号土壌

第2号方形周溝墓に変更した。

第58号土壌(第226図)

E-17グリッドに位置する。第4号住居跡と重複するが、土層からみて土壌の方が新しい時期の遺構である。平面は長径96cm、短径50cmの楕円形で、長軸方向はN-0°。深さは57cmである。

出土遺物のうち、須恵器高台付埴および底部糸切痕のある環、土錘を図示した(第227図16-19)。

第59号土壌 欠番

第60号土壌(第226図)

E-17グリッドに位置する。平面は長径53cm、短径39cmの楕円形で、長軸方向はN-75°-E。深さは20cmである。

出土遺物はほとんどなく、図示できなかった。

第61号土壌

第8号掘立柱建物跡P7に変更した。

第62号土壌(第226図)

E-18グリッドに位置する。平面は長径54cm、短径42cmの楕円形で、長軸方向はN-38°-W。深さは23cmである。

出土遺物はほとんどなく、図示できなかった。

第63号土壌(第228図)

D-18グリッドに位置する。第17号溝跡と重複するが、その新旧関係は不明。平面は長径63cm、短径54cmで、長軸方向はN-38°-W。深さは7cmと浅い。

出土遺物は小片が少量で、図示できなかった。

第64号土壌(第228図)

E-18グリッドに位置する。第1号溝跡と重複するが、土壌の方が古い時期の遺構である。平面は長径225cm、短径100cm以上と規模の大きな楕円形で、長軸方向はN-80°-E。深さは80cmである。

出土遺物のうち、灰釉陶器皿を図示した(第227図20)。

第65号土壌(第228図)

E-18グリッドに位置する。南側は平成14年度調

査区となる。平面は長径270cm以上、短径130cmの不整形で、長軸方向はN-50°-W。深さは27cmである。

出土遺物は少量であるが、須恵器環1点を図示した(第227図21)。底部はケズリ調整を施し、口縁はつまみ上げてS字状になっている。

第66号土墳(第228図)

E-18グリッドに位置する。北側は第1号溝跡と、西側は第1号方形周溝墓と重複している。古い順に示すと、方形周溝墓→土壌→溝跡となる。遺構の重複部分が多いので、土壌の規模は不明である。深さは6cmと浅い。

出土遺物は小片のみで、図示できなかった。

第67号土墳(第228図)

D-16・17グリッドに位置する。平面は長径66cm、短径36cmのいびつな楕円形で、長軸方向はN-0°。深さは17cmである。

出土遺物はほとんどなく、図示できなかった。

第68号土墳(第228図)

D-16グリッドに位置する。平面は長径84cm、短径60cmの楕円形で、長軸方向はN-67°-W。深さは34cmである。

出土遺物は小片が多いが、糸切痕のある須恵器環底部を1点図示した(第227図22)。

第69号土墳(第228図)

D-18グリッドに位置する。P200と重複するが、新旧関係は不明。平面は長径93cm、短径54cmの楕円形で、長軸方向はN-0°である。深さは18cm。

出土遺物は小片のみで、図示できなかった。

第70号土墳(第228図)

D-18グリッドに位置する。平面は長径72cm、短径27cmの細長い楕円形で、長軸方向はN-80°-E。

深さは10cmである。

出土遺物はまったくなかった。

第71号土墳(第228図)

E-18グリッドに位置する。第11号住居跡と重複しているが、土層からみて土壌は住居跡よりも古いか、あるいは住居跡に伴う遺構である可能性がある。平面は長径81cm、短径60cmの楕円形で、長軸方向はN-62°-W。深さは85cmである。

出土遺物は小片が多いが、土師器環と土師器甕口縁部を各1点図示した(第232図1・2)。

第72号土墳(第228図)

D-18グリッドに位置する。平面は長径108cm、短径69cmの不整形で、長軸方向はN-20°-W。深さは15cmである。

出土遺物は小片のみ少量で、図示できなかった。

第73号土墳(第228図)

C-15グリッドに位置する。P266と重複するが、土層からみて土壌の方が古い遺構である。平面は長径87cm、短径75cmのいびつな楕円形で、長軸方向はN-90°。深さは16cmである。

出土遺物は小片のみ少量で、図示できなかった。なお緑釉陶器小片も出土している。

第74号土墳(第225図)

第1遺構面で確認。D-16グリッドに位置する。第49号土墳と重複するが、第74号土墳の方が新しい遺構である。平面は長径75cm、短径54cmで長軸方向はN-60°-E。深さは41cmである。

出土遺物は小片のみで、図示できなかった。ただし、「鬼高式」の土器が主体となっている。

第75号土墳(第228図)

D-17グリッドに位置する。西側は調査区域外となるため、正確な規模は不明である。南北は80cm、

東西は50cm以上、深さは5cmと非常に浅い。

出土遺物はまったくなかった。

第76号土壌 (第228図)

D-16グリッドに位置する。第88号土壌と重複するが新旧関係は不明。平面は長径258cm、短径102cmの不整形で、長軸方向はN-60°-W。深さは44cmである。

出土遺物はまったくなかった。

第77号土壌 (第228図)

C-16グリッドに位置する。西側は調査区域外となるため、正確な規模は不明である。南北69cm、東西90cm以上、深さは37cmである。

出土遺物は小片のみで、図示できなかった。高台付塚等の破片が含まれている。

第78号土壌 (第228図)

D-17グリッドに位置する。第3号溝跡と重複するが、前後関係は不明である。平面は長径117cm、短径51cmの隅丸長方形で、長軸方向はN-12°-E。深さは49cmである。

出土遺物は小片が多く、図示できたのは土錘1点である (第232図3)。高台付塚等の破片が含まれる。

第79号土壌 (第229図)

E-14グリッドに位置する。平面は長径84cm、短径81cmの楕円形で、長軸方向はN-0°である。深さは48cm。

出土遺物はほとんどなかったが、底部内面にミガキ調整のある黑色土器を図示した (第232図4)。

第80号土壌 (第229図)

E-16グリッドに位置する。2基の土壌が重なったものを1基の土壌として調査。第7号掘立柱建物跡P10及び第30号溝跡と重複するが、土層からは新旧関係は不明である。平面は長径210cm、短径141cm

の不整形で、長軸方向はN-90°。深さは35cmである。

出土遺物のうち、灰釉陶器塚を図示した (第232図5)。

第81号土壌 (第229図)

D-14グリッドに位置する。平面は長径84cm、短径66cmの楕円形で、長軸方向はN-22°-W。深さは27cmである。

出土遺物は小片が多く、図示できなかった。糸切痕のある坏等の破片が含まれる。

第82号土壌 (第229図)

E-16グリッドに位置する。平面は長径245cm、短径54cmの細長い不整形で、長軸方向はN-15°-W。深さは20cmである。

出土遺物は小片のみで、図示できなかった。

第83号土壌

第20号住居跡に変更した。

第84号土壌 (第229図)

D-16グリッドに位置する。第12号住居跡と重複するが、土壌の方が新しい時期の遺構である。平面は長径186cm、短径102cmの不整形で、長軸方向はN-15°-E。深さは17cmである。

出土遺物は小片が少量で、図示できるものはなかったが、平安時代の土器は含まれていない。

第85号土壌 (第229図)

C-13グリッドに位置する。第19号掘立柱建物跡P6と重複するが、土壌の方が古い時期の遺構である。平面は長径78cm以上、短径66cmの楕円形で、長軸方向はN-90°である。深さは36cm。

出土遺物は小片のみ少量で、図示できなかった。

第86号土壌 (第229図)

D-14グリッドに位置する。第85号溝跡等と重複するが、いずれも土壌の方が新しい遺構である。平面は長径76cm、短径60cmの楕円形で、長軸方向は $N-10^{\circ}-W$ である。深さは11cm。

出土遺物は小片のみ少量で、図示できなかった。

第87号土壌 (第229図)

C-13グリッドに位置する。第9号溝跡等と重複するが、新旧関係は不明である。平面は長径276cm、短径219cmの大型の不整形で、ところどころピット状に深くなっている。長軸方向は $N-90^{\circ}$ 。深さは最も深いところで84cmあり、平坦な部分は約17cmである。

出土遺物は比較的多かったが、図示できたものは須恵器環、土師器環・鉢の3点である(第232図7~9)。

第88号土壌 (第228図)

D-16グリッドに位置する。第76号土壌と重複するが、新旧関係は不明。平面は長径55cm、短径51cmのいびつな楕円形で、長軸方向は $N-30^{\circ}-W$ 。深さは17cmである。

出土遺物は小片のみで、図示できなかった。

第89号土壌 (第229図)

D-16グリッドに位置する。第12号住居跡及び第3号溝跡と重複しているが、新旧関係は不明。平面は西側が第3号溝跡に切られているため、正確な規模は不明である。長径が110cm以上、短径99cmで、長軸方向は $N-90^{\circ}$ である。深さは18cm。

出土遺物は少量であるが、黒色土器環1点を図示した(第232図6)。

第90号土壌 (第229図)

D-14グリッドに位置する。複数の土壌が重なったものを1基として調査した。平面は長径108cm、

短径80cmの不整形で、長軸方向は $N-90^{\circ}$ 。深さは最も深いところで46cmである。

出土遺物のうち、北武蔵型の土師器環1点を図示した(第232図10)。

第91号土壌 (第229図)

C-14グリッドに位置する。第19号掘立柱建物跡P8と重複するが、土壌の方が新しい時期の遺構であると推定される。平面は長径150cm、短径126cmの不整形で、長軸方向は $N-90^{\circ}$ 。深さは57cmである。

出土遺物のうち、土師器環2点と滑石製模造品1点を図示した(第232図10~12)。滑石製模造品は先端が欠失しているが「劍形」とされるもので、全体に丁寧な調整を施している。

第92号土壌 (第229図)

C-13グリッドに位置する。第39号溝跡と重複しているが、土壌の方が新しい時期の遺構である。平面は長径50cm、短径45cmの楕円形で、長軸方向は $N-35^{\circ}-W$ である。深さは33cm。

出土遺物は小片が多いが、土鍾1点を図示した(第232図14)。平安時代の土器は含まれていない。

第93号土壌 (第229図)

E-15グリッドに位置する。第7号掘立柱建物跡P8と重複するが、新旧関係は不明である。平面は長辺126cm、短辺69cmの長方形で、長軸方向は $N-80^{\circ}-E$ である。深さは8cmと浅い。

出土遺物は小片のみ少量で、図示できなかった。

第94号土壌 (第229図)

C-12グリッドに位置する。第15号井戸跡と重複するが、新旧関係は不明である。平面は長径が120cm以上、短径が85cmの楕円形になると推定され、長軸方向は $N-45^{\circ}-E$ 。深さは7cmと浅い。

出土遺物は小片が少量であったが、土師器環1点を図示した(第232図15)。

第95号土壌 (第230図)

C-11・12グリッドに位置する。平面は長径84cm、短径66cmの楕円形で、長軸方向はN-37°-W。深さは47cmである。

出土遺物は小片のみで、図示できなかった。ただし、平安時代の土器は含まれていない。

第96号土壌 (第230図)

C-11グリッドに位置する。第44号溝跡と一部重複するが、新旧関係は不明である。平面は長径162cm、短径63cmの細長い楕円形で、長軸方向はN-0°である。深さは21cm。

出土遺物は小片のみ少量で、図示できなかった。

第97号土壌 (第230図)

C-10グリッドに位置する。第11号掘立柱建物跡P2及び第13号掘立柱建物跡P9が重複するが、新旧関係は不明。長径132cm、短径123cmの楕円形で、長軸方向はN-70°-Eである。深さは44cm。

出土遺物は小片のみ少量で、図示できなかった。

第98号土壌 (第230図)

B-8グリッドに位置する。西側は調査区域外になるため、正確な規模は不明である。平面は長辺190cm以上、短辺117cmの隅丸長方形で、長軸方向はN-75°-W。深さは60cmである。

出土遺物は小片のみ少量で、図示できなかった。

第99号土壌 欠番

第100号土壌 (第230図)

C-9グリッドに位置する。平面は長径132cm、短径102cmの不整形で、長軸方向はN-0°。深さは最も深いところで34cmである。

出土遺物は小片のみで、図示できなかった。

第101号土壌 (第230図)

B-8グリッドに位置する。平面は長径145cm、短径138cmのややいびつな楕円形で、長軸方向はN-0°である。ピット状に深くなる箇所があり、深さは56cmである。

出土遺物は小片が多いが、土師器環1点を図示した(第232図16)。

第102号土壌 (第230図)

C-9グリッドに位置する。第16号溝跡と重複するが、土層の観察からみて土壌の方が新しい遺構である。平面は長径236cm、短径93cmの細長いいびつな隅丸長方形で、長軸方向はN-15°-E。深さは86cmである。

出土遺物は小片が多いが、土師器高坏脚部・甕底部を各1点図示した(第232図17・18)。

第103号土壌 (第230図)

B-8・9グリッドに位置する。東側は調査区域外となる。第32号住居跡と重複しているが、土壌の方が新しい遺構である。全体の平面規模は確認できないが、南北144cm、東西は90cm以上である。深さは57cm。

出土遺物のうち、土師器環1点を図示した(第232図19)。

第104号土壌 (第230図)

C-8グリッドに位置する。第57号溝跡と重複しているが、土壌の方が新しい遺構である。長径519cm、短径84cmの細長い楕円形で、長軸方向はN-90°。深さは51cmである。

出土遺物のうち、灰釉陶器壺1点を図示した(第232図20)。

第105号土壌 (第230図)

D・E-10グリッドに位置する。第59号溝跡と重複するが、土壌の方が新しい遺構である。平面は長辺162cm、短辺83cmの隅丸長方形で、長軸方向は

N-0°である。深さは8cmと浅い。

出土遺物は小片が少量で、図示できなかった。

第106号土壌 (第230図)

D・E-10グリッドに位置する。平面は長辺86cm、短辺63cmの隅丸長方形で、長軸方向はN-60°-E。深さは39cmである。

出土遺物のうち、土師器坏1点を図示した(第232図21)。

第107号土壌 (第231図)

D-9グリッドに位置する。第92号溝跡と一部重複するが、土壌の方が新しい遺構である。平面は長辺183cm、短辺100cmの隅丸長方形で、長軸方向はN-35°-Eである。深さは10cm。

出土遺物のうち、土師器坏2点を図示した(第232図22、23)。

第108号土壌 (第231図)

D-9グリッドに位置する。第31号住居跡と重複するが、土壌の方が新しい遺構である。平面は長辺201cm、短辺57cmの細長い隅丸長方形で、長軸方向はN-90°である。深さは18cm。

出土遺物は小片のみで、図示できなかった。

第109号土壌 (第231図)

B-10グリッドに位置する。P463と重複しているが、前後関係は不明である。平面は2基の土壌が重なったものを1基として調査したため、いびつである。長径135cm、短径75cmの不整形である。長軸方向はN-25°-W。深さは48cmである。

出土遺物はまったくなかった。

第110号土壌 (第231図)

B-9グリッドに位置する。第29号住居跡と重複しているが、新旧関係は不明である。平面は長径102cm、短径80cmの楕円形で、長軸方向はN-30°-

W。南側が深くなっており、深さは36cmである。

出土遺物は小片のみで図示できなかったが、古墳時代前期の土器が多く含まれている。

第111号土壌 (第231図)

E-12グリッドに位置する。平面は長径96cm、短径90cmの楕円形で、長軸方向はN-0°。壁面は底部から、ほぼまっすぐに立ち上がる。深さは56cmである。

出土遺物は小片が少量で、図示できなかった。

第112号土壌 (第231図)

E-12グリッドに位置する。第148号溝跡と重複するが、土壌の方が古い遺構である。全体の平面規模は不明であるが、東西180cm、南北100cmが確認できた。深さは27cmである。

出土遺物は小片が少量で、図示できなかった。

第113号土壌 (第231図)

D-9グリッドに位置する。平面は長径321cm、短径60cmの溝状の細長い楕円形である。長軸方向はN-30°-W。深さは7cmと浅い。

出土遺物はまったくなかった。

第114号土壌

第5号方形周溝墓に変更した。

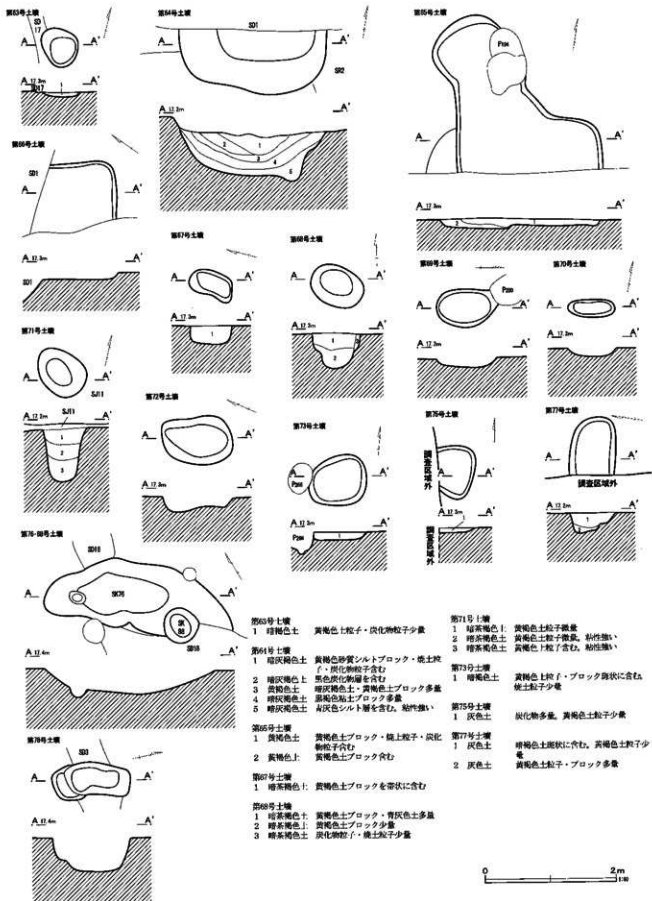
第115号土壌 (第231図)

E・F-10グリッドに位置する。第34号住居跡と重複するが、土壌の方が新しい遺構である。平面は長径120cm、短径63cmの楕円形で、長軸方向はN-65°-W。深さは16cmである。

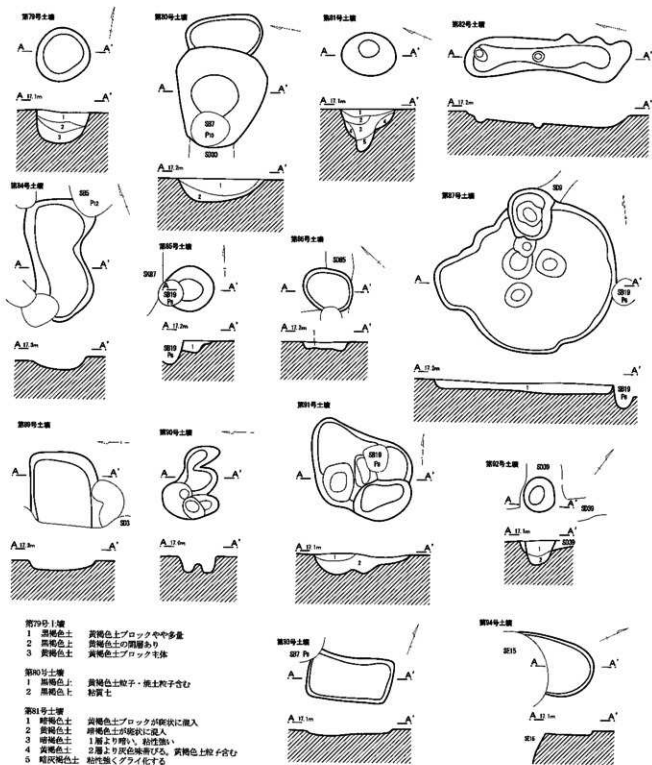
出土遺物のうち、土師器坏1点を図示した(第232図24)。

第116号土壌 (第231図)

F-10・11グリッドに位置する。平面は長径99cm、



第228図 土壌 (4)

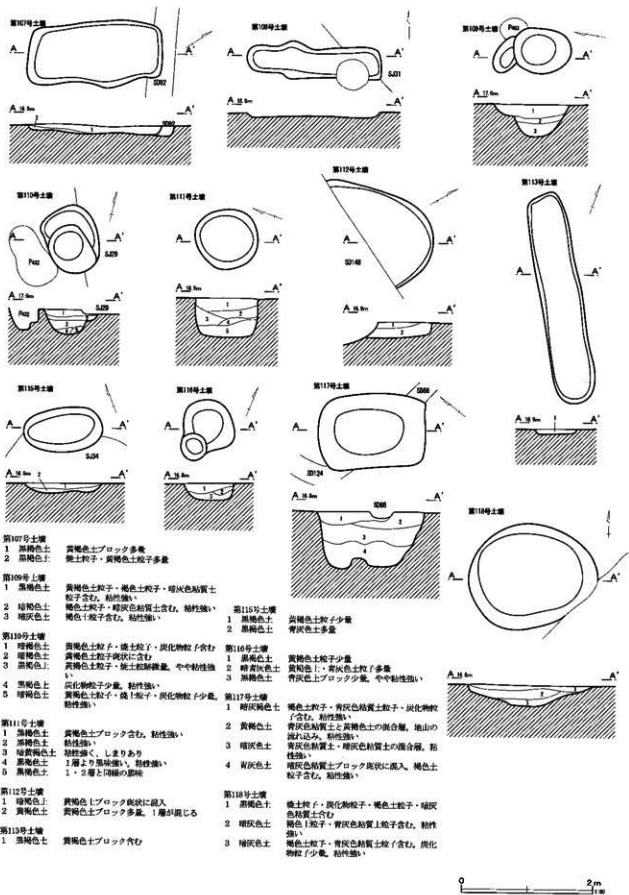


- 第79号土壌
1 黒褐色土 黄褐色土ブロックや中少量
2 黄褐色土 黄褐色土の層あり
3 黄褐色土 黄褐色土ブロック主体
- 第80号土壌
1 黒褐色土 黄褐色土粒子・焼土粒子含む
2 黒褐色土 粘質土
- 第81号土壌
1 暗褐色土 黄褐色土ブロックが縦状に混入
2 黄褐色土 暗褐色土が縦状に混入
3 暗褐色土 1層より暗い、粘性強い
4 黄褐色土 2層より灰色地味を帯びる。黄褐色土粒子含む
5 暗褐色土 粘性強くグライ化する
- 第85号土壌
1 暗褐色土 黄褐色土粒子・焼土粒子少量
- 第86号土壌
1 暗褐色土 黄褐色土粒子縦状に含む
- 第87号土壌
1 暗褐色土 黄褐色土粒子・ブロック縦状に含む。焼土粒子少量

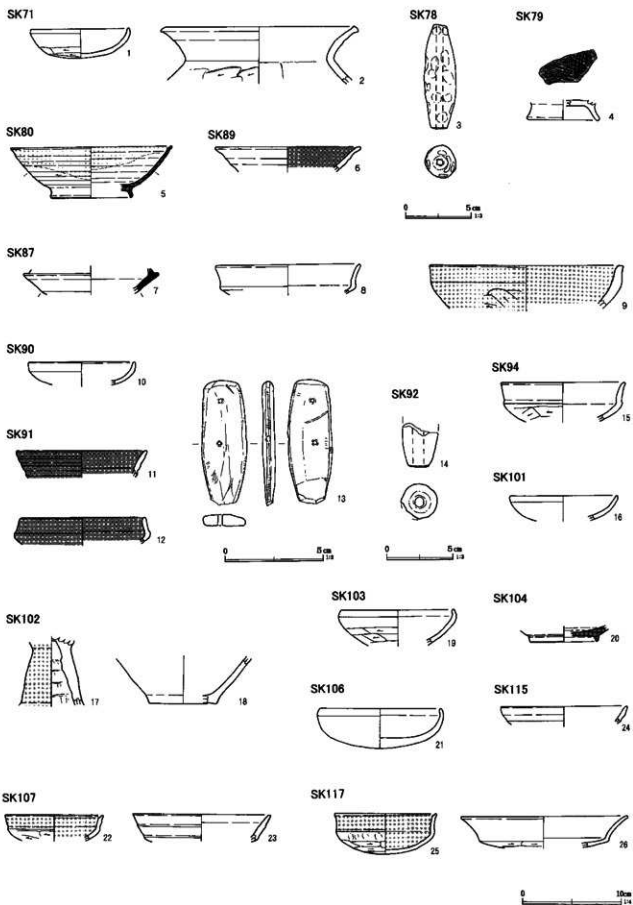
- 第88号土壌
1 暗褐色土 黄褐色土粒子・焼土粒子、焼土ブロック少量
2 暗褐色土 黄褐色土粒子・焼土粒子少量
- 第89号土壌
1 暗褐色土 黄褐色土粒子縦状に含む。焼土粒子・炭化物粒子少量
2 暗褐色土 黄褐色土粒子少量、粘性強い



第229図 土壌 (5)



第231図 土壌 (7)



第232図 土壙出土遺物 (3)

短径81cmの不整形で、長軸方向はN-0°。深さは43cmである。

出土遺物は小片が少量で、図示できなかった。

第117号土壌 (第231図)

F-9・10グリッドに位置する。第88号溝跡と重複しているが、新旧関係は不明である。平面は長辺165cm、短辺116cmの隅丸長方形で、長軸方向はN-40°-W。深さは79cmである。

出土遺物は比較的多い。土師器坏2点を図示した(第232図25・26)。

第118号土壌 (第231図)

F-11グリッドに位置する。平面は長径195cm、短径162cmの楕円形で、長軸方向はN-90°である。深さは36cm。

出土遺物は比較的多く、土師器坏3点と甕口縁部1点を図示した(第234図1~4)。

第119号土壌 (第233図)

F-11グリッドに位置する。第36号住居跡と重複するが、土壌の方が新しい遺構である。平面は径80cmのほぼ円形で、深さは31cmである。

出土遺物は少量であるが、土師器坏1点を図示した(第234図5)。復元すると口縁が大きく開く形態をなしている。

第120号土壌 (第233図)

F-10グリッドに位置する。第92号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。平面は長径80cm、短径60cmの楕円形で、長軸方向はN-35°-W。深さは61cmである。

出土遺物はまったくなかった。

第121号土壌 (第233図)

F-11グリッドに位置する。第44号住居跡と重複しているが、土壌の方が新しい遺構である。平面は

長径114cm、短径78cmの不整形で、長軸方向はN-40°-Eである。深さは50cm。

出土遺物のうち、須恵器高台付埴の底部を図示した(第234図6)。

第122号土壌 (第233図)

F・G-11グリッドに位置する。第44~46号住居跡と重複しているが、土壌の方が新しい遺構である。平面は長径215cm、短径102cmで、長軸方向はN-0°。深さは105cmと、比較的深い。

出土遺物のうち、図示できたものは土師器坏・甕口縁部・甕底部各1点である(第234図7~9)。7は内面に暗文ミガキが施されている。

第123号土壌 (第233図)

F-11グリッドに位置する。第36号住居跡と重複するが、土壌の方が新しい遺構である。平面は長径60cm、短径51cmの楕円形で、長軸方向はN-35°-W。深さは35cmである。

出土遺物は少なかったが、土師器身模倣坏を図示した(第234図10)。

第124号土壌 (第233図)

G-11グリッドに位置する。第45~47号住居跡と重複するが、土壌の方が新しい遺構である。平面は長径77cm、短径62cmのややいびつな楕円形で、長軸方向はN-35°-E。深さは11cmと浅い。

出土遺物はほとんどなく、図示できなかった。

第125号土壌 (第233図)

B・C-8グリッドに位置する。平面は長径150cm、短径87cmの不整形で、長軸方向はN-50°-Wである。西側がやや深くなっており、深さは20cm。

出土遺物はまったくなかった。

第126号土壌 欠番

第127号土壌 (第233図)

F-10グリッドに位置する。第40号住居跡と重複しているが、土壌の方が古い時期の遺構である。平面は長径240cm、短径180cmの不整形で、長軸方向はN-90°。底部は凹凸があり平坦ではない。深さは最も深いところで、56cmである。

出土遺物は比較的多く、土師器坏3点、壺1点、甕2点を図示した(第234図11~16)。11の坏は内面に暗文ミガキを施し、12の坏は底部内面に漆が多量に付着していた。なお、遺物の出土状況については、第239図に微細図を掲載している。

第128号土壌 (第233図)

C-10グリッドに位置する。第82号溝跡と重複しているが、新旧関係は不明である。全体の平面規模は不明であるが、南北81cm、東西70cm以上であることは確認できた。深さは37cmである。

出土遺物は小片が多く、図示できなかった。

第129号土壌 (第233図)

F-8グリッドに位置する。第12号掘立柱建物跡P10と重複するが、土壌の方が古い時期の遺構である。平面は長径131cm、短径110cmの楕円形で、長軸方向はN-50°-E。深さは46cmである。

出土遺物は多量で、図示できたものは第237図1~10のとおりである。3は頸がないほぼ球形の壺で、2は小型壺の胴部である。壺・甕が多く坏が含まれていないのが特徴である。なお出土状況については第239図に掲載しているが、一括で廃棄されている様子がみられる。

第130号土壌 (第233図)

C-7グリッドに位置する。平面は長径128cm、短径99cmのいびつな楕円形で、長軸方向はN-0°である。深さは34cm。

出土遺物はまったくなかった。

第131号土壌

第5号方形周溝墓に変更した。

第132号土壌 (第233図)

E-10・11グリッドに位置する。第97号溝跡と一部重複するが、新旧関係は不明である。長辺305cm、短辺123cmの長方形で、長軸方向はN-10°-W。深さは43cmである。

出土遺物のうち、図示できたのは土師器坏1点である(第234図18)。

第133号土壌 (第235図)

C-9グリッドに位置する。第32号住居跡と重複しているが、土壌の方が古い時期の遺構である。平面は長径120cm、短径98cmのいびつな楕円形で、長軸方向はN-65°-Eである。深さは44cm。

出土遺物は小片のみであるが、古墳時代前期の土器を含んでいる。

第134号土壌 (第235図)

F-12グリッドに位置する。2基の土壌が連結しているようであるが1基の土壌として調査した。平面は長径146cm、短径78cmの不整形で、長軸方向はN-45°-Wである。深さは34cm。

出土遺物のうち、図示できたのは土師器身模倣坏1点である(第234図19)。

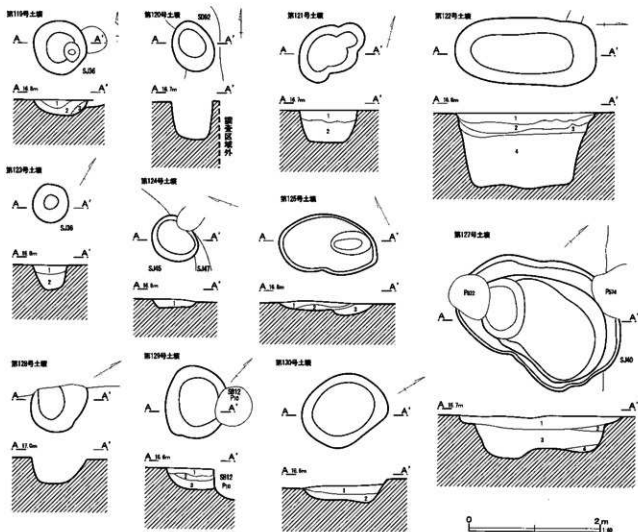
第135号土壌 (第235図)

F-14グリッドに位置する。平面は長径150cm、短径147cmのいびつな楕円形で、長軸方向はN-15°-Wである。深さは21cm。

出土遺物は小片のみで、図示できるものはなかったが、「鬼高式」の土師器を主体とする。

第136号土壌 (第235図)

E-7グリッドに位置する。第37号住居跡と重複するが、土壌の方が新しい時期の遺構である。平面



第123号土壌
 1 暗灰褐色土 褐色土粒子・炭化物粒子・青灰色粘質土粒を含む、粘性強い。
 2 暗灰色土 褐色土粒子含む、粘性強い。

第124号土壌
 1 暗褐色土 青灰色粘質土と褐色土粒子の混合物

第125号土壌
 1 暗褐色土 粘性強い、しりまりあり
 2 暗灰色土 粘土層
 3 暗褐色土 粘性強い。

第127号土壌
 1 暗褐色土 焼土粒子・炭化物粒子少量
 2 暗褐色土 炭質粘質土多量
 3 暗褐色土 上部に焼土粒子含む
 4 青灰色土 粘性強い。

第128号土壌
 1 暗褐色土 青灰色粘土粒了・炭化物粒子含む
 2 暗褐色土 炭化物粒子・鉄分粒子含む
 3 暗褐色土 青灰色粘土粒子含む。

第130号土壌
 1 暗褐色土 粘土ブロック・黄褐色土粒子含む
 2 暗褐色土 粘土ブロック・黄褐色土粒子含む、粘性強い。

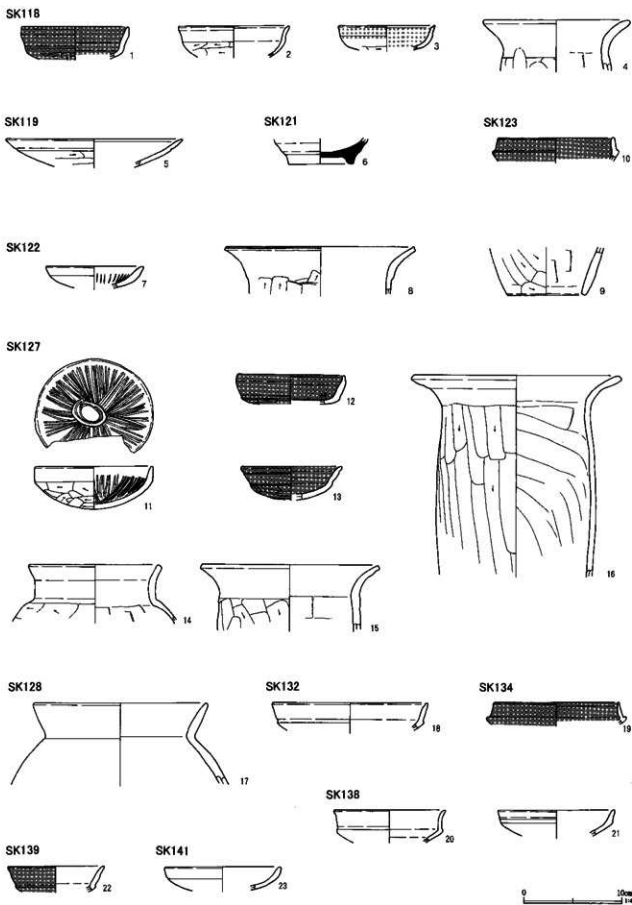
第132号土壌
 1 暗灰褐色土 青灰色粘質土粒子・褐色土粒子を含む
 2 暗灰色土 青灰色粘質土粒子含む、粘性強い。
 3 暗灰色土 2層より厚い、青灰色粘質土粒子含む、粘性強い。
 4 暗灰褐色土 青灰色粘質土粒子・褐色土粒子含む、炭化物粒子少量
 5 暗灰色土 青灰色粘質土粒子層

第119号土壌
 1 暗灰色土 褐色土粒子少量、粘性強い。
 2 暗灰色土 1層より厚味帯びる、炭化物粒子少量、粘性強い。
 3 青灰色土 青灰色土・褐色土粒子含む、粘性強い。

第121号土壌
 1 暗灰色土 褐色土粒了、青灰色粘質土粒了少量
 2 暗灰色土 1層より厚い、青灰色粘質土粒子少量

第122号土壌
 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・炭化物粒子多量
 2 暗灰色土 鉄分多量、粘性強い。
 3 暗青灰色土 炭質粘質土ブロック多量、粘性強い。
 4 暗青灰色土 暗灰色土ブロック少量

第233図 土壌 (8)



第234图 土壙出土遺物 (4)

は長径198cm、短径117cmの不整形で、長軸方向はN-30°-E。深さは37cmである。

出土遺物はまったくなかった。

第137号土壌 (第235図)

G-13・14グリッドに位置する。第43号住居跡と重複するが、土壌の方が新しい時期の遺構である。平面は長径75cm、短径60cmの楕円形で、長軸方向はN-25°-E。深さは36cmである。

出土遺物はまったくなかった。

第138号土壌 (第235図)

F-14グリッドに位置する。平面は長径177cm、短径165cmの隅丸三角形である。長軸方向はN-35°-W。底部にはビット状に深くなる箇所があり、最も深いところで、58cmである。

出土遺物のうち、図示できたものは土師器環2点である(第234図20・21)。

第139号土壌 (第235図)

F-14グリッドに位置する。平面は長径102cm、短径50cmの楕円形で、長軸方向はN-85°-Wである。深さは34cm。

出土遺物のうち、図示できたものは土師器環1点である(第234図22)。

第140号土壌 (第235図)

D-8グリッドに位置する。第98・100号溝跡と重複しているが、新旧関係は不明。複数の土壌が連結しているが、1基の土壌として調査した。長径は192cm、短径87cmの不整形で、長軸方向はN-90°。深さは31cmである。

出土遺物は小片のみで、図示できなかった。

第141号土壌 (第235図)

G-15グリッドに位置する。第47号溝跡やP819と重複するが、いずれも新旧関係は不明。平面は長径

255cm、短径213cmの不整形で、長軸方向はN-0°。ビット状の箇所が深くなっており、深さは49cmである。

出土遺物のうち図示できたものは土師器環1点である(第234図23)。

第142号土壌 (第235図)

G-17グリッドに位置する。第119号溝跡と重複するが、土壌の方が新しい時期の遺構である。平面は長径150cm、短径105cmのいびつな楕円形で、長軸方向はN-65°-W。深さは12cmである。

出土遺物は小片のみ少量で、図示できなかった。

第143号土壌 (第235図)

F-9グリッドに位置する。平面は長径80cm、短径60cmの卵形で、長軸方向はN-0°である。深さは7cmと浅い。

出土遺物は小片のみ少量で、図示できなかった。

第144号土壌 (第235図)

F-10グリッドに位置する。第92号溝跡に連結する浅い溝跡と重複しているが、その新旧関係は不明。平面は長径57cm、短径51cmの卵形で、長軸方向はN-40°-E。深さは21cmである。

出土遺物は、第237図11に図示した土師器甕1点のみである。出土状況は第239図に掲載したとおりで、横向きに押しつぶされた状態で出土している。

第145号土壌 (第236図)

E-9グリッドに位置する。第83号溝跡と重複するが、新旧関係は不明。平面は長径147cm、短径105cmの楕円形で、長軸方向はN-75°-Eである。深さは約80cm以上あるが、危険防止のため掘削ができなかった。当初は土壌として調査を行ったが、井戸跡である可能性が高い。

出土遺物のうち、曲物底部を図示した(第237図12)。土器には糸切痕のある須恵器坏片等の、いわ

ゆる平安時代の土器が含まれている。

第146号土壌 (第236図)

G-14グリッドに位置する。第21号溝跡と重複しているが、新旧関係は不明。全体の平面規模はわからないが、東西90cm以上、南北75cm以上であることを確認した。深さは59cmである。

出土遺物はまったくなかった。

第147号土壌 (第236図)

G-14・15グリッドに位置する。平面は長径87cm、短径60cmの不整形で、長軸方向はN-15°-Wである。深さは48cm。

出土遺物は小片のみで、図示できるものはなかったが、いわゆる「鬼高式」の土師器片を主体とする。

第148号土壌 (第236図)

F-15グリッドに位置する。第18号掘立柱建物跡P5や第6号掘立柱建物跡P24等と重複するが、前後関係は不明である。平面は長径195cm、短径63cmの隅丸長方形で、長軸方向はN-15°-W。深さは16cmである。

出土遺物は小片が多いが、土師器片1点を図示した(第237図13)。

第149号土壌 (第236図)

F-15・16グリッドに位置する。第2号溝跡と重複するが、土壌の方が古い時期の遺構である。全体の平面規模は不明であるが、南北195cm以上、東西60cm以上であることを確認した。最も深いところで、16cmである。

出土遺物は小片が多く、図示できるものはなかった。いわゆる平安時代の土器片が主体となる。

第150号土壌 欠番

第151号土壌 (第236図)

G-14グリッドに位置する。第111号溝跡と重複するが、新旧関係は不明。全体の平面規模はわからないが、南北100cm以上、東西55cm以上であることを確認した。深さは9cmである。

出土遺物は小片が多く、図示できるものはなかったが、いわゆる「鬼高式」土師器を主体とする。

第152号土壌 (第236図)

G-17グリッドに位置する。第3・4号方形周溝墓と重複しているが、いずれも土壌の方が新しい時期の遺構である。平面は長径161cm、短径86cmの隅丸長方形で、長軸方向はN-90°。深さは33cmである。

出土遺物はほとんどなく、図示できなかった。

第153号土壌

F-17グリッドに位置する。複数の土壌が連結しているが、1基の土壌として調査。平面は長径134cm、短径96cmの不整形で、長軸方向はN-0°。最も深いところで、深さは53cmである。

出土遺物はほとんどなく、図示できなかった。

第154号土壌 欠番

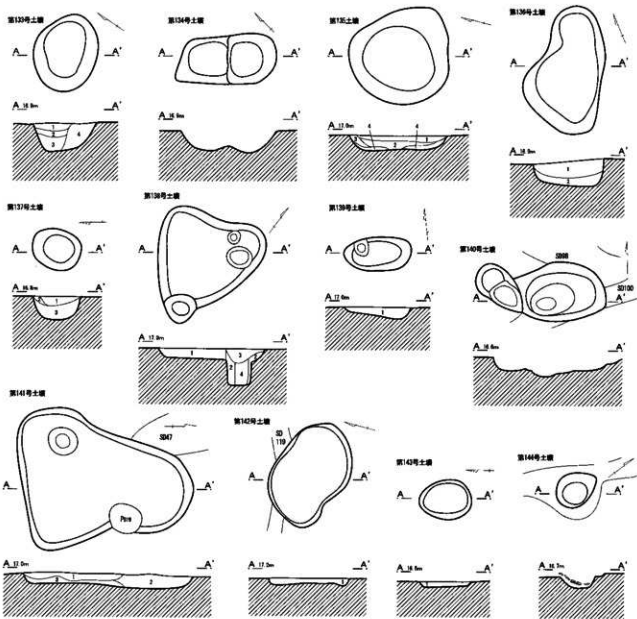
第155号土壌 (第236図)

G-13グリッドに位置する。第142号溝跡等と重複するが、前後関係は不明である。平面は長径201cm、短径126cmの不整形で、長軸方向はN-70°-W。深さは40cmである。

出土遺物は多量で、図示できたものは第238図のとおりである。1は土師器身模倣塚、2・3は鉢である。4は粗製の壺で、表面には指おさえの痕跡が残る。他は壺・甕・瓶の類である。

第156号土壌 (第236図)

F-18グリッドに位置する。2基の土壌が連結しているようだが、1基の土壌として調査した。長径



第132号土層

- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック層状に混入
- 2 暗褐色土 粘り強くグライ化する
- 3 暗褐色土 2層より陥り
- 4 暗褐色土 黄褐色土ブロック・暗褐色土ブロック含む。粘性強い

第133号土層

- 1 暗褐色土 青灰色粘質土ブロック・黄褐色土粒子少量
- 2 暗褐色土 青灰色粘質土ブロック多量
- 3 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量
- 4 黄褐色土 地山の崩落土

第136号土層

- 1 暗褐色土 青灰色粘質土ブロック層状に含む
- 2 青灰色土 青灰色粘質土に暗褐色土・ブロックが混入

第137号土層

- 1 黒褐色土 青灰色粘質土ブロック多量
- 2 暗褐色土 青灰色土少量。粘性強い
- 3 黒褐色土 青灰色土少量。粘性強い

第138号土層

- 1 暗褐色土 粘土粒子・炭化物粒子含む
- 2 黄褐色土 黄褐色土ブロック主体
- 3 暗褐色土 黄褐色土ブロック・粒子・炭化物粒子含む
- 4 棕色土 黄褐色土粒子含む。やや粘性強い

第139号土層

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・粘土粒子・炭化物粒子含む

第141号土層

- 1 暗褐色土 黒褐色土粒子含む
- 2 暗褐色土 黄褐色土粒子・ブロック・炭化物粒子含む。やや粘性強い
- 3 黄褐色土 黄褐色土ブロック主体。暗褐色土粒子含む

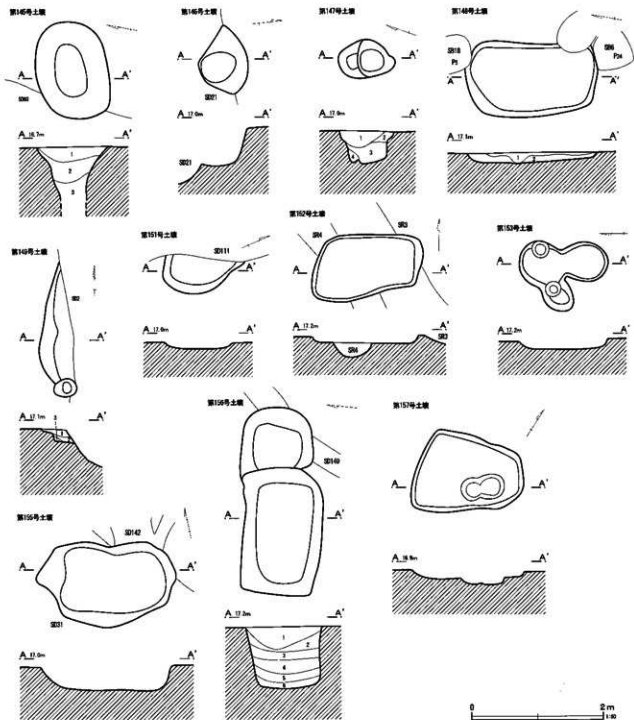
第142号土層

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子含む

第143号土層

- 1 黒褐色土 青灰色粘質土ブロック多量

第235図 土層 (9)



第136号土壌
 1 暗褐色土 黄褐色土・青灰色土・暗褐色土ブロックの混合層。粘性強い
 2 暗褐色土 青灰色粘土が縞状に混入。粘性強い
 3 暗褐色土 黄褐色土粒子縞状に混入。粘性強い

第137号土壌
 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・粘土・炭化物粒子を含む
 2 暗褐色土 1層より黄褐色土粒子少量
 3 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量
 4 暗褐色土 粘質土

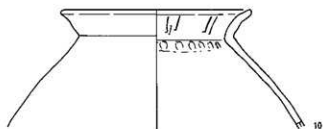
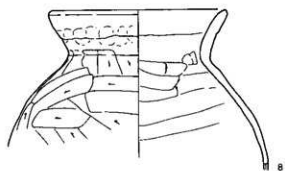
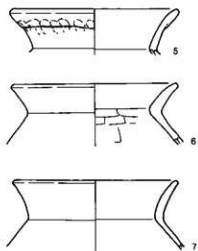
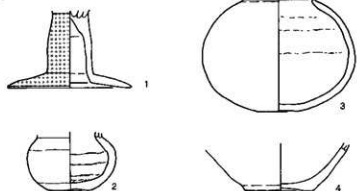
第138号土壌
 1 暗褐色土 黄褐色土粒子少量
 2 黄褐色土 1層が状に混入

第139号土壌
 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック含む
 2 暗褐色土 1層より黒味帯びる
 3 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量

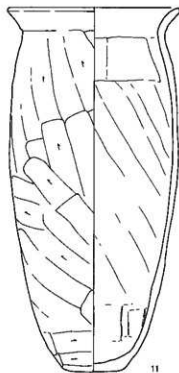
第140号土壌
 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック縞状に混入。下部に人型ブロック集中
 2 暗褐色土 暗褐色土と黄褐色土ブロックの層
 3 暗褐色土 大空黄褐色土ブロック多量
 4 灰褐色土 灰色土ブロックと黄褐色土ブロックが縞状に混入。粘性強い
 5 暗褐色土 黒味強い。暗褐色土ブロック縞状に混入。粘性強い
 6 暗褐色土 暗褐色土ブロック散在

第236図 土壌 (10)

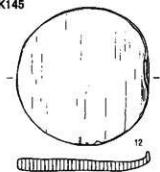
SK129



SK144



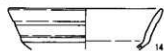
SK145



SK148

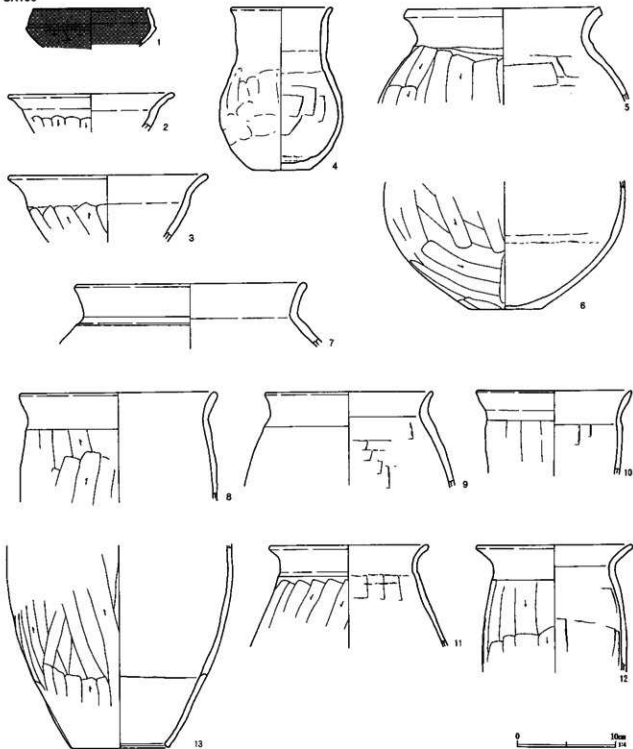


SK157

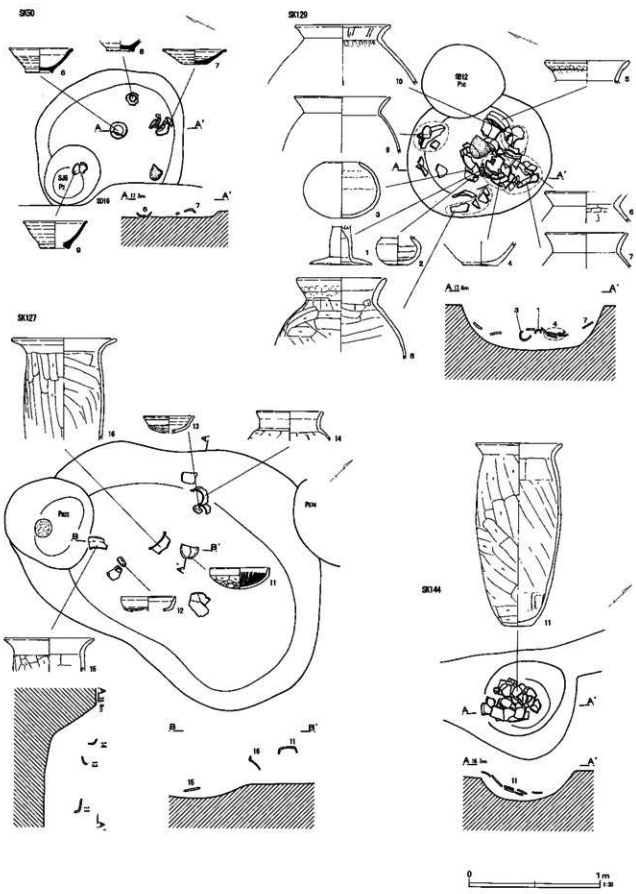


第237图 土坑出土遺物 (5)

SK155



第238図 土壇出土遺物 (6)



第239图 土壤遺物出土状况

は284cm、短径は120cmの隅丸長方形で、長軸方向はN-90°。深さは104cmである。壁面はまっすぐに立ち上がる形態である。

出土遺物は小片が多く、図示できるものはなかったが、中世陶磁器片が含まれている。

出土遺物のうち、図示できたものは土師器環1点である(第237図14)。他に滑石の小片が2片みられた。

第157号土壌 (第236図)

F-13グリッドに位置する。平面は長径174cm、短径122cmの不整形で、長軸方向N-55°-Eである。底部はビット状に深くなる箇所があり、深さは22cmである。

土壌出土遺物観察表 1

探頭番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版		
224	1	S	K	5	須恵器	土罐	(11.6)	4.3	(4.0)	1/4	角 砂粒 白粒	不良 灰白、黒		
224	2	S	K	5	土製品	土罐	幅[3.7]	長[7.3]	孔径L0	ほぼ完全	赤粒 白粒	普通 褐灰	瓦質	
224	3	S	K	7	須恵器	高台付埴		[3.9]	7.2	2/3	角 白粒 針	不良 灰白		
224	4	S	K	10	須恵器	高台付埴		[3.2]	(6.8)	1/4	雲 白粒	不良 浅黄橙		
224	5	S	K	10	須恵器	埴		11.9	(5.4)	1/5	白粒	不良 黄灰	瓦質	
224	6	S	K	14	須恵器	高台付埴		[3.8]	7.2	2/3	雲 角 針	普通 灰白		
224	7	S	K	18	灰釉陶器	長頸壺		[8.8]			口縁破片 黒粒	良好 灰	東遠江	
224	8	S	K	18	灰釉陶器	長頸壺		[6.1]			破片 砂粒 黒粒	良好 灰	東濃	
224	9	S	K	20	須恵器	高台付埴			7.0	2/3	雲 白粒	良好 灰	内面「X」ヘラ記号	
224	10	S	K	20	土製品	土罐	幅[2.1]	長[7.8]	孔径0.6	4/5	雲 赤粒 白粒	普通 灰白	瓦質	
224	11	S	K	26	須恵器	羽釜	(14.2)	[5.6]			破片 角 白粒	普通 灰	突帯先端欠	
224	12	S	K	28	土師器	埴	(11.0)	[3.6]			破片 雲 角 赤粒 白粒	普通 橙		
224	13	S	K	28	須恵器	高埴		[5.7]			脚部2/3 白粒	良好 灰		
224	14	S	K	34	土師器	埴	(12.0)	[3.0]			破片 雲 角 赤粒 白粒	普通 褐		
224	15	S	K	36	土師器	高埴		[3.5]	(13.0)	脚部1/5	長石 赤粒 白粒	普通 にぶい橙	赤彩	
224	16	S	K	36	土師器	雲	(22.6)	[3.0]			口縁破片 角 砂粒 赤粒 白粒	普通 橙		
227	1	S	K	41	須恵器	埴		11.6	3.6	5.0	1/2	雲 石英 赤粒 白粒	普通 褐灰	
227	2	S	K	42	石製品	砥石	幅4.2	長[6.5]	厚3.1					98
227	3	S	K	43	土師器	埴		11.0	3.4		1/2	雲 角 赤粒 白粒	普通 にぶい橙	赤彩
227	4	S	K	44	須恵器	埴	(12.0)	[3.1]			破片 白粒 針	良好 灰白		
227	5	S	K	48	須恵器	高台付埴		[11.3]	(7.2)	1/4	白粒	良好 灰		
227	6	S	K	50	須恵器	高台付埴		13.0	4.9	7.8	完全	灰白	良好 灰白	微細図
227	7	S	K	50	須恵器	埴		13.0	3.0	4.4	1/2	角 砂粒 白粒	不良 浅黄橙	微細図
227	8	S	K	50	須恵器	高台付埴		[2.1]	(5.6)	4/5	角 白粒	不良 灰黄	微細図	
227	9	S	K	50	須恵器	埴	(13.0)	5.5	(6.0)	1/3	角 砂粒 白粒	普通 にぶい黄橙	微細図	
227	10	S	K	51	須恵器	埴		12.0	3.7	5.6	4/5	雲 赤粒 白粒	普通 浅黄橙	
227	11	S	K	51	須恵器	埴	(13.0)	4.2	(6.0)	1/4	雲 白粒	不良 にぶい黄	40	
227	12	S	K	51	須恵器	高台付埴		[11.5]	(7.0)	1/3	雲 赤粒 白粒	不良 褐灰		
227	13	S	K	52	須恵器	埴	(14.0)	[3.0]			破片 角 赤粒 白粒	普通 橙		
227	14	S	K	55	須恵器	埴	(13.0)	[3.8]		1/4	雲 白粒	普通 灰白		
227	15	S	K	55	須恵器	高台付埴		[2.0]	6.6		ほぼ完全	赤粒 白粒	良好 橙	
227	16	S	K	58	須恵器	高台付埴		[2.5]	7.2	4/5	雲 角 石英 赤粒	不良 橙		
227	17	S	K	58	須恵器	高台付埴		[2.0]	5.8	4/5	雲 角 白粒	不良 浅黄橙		
227	18	S	K	58	須恵器	埴	(11.0)	3.2	(6.0)	1/4	雲 角 白粒	良好 にぶい橙		
227	19	S	K	58	土製品	土罐	幅4.5	長9.4	孔径1.2		完全	雲 角 赤粒 白粒	普通 にぶい黄橙	

土壇出土遺物観察表 2

標記番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版	
227	20	S K 64	灰釉陶器	皿	(13.8)	[2.1]	破片	白粒 黒粒	良好	灰白			
227	21	S K 65	須恵器	坏	(16.0)	[3.5]	破片	白粒	良好	灰	ハケ塗り? 東通	87	
227	22	S K 68	須恵器	坏		[1.8]	1/4	白粒	良好	灰			
232	1	S K 71	土師器	坏	10.2	3.0	完形	雲 角 石英 白粒	普通	黒褐		40	
232	2	S K 71	土師器	坏	(19.2)	[5.4]	口縁1/4	雲 角 赤粒 白粒	普通	にぶい橙			
232	3	S K 78	土製品	土罐	幅[2.3]	長[8.0]	孔径0.5	ほぼ完形	白粒	普通	黒褐		
232	4	S K 79	内黒土器	高台付埴		[1.7]	(7.4)	1/3	雲 長石 白粒	普通	浅黄橙		
232	5	S K 80	灰釉陶器	碗	(16.4)	5.1	(8.1)	1/5	白粒 黒粒	良好	灰白	ハケ塗り 東通	40
232	6	S K 89	内黒土器	坏	(15.0)	[2.5]		角 針	普通	にぶい黄橙			
232	7	S K 87	須恵器	坏		[2.6]	破片	砂粒 白粒	良好	灰			
232	8	S K 87	土師器	坏	(15.0)	[2.9]	破片	赤粒	良好	橙			
232	9	S K 87	土師器	鉢	(20.0)	[4.4]	破片	雲 角 赤粒	普通	浅黄橙	赤彩		
232	10	S K 90	土師器	坏	(11.0)	[2.3]	破片	角 長石 白粒	普通	橙			
232	11	S K 91	土師器	坏	(13.4)	[2.7]	破片	角 赤粒 白粒	普通	灰黄褐	黒色処理		
232	12	S K 91	土師器	坏	(13.0)	[2.6]	破片	雲 角 赤粒 白粒	不良	明褐色	黒色処理		
232	13	S K 91	石製品	劍形	幅2.3	長6.3	厚0.6	ほぼ完形	滑石		先端欠	93	
232	14	S K 92	土製品	土罐	幅[2.8]	長[3.3]	孔径0.8	1/3	角 砂粒 白粒	普通	にぶい橙		
232	15	S K 94	土師器	坏	(12.8)	[3.9]		破片	角 赤粒 白粒	普通	橙		
232	16	S K 101	土師器	坏	(11.0)	[2.5]		破片	雲 角 白粒	普通	橙		
232	17	S K 102	土師器	高坏		[6.5]		2/3	砂粒 白粒	普通	にぶい黄橙	赤彩	
232	18	S K 102	土師器	甕		[4.6]	(7.0)	底部1/4	角 砂粒 赤粒 白粒	不良	明赤褐		
232	19	S K 103	土師器	坏	(12.0)	[3.6]		破片	雲 角 白粒	普通	橙		
232	20	S K 104	灰釉陶器	碗		[1.6]	(7.0)	破片	白粒 黒粒	良好	灰白	東通江	87
232	21	S K 106	土師器	坏	(12.4)	4.1		1/3	雲 角 赤粒 白粒	不良	橙	40	
232	22	S K 107	土師器	坏	(10.0)	[2.5]		破片	雲 赤粒 白粒	普通	明赤褐	赤彩	
232	23	S K 107	土師器	坏	(14.0)	[2.8]		破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	橙		
232	24	S K 115	土師器	坏	(13.0)	[1.7]		破片	角 赤粒 白粒	普通	橙		
232	25	S K 117	土師器	坏	10.4	4.1		1/2	雲 砂粒 白粒	普通	にぶい橙	赤彩	
232	26	S K 117	土師器	坏	(17.0)	[3.2]		1/3	雲 赤粒 白粒	普通	橙	40	
234	1	S K 118	土師器	坏	(11.0)	[3.2]		破片	雲 赤粒 白粒	普通	灰褐	黒色処理	
234	2	S K 118	土師器	坏	(13.4)	[3.2]		1/4	雲 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
234	3	S K 118	土師器	坏	(10.0)	[2.4]		破片	雲 赤粒 白粒	普通	橙	赤彩	
234	4	S K 118	土師器	坏	(15.0)	[5.2]		破片	雲 赤粒 白粒	普通	にぶい黄橙		
234	5	S K 119	土師器	甕	(18.0)	[2.8]		破片	雲 角 長石 白粒	普通	橙		
234	6	S K 121	須恵器	高台付埴		[2.5]	6.6	4/5	雲 白粒	普通	灰白		
234	7	S K 122	土師器	坏	(10.0)	[2.2]		1/5	雲 長石 赤粒 白粒	普通	黄橙		
234	8	S K 122	土師器	甕	(19.4)	[4.7]		口縁破片	雲 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
234	9	S K 122	土師器	甕		[4.7]	(8.0)	1/4	赤粒 白粒	普通	灰黄		
234	10	S K 123	土師器	坏	(12.0)	[2.3]		破片	赤粒 白粒	普通	黒褐	黒色処理	
234	11	S K 127	土師器	坏	12.0	4.3		2/3	雲 赤粒 白粒	普通	にぶい橙	40	
234	12	S K 127	土師器	坏	(11.0)	[2.9]		1/3	雲 白粒 針	普通	褐灰	内底漆付着	
234	13	S K 127	土師器	坏	(10.3)	[3.4]		角 白粒	普通	浅黄橙	微細図 黒色処理		
234	14	S K 127	土師器	甕	11.4	[5.6]		口縁2/3	雲 長石 赤粒 白粒	良好	にぶい橙	微細図	40
234	15	S K 127	土師器	甕	(18.4)	[6.5]		口縁1/4	赤粒 白粒	普通	黒褐	微細図	
234	16	S K 127	土師器	甕	(11.4)	[20.5]		1/4	石英 赤粒 白粒	普通	橙	外面ヌメ 微細図	62
234	17	S K 128	土師器	壺	(18.0)	[8.3]		口縁破片	赤粒 白粒	普通	橙		
234	18	S K 132	土師器	坏	(16.0)	[2.8]		破片	雲 赤粒 白粒	普通	橙		
234	19	S K 134	土師器	坏	(13.0)	[2.2]		破片	雲 白粒	普通	にぶい橙	黒色処理	
234	20	S K 138	土師器	坏	(11.4)	[3.3]		1/4	角 石英 白粒	不良	にぶい橙		
234	21	S K 138	土師器	坏	(12.0)	[2.7]		破片	雲 白粒	不良	にぶい橙		
234	22	S K 138	土師器	坏	(10.0)	[2.5]		破片	雲 白粒	普通	にぶい黄橙	黒色処理	
234	23	S K 141	土師器	坏	(12.0)	[2.3]		破片	雲 角 石英 白粒	普通	橙		
237	1	S K 129	土師器	高坏		[7.8]	12.5	脚部1/2	雲 赤粒 白粒	普通	橙	微細図 赤彩	62
237	2	S K 129	土師器	小梨壺		[5.7]	4.2	ほぼ完形	雲 赤粒 白粒	普通	橙	微細図	62
237	3	S K 129	土師器	壺	7.0	11.4	4.0	1/2	雲 角 長石 白粒	不良	にぶい橙	62	
237	4	S K 129	土師器	壺		[4.7]	7.0	底部1/2	砂粒 白粒	普通	灰褐	微細図	
237	5	S K 129	土師器	壺	17.4	[4.6]		口縁4/5	雲 長石 石英 砂粒	不良	にぶい橙	微細図	40
237	6	S K 129	土師器	壺	(17.0)	[6.0]		口縁1/3	石英 砂粒 白粒	普通	にぶい褐	微細図	
237	7	S K 129	土師器	壺	(17.0)	[6.8]		口縁1/4	雲 角 白粒	普通	にぶい橙	微細図	
237	8	S K 129	土師器	壺	18.2	[16.3]		2/3	雲 角 砂粒 白粒	普通	にぶい黄橙	微細図	63

土壌出土遺物観察表 3

標図番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
237 9	S K 129	土師器	壺	(19.4)	[11.3]		1/3	砂粒 赤粒 白粒	不良	にぶい橙	微細図	40
237 10	S K 129	土師器	壺	19.4	[11.8]		口縁2/3	砂粒 白粒	普通	にぶい橙	微細図	68
237 11	S K 144	土師器	甕	(17.5)	36.9	6.2	3/4	砂粒 赤粒 白粒	普通	にぶい橙	微細図	36
237 12	S K 145	木製品	曲物	径14.0 厚1.1							底板	108
237 13	S K 148	土師器	坏	(11.0)	[3.2]		破片	赤粒	不良	にぶい黄橙		
237 14	S K 157	土師器	坏	(16.0)	[4.2]		破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	橙		
238 1	S K 155	土師器	坏	(12.0)	[3.8]		破片	雲 赤粒 白粒	普通	にぶい黄橙	黒色処理	69
238 2	S K 155	土師器	鉢	(24.0)	[6.8]		破片	雲 砂粒 赤粒 白粒	普通	灰青		
238 3	S K 155	土師器	鉢	(17.0)	[3.8]		口縁破片	砂粒 赤粒 白粒	普通	にぶい黄橙		
238 4	S K 155	土師器	壺	10.2	16.5	5.4	ほぼ完形	砂粒 赤粒 白粒	普通	にぶい黄橙		
238 5	S K 155	土師器	壺	20.2	[9.5]		口縁1/2	角 砂粒 赤粒	普通	にぶい黄橙		41
238 6	S K 155	土師器	壺		[13.0]	(7.4)	底部1/3	雲 角 石英 赤粒	普通	浅黄橙		
238 7	S K 155	土師器	壺	(24.0)	[6.0]		口縁破片	雲 石英 砂粒 赤粒	普通	にぶい橙		
238 8	S K 155	土師器	甕	(20.2)	[11.2]		破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
238 9	S K 155	土師器	甕	(17.0)	[9.6]		破片	長石 赤粒 白粒	普通	橙		
238 10	S K 155	土師器	甕	(16.0)	[8.6]		破片	砂粒 赤粒 白粒	普通	浅黄橙		
238 11	S K 155	土師器	甕	(16.4)	[10.3]		破片	砂粒 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
238 12	S K 155	土師器	甕	(16.0)	[13.0]		1/4	雲 角 砂粒	普通	にぶい橙		
238 13	S K 155	土師器	甕		[20.6]	(10.0)	1/3	雲 角 石英 赤粒	普通	橙		

7. ビット

今回の報告範囲では、ビットは1～877まで番号を付して調査を行ったが、住居跡や掘立建物跡のビットに振り替えたものや、ビットと認められなかったものも含まれている。最終的にビットとして確認したものは701基である。ビットの一覧については表に掲げている。備考に「第1面」とあるのは第1遺構面で検出したものである。いずれのビット番号も調査時に付した番号のまま、報告している。

なお、ビットの平面図および断面図(第240～246図)は原則的に長径60cm以上、短径40cm以上、深さ40cm以上のものを掲載した。

いずれも用途が不明なものをビットとしたが、ビット一覧表

番号	グリッド	長径	短径	深さ	平面図	備考
1	D-18	37	37	48		第1面
2	D-18	46	40	42		第1面
3	D-18	54	42	29		第1面
4	D-17	43	30	29		第1面
5	D-17	40	38	48		第1面
6	C-17	—	—	—		SB3 P10に変更
7	D-17	24	24	30		第1面
8	D-17	42	40	21		第1面
9	D-17	—	—	—		SB3 P1に変更
10	D-17	32	30	21		P107と重複、第1面
11	D-16	21	20	29		第1面
12	C-16	—	—	—		SB3 P9に変更
13	D-16	—	—	—		SB3 P3に変更
14	D-16	—	—	—		SB1 P2に変更
15	C-16	32	32	13		第1面
16	C-16	—	—	—		SB3 P7に変更
17	C-16	29	26	36		第1面
18	D-16	—	—	—		SB3 P2に変更
19	C-16	42	42	55		第1面
20	C・D-16	—	—	—		SB1 P3に変更
21	C・D-16	54	46	10		P125と重複、第1面
22	C-15	40	40	49		第1面
23	C-16	34	24	17		第1面
24	—	—	—	—		欠番
25	D-16	—	—	—		SB3 P4に変更
26	D-15	43	38	20		第1面
27	D-17	24	18	30		第1面
28	D-17	42	38	48		第1面
29	D-17	64	62	20		P28と重複、第1面
30	C-14	36	32	30		第1面
31	C-14	42	36	50		第1面
32	C-14	21	21	31		第1面
33	C-14	22	22	33		第1面
34	C-14	29	25	17		第1面
35	C-14	29	22	35		第1面
36	C-14	24	24	19		第1面
37	C-14	30	30	43		第1面
38	D-14	42	38	40		第1面
39	D-14	32	27	26		第1面
40	D-14	38	34	43		第1面
41	D-14	66	46	58		第240図 第1面
42	D-14	(46)	(28)	42		P41と重複、第1面
43	D-14	59	52	52		第1面
44	—	—	—	—		欠番
45	D-14	18	16	43		P46と重複、第1面
46	D-14	—	—	—		SB2 P9に変更
47	—	—	—	—		欠番
48	D-14	30	28	19		第1面
49	D-14	41	39	38		第1面

面を图示したものの中でも、P287、P421、P481、P495、P569、P590、P642、P678、P717、P748、P822等は、その断面形態や深さからみて、井戸跡になる可能性が高い。井戸跡の項で記載したとおり、7世紀前後の時代の井戸跡は、平面形は小型の円形である場合が多いためである。

出土遺物は全体に少なく、图示できたものは第248～250図に掲載したとおりである。他の遺構と同様に、ビットの遺物の時期も7世紀前後の土器、10世紀の土器、中世遺物の大きく3時期に分けられるようであるが、遺物が少ないため、時期を特定できない遺構がほとんどである。图示した土器では、P

番号	グリッド	長径	短径	深さ	平面図	備考
50	D-15	32	30	27		第1面
51	C-15	28	23	19		第1面
52	D-15	29	28	31		第1面
53	D-15	32	30	29		第1面
54	D-14	34	32	22		第1面
55	D-15	35	29	46		第1面
56	D-15	34	29	16		第1面
57	D-15	32	32	27		第1面
58	D-15	51	50	66		第1面
59	D-14	30	28	18		第1面
60	D-14	38	32	33		第1面
61	D-14	56	35	35		第1面
62	D-14	34	30	19		第1面
63	D-14	29	18	30		第1面
64	D-14	34	31	38		第1面
65	D-14	32	32	30		第1面
66	D-14	50	43	37		第1面
67	D-14	32	28	36		第1面
68	C-14	26	26	28		第1面
69	C-14	29	28	26		第1面
70	C-14	33	22	22		第1面
71	C-14	43	32	39		第1面
72	C-14	49	46	36		第1面
73	C-14	50	40	44		第1面
74	C-14	36	29	13		P75と重複、第1面
75	C-14	48	43	52		第1面
76	C-14	50	39	43		第1面
77	C-14	34	26	28		第1面
78	C-14	32	30	43		第1面
79	C-13	40	37	26		第1面
80	C-13	26	24	11		第1面
81	C-13	34	28	19		第1面
82	C-13	34	32	19		第1面
83	C-13	38	34	45		第1面
84	C-13	30	26	21		第1面
85	C-13	38	36	22		第1面
86	C-13	31	28	35		第1面
87	C-13	33	33	24		第1面
88	C-13	32	23	35		第1面
89	C-13	34	27	18		第1面
90	D-13	38	28	44		第1面
91	D-14	32	32	40		第1面
92	D-13	31	29	31		第1面
93	D-13	46	33	28		第1面
94	D-14	51	50	29		第1面
95	D-13	58	47	56		第1面
96	D-13	47	41	47		第1面
97	C-13	36	28	57		第1面
98	C-13	32	29	31		第1面

番号	グリッド	長径	短径	深さ	平面図	備考
99	C-13	30	30	19		第1面
100	D-13	30	30	30		第1面
101	D-14	30	28	21		第1面
102	D-14	86	74	41	第240図	第1面
103	C-15	64	49	14		第1面
104	C-15	52	48	25		第1面
105	C-14	61	45	24		第1面
106	D-17	58	55	40		第1面
107	D-16・17	66	53	36		P10と重複、第1面
108	D-16	34	32	19		第1面
109	D-16	68	66	45	第240図	第1面
110	D-16	27	24	13		第1面
111	D-16	24	22	15		第1面
112	D-16	30	28	25		第1面
113	D-16	26	24	13		第1面
114	D-16	50	48	21		第1面
115	D-16	70	63	40	第240図	第1面
116	D-16	26	24	33		第1面
117	D-16	30	26	21		第1面
118	D-16	24	20	21		第1面
119	D-16	81	69	34		第1面
120	D-16	23	20	23		第1面
121	D-16	28	28	53		第1面
122	D-16	30	28	34		第1面
123	C-16	—	—	—		SB3 P6に変更
124	C-16	45	37	18		第1面
125	C.D-16	56	56	43		P21と重複、第1面
126	C-16	50	46	55		第1面
127	D-16	37	32	45		第1面
128	D-16	38	36	46		第1面
129	D-16	24	24	41		第1面
130	D-16	45	38	38		第1面
131	D-16	31	31	50		第1面
132	D-16	24	19	12		第1面
133	D-16	30	30	24		第1面
134	D-16	22	19	38		第1面
135	D-16	68	41	48	第240図	第1面
136	D-15	38	32	38		第1面
137	D-16	25	24	10		第1面
138	D-16	32	30	28		第1面
139	D-16	—	—	—		SB3 P5に変更
140	C.D-16	63	56	41	第240図	第1面
141	D-16	23	19	21		第1面
142	D-16	33	31	27		第1面
143	D-16	30	24	38		第1面
144	D-17	50	45	23		第1面
145	D-17	40	33	41		第1面
146	D-17	38	35	27		第1面
147	D-17	34	32	38		第1面
148	D-17	—	—	—		SJ5 P1に変更
149	D-17	(26)	(22)	10		P150と重複
150	D-17	36	34	20		第1面
151	D-17	30	29	26		第1面
152	D-17	40	36	37		第1面
153	D-17	38	37	10		第1面
154	D-17	37	30	40		第1面
155	D-17	30	24	30		第1面
156	D-17	29	25	24		第1面
157	D-17	28	23	21		第1面
158	D-17	18	15	15		第1面
159	D-17	—	—	—		SJ5 P3に変更
160	D-17	—	—	—		SJ5 P4に変更
161	D-17	39	30	18		第1面
162	D-17	36	(26)	21		P161と重複
163	D-17	25	18	13		第1面
164	—	—	—	—		欠番
165	—	—	—	—		欠番
166	D-17	24	21	27		第1面
167	D-17	30	26	11		第1面
168	D-17	87	67	53	第240図	第1面
169	E-18	41	32	48		第1面
170	E-18	—	—	—		SB8 P1に変更
171	E-17-18	52	36	32		第1面
172	E-17-18	86	60	34		第1面
173	E-17	45	43	25		第1面
174	E-17	45	40	21		第1面
175	E-17	50	48	31		第1面
176	E-17	50	40	14		第1面

番号	グリッド	長径	短径	深さ	平面図	備考
177	E-17	—	—	—		SB8 P5に変更
178	E-17	49	36	13		第1面
179	D-18	42	26	52		第1面
180	E-18	51	40	39		第1面
181	E-18	31	28	16		第1面
182	E-18	26	24	44		第1面
183	E-18	83	39	123	第240図	第1面
184	E-18	33	30	27		第1面
185	E-18	25	16	14		第1面
186	E-18	(32)	(35)	16		P185・P187と重複
187	E-18	30	30	49		第1面
188	E-18	36	35	15		第1面
189	E-18	34	30	40		第1面
190	E-18	22	18	36		第1面
191	E-18	25	23	17		第1面
192	E-18	20	16	14		第1面
193	E-18	21	18	12		第1面
194	E-18	102	58	37		第1面
195	E-18	26	24	19		第1面
196	D-18	51	40	27		第1面
197	D-18	37	28	35		第1面
198	D-18	44	20	22		第1面
199	D-18	67	48	44	第240図	第1面
200	D-18	58	45	50		第1面
201	D-19	40	30	27		第1面
202	E-17	—	—	—		SB7 P13に変更
203	E-16	—	—	—		SB7 P15に変更
204	E-16	60	40	8		第1面
205	E-16	36	34	24		第1面
206	E-16	47	38	40		第1面
207	—	—	—	—		欠番
208	D-16	65	60	31		第1面
209	D-16	16	15	14		第1面
210	D-16	32	27	25		SD18と重複
211	—	—	—	—		欠番
212	D-16	47	42	4		第1面
213	E-16	30	28	28		第1面
214	E-16	—	—	—		SB7 P4に変更
215	D-16	27	18	16		第1面
216	D-16	38	24	20		第1面
217	E-16	24	23	12		第1面
218	E-16	44	33	16		第1面
219	—	—	—	—		欠番
220	—	—	—	—		欠番
221	D-16	25	20	30		第1面
222	D-16	23	22	11		第1面
223	D-16	23	20	19		第1面
224	D-16	28	22	20		第1面
225	D-16	40	30	41		第1面
226	D-16	24	20	9		第1面
227	D-16	29	26	10		第1面
228	—	—	—	—		欠番
229	E-17	55	49	58		第1面
230	E-17	—	—	—		SJ4 P6に変更
231	E-17	—	—	—		SJ5 P5に変更
232	E-17	—	—	—		SJ5 P6に変更
233	D-17	27	25	15		第1面
234	D-17	22	15	8.5		第1面
235	E-17	—	—	—		SJ4 P5に変更
236	D-18.19	54	48	32		第1面
237	D-18	50	42	25		第1面
238	D-18	(25)	(22)	30		SJ10 P2と重複
239	D-19	44	36	8		第1面
240	D-19	31	26	32		第1面
241	D-18	17	15	8		第1面
242	D-18	33	26	2		第1面
243	D-19	24	18	14		第1面
244	D-19	24	22	10		第1面
245	—	—	—	—		欠番
246	D-18	(32)	(26)	4		SK69と重複
247	D-18	31	24	6		第1面
248	D-18	24	23	13		第1面
249	D-18	46	44	19		第1面
250	E-18	20	18	24		第1面
251	E-18	28	25	59		第1面
252	D-17	46	38	61		第1面
253	D-18	41	28	18		第1面
254	D-17	31	26	21		第1面

番号	グリッド	長径	短径	深さ	平面図	備考
253	E-18	—	—	—		SJ11 P2に変更
256	E-18	—	—	—		SJ11 P3に変更
257	D-17	—	—	—		SJ6 P4に変更
258	D-18	78	40	66	第240図	
259	—	—	—	—		欠番
260	E-16	76	38	5		P204 SJ13閉鎖と重複
261	D-17	28	25	12		
262	D-17	40	23	29		
263	D-15	16	14	23		
264	C-15	45	44	39		
265	C-15	32	26	21		
266	C-15	48	35	36		
267	D-16	60	35	17		SD3と重複
268	D-17	42	42	23		
269	D-16	27	25	22		
270	D-16	33	14	18		SBS P7と重複
271	D-17	89	51	55	第240図	
272	C-15	60	46	36		SE29と重複
273	C-16	46	39	6		
274	C-16	52	38	28		
275	C-16	30	29	25		
276	C-15	53	24	30		SE29と重複
277	C-15	22	17	27		P276と重複
278	D-17	31	26	16		
279	C-15	23	23	11		
280	C-15	26	24	15		
281	C-15	33	25	10		
282	C-15	26	25	31		
283	C-15	35	32	32		
284	D-15	54	42	38		SD16と重複
285	C-15	33	26	17		
286	D-16	42	37	28		SBS P7と重複
287	D-15	66	58	84	第240図	SB2 P2と重複
288	D-15	89	62	20		P287と重複
289	D-15	72	66	48	第240図	
290	E-15	68	64	39		
291	E-14	50	50	22		
292	E-14	74	64	32		
293	D-14	56	50	43		
294	D-15	50	42	25		
295	E-16	—	—	—		SB7 P16に変更
296	E-16	36	33	24		
297	E-16	64	36	52	第240図	
298	E-16	—	—	—		SB7 P11に変更
299	E-16	34	32	26		
300	E-16	31	28	29		
301	D-14	68	54	41	第240図	
302	D-14	64	57	46	第240図	
303	D-13	80	70	27		
304	D-13	72	64	47	第240図	
305	D-14	78	68	112	第240図	
306	—	—	—	—		
307	D-16	21	21	35		
308	C-13	57	38	46		
309	C-13	54	49	28		
310	C-13	—	—	—		SB19 P3に変更
311	C-13	56	40	20		
312	C-13	50	42	24		
313	C-13	44	44	23		
314	C-13	50	44	14		
315	C-13	48	43	25		
316	C-13	—	—	—		SB19 P4に変更
317	C-13	76	40	27		P321と重複
318	C-13	52	50	24		
319	C-13	52	48	36		P320と重複
320	C-13	(52)	(50)	38		P319と重複
321	C-13	81	54	23		
322	D-13	55	48	45		
323	D-13	64	59	59	第240図	
324	C-13	105	98	49	第240図	
325	C-13	71	45	39		
326	D-14	50	42	19		
327	C-13	79	73	82	第240図	
328	D-15	56	53	47		SB2 P24と重複
329	D-15	53	34	27		
330	D-15	77	60	48	第240図	
331	E-15	—	—	—		SH7 P8に変更
332	E-15	—	—	—		SB6 P10に変更

番号	グリッド	長径	短径	深さ	平面図	備考
333	E-15	—	—	—		SB2 P37に変更
334	E-15	34	28	21		P333と重複
335	E-14.15	40	32	37		
336	E-16	—	—	—		SB7 P10に変更
337	E-15	72	35	49	第240図	
338	E-15	84	55	22		
339	E-14	64	58	38		P340と重複
340	E-14	64	48	28		P339と重複
341	E-14	38	38	16		
342	E-14	48	36	39		
343	E-14	108	73	76	第240図	
344	E-15.16	—	—	—		SB7 P9に変更
345	C-13	68	54	38		
346	C-12.13	69	48	33		
347	C-12	61	58	41	第240図	
348	C-12	44	41	23		
349	C-12	78	54	51	第241図	
350	C-12.13	47	38	22		
351	C-12.13	55	52	17		
352	E-14	36	28	16		
353	C-12	56	49	25		
354	D-14	78	48	39		
355	E-15	30	26	42		
356	E-15	—	—	—		SB7 P7に変更
357	D-14.15	(45)	(43)	66		SD26と重複
358	D-14	39	31	15		
359	—	—	—	—		欠番
360	D-14	60	45	37		
361	D-15	44	35	25		
362	D-15	42	42	41		
363	E-15	—	—	—		SB7 P6に変更
364	E-15.16	—	—	—		SB7 P18に変更
365	E-15	38	38	25		
366	C-12	63	61	20		
367	C-12	90	65	45	第241図	
368	C-12	82	66	23		
369	C-12	28	26	29		P370と重複
370	C-11.12	53	50	25		
371	C-11	66	58	51	第241図	
372	C-11	60	56	38		
373	C-11	40	38	38		
374	D-11	84	76	16		
375	D-11	44	40	48		
376	D-12	48	46	6		
377	D-15	58	38	26		SD40 P378と重複
378	D-E15	58	51	5		P377と重複
379	E-15	71	48	42	第241図	
380	E-15	51	30	18		
381	E-15	34	22	11		SD37と重複
382	E-14	44	42	61		
383	C-11	30	30	34		
384	C-11	90	50	8		
385	C-11	30	25	12		
386	C-11	54	45	64		
387	C-11	82	46	39	第241図	
388	C-11	46	43	18		
389	C-10	60	57	34		
390	C-12	42	38	29		
391	C-12	32	32	43		
392	C-13	43	41	22		
393	C-14	62	49	28		
394	C-14	71	49	38		
395	C-14	44	41	30		P396 SD33と重複
396	C-14	—	—	—		SB19 P1に変更
397	C-14	58	54	16		
398	C-14	53	39	46		
399	C-14	44	30	14		
400	C-14	56	47	26		
401	C-14	33	29	13		
402	D-14	86	70	42		
403	D-14	32	32	23		
404	C-12	25	24	11		敷設区あり
405	C-9	43	38	46		
406	C-9	48	46	13		
407	C-9	34	32	41		
408	C-9	44	36	12		
409	C-9	62	49	41	第241図	
410	C-9	73	59	43	第241図	

番号	グリッド	長径	短径	深さ	平面図	備考
411	C-9	40	38	39		
412	C-9	40	36	43		
413	C-9	63	60	46	第241図	
414	D-10	60	36	22		
415	D-10	40	34	35		
416	D-10	48	24	17		
417	D-10	36	27	27		
418	D-10	46	42	33		
419	D-10	58	56	13		
420	D-10	36	30	26		
421	D-10	75	65	101	第241図	
422	D-10	57	42	35		
423	D-10	67	46	42	第241図	
424	D-10	30	24	15		
425	D-10	26	22	38		
426	C-10	—	—	—		
427	D-13	148	110	34	SB13 P4に変更	
428	D-13	55	53	34	SB9と重複	
429	C-9	50	42	43		
430	B-9	29	24	18		
431	B-9	52	45	29		
432	B-9	(44)	(42)	32		
433	B-9	52	47	25		
434	B-8	71	66	57	第241図	
435	B-8	56	50	57		
436	B-8	58	50	29		
437	B-8	48	42	46		
438	C-8	63	52	56	第241図	
439	D-9	69	52	44	第241図	
440	D-9	48	44	38		
441	D-9	98	64	34		
442	D-8	60	58	37		
443	E-14	43	39	35		
444	D-11	40	40	46		
445	D-11	53	43	22		
446	D-12	34	33	40		
447	D-12	—	—	—	SB14 P7に変更	
448	D-11.12	40	38	47		
449	D-11	—	—	—	SB14 P6に変更	
450	C-10	104	74	19		
451	C-10	50	28	50		
452	C-10	27	21	17		
453	E-11	48	42	9		
454	E-11	46	39	11		
455	D-11	42	42	40		
456	—	—	—	—		
457	C-15	84	52	37	欠番	
458	C-13	50	48	36	SD5と重複	
459	C-10	—	—	—	SB11 P3に変更	
460	C-10	66	60	28		
461	B-10	54	40	41		
462	B-10	67	33	25		
463	B-10	42	29	26		
464	—	—	—	—	欠番	
465	C-10	32	28	36	第241図	
466	C-12	53	43	42		
467	D-13	61	52	27		
468	D-13.14	79	56	46	第241図	SE11と重複
469	D-10	48	44	23		
470	E-12	72	38	46	第241図	
471	E-12	52	41	33		
472	E-12	38	29	23		
473	D-12	42	42	52		
474	E-12	72	58	25		
475	D-12	50	48	47		P488と重複
476	E-17	43	33	14		
477	E-17	—	—	—	SB8 P3に変更	
478	E-17	—	—	—	SB8 P4に変更	
479	E-16	—	—	—	SB7 P12に変更	
480	E-16	71	51	10		
481	E-16	80	68	95	第241図	微細図あり
482	D-4	46	42	12		
483	D-4	48	44	15		
484	C-14	(47)	(47)	29		SD33と重複
485	E-17	—	—	—	SB8 P6に変更	
486	E-15	(48)	(35)	18		SB6 P9と重複
487	E-16	—	—	—	SB7 P17に変更	
488	D-12	(58)	(48)	9		P475と重複

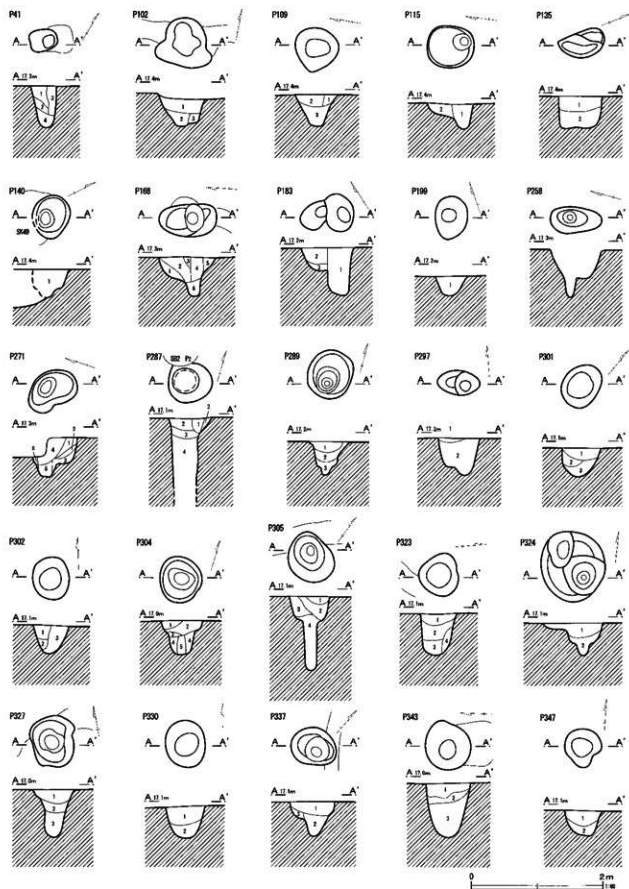
番号	グリッド	長径	短径	深さ	平面図	備考
489	E-12	65	52	47	第241図	
490	E-12	93	71	25		
491	C-9	40	34	26		
492	D-12	34	32	40		
493	B-9	54	54	36		
494	D-15	93	54	23		
495	E-14.15	70	68	146	第241図	
496	D-15	34	27	31		
497	D-15	34	28	43		
498	E-15	56	40	40		SD78と重複
499	C-10.11	62	55	51	第241図	
500	C-10	62	46	32		
501	C-10	60	51	54	第241図	
502	C-9	41	29	33		
503	C-9	60	58	41	第241図	
504	D-9	48	40	94		
505	C-9	62	52	31		
506	C-10	—	—	—		SB13 P6に変更
507	C-10	33	33	12		
508	D-9	49	45	47		
509	E.11.12	—	—	—		SB16 P1に変更
510	C-10	—	—	—		SB13 P7に変更
511	D-10	58	52	52		
512	E-10	41	31	22		
513	E-10	44	34	22		
514	E-10	—	—	—		SB15 P4に変更
515	F-10	47	32	30		
516	F-10	47	39	28		
517	F-10	—	—	—		SB15 P9に変更
518	F-11	44	42	28		
519	F-11	66	52	56	第241図	
520	G-11	—	—	—		SJ45.46 P6に変更
521	F-11	—	—	—		SJ47 P9に変更
522	F-11	—	—	—		SJ45.46 P9に変更
523	F-11	61	56	34		
524	F-11	35	34	31		
525	F-11	—	—	—		SJ36 P4に変更
526	F-11	42	40	33		
527	F-11	46	43	29		
528	C-11	36	33	33		
529	E-10.11	—	—	—		SB15 P1に変更
530	F-11	80	48	68	第241図	
531	B-10	69	44	39		
532	F-12	44	42	13		
533	F-12	46	32	48		
534	F-12	58	38	46		P534と重複
535	F-12	39	38	11		
536	F-12	46	30	20		
537	F-12	29	23	14		
538	F-11	57	50	18		
539	F-11	64	49	33		
540	F-11	34	30	13		
541	F-11	30	24	19		
542	F-11	44	37	31		
543	—	—	—	—		
544	F-11	40	38	47		
545	F-11	44	40	33		
546	F-11	32	30	16		
547	F-9	38	33	—		
548	F-11	44	28	20		
549	F.G-11	130	130	11		
550	—	—	—	—		
551	C-8	44	36	41		
552	C-8	51	44	38		
553	B-8	62	46	9		
554	B-8	42	34	26		
555	B-8	42	40	11		
556	C-8	50	43	17		
557	C-8	98	36	17		
558	B-7	60	58	54	第241図	
559	B-7	68	34	15		
560	B-7	47	41	10		
561	B-7	28	24	31		
562	B-7	44	36	25		
563	B-7	37	32	46		
564	B-7	70	68	24		
565	C-7	52	44	19		
566	C-7	67	60	20		

番号	グリッド	長径	短径	深さ	平面図	備考
567	C-7	46	44	24		
568	F-11	47	44	15		
569	C-10	68	51	97	第242図	
570	F-11	42	37	50		
571	F-10	38	36	33		
572	F-10	35	27	24		
573	F-10	—	—	—		SB34 P2に変更
574	F-10	101	84	73	第242図	
575	F-10	82	70	62	第242図	
576	F-11	44	34	25		P577と重複
577	F-11.12	38	34	22		P576と重複
578	C-10	67	62	41	第242図	
579	C-10	74	43	39		
580	C-10	—	—	—		SB13 P3に変更
581	B-10	86	62	26		
582	C-10	—	—	—		SB11 P1に変更
583	C-10	55	44	43		
584	C-10	—	—	—		SB11 P9に変更
585	C-10	—	—	—		SB11 P6に変更
586	C-9	81	68	62	第242図	
587	C-10	(39)	(39)	32		SE40と重複
588	F-11	30	28	27		
589	C-10	84	63	38		
590	C-10	64	50	88	第242図	
591	C-10	72	55	34		SD82と重複
592	C-10	—	—	—		SB13 P2に変更
593	E-10	59	50	22		
594	C-10	42	40	31		
595	F-8	—	—	—		SB12 P11に変更
596	F-8	—	—	—		SB12 P10に変更
597	F-8	74	42	11		
598	F-8	70	68	22		
599	C-9	—	—	—		SB11 P5に変更
600	C-10	—	—	—		SE81に変更
601	C-9	44	42	29		
602	C-9	54	47	36		
603	D-7	59	51	28		
604	C-10	—	—	—		SB11 P4に変更
605	C-10	44	37	27		
606	C-7	55	52	12		
607	C-7	45	38	20		
608	C-7	60	52	21		
609	C-10	56	35	30		SB11 P8と重複
610	C-10	46	32	10		P609, SB11 P8と重複
611	C-10	—	—	—		SB11 P8に変更
612	C-9	32	30	34		
613	F-11	—	—	—		SJ36 P2に変更
614	E-7	—	—	—		SJ37 P8に変更
615	C-10	32	32	47	第242図	
616	G-14	60	57	54		
617	G-14	48	42	69		
618	F-14	50	44	62		
619	F-12	45	45	13		
620	—	—	—	—		欠番
621	E-7	—	—	—		SJ37 P2に変更
622	E-7	—	—	—		SB9 P12に変更
623	E-7	—	—	—		SJ37 P3に変更
624	E-7	—	—	—		SJ37 P4に変更
625	E-7	—	—	—		SB9 P13に変更
626	E-7	—	—	—		SB9 P14に変更
627	E-7	—	—	—		SJ37 P12に変更
628	E-7	—	—	—		SJ37 P13に変更
629	E-7	—	—	—		SJ37 P15に変更
630	E-7	—	—	—		SJ37 P16に変更
631	E-7	—	—	—		SJ37 P11に変更
632	—	—	—	—		欠番
633	—	—	—	—		欠番
634	D-7	36	36	20		
635	D-7	48	42	22		
636	D-7	54	42	14		
637	E-7	70	38	19		
638	E-7	104	55	32		
639	F-14	38	34	48		
640	F-14	33	29	30		
641	G-14	42	38	26		
642	G-14	70	58	85	第242図	
643	G-14	71	52	41	第242図	P676と重複
644	G-14	68	48	69	第242図	

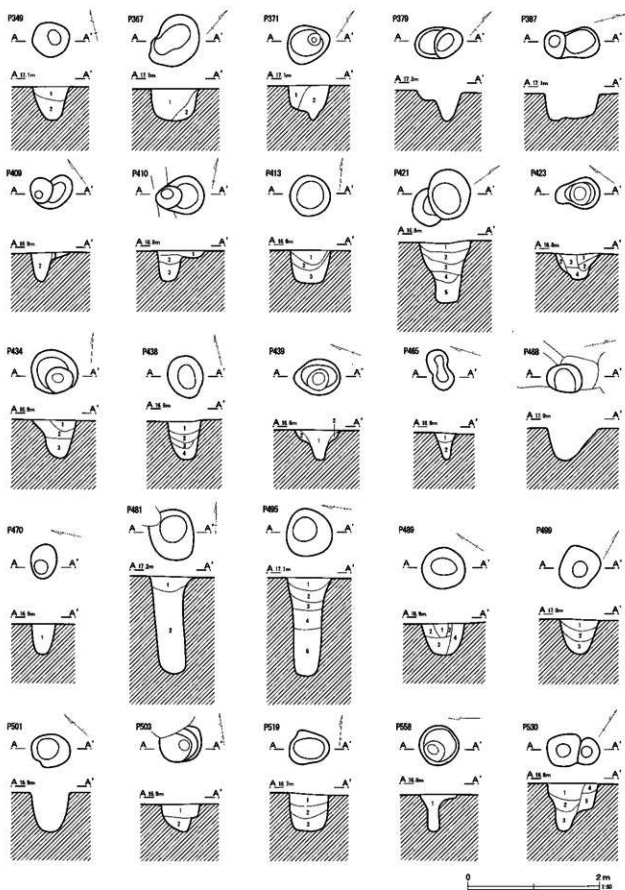
番号	グリッド	長径	短径	深さ	平面図	備考
645	G-14	42	20	14		SD111と重複
646	G-14	38	25	12		SD111と重複
647	G-14	58	36	32		
648	F-8	—	—	—		SB12 P12に変更
649	F-9	—	—	—		SB12 P13に変更
650	F-8	—	—	—		SB12 P5に変更
651	E-8	46	44	39		
652	F-12	42	38	31		
653	G-12	66	65	57	第242図	
654	G-12	42	35	18		
655	G-12	42	41	55		
656	G-12	45	38	39		
657	G-12	38	32	28		
658	—	—	—	—		欠番
659	G-13	52	50	6		
660	—	—	—	—		欠番
661	—	—	—	—		欠番
662	—	—	—	—		欠番
663	—	—	—	—		欠番
664	F-11	—	—	—		SJ47 P1に変更
665	F-11	—	—	—		SJ45 46 P4に変更
666	F-11	—	—	—		SJ44 P4に変更
667	G-11	—	—	—		SJ45 46 P7に変更
668	—	—	—	—		欠番
669	F-11	—	—	—		SJ44 P6に変更
670	F-11	40	39	95		
671	F-11	—	—	—		SJ44 P3に変更
672	F-11	—	—	—		SJ45 46 P1に変更
673	F-11	—	—	—		SJ45 46 P2に変更
674	—	—	—	—		欠番
675	—	—	—	—		欠番
676	G-14	45	41	47		
677	F-8	51	38	62		
678	F-9	69	59	146	第242図	
679	E-9	42	40	68		
680	D-8	57	48	37		
681	F-11	—	—	—		SJ44 P7に変更
682	D-8	98	50	34		
683	E-7	—	—	—		SJ37 P1に変更
684	E-7.8	54	46	5		
685	F-7.8	—	—	—		SB12 P7に変更
686	—	—	—	—		欠番
687	F-11	23	22	23		
688	G-12	80	54	58	第242図	
689	G-12	48	44	21		
690	—	—	—	—		欠番
691	F-10	—	—	—		SB15 P6に変更
692	D-8	40	36	27		
693	E-8	46	42	50		
694	F-10	—	—	—		
695	G-14	38	38	29		SB15 P7に変更
696	G-14	34	30	34		
697	F-14	38	29	47		
698	F-10	(31)	(28)	30		SJ42周溝と重複
699	F-15	64	58	80	第242図	
700	F-15	66	64	75	第242図	
701	F-15	102	92	63	第242図	
702	F-15	—	—	—		SB18 P9に変更
703	F-15	54	40	47		
704	F-15	54	46	41		
705	F-15	—	—	—		SB18 P8に変更
706	F-15	—	—	—		SB6 P23に変更
707	F-15	—	—	—		SB6 P17に変更
708	F-15	54	42	40		P709と重複
709	F-15	73	62	19		
710	F-16	—	—	—		SB18 P1に変更
711	F-16	42	32	24		
712	F-10	—	—	—		SB15 P8に変更
713	G-10	46	40	39		
714	—	—	—	—		欠番
715	E-9	73	72	52	第242図	
716	G-15	57	52	111		
717	G-15	72	72	132	第242図	
718	F-16	34	28	19		
719	G-17	63	52	66	第242図	
720	E-10	—	—	—		SB15 P3に変更
721	E-10	44	42	24		
722	E-10	49	38	34		

番号	クリッド	長径	短径	深さ	平面図	備考
723	E-10	86	46	28		
724	E-10	44	38	40		
725	E-11	73	66	18		SD4と重複
726	E-11	—	—	—		SB16 P10に変更
727	E-F-11	95	67	53	第242図	
728	E-12	48	42	38		
729	F-12	43	41	23		
730	F-11	62	32	28		
731	F-11	38	34	43		
732	G-11	76	38	40	第242図	調査区外に接する
733	F-10-G-11	62	22	44	第242図	調査区外に接する
734	F-11	46	39	49		
735	F-16	32	30	33		
736	F-16	51	43	21		
737	F-16	—	—	—		SB6 P21に変更
738	F-16	—	—	—		SB6 P22に変更
739	G-16	66	53	52	第242図	
740	G-16	58	50	59		
741	G-16	60	57	41	第242図	
742	G-16	78	71	5		
743	G-16	41	28	34		
744	G-17	41	35	24		
745	G-17	38	27	31		
746	G-17	31	30	29		
747	G-17	64	42	55	第242図	
748	G-17	85	64	127	第243図	
749	G-17	80	78	58	第243図	
750	G-17	60	36	26		
751	G-14	49	46	47		
752	G-15	66	58	118	第243図	
753	G-15	54	48	47		
754	G-16	50	48	53		
755	G-16	53	53	71		
756	G-16	52	42	57		
757	G-16	72	53	43	第243図	
758	G-16	36	36	38		
759	G-16	72	38	11		
760	G-16	74	56	43	第243図	
761	F-16	—	—	—		SB6 P14に変更
762	F-16	64	62	20		
763	F-16	41	30	22		
764	F-16.17	44	41	36		
765	F-16.17	44	40	16		
766	F-16	28	26	10		
767	F-16	—	—	—		SB6 P20に変更
768	G-16	70	52	25		
769	F-17	—	—	—		SB6 P13に変更
770	F-17	45	42	27		
771	F-17	74	41	10		
772	F-17	55	49	31		
773	F-17	60	58	4		
774	F-17	78	30	7		
775	F-17	53	53	24		
776	F-17	44	40	20		
777	F-15	94	52	50	第243図	
778	F-15	—	—	—		SB18 P4に変更
779	F-15	50	48	56		
780	F-15	—	—	—		SB6 P18に変更
781	F-15	60	54	41	第243図	
782	F-15	—	—	—		SB18 P5に変更
783	F-15	—	—	—		SB18 P6に変更
784	F-15	(58)	(54)	81		SB18 P6と重複
785	D-12	—	—	—		SE22に変更
786	D-12	—	—	—		SB14 P8に変更
787	D-12	—	—	—		SB14 P11に変更
788	G-17	62	58	12		
789	F-16	49	45	28		
790	F-16	—	—	—		SB6 P15に変更
791	D-11	—	—	—		SB17 P2に変更
792	F-17	42	33	33		
793	F-17	—	—	—		SB6 P19に変更
794	F-17	46	38	13		
795	F-8	62	59	61	第243図	
796	F-9	54	45	63		
797	F-9	64	60	84	第243図	
798	E-9	56	52	54		
799	E-9	48	43	35		
800	F-8	58	42	64		

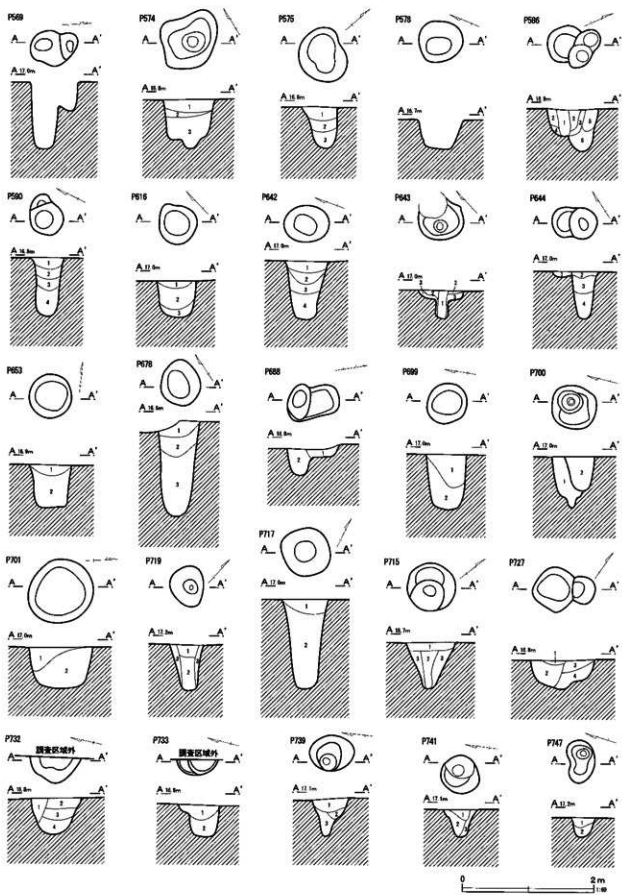
番号	クリッド	長径	短径	深さ	平面図	備考
801	E-8	53	40	52		
802	F-8	62	46	20		
803	G-17	30	27	26		
804	F-16	30	30	26		
805	F-16	58	42	36		
806	G-15	54	38	9		SB18 P7と重複
807	F-10	—	—	—		SJ42 P2に変更
808	F-10	38	34	45		
809	F-11	52	40	15		
810	D-11	—	—	—		SB14 P9に変更
811	E-11	—	—	—		SB16 P2に変更
812	E-11	39	34	37		
813	E-11	—	—	—		SB16 P5に変更
814	E-11	—	—	—		SB16 P7に変更
815	E-7	72	65	84	第243図	
816	E-F-10	—	—	—		SB15 P10に変更
817	E-11	43	39	32		
818	F-11	—	—	—		SJ44 P1に変更
819	G-15	51	43	79		
820	D-11	—	—	—		SJ26 P1に変更
821	D-11	—	—	—		SB17 P5に変更
822	F-10	65	63	107	第243図	
823	F-16	56	37	14		
824	F-16	70	42	32		
825	F-16	50	48	39		
826	F-16	50	48	62		
827	—	—	—	—		欠番
828	F-16	30	15	17		
829	F-16	31	26	28		
830	F-16	44	35	33		
831	F-16	52	42	18		
832	—	—	—	—		欠番
833	G-14	74	72	52	第243図	
834	G-14	42	30	43		
835	G-14	42	40	38		
836	G-13	90	70	62	第243図	
837	G-16	42	34	63		
838	F-12	35	30	22		
839	F-12	42	42	25		
840	D-12	—	—	—		SB14 P2に変更
841	D-11	—	—	—		SB14 P3に変更
842	D-11	64	52	11		
843	D-12	62	40	6		SD4と重複
844	D-12	60	45	43	第243図	
845	D-12	62	38	18		
846	G-12	46	43	57		
847	G-12	72	59	46	第243図	
848	G-12	42	38	45		
849	G-13	72	68	46	第243図	
850	G-13	76	68	19		
851	—	—	—	—		欠番
852	F-17	44	43	49		SK153と重複
853	G-18	44	36	99		
854	G-15	48	46	45		SB18 P17と重複
855	G-13	77	68	106	第243図	
856	G-17	47	43	64		
857	G-17	—	—	—		SB21 P5に変更
858	G-17	51	37	61		
859	G-17	35	28	23		
860	G-18	46	42	24		SB21 P3と重複
861	G-18	—	—	—		SB21 P7に変更
862	G-18	—	—	—		SB20 P3に変更
863	G-18	—	—	—		SB21 P2に変更
864	G-18	42	40	17		
865	F-11	—	—	—		SJ45-46 P3に変更
866	F-11	—	—	—		SJ47 P2に変更
867	G-17	56	47	49		
868	G-13	28	25	21		
869	F-13	44	35	26		
870	F-13	74	59	49	第243図	
871	F-13	72	46	39		
872	F-13	—	—	—		SJ51 P5に変更
873	F-13	70	65	56	第243図	
874	G-13	72	37	46	第243図	
875	G-13	46	38	43		
876	G-18	75	51	54	第243図	SB21 P1と重複
877	G-17	34	30	16		



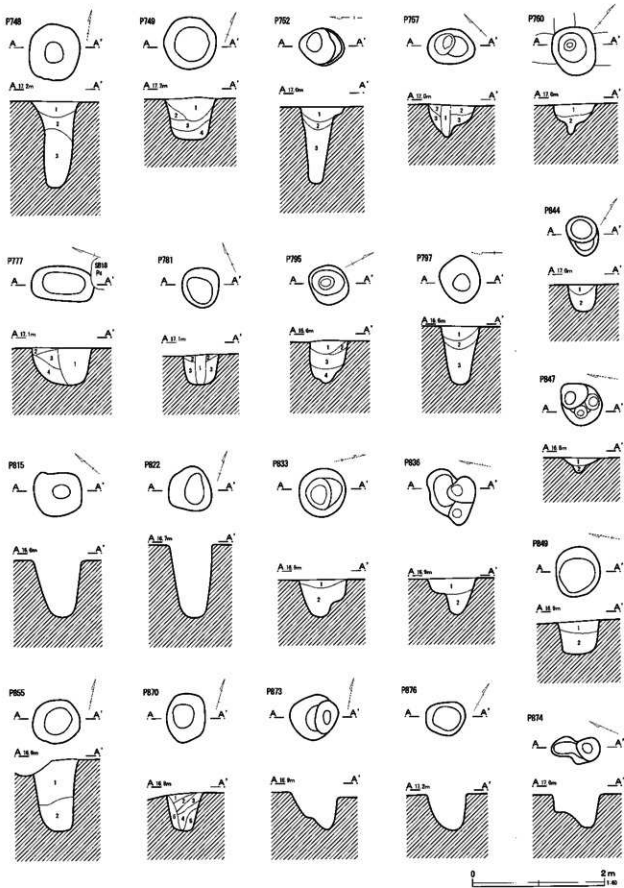
第240図 ビット (1)



第241図 ビット (2)



第242図 ピット (3)



第243図 ビット (4)

- P41
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・焼土粒子含む。炭化物粒子微量。
 - 2 暗褐色土 黄褐色土ブロックを含む。
 - 3 黒褐色土 焼土粒・屑じる。
 - 4 暗褐色土 粘性あり。黄褐色土粒子含む。

- P102
- 1 暗褐色土 炭化物粒子・焼土粒子微量。黄褐色土粒子・ブロック含む。
 - 2 暗褐色土 やや粘性あり。黄褐色土粒子少量。粘性あり。黄褐色土粒子・ブロック含む。

- P109
- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック塊状に集じる。
 - 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック状状を含む。黄褐色土粒子・焼土粒子・遺物含む。
 - 3 黒褐色土 粘性あり。炭化物粒子微量。黄褐色土粒子含む。

- P115
- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック塊状を含む。黄褐色土粒子・焼土粒子・遺物含む。
 - 2 暗褐色土 焼土粒子・黄褐色土粒子・炭化物を含む。

- P135
- 1 暗褐色土 炭化物粒子・焼土粒子・黄褐色土粒子含む。
 - 2 暗褐色土 やや粘性あり。焼土粒子・黄褐色土粒子微量。

- P140
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・焼土粒子・炭化物粒子・遺物含む。

- P156
- 1 黒褐色土 黄褐色土含む。
 - 2 黒褐色土 黄褐色土少量。
 - 3 黒褐色土 褐色土と黒色の混じり。
 - 4 暗褐色土 黄褐色土ブロック少量。
 - 5 黒褐色土 黄褐色土・焼土粒子少量。
 - 6 黒褐色土 やや粘性あり。

- P183
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・炭化物粒子・焼土粒子含む。
 - 2 暗褐色土 黄褐色土粒子・炭化物粒子・焼土粒子含む。
 - 3 黄褐色土 粘土ブロック含む。

- P199
- 1 暗褐色土 焼土粒子・黄褐色土粒子・炭化物粒子含む。しまりやや強い。

- P271
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・ブロック多量。焼土粒子・炭化物粒子微量。
 - 2 暗褐色土 黄褐色土粒子少量。焼土粒子微量。やや粘性あり。
 - 3 黄褐色土 黄褐色土粒子・ブロック多量。
 - 4 暗褐色土 黄褐色土粒子少量。焼土粒子・炭化物粒子微量。
 - 5 暗褐色土 黄褐色土粒子少量。粘性強い。
 - 6 黄褐色土 黄褐色土と5層の混層。

- P287
- 1 暗褐色土 粘性強い。ややしまりあり。
 - 2 暗褐色土 褐色土粒子少量。
 - 3 暗褐色土 褐色土粒子・黄褐色土粒子少量。しまり粘性あり。
 - 4 暗褐色土 黄褐色土粒子を3層より多く含む。

- P289
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子やや多い。
 - 2 暗褐色土 1層より厚み強い。黄褐色土粒子を少量。
 - 3 黒褐色土 黄褐色土ブロック含む。

- P297
- 1 黒褐色土 黄褐色土多量。炭化物粒子・焼土粒子含む。
 - 2 黒褐色土 黄褐色土・炭化物粒子・焼土粒子含む。

- P301
- 1 黒褐色土 黄褐色土多量。
 - 2 黒褐色土 黄褐色土少量。
 - 3 黒褐色土 黄褐色土ブロック少量。

- P302
- 1 黒褐色土 黄褐色土少量。
 - 2 黒褐色土 黄褐色土ブロック含む。
 - 3 黒褐色土 黄褐色土ブロック多量。

- P304
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子少量。
 - 2 暗褐色土 黄褐色土粒子多量。焼土粒子・炭化物粒子微量。
 - 3 暗褐色土 やや粘性あり。黄褐色土粒子少量。
 - 4 黄褐色土 黄褐色土粒少量。
 - 5 暗褐色土 粘性強い。黄褐色土粒子微量。

- P305
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・焼土粒子・炭化物粒子含む。
 - 2 暗褐色土 黄褐色土粒子・ブロック多量。焼土粒子微量。
 - 3 暗褐色土 黄褐色土粒子少量。
 - 4 暗褐色土 粘性あり。黄褐色土粒子少量。

- P323
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・焼土粒子少量。
 - 2 暗褐色土 粘性あり。黄褐色土粒子・ブロック少量。焼土粒子微量。
 - 3 暗褐色土 粘性あり。黄褐色土粒子・焼土粒子微量。
 - 4 暗褐色土 黄褐色土粒子・ブロック状状を含む。やや粘性あり。

- P324
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・ブロック少量。焼土粒子・炭化物粒子微量。
 - 2 暗褐色土 黄褐色土粒子・ブロック多量。

- P327
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・焼土粒子・炭化物粒子少量。
 - 2 暗褐色土 黄褐色土粒子・焼土粒子少量。
 - 3 暗褐色土 粘性あり。褐色土粘質土。青灰色粘質土を含む。

- P330
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子少量。焼土粒子微量。
 - 2 暗褐色土 黄褐色土粒子少量。やや粘性あり。

- P337
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・ブロック少量。炭化物粒子少量。
 - 2 暗褐色土 粘性あり。黄褐色土粒子・焼土粒子少量。
 - 3 黄褐色土 黄褐色土多量。やや粘性あり。

- P343
- 1 暗褐色土 炭化物粒子・焼土粒子含む。
 - 2 暗褐色土 粘性あり。黄褐色土ブロック少量。
 - 3 暗褐色土 粘性あり。青灰色土少量。

- P347
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・ブロック塊状にのみ。焼土粒子・炭化物粒子微量。
 - 2 黒褐色土 暗褐色土粘質土含む。黄褐色土粒子少量。

- P349
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・ブロック塊状にのみ。焼土粒子・炭化物粒子微量。
 - 2 黒褐色土 暗褐色土粘質土含む。黄褐色土粒子少量。

- P367
- 1 暗褐色土 焼土ブロック点状。
 - 2 暗褐色土 1層よりやや粘性あり。

- P371
- 1 暗褐色土 炭化物粒子・黄褐色土粒子微量。焼土点状。
 - 2 暗褐色土 黄褐色土粒子多量。

- P409
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子含む。焼土粒子微量。
 - 2 暗褐色土 粘性あり。黄褐色土粒子含む。

- P410
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子含む。焼土粒子微量。
 - 2 黄褐色土 黄褐色土粒子・ブロック多量。
 - 3 暗褐色土 黄褐色土粒子少量。

- P413
- 1 暗褐色土 黄褐色土粒子塊状を含む。
 - 2 暗褐色土 粘質土。黄褐色土粒子少量。
 - 3 暗褐色土 粘質土。青灰色粘土結晶塊状を含む。

- P421
- 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック含む。焼土粒子・炭化物粒子微量。
 - 2 暗褐色土 1層よりやや粘性強い。黄褐色土粒子少量。やや粘性あり。
 - 3 暗褐色土 粘性強い。裾部縮減する。
 - 4 黄褐色土 粘性強い。
 - 5 暗褐色土 粘性強い。

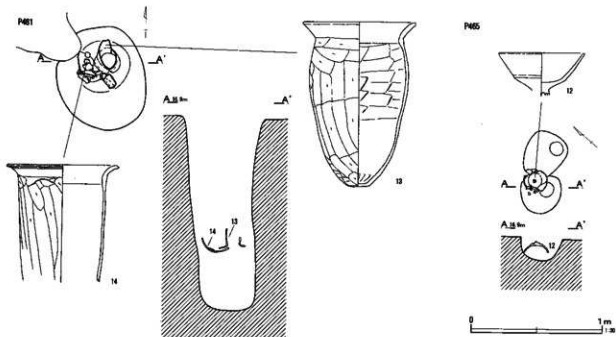
- P453
1 黄褐色土 灰色粘質土と黄褐色土粒子の混合物。
2 黄褐色土 黄褐色土粒子・ブロック多量。
3 暗褐色土 黄褐色土粒子・塊状土粒子少量。
4 暗灰色土 粘性強い。黄褐色土粒子少量。
- P454
1 黄褐色土 黄褐色土粒子・ブロック多量。
2 暗褐色土 黄褐色土・ブロック塊状に含む。塊状土粒子あり。
3 黒褐色土 黄褐色土・ブロック塊状に少量。粘性強い。
- P455
1 暗灰色土 粘質土。青灰色粘質土・ブロック塊状に含む。塊状土粒子・炭化物粒子少量。
2 暗灰色土 粘質土。1層より厚く粘性強い。
3 暗灰色土 粘質土。青灰色粘質土(4層)との混合物。
4 青灰色土 粘性強い。
- P459
1 黒褐色土 塊状土粒子・炭化物粒子含む。黄褐色土粒子少量。
2 黄褐色土 黒褐色土少量。
- P465
1 黒褐色土 黄褐色土粒子・炭化物粒子含む。
2 黒褐色土 黄褐色土・ブロック多量。
- P470
1 暗褐色土 黄褐色土粒子少量。
- P481
1 暗褐色土 黄褐色土粒子・炭化物粒子含む。
2 暗褐色土 黄褐色土粒子・炭化物多量。
- P489
1 暗褐色土 黄褐色土粒子含む。粘性あり。
2 黒褐色土 1層と黄褐色土・ブロックの混合物。
3 黄褐色土 暗灰色粘質土含む。
4 暗褐色土 やや粘性あり。黄褐色土粒子・塊状土粒子少量。
- P495
1 暗褐色土 黄褐色土粒子・塊状土・黒色土粒子少量。
2 暗褐色土 1層より厚い。粘性あり。黄褐色土粒子少量。
3 暗褐色土 粘性強い。
4 暗灰色土 2層より厚い。粘性強い。
5 暗褐色土 粘質土。黄褐色土粒子・暗灰色粘質土粒子含む。植物繊維少量。
- P499
1 暗褐色土 黄褐色土・ブロック・炭化物粒子含む。
2 黒褐色土 粘性あり。黄褐色土・ブロック少量。
3 黒褐色土 粘質土。
- P503
1 暗褐色土 黒褐色土と黄褐色土・ブロックの混合物。
2 黒褐色土 粘質土。黄褐色土・ブロック多量。
- P519
1 暗灰色土 褐色粒子・青灰色粘質土粒子含む。粘性強い。
2 暗灰色土 褐色粒子。青灰色粘質土粒子含む。粘性強い。
3 暗灰色土 青灰色粘質土粒子含む。粘性強い。
- P530
1 暗灰色土 青灰色土粒子・黄褐色土粒子少量。
2 黒褐色土 炭化物少量。
3 暗褐色土 粘性あり。
4 暗褐色土 青灰色土・ブロック少量。
5 暗灰色土 黄褐色土粒子・青灰色土粒子少量。
- P558
1 暗褐色土 粘性あり。
- P574
1 暗灰色土 褐色土粒子・黄褐色粘質土粒子・青灰色粘質土粒子少量。炭化物が下部に入る。粘性あり。
2 暗灰色土 青灰色粘質土粒子・褐色土粒子含む。粘性あり。
3 暗灰色土 青灰色粘質土含む。粘性あり。
- P578
1 暗灰色土 青灰色土粒子少量。粘性あり。
2 暗褐色土 褐色土粒子少量。粘性強い。植物繊維入る。
3 黒褐色土 青灰色粘質土粒子少量。粘性強い。植物繊維入る。

- P586
1 暗褐色土 黄褐色土粒子少量。
2 暗褐色土 黄褐色土粒子少量。褐色土粒子含む。塊状土粒子少量。粘性あり。
3 黄褐色土 黄褐色土粒子・褐色土粒子少量。
4 黄褐色土 黄褐色土・ブロックと暗灰色粘質土の混合物。粘性ややあり。
5 暗灰色土 粘性強い。青灰色粘質土粒子少量。
6 暗褐色土 粘性強い。褐色土粒子少量。
- P590
1 暗褐色土 黄褐色土粒子・塊状土粒子少量。
2 暗褐色土 1層より厚い。粘性強い。炭化物少量。
3 暗灰色土 粘性強い。褐色土粒子含む。
4 暗灰色土 粘性強い。褐色土粒子含む。3層より厚い。
- P616
1 黒褐色土 黄褐色土粒子含む。
2 黒褐色土 黄褐色土・ブロック含む。
3 黒褐色土 粘質土。
- P642
1 暗褐色土 黄褐色土粒子・ブロック・塊状土粒子・炭化物粒子含む。
2 黄褐色土 黄褐色土粒子・ブロック含む。
3 黒褐色土 粘性ややあり。黄褐色土粒子を含む。
4 黒褐色土 粘性強い。
- P643
1 黒褐色土 塊状土粒子・炭化物粒子含む。
2 黄褐色土 黄褐色土・ブロック含む。
3 黒褐色土 黄褐色土・ブロック・粒子含む。
- P644
1 暗褐色土 黄褐色土粒子・ブロックをやや多い。
2 暗褐色土 黄褐色土粒子・塊状土・炭化物粒子含む。しまりややあり。
3 暗褐色土 炭化物粒子多量。しまりややあり。
4 暗褐色土 しまりややあり。炭化物粒子含む。3層より厚い。
- P663
1 暗褐色土 青灰色土・ブロックを混じる。
2 暗褐色土 やや灰色味を帯び黒味。粘性強い。
- P678
1 黒褐色土 塊状土を含む。
2 暗褐色土 1層より厚い。
3 暗褐色土 粘質土。
- P688
1 暗褐色土 黄褐色土粒子少量。
2 暗褐色土 黄褐色土粒子少量。炭褐色土含む。粘質ややあり。
- P689
1 黒褐色土 粘質土。青灰色粘質土・ブロック含む。
2 黒褐色土 粘質土。黄褐色土・ブロック多量。
- P700
1 暗褐色土 粘質土。黄褐色土・ブロック含む。
2 暗褐色土 粘質土。黄褐色土・ブロック多量。
- P701
1 暗褐色土 青灰色土・ブロック含む。しまりわるい。
2 暗褐色土 黄褐色土・ブロック含む。しまりわるい。
- P715
1 暗褐色土 塊状土・黄褐色土・ブロック含む。
2 暗褐色土 やや灰色を帯び。粘性強い。
3 暗褐色土 青灰色土・ブロック塊状に混入。
- P717
1 暗褐色土 黄褐色土・ブロック・塊状土・炭化物粒子含む。
2 暗褐色土 粘質土。
- P719
1 暗褐色土 黄褐色土粒子少量。
2 暗褐色土 しまりあり。混入物少なく硬味。
3 暗褐色土 黄褐色土・ブロック少量。
- P727
1 暗褐色土 黄褐色土・ブロック多量。褐色土粒子少量。
2 暗褐色土 塊状土粒子・炭化物粒子・黄褐色土粒子少量。褐色土粒子多量。
3 暗褐色土 黄褐色土粒子・炭化物粒子多量。褐色土粒子含む。
4 暗褐色土 黄褐色土粒子・炭化物粒子少量。粘性あり。

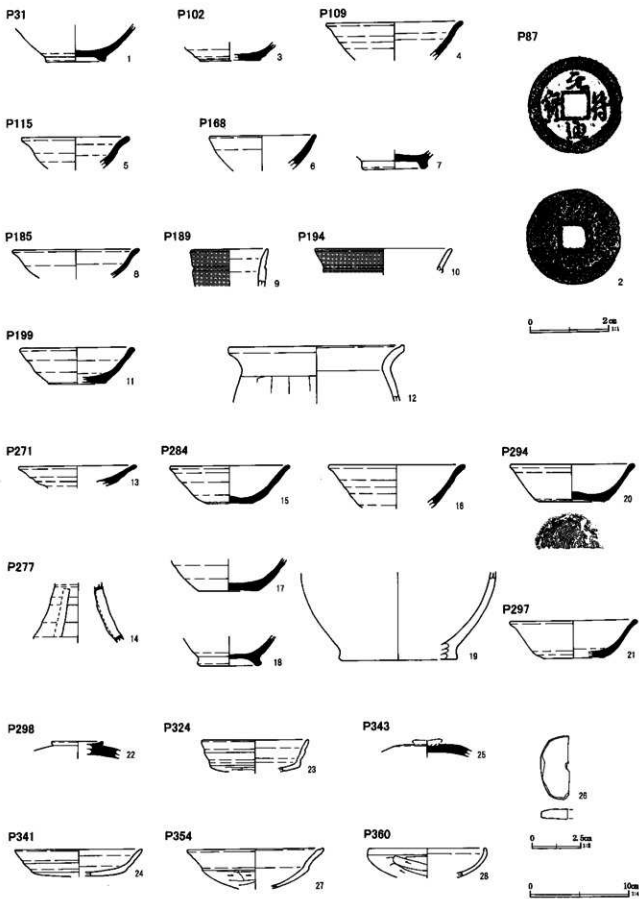
- P732
 1 暗褐色土 炭化物粒子・黄褐色土粒子少量、褐色土粒子少量。
 2 暗褐色土 炭化物粒子・黄褐色土粒子少量、黄褐色土ブロック少量。
 3 暗灰色土 炭化物粒子少量、褐色土粒子少量。
 4 暗灰色土 黄褐色土ブロック含む、粘性あり。
- P733
 1 暗褐色土 炭化物少量、褐色土粒子・黄褐色土ブロック少量。
 2 暗灰色土 黄褐色土ブロック含む、粘性あり。
- P739
 1 暗褐色土 炭化物粒子少量。
 2 暗褐色土 炭化物少量含む、粘性あり。
 3 暗褐色土 黄褐色土ブロック少量。
- P741
 1 暗褐色土 焼土粒子少量。
 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック含む、粘性あり。
 3 暗褐色土 黄褐色土ブロック少量。
- P747
 1 黄褐色土 黄褐色土粒子形状に含む。
 2 暗黄褐色土 黄褐色土ブロック少量。
- P748
 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・焼土粒子少量。
 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック少量、粘性あり。
 3 暗褐色土 砂粒・黄褐色土ブロック少量、粘性あり。
- P749
 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック・黄褐色土ブロック少量。
 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック(大)少量。
 3 黄褐色土 粘性あり、砂粒・有機質少量。
 4 黄褐色土 粘性あり、3層に比べ砂粒少なく粘土質、有機質含む。
- P752
 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック・焼土粒子・炭化物粒子含む。
 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック含む。
 3 黄褐色土 粘質土。
- P757
 1 暗褐色土 炭化物粒子・黄褐色土粒子含む。
 2 暗褐色土 炭化物粒子・黄褐色土粒子含む。
 3 黄褐色土 黄褐色土粒子・ブロック含む。
- P760
 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・炭化物粒子含む。
 2 暗褐色土 黄褐色土粒子・ブロック含む。
- P777
 1 暗褐色土 焼土粒子微量、黄褐色土粒子少量。
 2 暗褐色土 焼土粒子・黄褐色土粒子微量。
 3 暗褐色土 黄褐色土粒子(少量)少量含む。
 4 暗褐色土 黄褐色土粒子微量、粘性あり。

- P781
 1 暗褐色土 焼土粒子・炭化物粒子・黄褐色土粒子少量。
 2 暗褐色土 炭化物粒子・黄褐色土粒子少量。
 3 暗褐色土 2層より明るい、黄褐色土粒子少量。
- P795
 1 暗褐色土 焼土粒子・炭化物粒子含む、粘性強い。
 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック少量、粘性強い。
 3 黄褐色土 黄褐色土ブロック含む、1層より粘性強い、粘性強い。
 4 黄褐色土 黄褐色土粘質土含む、粘性強い。
- P797
 1 黄褐色土 黄褐色土ブロック少量、粘性強い。
 2 黄褐色土 1層よりブロック多い、粘性強い。
 3 黄褐色土 粘質土、暗灰色粘質土塊状に混入、褐色土粒子少量、粘性強い。
- P833
 1 黄褐色土 黄褐色土ブロックを主体とし、暗灰色粘質土塊状に少量含む。
 2 黄褐色土 炭化物粒子・黄褐色土粒子少量。
- P836
 1 暗褐色土 焼土粒子・炭化物粒子・黄褐色土粒子少量。
 2 黄褐色土 焼土粒子・黄褐色土粒子少量、粘性あり。
- P841
 1 暗褐色土 黄褐色土ブロック・黄褐色土ブロック塊状に混入、焼土粒子少量。
 2 暗褐色土 1層よりブロックが大きく混入量多い、粘性あり。
- P847
 1 暗褐色土 炭化物粒子少量、黄褐色土粒子形状に少量含む。
 2 黄褐色土 1層が塊状に少量混じる。
- P849
 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・炭化物粒子少量。
 2 黄褐色土 粘性強い、黄褐色土粒子少量。
- P855
 1 黄褐色土 焼土粒子少量。
 2 黄褐色土 粘性強い、黄褐色土粒子少量。
- P870
 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・焼土粒子少量。
 2 暗褐色土 黄褐色土粒子・ブロック含む。
 3 暗褐色土 黄褐色土粒子・ブロックが2層より多量。
 4 暗褐色土 黄褐色土粒子少量、粘性あり。
 5 黄褐色土 暗褐色土をブロック状に含む。

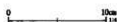
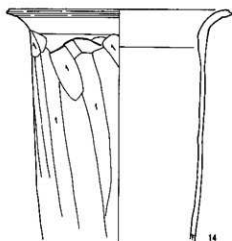
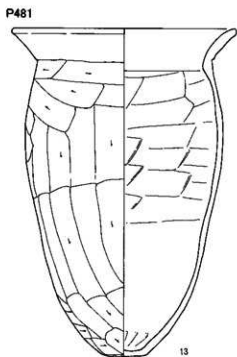
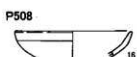
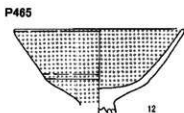
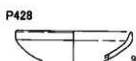
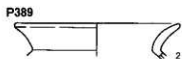
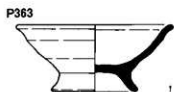
第246図 ビット (7)



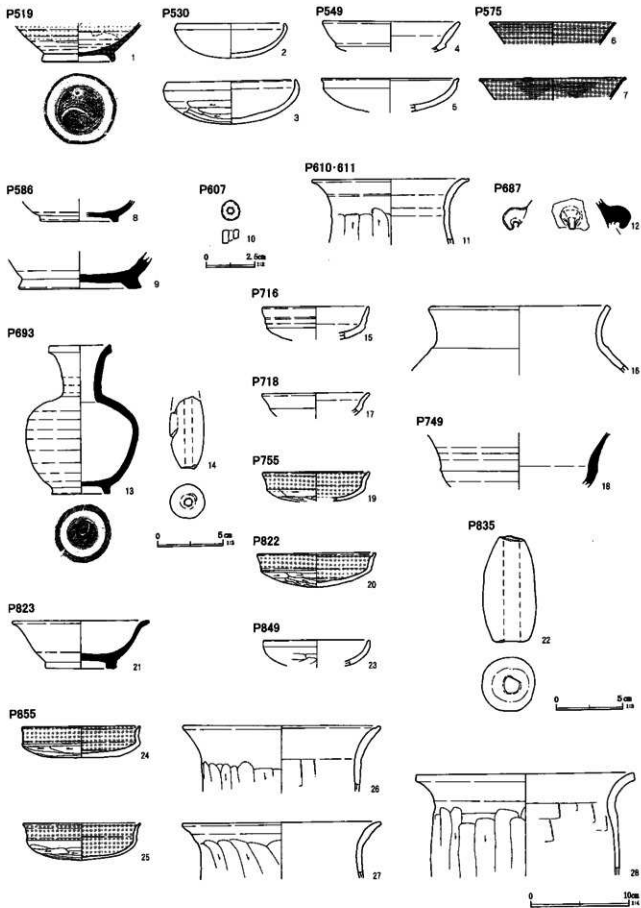
第247図 ビット遺物出土状況



第248図 ビット出土遺物 (1)



第249図 ビット出土遺物 (2)



第250図 ビット出土遺物 (3)

189、194、324、341、354、360、394、399、421、427、428、460、465、481、504、508、526、547、530、549、610・611、687、716、718、755、822、849、855の出土遺物が、時期の差異はあるが、7世紀前後の時期に該当するものである。P481では甕2点がまとまって出土しており(第247図)、ピットの深さや土器の状況から、井戸であったものと推定される。P547の耳環は鉄地金銅張で、金銅が一部剥離している。

中世の遺物で図示したものはP87の宋銭のみであるが、陶磁器片等は出土数が少ない。宋銭は「元符通寶」で初鑄年は1098年である。

その他の遺物は10世紀のものと、時期が確定できないものである。10世紀の土器については、高台付碗や底部糸切痕のある環が主体である。第250図1・6は灰釉陶器、7は緑釉陶器、13は須恵器長頸壺で、ほぼ完形で出土した。またP277のように透しのある須恵器高環脚部と底部糸切痕のある環、P343のようにつまみのある須恵器蓋と滑石製模造品など、時期に離隔のある遺物が共存したりすることもあり、ピットの時期を特定するのは困難である。ただし、「第1面」検出としたものについては、平安時代以降であると考えられる。

ピット出土遺物観察表1

図号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
248 1	P 31	須恵器	高台付壇		[3.4]	(6.0)	1/3	角	普通	灰白		
248 2	P 87	古銭	元符符宝								初鑄年1098年	100
248 3	P 102	須恵器	環		[1.6]	(6.2)	1/3	雲 角 赤粒	不良	にぶい黄橙		
248 4	P 109	須恵器	環	(14.0)	[3.8]			破片 雲 白粒	不良	灰白		
248 5	P 115	須恵器	環	(11.0)	[3.1]			1/4 角 白粒	普通	にぶい橙		
248 6	P 108	須恵器	環	(11.0)	[3.5]			破片 白粒	不良	にぶい黄橙		
248 7	P 108	須恵器	高台付壇		[1.4]	6.8	1/2	角 赤粒 白粒	不良	にぶい黄橙		
248 8	P 105	須恵器	環	(13.0)	[2.8]			1/4 雲 赤粒 白粒	不良	灰白		
248 9	P 109	土師器	塊	8.0	[3.8]			1/2 雲 赤粒 白粒	普通	灰褐	黒色処理	
248 10	P 104	土師器	環	(14.0)	[2.4]			破片 雲 角 赤粒 白粒	不良	にぶい橙	黒色処理	
248 11	P 109	須恵器	環	(11.8)	3.6	(5.6)	1/4	雲 白粒	普通	灰		
248 12	P 109	土師器	甕	(18.0)	[5.7]			口縁破片 雲 角 砂粒 白粒	普通	にぶい橙		
248 13	P 271	須恵器	環	(12.0)	[2.1]			1/5 白粒	良好	灰		
248 14	P 277	須恵器	高環脚部		[5.7]		脚部1/3	砂粒 白粒	普通	灰白		
248 15	P 284	須恵器	環	(12.2)	3.8	(4.8)	1/3	角 砂粒 白粒	不良	灰白		
248 16	P 284	須恵器	環	(14.0)	[4.3]			破片 白粒	良好	灰		
248 17	P 284	須恵器	環		[3.1]	(6.0)	1/3	雲 赤粒 白粒	不良	浅黄橙		
248 18	P 284	須恵器	高台付壇		[2.8]	6.4	2/3	雲 砂粒 白粒	普通	黒褐		
248 19	P 284	土師器	釜		[9.0]	(12.0)		破片 赤粒 白粒	不良	浅黄橙		
248 20	P 284	須恵器	環	(12.8)	3.8	(6.7)	1/3	赤粒 白粒	不良	浅黄橙		
248 21	P 287	須恵器	環	(13.2)	3.8	(6.0)	1/4	角 赤粒 白粒	不良	にぶい黄橙		
248 22	P 288	須恵器	蓋		[1.0]		1/5	白粒 針	良好	灰		
248 23	P 304	土師器	環	(11.0)	[3.2]			破片 雲 白粒	良好	明赤褐		
248 24	P 341	土師器	環	(13.0)	[2.7]			破片 赤粒	不良	浅黄橙		
248 25	P 350	須恵器	蓋		[0.7]			1/4 砂粒 白粒	良好	灰白		
248 26	P 354	石製器	有孔円板	幅[2.9]	長[3.0]	厚0.5		1/2 滑石		模造品		
248 27	P 354	土師器	環	(14.0)	[4.0]			破片 雲 赤粒 白粒	良好	黒品		
248 28	P 300	土師器	環	(12.0)	[3.0]			破片 雲 白粒	良好	橙		
249 1	P 352	須恵器	高台付壇	16.0	6.8	8.8	1/2	雲 白粒	不良	灰白		41
249 2	P 389	土師器	壺	(17.0)	[3.2]			口縁破片 角 砂粒 白粒	普通	灰褐		
249 3	P 394	土師器	環	(12.0)	[2.8]			破片 角 石英 赤粒 白粒	普通	にぶい黄橙	赤彩	
249 4	P 399	土師器	環	(10.6)	[2.4]			1/4 赤粒 白粒	普通	にぶい橙		
249 5	P 421	土師器	環	(12.0)	[3.8]			破片 角 赤粒 白粒	普通	黒褐	黒色処理	
249 6	P 421	土師器	甕	(17.0)	[5.0]			口縁破片 雲 赤粒 白粒	普通	黄橙		
249 7	P 427	土師器	環	(10.0)	[2.4]			1/5 雲 白粒	良好	橙		
249 8	P 427	土師器	環	(11.0)	[2.5]			破片 角 白粒	良好	橙		
249 9	P 428	土師器	環	(12.0)	[3.0]			破片 雲 石英 白粒	普通	浅黄橙		
249 10	P 465	土師器	環	13.6	3.2	7.7	2/3	角 石英 白粒	普通	にぶい橙		41
249 11	P 460	土師器	環	(11.0)	[2.7]			破片 雲 角 石英 白粒	普通	にぶい橙		

ビット出土遺物観察表 2

検出番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎上	焼成	色調	出土位置・層	図版
249 12	P 465	土師器	高坏	17.4	[8.5]		2/3	雲石英赤粒 白粒	普通	にぶい橙	微細図 赤彩	41
249 13	P 481	土師器	甕	23.0	33.2	4.6	2/3	雲角 砂粒 白粒	普通	にぶい橙	微細図	69
249 14	P 481	土師器	甕	13.0	[23.5]		2/3	雲角 赤粒 白粒	普通	橙		69
249 15	P 504	土師器	坏	(10.0)	[2.5]			破片 白粒	良好	淡橙		
249 16	P 538	土師器	坏	(12.0)	[2.6]			破片 角 白粒	不良	にぶい黄橙		
249 17	P 535	土師器	坏	(13.0)	[2.8]			破片 赤粒 白粒	普通	橙		
249 18	P 567	鉄製品	耳環	径2.0 断面厚0.4								95
250 1	P 519	灰釉陶器	埴		[3.9]	7.4	1/3	白粒 黒粒	良好	黄灰	ハケ塗り 東通江	87
250 2	P 530	土師器	坏	(11.0)	3.5		1/3	角 長石 白粒	不良	橙		41
250 3	P 530	土師器	坏	13.2	4.4		1/2	雲角 赤粒 白粒	不良	橙		41
250 4	P 549	土師器	坏	(14.0)	[3.0]			破片 雲 白粒	不良	にぶい橙		
250 5	P 549	土師器	坏	(14.0)	[3.4]		1/4	雲 白粒	不良	橙		
250 6	P 575	緑釉陶器	埴	(12.9)	[2.3]			破片 白粒	良好	灰、オリブ 藍	猿投	82
250 7	P 575	緑釉陶器	輪花碗		[2.2]			破片 白粒	良好	灰、オリブ 藍	猿投	82
250 8	P 586	須恵器	高台付埴		[2.0]	(8.0)	1/4	砂粒 白粒	良好	灰		
250 9	P 586	須恵器	壺?高台		[3.0]	(12.5)		破片 砂粒 白粒	良好	灰		
250 10	P 607	石製品	白玉	径0.9 厚0.7					完全	滑石		
250 11	P 610	土師器	甕	(16.0)	[6.6]			破片 雲 赤粒 白粒	普通	明褐色		
250 12	P 637	須恵器	提簋		[2.8]		把手のみ	白粒	良好	灰		
250 13	P 638	須恵器	長頸壺	6.2	15.2	5.8	ほぼ完全	白粒	良好	灰		
250 14	P 638	土製品	土鍾	幅[2.6]	長[5.5]	孔径1.7	2/3	石英 砂粒 白粒	不良	にぶい黄橙		41
250 15	P 716	土師器	坏	(11.0)	[3.4]			破片 角 赤粒 白粒	不良	橙		
250 16	P 716	土師器	甕	(18.6)	[6.5]			口縁1/4 雲角 赤粒 白粒	不良	にぶい橙		
250 17	P 718	土師器	坏	(11.0)	[2.3]			破片 砂粒 赤粒 白粒	普通	橙		
250 18	P 749	須恵器	碗		[5.3]			破片 白粒 針	良好	灰		
250 19	P 755	土師器	坏	(11.0)	[3.0]		1/4	雲 砂粒 赤粒	普通	橙	赤彩	
250 20	P 822	土師器	坏	(12.0)	3.5		1/5	砂粒 赤粒 白粒	良好	にぶい橙	赤彩	
250 21	P 823	須恵器	高台付埴	14.0	4.8	7.2	1/2	白粒	不良	灰		
250 22	P 835	土製品	土鍾	幅4.0	長[8.0]	孔径1.7	ほぼ完全	雲 砂粒	普通	灰白、黒	瓦質	
250 23	P 849	土師器	坏	(11.0)	[2.6]			破片 雲 白粒	普通	にぶい黄橙		
250 24	P 855	土師器	坏	(12.0)	[3.2]		1/3	雲角 赤粒 白粒	普通	橙	赤彩	41
250 25	P 855	土師器	坏	12.0	3.8		1/2	雲 長石 砂粒 赤粒	普通	橙	赤彩	41
250 26	P 855	土師器	甕	(20.2)	[6.5]			口縁1/4 雲 長石 白粒	普通	にぶい黄橙		
250 27	P 855	土師器	甕	(20.3)	[5.8]			口縁破片 砂粒 赤粒 白粒	普通	灰褐		
250 28	P 855	土師器	甕	(22.4)	[10.5]			口縁1/4 雲角 砂粒 赤粒	普通	にぶい橙		

8. 火葬墓・土壌墓

平安時代と想定される第1遺構面よりも上層には、中世に相当する文化層があるが、この層から火葬墓2基と土壌墓1基を検出した。分布状況は散発的で、集合墓地のようなようすはみられなかった。ただし、中世の文化層は上部が削平されているため、すでに失われた遺構が存在した可能性もある。

第1号火葬墓（第251図）

E-14グリッドに位置する。

長方形の本体部に突出部が付設されており、凸形の平面をなしている。長方形本体の規模は南北90cm、東西50cmで、遺構確認面から約35cmが床面である。長軸方向はN-0°。床面のほぼ中央部と北壁際にピットがあり、いずれも約10cm掘り込んでいる。突出部は長さ40cmでほぼ西方向に付設されている。本体部よりも浅く、遺構確認面からの深さは20cmである。

本体部の壁面は全体によく焼けており、相当強く火を受けたと推定される。一方突出部はそれほど焼けていないので、煙道のような役割をしていたのであろう。

覆土中からは多くの炭化材や焼土の他に、骨片も多く出土しており、これにより火葬墓であることが想定された。本体部に直接遺体を安置して火葬、そ

のまま墓として利用したものであろうか。ただし、大人1人を安置するには規模が小さいので、子供用かもしれない。

出土遺物は、流れ込みの土器小片以外には、まったくなかった。

第2号火葬墓（第251図）

C-11グリッドに位置する。第1号火葬墓からは北へ約35m隔たっている。上部が大きく削平されていたため、第1号火葬墓に比べて残存状態は不良である。

本体部はややいびつな台形である。東西56cm、南北48cmで、深さは7cmと非常に浅かった。長軸方向はN-45°-Eと、第1号火葬墓とは異なる。とくに方角は意識されていなかったのであろうか。本体部の北東壁際床面にはピットがあり、約20cm掘り下げている。第1号火葬墓のように突出部は明らかではなく、床面のレベルを勘案すると、すでに削平されてしまっていた可能性が高い。

本体部壁面は硬く焼けしまっており、覆土中から炭化物や焼土、骨片が出土していることから、火葬墓と判断した。

出土遺物は、流れ込みの土器小片以外には、まったくなかった。

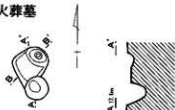
第1号火葬墓



第1号火葬墓

- 1 灰白色土 炭土・炭化材少量、粘性なし・しまりやあり
- 2 黒褐色土 径5mm以上の炭化材・焼土粘土ブロック、骨片多く含む、粘性しまりなし
- 3 黒褐色土 2より大きい炭化材・骨片多く含む、粘性しまりなし

第2号火葬墓



第251図 第1・2号火葬墓

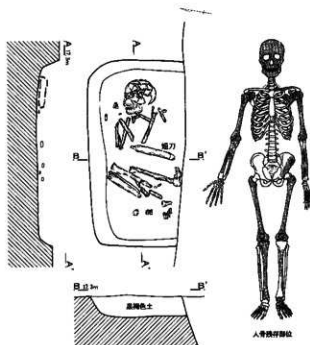
第1号土墳墓（第252図）

E-18グリッドにあり、平成13年度調査区の最も南端に位置している。

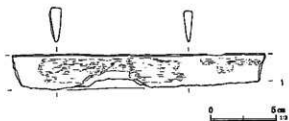
土墳墓の南側は、調査開始時に掘削した排水のための溝によって切られてしまった。残存していた平面規模は東西が1.4m、南北が0.75m以上である。遺構確認面から床面までの深さは15cm。長軸方向はN-80°-Eである。

土層の観察においては、木棺等の施設は確認できなかった。人骨は床面直上で検出していることから、直に埋葬されていた可能性が高い。

人骨が比較的良好に残存していた。頭骨・上腕骨・尺骨・大腿骨・脛骨等は良好で、肩甲骨や寛



第252図 第1号土墳墓

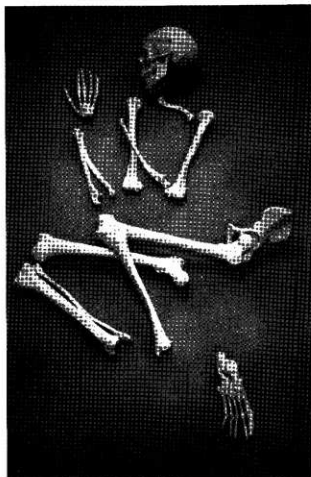


第253図 第1号土墳墓出土遺物

骨・手足指・肋骨等も一部残存していた。頭部は東枕で、顔面は北を向いている。合掌し、脚部は屈曲させる、いわゆる「屈葬」の状態である。腰の位置には鉄製の短刀が副葬されている。

なお、庄和町教育委員会の長谷川清一氏の御教示によれば、頭骨の顎部等の骨格から、男性の可能性が強く、第2臼歯があって、第3臼歯がないことから、16~20歳位の年齢が想定されるとのことである。また、やや「出っ歯」気味であるのは、中世人の特徴であるとの指摘もあった。

副葬されていた短刀は（第253図）、錆化がはげしく、一部残存していたのみである。残存長は19.2cm、幅2.6cm、厚さ0.8cmである。刀身のまわりには鞘の木質がわずかに残っていた。その他には、流れ込みの土器小片以外に、遺物はなかった。



残存人骨復元模型（長谷川清一氏 提供）

報 告 書 抄 録

ふりがな	しもだまちいせきⅠ						
書名	下田町遺跡Ⅰ						
副書名	大里地区高規格堤防整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告						
巻次	Ⅰ<第1分冊>						
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書						
シリーズ番号	第296集						
著者氏名	赤熊 浩一・岡本 健						
編集機関	財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団						
所在地	〒369-0108 埼玉県大里郡大里町船木台4-4-1 TEL 0493-39-3955						
発行年月日	西暦 2004(平成16)年3月24日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
しもだまちいせき 下田町遺跡	さいたまけんおおのほぐんおおのほ 埼玉県大里郡大 里町大字津田字 うらだまち 埋田町1775他	市町村 11401	遺跡番号 55	° ′ ″ 36° 5′ 40″	° ′ ″ 139° 25′ 45″	20010601~ 20020322	14,100 高規格堤防 建設
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
下田町遺跡	集落跡	弥生時代中期 古墳時代前期 古墳時代後期 古墳~平安時代 中世 古墳~中世	方形周溝墓 方形周溝墓 竪穴住居跡 掘立柱建物跡 土墳墓 火葬墓 井戸跡 土壇 ビット 溝跡	1基 3基 42軒 21棟 1基 2基 83基 121基 700基 152条	縄文土器・石器 弥生土器・石器 土師器・須恵器 灰釉陶器・緑釉陶器 土錘・石製模造品 鉄製品・木器	古墳時代後 期の大溝か ら多量の土 器・木器と ともに貝類 や骨が出た。 平安時代の 井戸跡から 木製の漆塗 鞍が出土し た。	

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第296集

大里郡大里町

下田町遺跡Ⅰ

大里地区高規格堤防整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告

—Ⅰ—

<第1分冊>

平成16年3月14日 印刷

平成16年3月24日 発行

発行/財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-0108 埼玉県大里郡大里町船木台4-4-1

電話 0493 (39) 3955

印刷/巧和工藝印刷株式会社